

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第228集

# 天ヶ沢東遺跡 古木戸A遺跡 古木戸B遺跡

第二東名No.44 地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

富士市-2

2010

中日本高速道路株式会社東京支社  
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第228集

# 天ヶ沢東遺跡 古木戸A遺跡 古木戸B遺跡

第二東名No.44 地点

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

富士市-2

2010

中日本高速道路株式会社東京支社  
財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所

## 序

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査は、静岡県文化財保護行政の歴史の中において、これまで経験したことがない大きな規模・長い期間で実施されています。

発掘調査では、県内の各所において、旧石器時代から中・近世にわたる各時代の多種多様な遺構・遺物が発見され、これまでにない多くの成果もあげています。

富士（旧富士川町含む）・富士宮市域では、第二東名建設工事範囲内において、埋蔵文化財の存在が予想された48の地点で確認調査を実施し、その結果を踏まえ、5つの地点において本発掘調査を実施しています。

この発掘調査によって、富士山麓及び愛鷹山麓には、古く旧石器時代から人々の営みが地中に刻まれ続けてきたことを、今回改めて確認することができました。

中でも富士・富士宮市域における旧石器時代の人々の様子については、この第二東名建設事業によってはじめて本格的な同時代の発掘調査が行われ、地域の歴史に新たな1ページを書き加えることができました。

本書で報告する第二東名№44地点に該当する、天ヶ沢東遺跡、古木戸A遺跡、古木戸B遺跡の3遺跡では、旧石器～縄文時代を中心とした遺構・遺物が発掘調査されています。

天ヶ沢東遺跡、古木戸A遺跡で発見された縄文時代早期の遺構・遺物からは、定住を示す竪穴住居や石器製作跡等は積極的に見出すことができない反面、狩猟に用いる陥し穴状遺構や石鏃等の狩猟具に限定される石器が比較的多く出土していることから、狩猟等の生産域であったことが推測されます。

一方、古木戸B遺跡では、旧石器時代の石器製作跡が数箇所発見されています。これらは時期が異なるものと考えられ、特に約2万7千年前に相当する第Ⅲ黒色帯から第Ⅲスコリア帯にかけて発見された石器製作跡は、富士市内において最も古い時期の遺物のひとつに挙げられる貴重な成果となりました。

これらの発掘成果が、多くの研究者の方々のみならず、広く一般の方々の目に触れることにより、地域の歴史を考える材料のひとつとなれば幸いです。

最後になりましたが、現地調査及び資料整理、並びに本書の作成にあたり、中日本高速道路株式会社東京支社、静岡県教育委員会ほか、各関係機関のご理解とご協力をいただいたことに心から感謝申し上げます。また、調査にご理解いただいた地元の皆様、現地での発掘作業、地道な資料整理作業にあられた方々に厚くお礼を申し上げます。

平成22年8月

財団法人 静岡県埋蔵文化財調査研究所  
所長 石田 彰

## 例 言

- 1 本書は静岡県富士市神谷字天ヶ沢東、同市増川字古木戸に所在する第二東名№44地点（天ヶ沢東遺跡、古木戸A遺跡、古木戸B遺跡）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務として、中日本高速道路株式会社（旧日本道路公団静岡建設局）の委託を受け、静岡県教育委員会文化課の指導のもと、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が実施した。

- 3 №44地点の確認調査・本調査及び資料整理の期間は以下のとおりである。

№44地点確認調査（CR18・19地点含む）

確認調査 平成10年10月～平成11年1月

天ヶ沢東遺跡、古木戸A遺跡、古木戸B遺跡

本調査Ⅰ期 平成11年5月～平成12年3月

資料整理 平成21年1月～平成22年12月

天ヶ沢東遺跡、古木戸A遺跡

本調査Ⅱ期 平成12年4月～7月

資料整理 平成21年1月～平成22年12月

- 4 調査体制は以下のとおりである。

平成10年度（確認調査）

所長 齋藤 忠 常務理事兼総務部長 伊藤友雄 調査研究部長 石垣英夫  
調査研究部次長心得兼調査研究一課長 佐野五十三 主任調査研究員 前嶋秀張  
調査研究員 中川律子 田村隆太郎 武田寛生

平成11年度

所長 齋藤 忠 副所長 山下 晃 常務理事兼総務部長 伊藤友雄  
調査研究部長 佐藤達雄 調査研究部次長 佐野五十三 調査研究一課長 及川 司  
主任調査研究員 前嶋秀張 調査研究員 山崎宏明 武田寛生

平成12年度

所長 齋藤 忠 副所長 山下 晃 常務理事兼総務部長 伊藤友雄  
調査研究部長 佐藤達雄 調査研究部次長兼調査研究一課長 及川 司  
主任調査研究員 鈴木良孝 調査研究員 富田 孝 高野徳多果

平成18年度（資料整理）

所長 齋藤 忠 常務理事兼総務部長 平松公夫 総務部次長兼総務課長 鈴木大二郎  
調査研究部長 石川素久 調査研究部次長兼調査研究一課長 及川 司 調査課係長 前嶋秀張  
調査研究員 矢島 一

平成20年度（資料整理）

所長兼常務理事 清水 哲 次長兼事業係長 稲葉保幸 次長兼総務課長 大場正夫  
次長兼調査課長 及川 司 東部総括係長 中鉢賢治 東部調査係長 笹原千賀子  
調査研究員 高野徳多果

平成21年度（資料整理）

所長兼常務理事 天野 忍 次長兼事業係長 稲葉保幸 次長兼総務課長 松村 享  
次長兼調査課長 及川 司 次長兼東部総括係長 中鉢賢治 東部調査係長 笹原千賀子

調査研究員 岩本 貴

平成22年度（資料整理）

所長兼常務理事 石田 彰 次長兼総務課長 松村 享 専門監兼事業係長 稲葉保幸

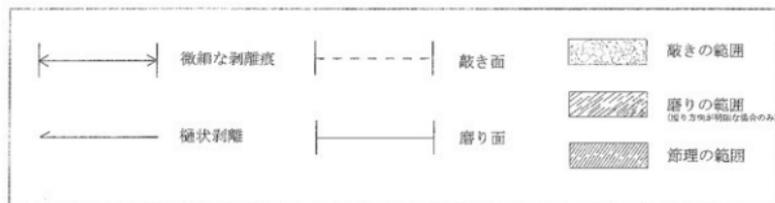
調査課長 中鉢賢治 調査第二係長 岩本 貴

- 5 整理作業における一部の石器の実測、トレース、観察表の作成を株式会社ラングに委託した。
- 6 石器石材の同定は、(銜考古石材研究所の柴田徹氏と山本薫氏による石材標準資料を用い、当研究所森嶋富士夫が行った。
- 7 出土黒曜石の産地同定は独立行政法人沼津工業高等専門学校名誉教授 望月明彦氏に委託した。その分析結果は附編に収録した。
- 8 天ヶ沢東、古木戸A・Bの各遺跡出土炭化物の放射性炭素年代測定を株式会社加速器研究所に委託した。その分析結果は附編に収録した。
- 9 調査の概要は当研究所の出版物などで一部公表されているが、内容において本書と相違がある場合は本報告をもって訂正する。
- 10 本書の執筆は特記する以外は、岩本 貴が行った。
- 11 本書の編集は財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が行った。
- 12 整理作業では以下の方々に御指導、御助言を賜った。厚く御礼申し上げる。  
池谷信之 小崎 晋 佐藤祐樹（五十音順・敬称略）
- 13 発掘調査の資料は、すべて静岡県教育委員会が保管している。

## 凡 例

本書の記載については、以下の基準に従い統一を図った。

- 1 本書で用いた遺構・遺物などの位置を表す座標は、すべて平面直角座標第Ⅷ系を用いた国土座標、日本測地系（改正前）を基準とした。
- 2 調査区の方眼設定は、3遺跡共通のものとし、上記の国土座標を基準に設定した。  
( $X = -92800.00$ ,  $Y = 2000.00$ ) = (A, 1)
- 3 出土遺物は4桁の通し番号（=遺物番号）を付けて取り上げた。報告書中の挿図番号とは同一でない。なお、石器の挿図番号横に記載した4桁の番号は遺物番号である。
- 4 石器の実測は原則として三角投影図法に準拠した。実測図中の指示記号及び表現は、以下のとおりである。



- 5 遺構図、遺物実測図の縮尺は、遺構 1/40、土器 1/2、石器は小型石器 4/5、大型石器 1/2 を原則とし、それぞれにスケールを付した。
- 6 色彩に関する用語・記号は、新版『標準土色帳』（農林水産省技術会議事務局監修1992）を使用した。

- 7 土層名は第V章第1節の基本土層柱状図(第79図)に表示した名称を用いる。
- 8 第II章第1節の周辺遺跡地図(第6図)は国土地理院発行1:25,000地形図「入山瀬」「愛鷹山」「吉原」「沼津」を複写し加工・加筆した。
- 9 本文中の記載に関する略号・略語は特に指示のない限り以下のとおりである。

#### 黒曜石原産地判別群略号

長野	諏訪黒ヶ台群	SWHD	長野	和田小深沢群	WDKB
	蓼科冷山群	TSTY		和田高松沢群	WOTM
	和田鷹山群	WDTY	静岡	天城柏峠群	AGKT
	和田土屋橋北群	WDTK	神奈川	箱根畑畑群	HNHJ
	和田土屋橋西群	WDTN	東京	神津島恩馳島群	KZOB
	和田土屋橋南群	WDTM			

#### 石材一覧

番号	和名	英名	標準資料略号	番号	和名	英名	標準資料略号
1	黒曜石	obsidian	Ob	23	輝石安山岩	pyroxene andesite	An(Py)
2	ホルンフェルス	hornfels	Hor	24	角閃石安山岩	hornblende andesite	An(Ho)
3	頁岩	shale	Sh	25	安山岩(多孔質)	vesicular andesite	VAn
4	ガラス質黒色安山岩	glassy black andesite	GAn	26	デイサイト	dacite	Da
5	メノウ(瑪瑙)	agate	Ag	27	細粒デイサイト	fine-grained dacite	FDa
6	赤玉石(碧玉)	red jasper	RJa	28	流紋岩	rhyolite	Rhy
7	結晶片岩	crystalline schist	CSc	29	スコリア	scoria	Scr
8	凝灰岩	tuff	Tu	30	アプライト	splite	Ap
9	珪質頁岩	siliceous shale	SSH	31	ひん岩	porphyry	Po
10	粘板岩	slate	Sl	32	石英斑岩	quartz porphyry	QP
11	珪質粘板岩	siliceous slate	SSI	33	閃緑岩	diorite	Di
12	砂岩	coarse-grained sandstone	CSS	34	斑レイ岩	gabro	Ga
13	チャート	chert	Ch	35	細粒斑レイ岩	fine-grained gabro	FG
14	チャート(黒色)	black chert	Ch(BI)	36	緑色岩	green rock	GR
15	チャート(暗灰色)	dark gray chert	Ch(DG)	37	石英岩	silicite	Si
16	チャート(灰色)	gray chert	Ch(Gy)	38	火山礫凝灰岩	lapilli tuff	LT
17	石英	quartz	QT	39	砂岩	sandstone	SS
18	玄武岩	basalt	Ba	40	砂岩(細粒)	fine-grained sandstone	FSS
19	玄武岩(多孔質)	vesicular basalt	VBa	41	砂岩(中粒)	medium-grained sandstone	MSS
20	スコリア質玄武岩	basalt(scoria)	Ba(Scr)	42	硬質砂岩	hard sandstone	HSS
21	粗粒玄武岩	dolerite	Do	43	細礫岩	granule conglomerate	GC
22	細粒安山岩	fine-grained andesite	FAn	44	礫岩	conglomerate	Con

# 目次

第Ⅰ章 調査に至る経緯	
第1節 第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯	1
第2節 調査の方法と経過	1
1 現地調査	1
2 資料整理	8
第Ⅱ章 遺跡周辺の環境	
第1節 地理的環境	9
第2節 歴史的環境	11
第Ⅲ章 天ヶ沢東遺跡	
第1節 基本層序	14
第2節 旧石器時代の調査	14
1 遺物	14
第3節 縄文時代の調査	21
1 遺構	21
2 遺物	25
第Ⅳ章 古木戸A遺跡	
第1節 基本層序	59
第2節 旧石器時代の調査	59
1 遺物	59
第3節 縄文時代の調査	65
1 遺構	65
2 遺物	71
第Ⅴ章 古木戸B遺跡	
第1節 基本層序	103
第2節 旧石器時代の調査	104
1 第Ⅲスコリア帯～第Ⅲ黒色帯の遺構・遺物	104
2 第Ⅱ黒色帯～休場層直下黒色帯の遺構・遺物	119
第3節 縄文時代の調査	150
1 遺構	150
2 遺物	155
第Ⅵ章 調査の成果とまとめ	171
附編 分析	
分析1 出土黒曜石製石器産地推定分析	
独立行政法人 沼津工業高等専門学校名誉教授 望月明彦	181
分析2 天ヶ沢東・古木戸A・B遺跡における放射性炭素年代測定 (AMS測定)	
俄加速器分析研究所	188

## 写真図版

## 報告書抄録

# 挿 図 目 次

### 第 I 章

第 1 図 No.44地点 確認調査試掘坑配置図… 2

第 2 図 No.44地点 確認調査 縄文土器… 4

第 3 図 No.44地点 確認調査 旧石器・縄文  
石器… 5

第 4 図 No.44地点 本調査対象地位置図… 6

第 5 図 本発掘調査範囲とグリッド配置図… 7

### 第 II 章

第 6 図 周辺遺跡位置図… 10

### 第 III 章 天ヶ沢東遺跡

第 7 図 土層図… 15

第 8 図 調査区名称とグリッド配置図… 16

第 9 図 旧石器 石器分布図… 17

第 10 図 旧石器 礫分布図… 18

第 11 図 旧石器 1 (ナイフ形石器) … 19

第 12 図 旧石器 2 (尖頭器 細石刃細石核)  
… 20

第 13 図 縄文時代遺構全体図… 22

第 14 図 縄文土坑… 23

第 15 図 縄文礫分布図… 24

第 16 図 縄文遺物分布図… 26

第 17 図 縄文土器分布図… 27

第 18 図 縄文土器 1 … 29

第 19 図 縄文土器 2 … 30

第 20 図 縄文土器 3 … 31

第 21 図 縄文土器 4 … 32

第 22 図 縄文土器 5 … 33

第 23 図 縄文土器 6 … 34

第 24 図 縄文土器 7 … 35

第 25 図 縄文石器分布図 1 … 39

第 26 図 縄文石器分布図 2 … 40

第 27 図 縄文石器 1 (尖頭器 1) … 41

第 28 図 縄文石器 2 (尖頭器 2) … 42

第 29 図 縄文石器 3 (石鏃) … 43

第 30 図 縄文石器 4 (エンドスクレイパー  
石匙 楔形石器) … 45

第 31 図 縄文石器 5 (ノッチドスクレイパー  
サイドスクレイパー) … 46

第 32 図 縄文石器 6 (打製石斧 1) … 47

第 33 図 縄文石器 7 (打製石斧 2) … 48

第 34 図 縄文石器 8 (打製石斧 3) … 49

第 35 図 縄文石器 9 (打製石斧 4) … 50

第 36 図 縄文石器 10 (打製石斧 5 磨製石斧)  
… 51

第 37 図 縄文石器 11 (礫器) … 52

第 38 図 縄文石器 12 (石核) … 53

第 39 図 縄文石器 13 (敲石) … 54

第 40 図 縄文石器 14 (磨敲石 1) … 55

第 41 図 縄文石器 15 (磨敲石 2) … 56

第 42 図 縄文石器 16 (石皿) … 57

### 第 IV 章 古木戸 A 遺跡

第 43 図 土層図… 60

第 44 図 調査区とグリッド配置図… 61

第 45 図 休場層以下試掘坑配置図… 62

第 46 図 旧石器 石器分布図… 63

第 47 図 旧石器 1 (角錐状石器 ナイフ形石  
器 尖頭器 石刃 細石刃 敲石)  
… 64

第 48 図 縄文時代遺構分布図… 66

第 49 図 縄文土坑 1 … 67

第 50 図 縄文土坑 2 … 68

第 51 図 縄文土坑 3・集石… 69

第 52 図 縄文礫分布図… 70

第 53 図 縄文土器分布図… 72

第 54 図 縄文土器 1 … 73

第 55 図 縄文土器 2 … 74

第 56 図 縄文土器 3 … 75

第 57 図 縄文土器 4 … 76

第 58 図 縄文土器 5 … 77

第59図	縄文土器 6	78	第89図	旧石器 3 (石器ブロック 5-2)	116
第60図	縄文土器 7	79	第90図	旧石器 4 (石器ブロック外 接合資料)	117
第61図	縄文土器 8	80	第91図	旧石器 第 I 黒色帯 遺構・遺物分布図	118
第62図	縄文土器 9	81	第92図	旧石器 第 I 黒色帯 石器ブロック 2	119
第63図	縄文土器 10	82	第93図	旧石器 第 I 黒色帯 礫群 (RG006)	120
第64図	縄文土器 11	83	第94図	旧石器休場層直下黒色帯～第 II 黒色帯 礫分布図	121
第65図	縄文石器分布図 1	88	第95図	旧石器 5 (剥片 石核)	122
第66図	縄文石器分布図 2	89	第96図	旧石器 休場層 遺構分布図	123
第67図	縄文石器分布図 3	90	第97図	旧石器 休場層石器ブロック 1	124
第68図	縄文石器 1 (尖頭器 石鏃)	91	第98図	旧石器 休場層 礫群	125
第69図	縄文石器 2 (石鏃 三脚石器 石錐 石匙未製品)	92	第99図	旧石器 休場層 礫分布図	127
第70図	縄文石器 3 (エンドスクレイパー サイドスクレイパー)	93	第100図	旧石器 休場層 石器分布図	128
第71図	縄文石器 4 (楔形石器 石核)	94	第101図	旧石器 休場層 石器分布図	129
第72図	縄文石器 5 (打製石斧 1)	95	第102図	旧石器 6 (ナイフ形石器)	131
第73図	縄文石器 6 (打製石斧 2 石錘)	96	第103図	旧石器 7 (ナイフ形石器 尖頭器 稜付石刃 細石刃 細石核)	132
第74図	縄文石器 7 (礫器)	97	第104図	旧石器 8 (石核 接合資料)	133
第75図	縄文石器 8 (敲石 凹石)	98	第105図	旧石器 9 (接合資料 石器ブロック 1)	134
第76図	縄文石器 9 (磨石 磨敲石 1)	99	第106図	旧石器 10 (接合資料 石器ブロック 1)	135
第77図	縄文石器 10 (磨敲石 2)	100	第107図	縄文時代遺構分布図	150
第78図	縄文石器 11 (有溝砥石)	101	第108図	縄文土坑 1	151
第 V 章	古木戸 B 遺跡		第109図	縄文土坑 2	152
第79図	土層図	103	第110図	集石 HS001	153
第80図	調査区とグリッド配置図	105	第111図	縄文礫分布図	154
第81図	旧石器 第 III スコリア帯～第 III 黒色帯 遺物分布図	107	第112図	縄文土器分布図	156
第82図	旧石器 第 III スコリア帯～第 III 黒色帯 石器分布図	108	第113図	縄文土器	157
第83図	旧石器 第 III スコリア帯～第 III 黒色帯 石器ブロック	109	第114図	縄文石器分布図	160
第84図	旧石器 第 III スコリア帯～第 III 黒色帯 石器分布図	110	第115図	縄文石器分布図	161
第85図	旧石器 第 III スコリア帯～第 III 黒色帯 礫分布図	111	第116図	縄文分布図 (器種別・石材別)	162
第86図	旧石器 第 III スコリア帯～第 III 黒色帯 礫分布図	112	第117図	縄文石器 1 (尖頭器 1)	163
第87図	旧石器 1 (石器ブロック 4-1)	114	第118図	縄文石器 2 (尖頭器 2 石鏃)	164
第88図	旧石器 2 (石器ブロック 4-2 石器ブロック 5-1)	115	第119図	縄文石器 3 (サイドスクレイパー)	165

第120図	縄文石器 4 (石核)……………	166
第121図	縄文石器 5 (打製石斧 1)……………	167
第122図	縄文石器 6 (打製石斧 2 石錘 礫器)……………	168
第123図	縄文石器 7 (敲石 磨敲石)……………	169

第VI章	調査の成果とまとめ	
第124図	グリッド別遺物点数 (礫除く)…	172
第125図	遺跡層位別出土遺物点数 ……	173
第126図	旧石器石材組成 ……	174
第127図	縄文土器・石器石材組成 ……	175

## 挿 表 目 次

### 第 I 章

第 1 表	No.44地点 現地調査工程表……………	3
第 2 表	確認調査 縄文土器観察表……………	4
第 3 表	確認調査 旧石器時代 石器観察表……………	5

第 4 表	確認調査 縄文時代 石器観察表…	5
第 5 表	No.44地点 出土品点数……………	8

### 第 III 章 天ヶ沢東遺跡

第 6 表	旧石器組成表……………	16
第 7 表	旧石器組成表……………	16
第 8 表	旧石器観察表……………	18
第 9 表	旧石器礫観察表……………	18
第10表	縄文時代遺構一覧……………	21
第11表	縄文礫組成表……………	21
第12表	縄文土器集計……………	28
第13表	縄文土器観察表……………	36
第14表	縄文石器組成表……………	38
第15表	縄文石器組成表……………	38
第16表	縄文石器観察表……………	58

### 第 IV 章 古木戸 A 遺跡

第17表	旧石器組成表……………	61
第18表	旧石器組成表……………	61
第19表	旧石器観察表……………	65
第20表	旧石器礫観察表……………	65
第21表	RG001礫組成表……………	70
第22表	縄文時代遺構一覧……………	71
第23表	縄文礫組成表……………	71
第24表	縄文土器集計……………	71
第25表	縄文土器観察表……………	84
第26表	縄文石器組成表……………	86

第27表	縄文石器組成表……………	87
第28表	縄文石器観察表……………	102

### 第 V 章 古木戸 B 遺跡

第29表	旧石器時代遺構一覧……………	104
第30表	旧石器組成表……………	104
第31表	旧石器組成表……………	105
第32表	旧石器 SCⅢ～BBⅢ 石器ブロック組成表……………	106
第33表	旧石器 SCⅢ～BBⅢ 礫組成表……………	106

第34表	BBⅠ層 石器組成表……………	119
第35表	第Ⅰ黒色帯 RG006礫組成表……………	120
第36表	BBⅠ層 礫組成表……………	120
第37表	旧石器 BBⅡ～BBⅠ 礫組成表……………	121

第38表	旧石器 休場層 石器ブロックⅠ組成表……………	125
第39表	休場層 礫群組成表……………	126
第40表	休場層 礫組成表……………	126
第41表	旧石器観察表……………	136
第42表	旧石器礫観察表……………	141
第43表	縄文時代遺構一覧……………	153
第44表	HS001礫組成表……………	153
第45表	縄文礫組成表……………	153
第46表	縄文土器集計……………	155
第47表	縄文土器観察表……………	158
第48表	縄文石器組成表……………	158
第49表	縄文石器組成表……………	159
第50表	縄文石器観察表……………	170

# 図版目次

- 図版1 遺跡遠景(南海上から)  
図版2 遺跡遠景(南東から)  
図版3 遺跡遠景(北東から)  
**天ヶ沢東遺跡**  
図版4 調査区全景(1・3区)  
調査区全景(2・4区)  
図版5 SX101完掘状況  
SX201半載状況  
SX201完掘状況  
図版6 SX311掘削状況(西から)  
SX405半載状況(南から)  
SX405完掘状況(南西から)  
図版7 SX408半載状況(南から)  
SX408完掘状況(西から)  
SX412半載状況(南から)  
図版8 SX412完掘状況(西から)  
3区礫出土状況(西から)  
4区礫出土状況(東から)  
図版9 旧石器1(ナイフ形石器)  
旧石器2(尖頭器)  
図版10 旧石器3(細石刃 細石核)  
縄文土器1(第I群A類 押型文)  
図版11 縄文土器2(第I群C類 縄文土器)  
縄文土器3(第I群D類 田戸下層式  
土器、第II群B類 清水柳E類土器)  
図版12 縄文土器4(第II群B類 清水柳E類  
土器)  
縄文土器5(第II群C・D類 無文・条  
痕文土器 縄文土器)  
図版13 縄文土器6(第II群C類 無文・条痕  
文土器)  
縄文土器7(第III群B類 清水ノ上II  
式に類似したもの)  
図版14 縄文土器8(第III群A・C類 諸磯式  
北白川下層式 第IV群A~C・E類 沈  
線文 五領ヶ台式 加曾利E3式 そ  
の他土器)  
図版15 縄文石器1(尖頭器1)  
縄文石器2(尖頭器2)  
図版16 縄文石器3(石鏃1)  
縄文石器4(石鏃2)  
図版17 縄文石器5(エンドスクレイパー 石  
匙 楔形石器)  
縄文石器6(ノッチドスクレイパー  
サイドスクレイパー)  
図版18 縄文石器7(打製石斧1)  
縄文石器8(打製石斧2)  
図版19 縄文石器9(打製石斧3)  
縄文石器10(打製石斧4)  
図版20 縄文石器11(打製石斧5)  
縄文石器12(打製石斧接合資料)  
図版21 縄文石器13(礫器)  
縄文石器14(石核)  
図版22 縄文石器15(敲石)  
縄文石器16(磨敲石)  
図版23 縄文石器17(石皿)  
**古木戸A遺跡**  
図版24 調査区全景(東から)  
1区西旧石器調査完掘状況(南西から)  
1区東旧石器調査完掘状況(北西から)  
図版25 2区旧石器調査完掘状況(東から)  
1区西縄文面完掘状況(南東から)  
1区東縄文面完掘状況(西から)  
図版26 SF001完掘状況(南から)  
SF001たち割り状況(東から)  
図版27 SF001検出状況(南から)  
SF002完掘状況(南東から)  
SF002たち割り状況(南から)  
図版28 SF003完掘状況(南西から)  
SF003半載状況(南西から)  
SX001完掘状況(南から)  
図版29 SX001半載状況(南から)  
SX001たち割り状況(南から)  
SX001検出状況(南から)  
図版30 SX002完掘状況(南から)  
SX002半載状況(南から)

- SX004完掘状況 (南東から)
- 図版31 SX004半截状況 (東から)  
SX004たち割り状況 (東から)  
RG001検出状況 (南から)
- 図版32 土器集中検出状況 (西から)  
TP40東壁土層堆積状況 (西から) KU  
~SCⅢb 2
- 図版33 旧石器1 (ナイフ形石器 尖頭器)  
旧石器3 (敲石)  
旧石器2 (細石刃)
- 図版34 縄文土器1 (第Ⅱ群A類 子母口式)  
縄文土器2 (第Ⅳ群B類 五領ヶ台式)
- 図版35 縄文土器3 (第Ⅳ群B類 五領ヶ台式)  
縄文土器4 (第Ⅳ群B類 五領ヶ台式)
- 図版36 縄文土器5 (第Ⅳ群B類 五領ヶ台式)  
縄文土器6 (第Ⅳ群B類 五領ヶ台式)
- 図版37 縄文土器7 (第Ⅳ群B類 五領ヶ台式)  
縄文土器8 (第Ⅳ群B類 五領ヶ台式)
- 図版38 縄文土器9 (第Ⅳ群B類 五領ヶ台式)  
縄文土器10 (第Ⅳ群D類 北浦C式)
- 図版39 縄文石器1 (尖頭器)  
縄文石器2 (石鏃)
- 図版40 縄文石器3 (石鏃 三脚石器 石匙未  
製品)  
縄文石器4 (スクレイパー)
- 図版41 縄文石器5 (楔形石器 石核)  
縄文石器6 (石核)  
縄文石器7 (石鏢)
- 図版42 縄文石器8 (礫器)  
縄文石器9 (打製石斧1)
- 図版43 縄文石器10 (打製石斧2)  
縄文石器11 (磨敲石類1)
- 図版44 縄文石器12 (磨敲石類2)  
縄文石器13 (有溝砥石)
- 古木戸B遺跡**
- 図版45 調査区全景 (北から)  
調査区全景 (南から)
- 図版46 SCⅢS 2 石器検出状況 (南から)  
BBⅢ石器検出状況 (南から)  
NL層上面完掘状況 (西から)
- 図版47 礫群RG006検出状況 (東から)
- 石器ブロック2 検出状況 (北から)  
TP 2 西壁土層堆積状況 (東から) 中部  
ルーム~BB 0
- 図版48 礫群RG001検出状況 (東から)  
礫群RG005検出状況 (南から)  
礫群RG002検出状況 (南から)
- 図版49 礫群RG004検出状況 (南から)  
TP 3 西壁土層堆積状況 (表土~休場  
層)
- SX001完掘状況 (南から)
- 図版50 SX001半截状況 (南から)  
SX002完掘状況 (東から)  
SX002半截状況 (東から)
- 図版51 SX003半截状況 (南から)  
SX004完掘状況 (南から)  
SX004半截状況 (北から)
- 図版52 SX004検出状況 (西から)  
SX005完掘状況 (南から)  
SX005半截状況 (南から)
- 図版53 SX005検出状況 (南から)  
SX006完掘状況 (南から)  
SX006半截状況 (南から)
- 図版54 SX006検出状況 (南から)  
SX007完掘状況 (西から)  
SX007半截状況 (西から)
- 図版55 SX007検出状況 (西から)  
SX008完掘状況 (西から)  
SX008半截状況 (南から)
- 図版56 SX008検出状況 (南から)  
SX009完掘状況 (南から)  
SX009半截状況 (南から)
- 図版57 SX010完掘状況 (西から)  
SX010半截状況 (西から)  
SX011完掘状況 (東から)
- 図版58 SX011検出状況 (東から)  
HS001検出状況 (南から)  
尖頭器出土状況
- 図版59 旧石器1 SCⅢ~BBⅢ層 (ナイフ形  
石器 スクレイパー)  
旧石器2 SCⅢ~BBⅢ層 (二次加工  
剥片)

- 図版60 旧石器3 SCⅢ～BBⅢ層（使用痕がある剥片）  
旧石器4 SCⅢ～BBⅢ層（石核）  
旧石器5 SCⅢ～BBⅢ層（敲石）
- 図版61 旧石器6 SCⅢ～BBⅢ層（接合資料接合状況）  
旧石器7 SCⅢ～BBⅢ層（接合資料分離状況）  
旧石器8 SCⅢ～BBⅢ層（接合資料接合状況）  
旧石器9 SCⅢ～BBⅢ層（接合資料分離状況）
- 図版62 旧石器10 SCⅢ～BBⅢ層（接合資料接合状況）  
旧石器11 SCⅢ～BBⅢ層（接合資料分離状況）  
旧石器12 SCⅢ～BBⅢ層（接合資料接合状況）  
旧石器13 SCⅢ～BBⅢ層（接合資料分離状況）
- 図版63 旧石器14 第Ⅰ黒色帯（剥片 石核）  
旧石器15 NL層（二次加工剥片）  
旧石器16 BB 0（使用痕がある剥片）
- 図版64 旧石器17 休場層（ナイフ形石器1）  
旧石器18 休場層（ナイフ形石器2）
- 図版65 旧石器19 休場層（尖頭器）  
旧石器20 休場層（稜付石刃）  
旧石器21 休場層（細石刃 細石核）
- 図版66 旧石器22 休場層（石核）  
旧石器23 休場層（接合資料接合状況）  
旧石器24 休場層（接合資料分離状況）
- 図版67 旧石器25 休場層（接合資料接合状況）  
旧石器26 休場層（接合資料分離状況）  
縄文石器1（尖頭器）
- 図版68 縄文土器（第Ⅱ群A・C・E・F類 子母口式 条痕文無文 粕畑式 打越式土器）  
縄文石器2（石鏃）
- 図版69 縄文石器3（スクレイパー）  
縄文石器4（磨敲石）
- 図版70 縄文石器5（石核1）  
縄文石器6（石核2）
- 図版71 縄文石器7（打製石斧1）  
縄文石器8（打製石斧2）
- 確認調査  
図版72 確認調査 縄文土器  
確認調査 旧石器・縄文石器

# 第I章 調査に至る経緯

## 第1節 第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いの経緯

第二東名建設に先立ち、日本道路公団東京建設第一建設局静岡調査事務所長は、静岡県教育委員会教育長に対し「第二東海自動車道の埋蔵文化財包蔵地の所在の有無について」照会を行った（平成4年8月）。

県教育委員会は、関係市町村教育委員会を集めて、第二東名路線内の埋蔵文化財踏査連絡会を開催するとともに、第二東名路線内における埋蔵文化財の所在についての照会を行った（平成4年9月）。

静岡県教育委員会教育長は、日本道路公団東京第一建設局静岡調査事務所長に対し、現地踏査結果に基づき、事業地内の埋蔵文化財の所在の有無について回答した（平成5年3月）。

平成6年度には、県教育委員会文化課職員が上記の調査対象箇所について、具体的な調査を進めるための状況調査を行うとともに、前年示されたパーキングエリア・サービスエリア予定地についての踏査を当該市町村教育委員会に依頼、年度末にはその報告・とりまとめがなされた。

日本道路公団静岡建設所（平成6年2月設置）と県教育委員会文化課は、「第二東名関連埋蔵文化財連絡調整会議」を設置し、第二東名建設に伴う埋蔵文化財の取り扱いを協議する場とした（平成7年12月）。

日本道路公団静岡建設局（平成8年7月、日本道路公団静岡建設所から改組）と県教育委員会は、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財の取扱いについての確認書を締結した（平成8年9月）。さらに、同月、調査実施機関である財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所を入れた三者は、第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査実施方法等について定めた協定書を締結し、平成8年度内に一部埋蔵文化財の調査に着手していくこととなった。

なお、第二東名に係る埋蔵文化財の調査は、関係者協議の結果、基本的には本線及び、サービスエリア・パーキングエリア、排土処理場について財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が調査を実施、工事用道路及び取付道路部分については、当該市町村教育委員会が対応することとしたが、調査の進展に伴う調査量の増大に財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所の体制が追いつかず、本線部分の一部について、沼津市や静岡市、浜北市、富士宮市、裾野市、富士市の各教育委員会に対応を依頼するとともに、特に東部地域を中心に民間の発掘調査支援機関の導入を図った。

このような経緯の中、富士市域における第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査として平成10～12年度にかけて、財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所が44地点（天ヶ沢東・古木戸A・古木戸B遺跡）の現地調査を実施した。

## 第2節 調査の方法と経過

### 1 現地調査

#### (1) 記録方法

遺跡の全体を把握するため、国家座標（日本測地系 平面直角座標Ⅷ系）を用い、光波測定器を使用して試掘箇所、遺構・遺物検出箇所を記録した。遺物については、原則として1点ごとに土器=P、石器=S、礫=Rの略号と遺物番号をつけ、出土層位も合わせ、X、Y座標と標高値（Z）を記録して取り上げている。現地の記録図面は、全体図は縮尺1/100、遺構図、土層断面図などは縮尺1/20を基本と



第1図 No.44地点 確認調査試掘坑配置図(富士市都市計画図に加筆)

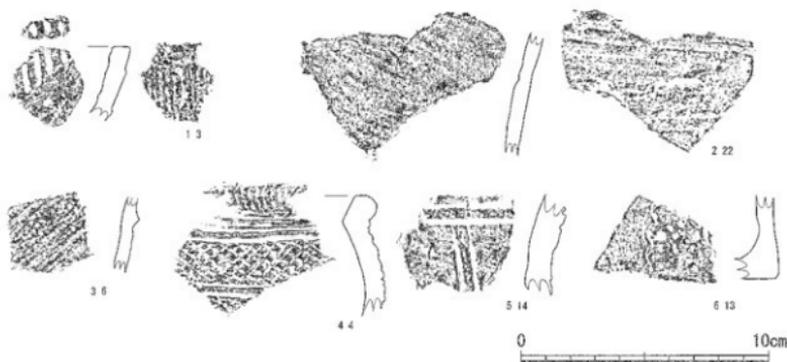
して保管している。現地記録写真は、作業工程撮影用と併行して35mm判のカラーを用いて行い、必要に応じて35mm判のリバーサルやモノクロ、ブローニー6×7判のモノクロを使用した。

## (2) 調査の経過

### ア 現地踏査

本報告に係る富士市神谷及び増川の現地踏査は、平成4年12月、平成7年10月の2回にわたり富士市教育委員会により実施されている。踏査の結果、当該箇所は、茶畑等に伴う土地改変は認められるものの、緩斜面に形成された平坦部には埋蔵文化財が存在する可能性が考えられたため、第二東名No.44地点として埋蔵文化財の調査対象とされた。





第2図 No.44地点 確認調査 縄文土器

縁に全長の1/2を上回る刃部を形成している。8はCR-18のTP2から出土したガラス質黒色安山岩製の尖頭器である(出土層位不明)。先端及び基部を欠損するため、一部形状が不明であるが、細身を呈する有舌尖頭器と考えられる。9は砂岩製の打製石斧、10は頁岩製の打製石斧破片である(いずれも出土位置・層位不明)。9は、擲形を呈し、先端と基部に自然面を残している。11は、TP105から出土した礫器である(出土層位不明)。刃部を作出したと考えられる剥離が下端に認められることから礫器と判断した。硬質砂岩製で裏面には自然面を多く残している。おそらく、原石から打製石斧の素材を得る際に剥片を活用し礫器としたものであろう。12はTP51出土の輝石安山岩製の敲石である。小口面を中心に表裏面及び側面に敲打痕が認められる。

7は旧石器愛鷹箱根編年の4期前半、8は縄文草創期、9～10は縄文早期以降に比定されるものと考えられる。

### ウ 本調査

確認調査結果を踏まえ、

天ヶ沢東遺跡、古木戸A遺跡、古木戸B遺跡に該当する3箇所を本調査対象とした(第4図)。本調査は、平成11年5月から開始し、平成12年7月まで実施した。なお、平成11年度分を本調査Ⅰ期、平成12年度分を本調査Ⅱ期としている(第1表)。本調査対象面積は、本調査Ⅰ期が20,500㎡、本調査Ⅱ期が5,500㎡である。

### ㊦ 天ヶ沢東遺跡

#### 1・3区

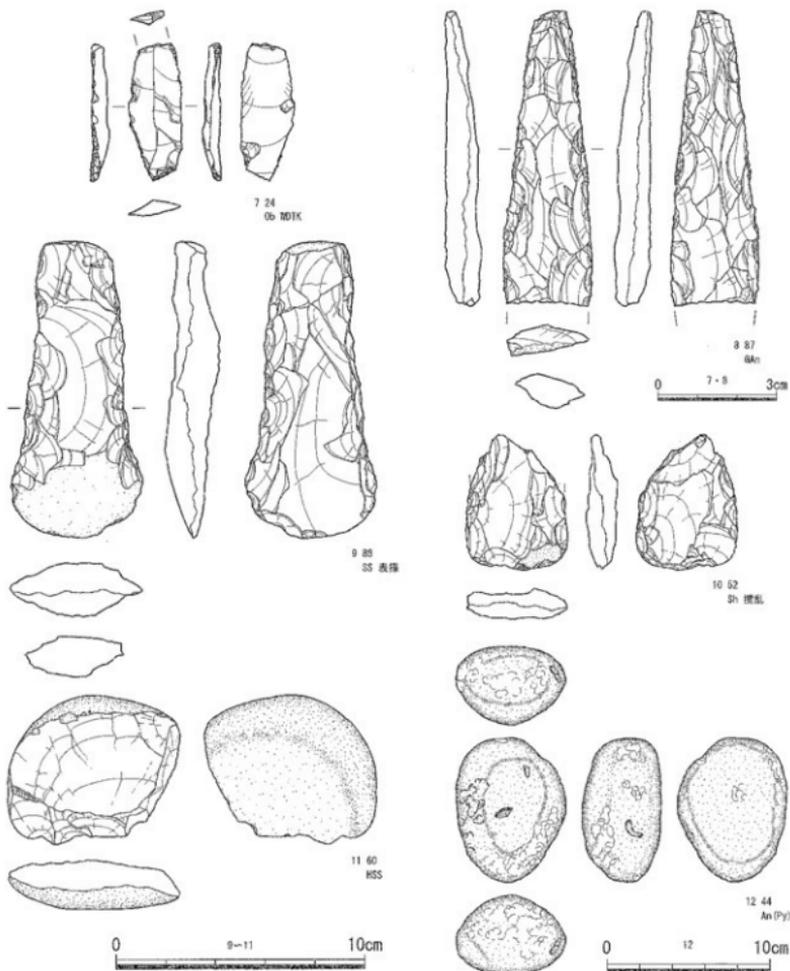
平成11年5月14日～6月10日にかけて重機による表土除去を実施した。これに並行して5月25日～6月14日にかけて、縄文時代相当層(FB層)の調査を実施した。

6月14日～7月16日にかけて旧石器時代相当層(YL層)の調査を実施した。

7月26日に1・3区空中写真撮影、27日に同調査区の埋め戻しを行った。

第2表 確認調査 縄文土器観察表

区画	番号	出土層位	群	種	型式名	試探式	層位	出土	構成	色割(内)	色割(外)	備考
2	1	3	II	野島式	TP28		密 径0.5mm以下の白色粒子を少量含む	貝	BOYR 7/4 に多い黄褐色	7.5YR 6/6 褐色		
2	2	22	II	E 箱型式	TP104		密 径0.5mm～0.5mm以下の白色粒子を多く含む 径0.5mm以下の黒色粒子を多く含む	貝	BOYR 7/3 に多い黄褐色	7.5YR 6/6 褐色		
2	3	6	III	C 北白川下層式	TP35	ZN	密 径0.5mm以下の小石を多く含む	貝	BOYR 5/2 式黄褐色	2.5Y 6/3 に多い黄色		
2	4	4	IV	B 五領+台式	TP35	ZN	密 径0.5mm～0.5mm以下の白色粒子を多く含む	貝	BOYR 7/4 に多い黄褐色	10YR 6/5 に多い黄褐色		
2	5	14	IV	B 五領+台式	TP35拡張		密 径0.5mm以下の白色粒子を多く含む 径0.5mm以下の礫を多く含む	貝	BOYR 4/2 赤褐色	5YR 4/5 赤褐色		
2	6	13	IV	B 五領+台式	TP35拡張		密 径0.5mm～0.5mm以下の白色粒子を多く含む 径0.5mm以下の黒色粒子を多く含む	貝	7.5YR 6/6 褐色	7.5YR 6/6 褐色		



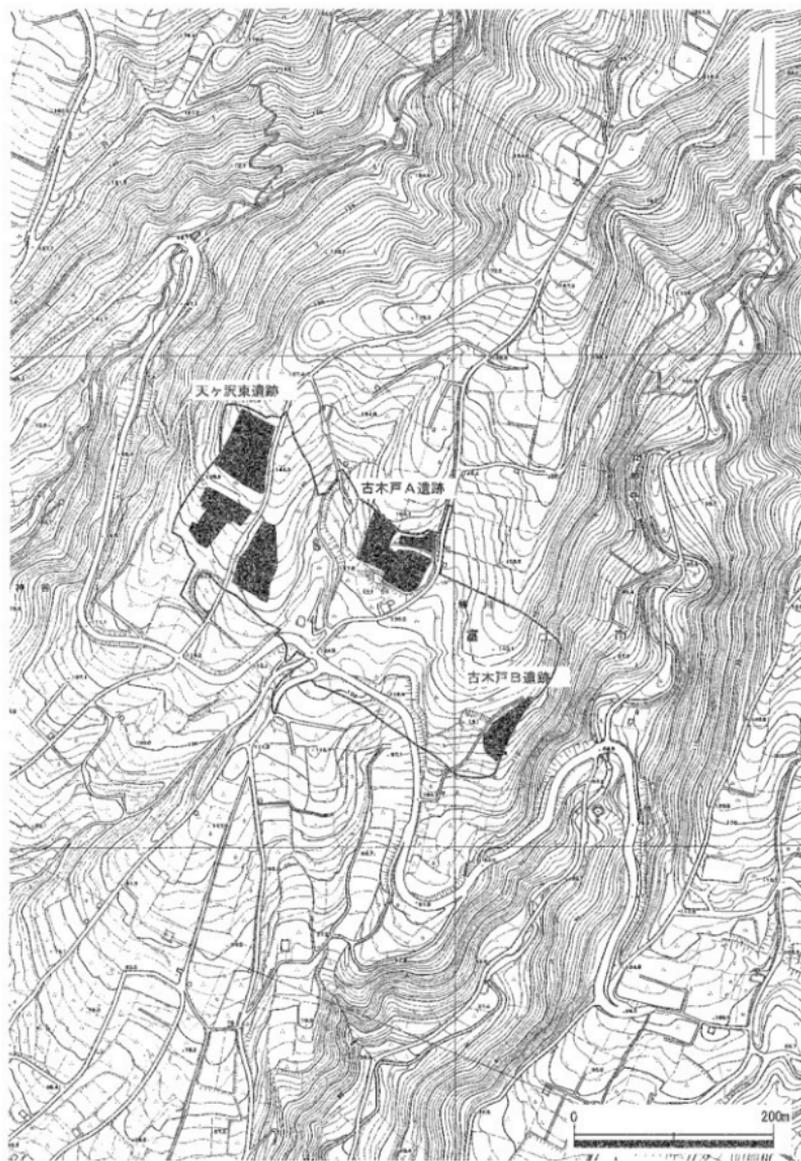
第3図 No.44地点 確認調査 旧石器・縄文石器

第3表 確認調査 旧石器時代 石器観察表

図版番号	番号	遺物番号	材質	器種	厚径	グリッド	石種	Oh-断地	遺物名	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	拵合
2	7	24	チャイナ砂石				Ob	WDTK		(1.61)	(3.66)	1.34	0.49				

第4表 確認調査 縄文時代 石器観察表

図版番号	番号	遺物番号	材質	器種	厚径	グリッド	石種	Oh-断地	遺物名	重量(g)	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	X座標(m)	Y座標(m)	Z座標(m)	拵合
2	6	87	尖部	一短			GA			14.60	(7.53)	3.30	0.97	-92674.778	23027.383	119.321	
2	9	88	打製石片				SS			123.5	12.8	5.317	2.2				
2	10	52	打製石片	横断			Sh			(30.7)	(5.448)	4.529	1.226				
2	11	60	礫石				HSS			(109)	(6.142)	(5.846)	(1.89)	-92488.939	23126.4	146.061	
2	12	44	礫石	凹石			An(py)			327.3	8.779	6.626	4.78	-92517.832	23162.055	134.830	



第4図 No.44地点 本調査対象地位位置図（富士市都市計画図に加筆）

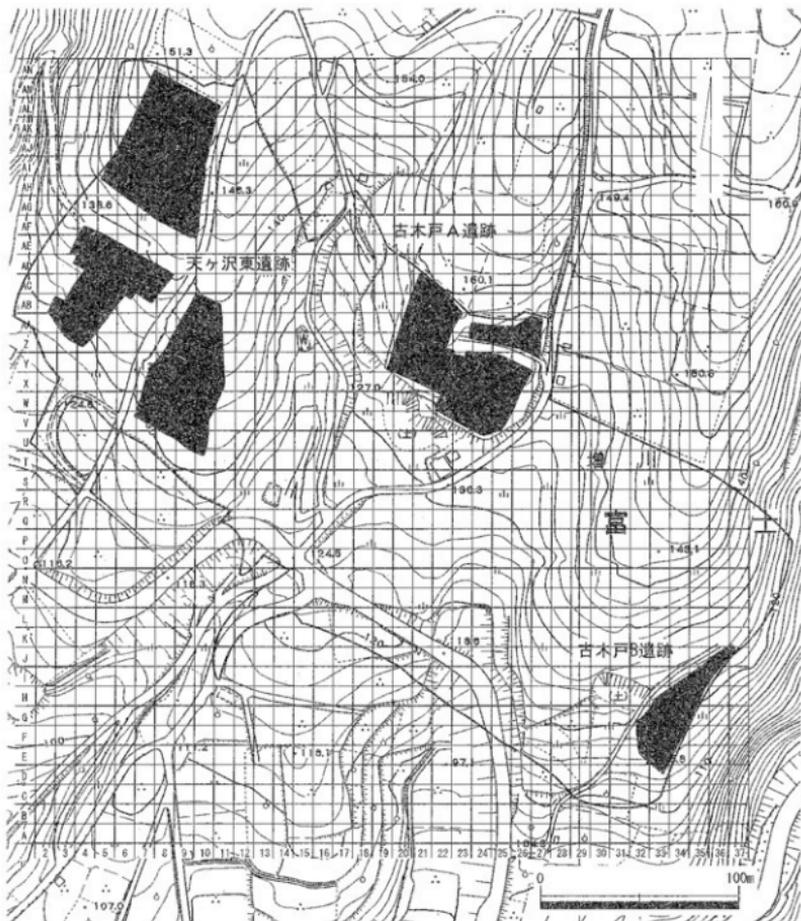
## 2・4区

7月26日～9月16日にかけて重機による表土除去を実施した。

なお、同時期に古木戸B遺跡を並行して調査していたため、2・4区の本格的な調査は、10月21日から開始した。まず、縄文時代相当層（KU層及びFB層）の調査から着手し、平成12年2月23日に同層の調査完了、3月1日からYL層の調査を開始した。

YL層の調査は、3月9日に終了し、3月10日、空中写真撮影を行い、天ヶ沢東遺跡における本調査I期（平成11年度の調査）は終了した。

2・4区の埋め戻しは、本調査II期として平成12年4月に実施した。以上をもって天ヶ沢東遺跡の本



第5図 本発掘調査範囲とグリッド配置図（高士市都市計画図に加筆）

調査は終了した。

#### (イ) 古木戸B遺跡

平成11年6月11日～7月7日にかけて重機による表土除去を実施した。

7月19日～9月1日にかけて縄文時代相当層（KU層～FB層）の調査を実施した。

9月2日、同層の空中写真撮影を行った。

9月3日～10月20日にかけて旧石器時代相当層（YL層）の調査を実施した。

10月21日に同層の空中写真撮影を行った。

10月21日～平成12年1月 天ヶ沢東遺跡の調査のため作業中断

平成12年2月1日～24日にかけてYL層以下の旧石器時代相当層に係る試掘坑による調査を実施した。

以上をもって古木戸B遺跡の本調査は終了した。

#### (ウ) 古木戸A遺跡

##### 1 区西側

平成12年3月6日～17日にかけて、重機による表土除去を実施し、本調査1期を終了した。

本調査Ⅱ期は、平成12年4月6日から開始した。

平成12年4月6日～18日にかけて縄文時代相当層（KU層）の調査を実施した。

4月19日～5月12日にかけてFB層の調査を実施した。

7月6日～12日にかけてYL層上層～BB0の試掘坑による調査を実施した。

##### 1 区東側

4月12日～14日にかけて重機による表土除去を実施した。これと一部並行して4月13日～5月1日にかけて縄文時代相当層（AN層）の調査を実施した。

5月19日～6月5日にかけてKU層の調査を実施した。

6月8日～20日にかけてFB層上層除去を実施した。

6月21日～7月5日にかけてFB層下層調査を実施した。

7月6日～12日にかけてYL層上層～BB0の試掘坑による調査を実施した。

##### 2 区

5月11日～19日にかけてKU層の調査を実施した。

5月22日～6月21日にかけてFB層の調査を実施した。

7月6日～12日にかけてYL層上層～BB0の試掘坑による調査を実施した。

7月13日撤収、7月17日排土処理を実施し、古木戸A遺跡の調査を終了した。

## 2 資料整理

資料整理は、平成21年4月から平成22年12月まで実施した。出土品の内訳は第5表のとおりである。土器、石器、礫は、洗浄の後、遺物番号の注記作業を行った。次に遺物の分類や層位ごとの分類を行い、接合作業を行った。土器は、時代を特定できる特徴的なもの、残存状況が良好なものを中心に、また、石器は、調整・加工が施されているものを中心に実測図を作成した。なお、作業の効率化を図るため石器184点については実測、トレース、観察表の作成を株式会社ラングに委託した。

報告書作成に先立ち、調査区全体図や試掘坑配置図、遺構図等の図版作成、出土状況の記録と台帳に基づく遺構・遺物一覧表の作成、拓本・実測図の図版作成、遺物写真撮影と遺構写真を含む写真図版の作成を行い、現地調査における所見、資料整理の成果を踏まえて報告書本文を執筆した。

第5表 No.44地点出土品点数（取り上げ台帳から）

遺跡名	土器	石器	礫	金属	その他 (炭化物等)	合計
天ヶ沢東遺跡	485	458	1480	1	21	2445
古木戸A遺跡	608	425	1174	0	0	2207
古木戸B遺跡	122	693	1834	0	14	2663
確認調査	21	21	46	0	0	88
合計	1236	1592	4534	1	35	7398

## 第Ⅱ章 遺跡周辺の環境

### 第1節 地理的環境

No.44地点遺跡（天ヶ沢東遺跡、古木戸A遺跡、古木戸B遺跡）は、JR東田子の浦駅の北約3.6kmの愛鷹山南西麓、静岡県富士市神谷字天ヶ沢東及び、同市増川字古木戸にまたがる、約7haの範囲に分布する（第6図）。標高115～150mの緩斜面に位置し、現在、茶畑等に利用されている。遺跡の南約800mには東名高速道路が走っている。

遺跡が位置する富士市は、面積245.02km<sup>2</sup>、人口26万1,565人（2009年勢要覧より）をかかえた県東部の中核的な都市である。東西22.7km、南北27.5kmをはかり、東を沼津市、西を静岡市と接している。豊富な地下水を利用した製紙業が古くから盛んで市の主要産業となっている。南に駿河湾、北東に富士山、東に愛鷹連峰が位置し、平野部には西に富士川が流れている。富士市の地形は、富士山南西麓、岩本丘陵、富士川右岸の河岸段丘及び丘陵部、浮島ヶ原、田子の浦砂丘、愛鷹山南西麓に大別できる。

市の北東側に位置する富士山（3,776m）は、国内最高峰として、日本人には非常に馴染みが深い存在である。富士火山は、先小御岳、小御岳火山を基盤として10万年前頃から活動を開始している。現在、私たちが目にする富士山（新富士）の外観は、その前身である古富士の火山活動を基礎としている。古富士は、約10万年～1万1千年前頃まで主として爆発的噴火を繰り返し、大量のスコリア、火山灰を噴出した。山麓に噴出物が降り積もることで、標高3,000m弱まで成長した。また、約1万7千年前から8千年前には、玄武岩質の溶岩を大量に噴出したことにより現在に近い外観となった（新富士）。これ以降、山頂部及び側火山からの噴火を断続的に繰り返し、1707年（宝永4年）の宝永大噴火を最後として、現在まで噴火活動は静穏を保っている。

富士山南西麓は、火山噴出物や浸食によって形成された雑段状に連続する丘陵地帯と放射谷を形成する幾本の小河川に起因する扇状地が南西方向に徐々に傾斜を緩めながら広がっており、その末端、市の西部には富士川が流れ駿河湾に注いでいる。富士川は、赤石山脈の鋸岳を源として、長野、山梨、静岡の3県にまたがる延長約128kmの河川である。日本三大急流の一つとして数えられており、駿馬の如き速く急峻な川という意味から令制國の駿河の由来になったとされる。

また、富士川と潤井川の間に位置する岩本丘陵は、元来富士山南西麓の末端部であったものが大宮断層の断層活動により富士山南西麓と分断されて隆起した丘陵である。岩本公園は、富士山の絶景の撮影ポイントとしても知られている。

富士川右岸は、岩濁火山群の断層活動により隆起した丘陵部・山地と富士川の浸食、開析作用により形成された河岸段丘とによって構成される。地質は、新生代第三期後期ないし第四期前期に堆積した礫石安山岩からなる岩濁扇層、第四期更新世末の段丘堆積物、第四期更新世末の富士火山降下火山灰などである。

市東部には愛鷹山、平野部には浮島ヶ原、田子の浦砂丘が立地している。富士川が運んできた土砂が、駿河湾の沿岸流により東に運ばれ、富士川左岸から狩野川河口まで幅200～800メートル、標高5～10メートルの田子の浦砂丘、千本砂丘と呼ばれる長大な砂嘴を形成した。この砂嘴と愛鷹山麓の間に形成された潟湖（浮島沼）に愛鷹山から土砂が供給されることにより陸地化したのが浮島ヶ原である。土地開発により往時の面影は失われつつあるが、愛鷹山南麓に広がる東西約6km南北約2kmの湿地帯である。

愛鷹連峰（通称：愛鷹山）は、最高峰の越前岳（1,504m）をはじめ、黒岳（1,087m）、呼子岳（1,310m）、鋸岳（1,296m）、位牌岳（1,458m）、前岳（1,336m）、袴腰岳（1,248m）、大岳（1,262m）、愛鷹



岳(1,188m)の9つの峰からなる成層火山である。愛鷹山は、約48～38万年前に火山活動を開始し、当初は、玄武岩質の溶岩や凝灰角礫岩を生成させた噴出物を降下させた。その後、約17万年前からは、安山岩質の噴出物がみられ、その溶岩流は、南側に扇状の緩斜面を形成し、約10万年前に火山活動を停止したと推定されている。その後、長年の侵食作用により山体の開折が進み、特に頂部は失われ現在の形状となっている。遮蔽物が少ない南麓は、成層火山特有の緩やかな斜面を形成し、前述の古富士・新富士から噴出した大量のスコリア、火山灰が厚く堆積している。特に標高300m以下には旧石器時代から古墳時代にかけての多くの遺跡が立地している。

Na44地点遺跡は、この愛鷹山の南西麓の尾根上に立地する。標高115～150mの東西両側を比高差約70mの深い谷で隔てられた最大幅約400mの尾根で、北東から南西に緩やかに傾斜している。また、丘陵はさらに、南北にのびる比高差約15mの2つの小さな谷により東・中央・西の3つの小さな尾根に分けることができる。東の尾根に古木戸B遺跡、中央の尾根に古木戸A遺跡、西の尾根に天ヶ沢東遺跡が立地している。特に天ヶ沢東遺跡が立地する西側の尾根は、比較的広い緩斜面がみられる。

## 第2節 歴史的環境

### 旧石器時代

富士市内の旧石器時代の遺跡は、愛鷹山南西麓において数遺跡が確認されている。ナイフ形石器が採集された峰山遺跡、陣ヶ沢遺跡、第二東名建設工事に伴い本発掘調査が実施された矢川上C遺跡、本報告に掲載の天ヶ沢東遺跡、古木戸A遺跡、古木戸B遺跡などが挙げられる。特に、矢川上C遺跡では250点を越えるナイフ形石器をはじめとした多くの石器群が出土しており、愛鷹・箱根地域の当該期の資料としては最大級を誇っている。富士市内において、はじめて本格的に発掘調査された遺跡のひとつである。矢川上C遺跡、古木戸B遺跡では始良Tn火山灰(AT)下位の石器群も確認されている。

富士山南西麓では天間沢遺跡付近でナイフ形石器が採集されたこととされるが、詳細は不明である。当地区は、新富士火山噴出溶岩流が厚く堆積していることにも起因して当該期の遺跡の発見が進んでいないのが現状である。

### 縄文時代

縄文時代の遺跡は、丘陵部を中心に各地で確認されている。早期では押型文が出土した岩本丘陵の万野遺跡、押型文、燃糸文土器が出土した富士川右岸の室野中井戸遺跡、早期後半の条痕文土器を出土した富士川右岸の大楽窪遺跡、山王遺跡、押型文土器や条痕文土器を出土した愛鷹南西麓の矢川上C遺跡、古木戸A・B遺跡などが知られている。第二東名建設工事に伴い調査が実施された矢川上C遺跡、古木戸A・B遺跡では、広範囲の調査にもかかわらず、遺物の出土が散漫で、住居跡等、居住域に係る遺構が皆無である一方で、陥穴状遺構や石蔵等、生業に係る遺構・遺物が目につくことから、狩り場的な性格を示している可能性がある。

早期末から前期初頭では、木高式の標識遺跡となった木鳥遺跡が富士川右岸に認められる。

中期では富士山南西麓の天間沢遺跡をはじめ、敷石住居跡が発見された宇東川遺跡や注口土器が出土した藤夜姫遺跡などが知られている。愛鷹山南西麓では的場遺跡、上の段遺跡、五領ヶ台式がまもって出土した古木戸A遺跡などが認められる。

中期～後期では勝坂式及び堀ノ内式が出土した岩本丘陵の念信園遺跡が知られている。また、富士川右岸では、富士川サーブリエリア建設に伴い発掘調査が実施された破魔射場遺跡において、中期後半～後期前半の遺構・遺物が出土している。

晩期では、富士川右岸の山王遺跡、田子の浦砂丘の三新田遺跡で土器の出土が確認されている。

早期段階では尾根上に小規模な遺物散布地点が点々とみられ、中期に至り的場遺跡、上の段遺跡のような中核的な遺跡が確認され、晩期には遺跡数は限られるものの、低地への展開が確認されるという状況にある。

#### 弥生時代

当該期の遺跡は、低地や、低地に張り出した丘陵先端及び台地、河岸段丘、やや標高が高い山麓等に認められる。立地に遠いを見せていることから、遺跡の占地は、稲作をはじめとした生産基盤の比重が異なっていたことと同時に地域集団の社会的、政治的要因を反映している可能性がある。

富士川右岸では、縄文晩期～弥生前期の遠賀川系、条痕文系土器が出土した山王遺跡が認められる。

富士山南西麓に立地する大坂遺跡、岩倉遺跡では、中期後半の土器の出土が伝えられる。いずれも標高450m以上に立地しており、周辺に当該期の遺跡も存在していない。今後の資料の蓄積が望まれる。

後期では、東海道新幹線建設に先立ち発掘調査が実施された愛鷹山南西麓の的場遺跡において、堅穴住居が確認されている。また、向山遺跡、峰山遺跡のように標高80m以上の丘陵上にも後期の遺跡が確認されている。富士川右岸では後期の堅穴住居が検出された山王遺跡、松永遺跡、後期の壺4個体が出土した清水岩の上遺跡などが知られている。縄文時代に比べ遺跡数が少ないことは、河岸段丘に山が迫った狭隘な地形により生産基盤が限られていたことに起因している可能性がある。

浮島ヶ原では、中期後半～後期の農耕具等が出土している沖田遺跡、花守遺跡などが知られている。

#### 古墳時代

富士市内には約700基の古墳が確認されている。その多くは後期群集墳であり、特に愛鷹山南西麓に濃密な分布がみられる。岩本丘陵、富士川右岸、富士山南西麓、愛鷹山南西麓及び田子の浦砂丘上など各所に分布している。

岩本丘陵には上井奈、鎌研、滝戸原の3古墳群が認められる。いずれも後期群集墳で丘陵南斜面に立地している。対応する集落については不明な点が多い。

富士川右岸では、河岸段丘上または丘陵裾部に室野坂、谷津原、妙見、山王の各古墳群などが確認されている。後期後葉から終末期に築造されている。谷津原古墳群は、十数基が確認され、6世紀後葉～7世紀初頭の時期に築造されている。1号墳から単龍環頭大刀が出土している。富士川右岸沿いの古墳群としては最古の部類に属している。室野坂、妙見、山王の各古墳群は、いずれも終末期の群集墳で、25～30基で構成されている。一方、当該期の集落は、中野、松長、半在家の各遺跡が認められるが、特に後期以降の集落の調査事例が少なく、古墳群と集落の関連は不明な点が多い。

富士山南西麓には、伊勢塚古墳を含む伝法古墳群、土手内中原古墳群、比奈古墳群などが認められる。伊勢塚古墳は、中期後半とみられる直径約54mの二段築成の円墳であり、埴輪群が確認されている。

一方、これに対応する可能性がある集落は、天間沢遺跡、沢東A遺跡が認められる。沢東A遺跡では、古墳中期から古代にかけての堅穴住居99軒、掘立柱建物10棟、祭祀遺構等が確認されている。

愛鷹山南西麓には、浅間古墳、東坂古墳、薬師塚古墳、船津L-第14号墳、琴平古墳、船津古墳群、中里古墳群などが認められる。浅間古墳は、全長約100mの前方後方墳である。4世紀末～5世紀初頭の築造と考えられ、富士市周辺地域の大型古墳の始まりと考えられている。続いて5世紀前半に全長約60mの前方後円墳である東坂古墳が続くとみられる。これら2古墳は、当地域の首長クラスの墓として位置づけることができる。

5世紀後半には薬師塚古墳、船津L-第14号墳、琴平古墳といった径20～40m級の円墳が築造される。6世紀に入ると、船津古墳群、中里古墳群などが200基以上の群を構成している。一方、古墳、古墳群との関連を想定させる集落は不明な点が多いが、浅間古墳に近い宮添遺跡では、岡古墳と時期が近接する

古墳中期の大型竪穴住居（一辺9m以上）が2軒確認されており注目される。

田子の浦砂丘上には、山の神古墳、庚申塚古墳が存在する。山の神古墳は、全長41mの前方後円墳である。周濠調査に伴い、人物埴輪や円筒埴輪が出土している。庚申塚古墳は、最大長40mの双方方墳である。

いずれも内部主体は不明であり、明確な時期は不明であるが、後期以降に築造されたものと考えられている。

一方、古墳時代の集落では、前期の竪穴住居34軒が確認された三新田遺跡があり、石錘、土錘といった漁労に関連した遺物の出土があり、海浜部の遺跡の特徴を示しているものの、先述の古墳と同時代の集落については不明な点が多い。

#### 古代

古代の集落は、富士川右岸の浅間林遺跡、富士山南西麓の東平遺跡、愛鷹山南西麓の宮添遺跡、田子の浦砂丘の三新田遺跡などで認められる。中には墨書土器の存在から、官衙との関連を想定させる集落も確認されているが、具体像については不明な点が多いのが現状である。

浅間林遺跡では、平安時代の竪穴住居34軒、掘立柱建物5棟などが調査されており、豊富に出土した土器は、平安時代の土器編年を考える上で重要な資料となっている。土器の中には緑釉陶器や墨書土器も認められる。

東平遺跡では、奈良～平安時代初頭にかけての300軒を超える竪穴住居、70棟を超える掘立柱建物などが密集して検出されている。また、遺跡南東に位置する三日市廃寺は、本集落とほぼ同時期に展開することから、寺院と集落の関連が注目される。

宮添遺跡では、平安時代とみられる籬の羽口が出土している。

三新田遺跡では、奈良時代中葉～平安時代の集落が確認され、「廣足」と墨書された土師器環が出土している。

#### 中世・近世

中近世の遺跡は、東海道の宿駅に係る遺跡や今川・武田・北条といった戦国大名の攻防戦に関連した城郭があげられる。古くから交通の要衝である吉原は、鎌倉初期に吉原湊の前身といえる見付が瀬井川と沼川の合流付近（現在の田子の浦港付近）に構えられ、渡船や伝馬を管理していた。天文23年（1554）の風水害により見付は、現在の元吉原地区に移転したとされ、その後、吉原宿（元吉原宿）となった。元吉原宿は、慶長6年（1601）に江戸幕府から伝馬朱印状を受け宿駅に制定されたものの、田子の浦砂丘上の立地に起因して、漂砂と高浪による被害を受けることが頻発したため、寛永19年（1642）頃に依田橋付近に所替えが行われた（中吉原宿）。しかし、この中吉原宿も、延宝8年（1680）の台風による高潮により壊滅状態となり、天和元年（1681）に現在の吉原商店街付近へ再度所替えが行われた（新吉原宿）。宿場に係る発掘調査は少ないが、中吉原宿遺跡の発掘調査では、肥前、瀬戸美濃産の陶磁器が出土しており、その器種組成から本陣または、豪商等宿場の有力者のものと推測され、江戸前期の宿場の1様相を伝えている。

一方、戦国時代には甲相駿三国同盟が結ばれたいわゆる善得寺の会盟の舞台と伝えられる善得寺城は、応永24年（1417）今川範政により善得寺に併設されたものである。しかし、三国同盟は、桶狭間の合戦以降、徐々にほころびを見せ始め、善得寺は、永禄12年（1569）の武田氏の駿河侵攻の際に消失、善得寺城も元龜年間に武田氏により落城したと伝えられるが、城の詳細は不明な点が多い。

## 第三章 天ヶ沢東遺跡

### 第1節 基本層序

本遺跡は、愛鷹山南西麓の標高約130～150mの北東から南西に延びる尾根上に立地している。遺跡が立地する尾根は、幅約100m、斜度約8度の緩やかな斜面となっている。尾根の先端は、遺跡の南西約250m（東名高速道路付近）で浮島ヶ原が広がる平野部をのぞんでいる。調査区の西側約20mには比高差約70mの大きな谷が入っており、地形的に明確に区別され、東側は、南北にのびる比高差約15mの小さな谷を挟んで古木戸A遺跡が立地する尾根が続いている。土層堆積については、農道敷設及び耕作による土地改変のため、第2層（黒色土）、第3層（暗褐色土）、第4層（栗色土層）の堆積は良好とは言えない状況であり、調査区内で安定して確認できるのは第5層（富士黒土層）以下の土層であった（第7図）。以下、各土層について記述する。

なお、第2節以降、土層の表記については、煩雑を避けるため、愛鷹・箱根基本層序の名称として定着している土層名（括弧内）で記述する。

今回の発掘調査は、大きく2時期に分けて実施され、調査区が4地区に分かれているため、各調査区を1～4区と呼称した（第8図）。また、遺構名については、現地調査地の呼称を尊重したが、一部に遺構名の重複があったため、遺構番号を3桁とし、先頭桁に区の数字を追加して区別した。

#### 第1層（表土層）

#### 第2層（黒色土層）

粘性なし、しまりやや強い。白色粒子（径3mm）を多く含む。

#### 第3層（暗褐色土層）

粘性なし、しまりやや強い。橙色スコリア（径1～2mm）を少し含む。

#### 第4層（栗色土層）

粘性弱い、しまり弱い。橙色スコリア（径1～2mm）を少し含む。

#### 第5層（富士黒土層）

粘性なし、しまり弱い。橙色スコリア（径1～2mm）を少し含む。

#### 第6層（漸移層）

粘性なし、しまり弱い。第5層と第7層の漸移的な土層

#### 第7層（休場層）

粘性強い、しまりやや強い。橙色スコリア（径2mm）を少し含む。

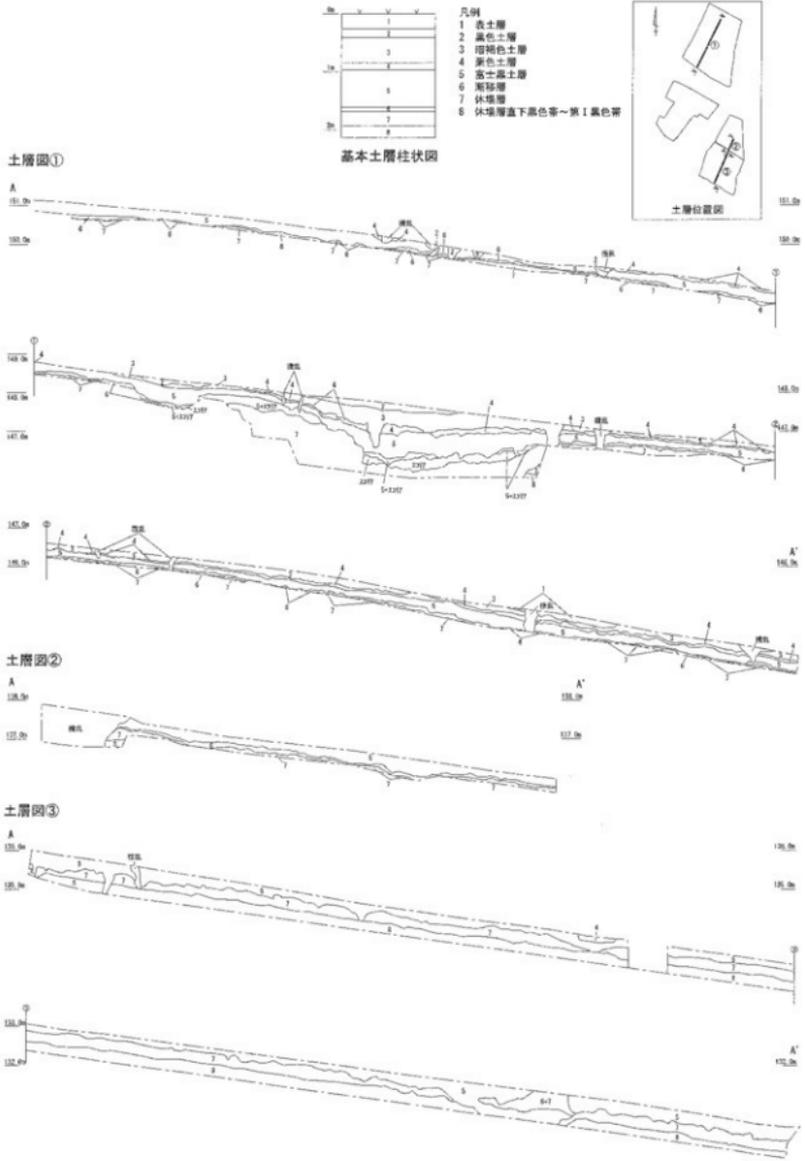
#### 第8層（休場層直下黒色帯～第I黒色帯）

粘性やや強い、しまりやや強い。橙色スコリア（径2mm）を多く含む。

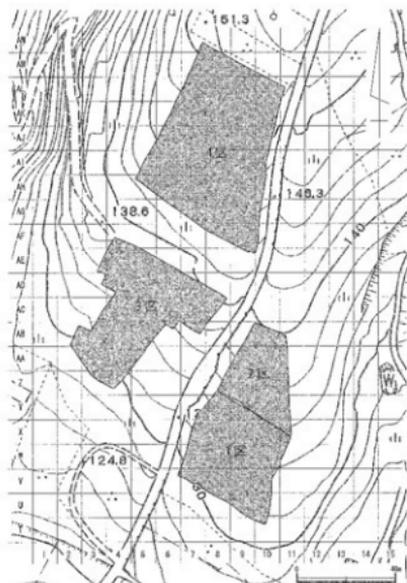
### 第2節 旧石器時代の調査

#### 1 遺物

今回の天ヶ沢東遺跡では、旧石器時代の遺構は確認されなかった。遺物は、暗褐色土層～休場層にかけて石器が45点、礫が休場層で2点、休場層直下黒色帯で1点確認されている（第7表）。ただし、休場



第7圖 土層図



第8図 調査区名称とグリッド配置図（富士市都市計画図に加筆）

第6表 天ヶ沢東遺跡  
旧石器組成表

種別/石材・産地別	産地					合計
	不明	黒曜石	細石刃	片石	燧石	
打石						
石						
打石						
石						
打石						
石						
打石						
石						
打石						
石						
合計	13	9	14	1	6	37

第7表 天ヶ沢東遺跡  
旧石器組成表

種別/産地別	産地					合計
	不明	黒曜石	細石刃	片石	燧石	
打石						
石						
打石						
石						
打石						
石						
打石						
石						
打石						
石						
合計	15	8	14	1	6	37

層で出土した剥片5点と前述の礫3点以外の大半が富士黒土層を中心とした漸移層より上層で縄文時代の遺物と重複して出土しているため、層別的に遺物を分離することは困難であった。特に礫については、漸移層以上から出土したものの中に当該期のものが含まれると推測されるが、上記理由から抽出することはできなかった。よって、旧石器時代の示準となる石器以外は休場層以下を旧石器時代として扱った。確認された器種は、ナイフ形石器、尖頭器、細石刃、細石核で、石材は、黒曜石、ホルンフェルスが使用されている（第6表）。黒曜石は未分析の4点をのぞき、細石刃に神津島恩馳島群が含まれる以外は全て信州産で占められている。点数の記載は、出土点数は現地取り上げ点数を、図示点数は接合作業後の実測図点数を示している。

**ナイフ形石器** ナイフ形石器は、15点が出土しており、全点を図示した。黒曜石（1～12）及びホルンフェルス製（13～15）で、黒曜石産地は、諏訪星ヶ台群（1～3・5～7・9・10）、蓼科冷山群（4・8・11）である。

1・2・4・5・9は黒曜石製の二側縁加工のナイフ形石器である。縦長剥片を素材として打点側を基部とする9以外はいずれも打点側を先端として、左側縁と右側縁下にブランティングを施している（4・9は右側縁と左側縁下にブランティング）。2は基部を欠損するが、いずれもいわゆる砂川期に盛行するナイフ形石器である。

13～15はホルンフェルス製の二側縁加工のナイフ形石器である。13・14は、縦長剥片を用い打点側を基部として、13は右側縁と左側縁基部

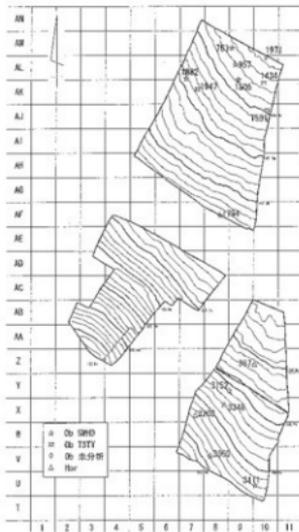
付近、14は左側縁と右側縁下にブランティングを施す。

15は、縦長剥片を用い打点側を先端として左側縁及び右側縁基部付近にブランティングを施す。3・7・8は基部または先端部を欠損するため、分類が不明な一群である。素材剥片の打点側を3・8は基部に、7は先端部側として、3は右側縁に、7・8は基部にブランティングを確認できる。

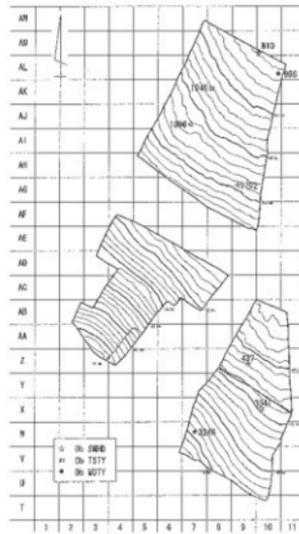
10～12は両側縁にブランティングを施し、上部に斜行した切出状の刃部を形成するナイフ形石器である。いずれも横長幅広い剥片を用い両側縁に加工を施している。10は、両側縁にブランティングを施し、上部に刃部を形成している。先端部は尖頭に整形する。11・12も両側縁に加工を施すが、いずれも右側縁は素材剥片の折断面をブランティングの代わりとしている。

11はブランティングにより基部をやや尖り気味に整形している。12はやや厚い剥片素材を用いており、

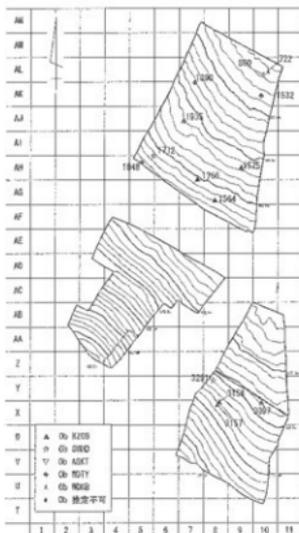
①ナイフ形石器



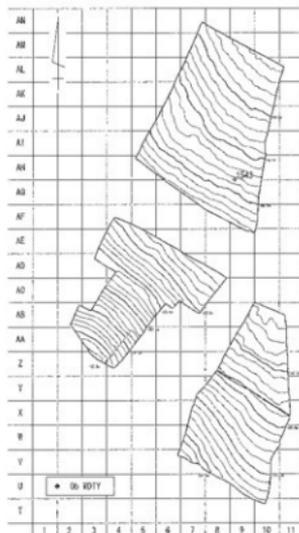
②尖頭器



③横石刃



④細石核



第9図 旧石器 石器分布図

産地同定は行われていないが、箱根畑宿群と推測される。左側縁のブランティングは対向剥離による。尖頭器 尖頭器は、8点が出土しており、全点を図示した。いずれも黒曜石製で、産地は16・19・20・23が諏訪星ヶ台群、17・18が和田鷹山群、21・22が蓼科冷山群である。

16は両面加工の尖頭器である。やや反りがある剥片素材の両面に丁寧な平坦剥離を加えて整形している。表面は、素材の形状を生かしながら周縁を主体に剥離を行っているのに対し、裏面は素材の反りを解消するためほぼ全面に剥離を行っている。基部を欠損する。

17は半両面加工の尖頭器である。縦長剥片の打点側を先端に用い、表裏面の周縁を主体に平坦剥離を加えて整形している。16と同様、剥片素材の反りを解消するため、裏面の剥離はより入念に行っている。

18・19は周縁加工の尖頭器である。縦長剥片の打点側を基部に用い、表面の周縁に剥離を加えて整形している。いずれも表面に自然面を残していることから、石核から比較的早い段階で得られた剥片を用いていると考えられる。

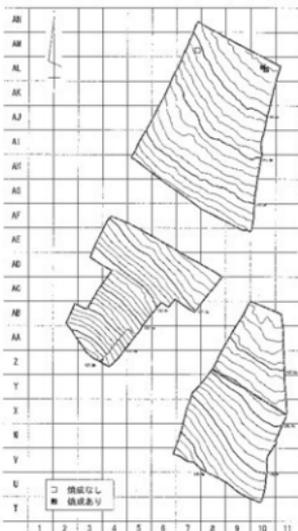
20・21は片面加工の尖頭器である。いわゆるティアドロップ形と呼ばれるものと考えられるが、20は表面の右半と基部に整形が行われている。なお、裏面の周縁に細かい平坦剥離が認められるため、半両面加工とも分類できよう。基部を欠損する。21は、やや厚い剥片素材の打点側を基部に用い、表面の左半にだけ平坦剥離を行っている。平坦剥離が右表面全体に及ぶため尖頭器に分類したが、右側縁を刃部としたナイフ形石器の可能性も考えられる。

22は両面加工、23は半両面加工尖頭器と考えられるが、欠損部が多く詳細は不明である。

細石刃 細石刃は、14点が出土しており、11点を図示した。いずれも黒曜石製で、産地は、24～29が神津島恩馳島群、30・31が諏訪星ヶ台群、32が和田小深沢群、33が和田鷹山群である(34は分析不可)。このほかに細石核から細石刃を得るのに失敗したと考えられる先端が湾曲し厚手となる剥片2点が富士黒土層から出土している。

細石核 細石核は1点出土している。黒曜石製(産地:和田鷹山群)である。35は小型の盤状

図9 産地(全点輝石安山岩)



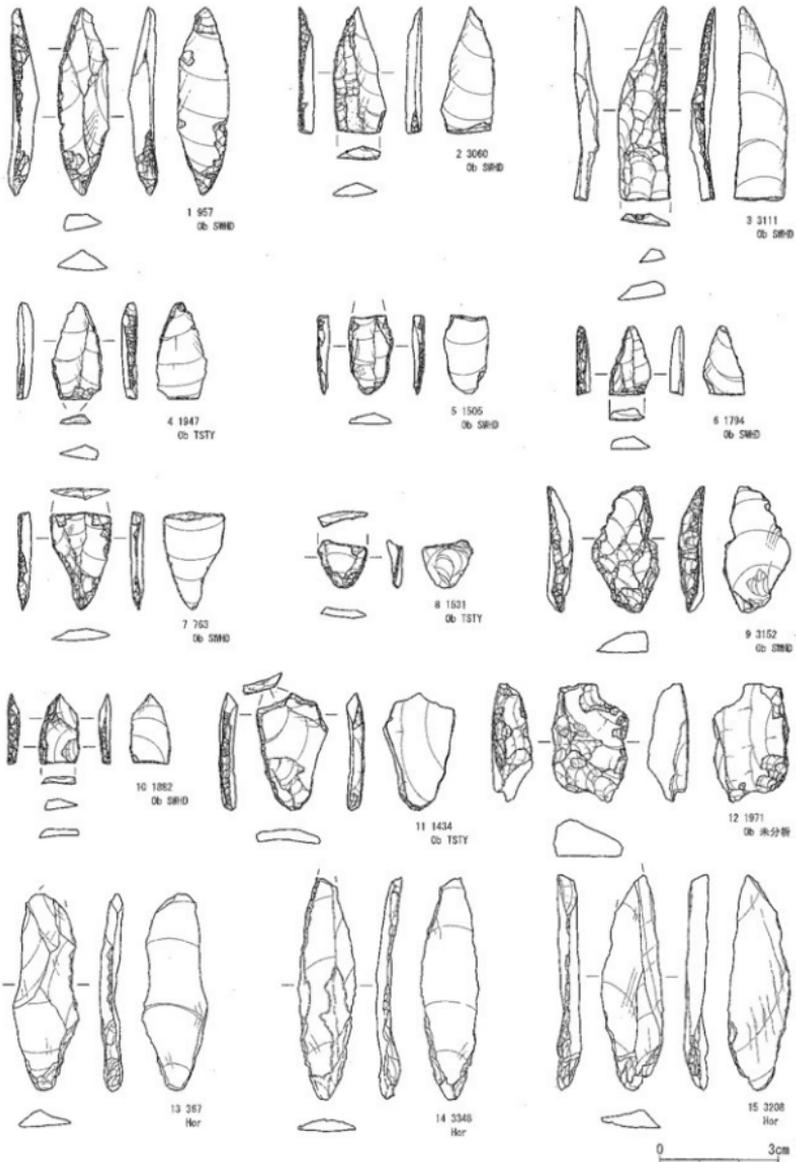
第10図 天ヶ沢東遺跡 旧石器分布図

第8表 天ヶ沢東遺跡 旧石器観察表

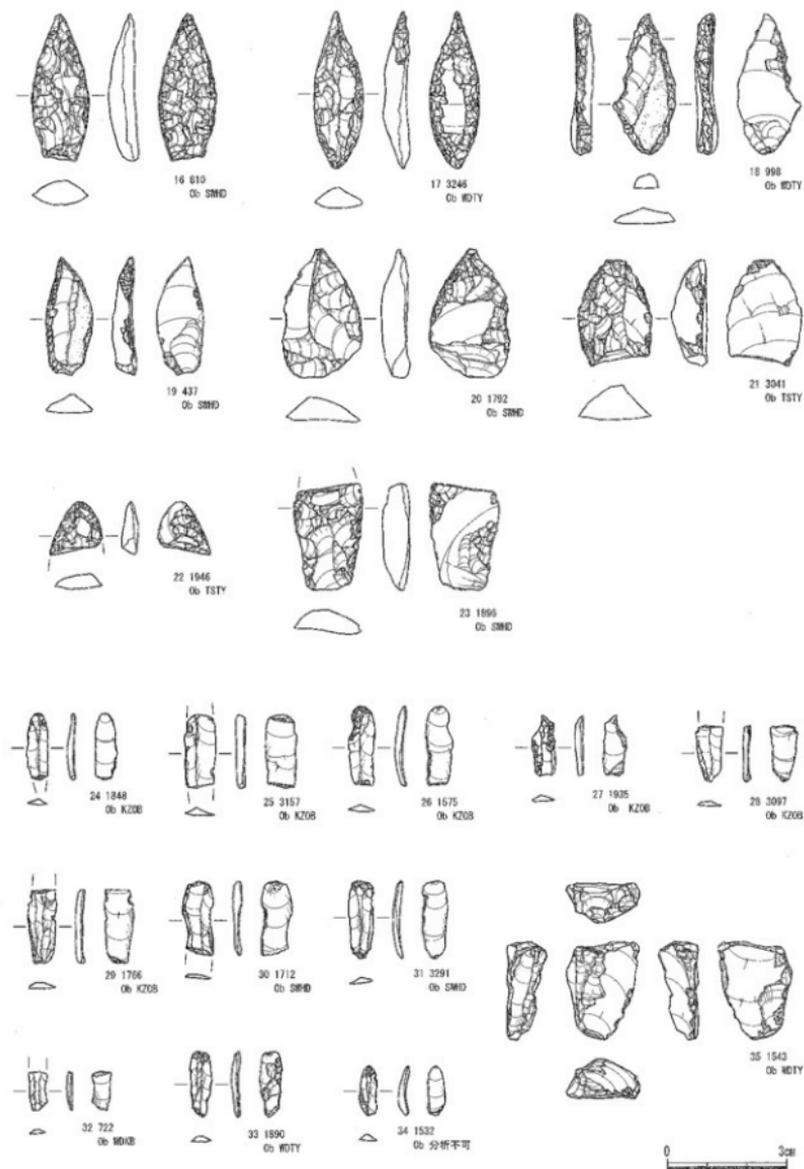
発掘層	品目	品名	産地	形状	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	観察者
2000	尖頭器	16	AM	両面加工	1.4	2.3	1.3	0.28	1990/8/29
2111	尖頭器	17	AM	半両面加工	2.2	1.4	1.0	0.31	1990/8/29
1817	尖頭器	18	AM	周縁加工	1.3	1.4	1.2	0.36	1990/8/29
1916	尖頭器	19	AM	周縁加工	0.7	1.6	1.1	0.20	1990/8/29
7	細石刃	20	AM	片面加工	0.9	1.5	0.3	0.11	1990/8/29
8	細石刃	21	AM	片面加工	0.5	1.1	0.2	0.08	1990/8/29
9	細石刃	22	AM	両面加工	0.8	1.2	0.3	0.10	1990/8/29
10	細石刃	23	AM	半両面加工	0.7	1.1	0.3	0.09	1990/8/29
11	細石刃	24	AM	両面加工	0.8	1.2	0.3	0.10	1990/8/29
12	細石刃	25	AM	両面加工	0.7	1.1	0.3	0.09	1990/8/29
13	細石刃	26	AM	両面加工	0.8	1.2	0.3	0.10	1990/8/29
14	細石刃	27	AM	両面加工	0.7	1.1	0.3	0.09	1990/8/29
15	細石刃	28	AM	両面加工	0.8	1.2	0.3	0.10	1990/8/29
16	細石刃	29	AM	両面加工	0.7	1.1	0.3	0.09	1990/8/29
17	細石刃	30	AM	両面加工	0.8	1.2	0.3	0.10	1990/8/29
18	細石刃	31	AM	両面加工	0.7	1.1	0.3	0.09	1990/8/29
19	細石刃	32	AM	両面加工	0.8	1.2	0.3	0.10	1990/8/29
20	細石刃	33	AM	両面加工	0.7	1.1	0.3	0.09	1990/8/29
21	細石刃	34	AM	両面加工	0.8	1.2	0.3	0.10	1990/8/29
22	細石刃	35	AM	両面加工	0.7	1.1	0.3	0.09	1990/8/29

第9表 天ヶ沢東遺跡 旧石器機械観察表

発掘層	品目	品名	産地	形状	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	観察者
1313	細石核	35	AM	両面加工	4.0	2.0	2.0	2.0	1990/8/29
10	細石核	36	AM	両面加工	17.0	1.0	1.1	1.1	1990/8/29
11	細石核	37	AM	両面加工	8.0	2.0	2.0	2.0	1990/8/29



第11図 天ヶ沢東遺跡 旧石器1 (ナイフ形石器)



第12図 天ヶ沢東遺跡 旧石器2 (尖頭器 細石刃細石核)

の剥片を素材とし、角錐状を呈している。長さ2.5cm程度細石刃を剥離していたことがわかるが、剥離面右端には階段状の剥離が認められ、剥離作業は順調でなかったことがうかがえる。細石刃剥離面の対面に急角度の剥離が認められることから、スクレイパーに転用された可能性がある。

### 第3節 縄文時代の調査

#### 1 遺構

##### (1) 概要

天ヶ沢東遺跡では、栗色土層～休場層上面にかけて、土坑が検出され、土器・石器・礫等の遺物が多数出土した。これらは出土層位から縄文時代に相当するものと判断した。

調査で検出された地形は、南西方向を向いた緩斜面であり、4区北端及び3区と4区の間付近においてやや傾斜が緩くなるが、明確な傾斜変換は認めがたい。遺構は、4区に一定量認められ、1～3区ではやや散漫であると言える。

ここで報告する遺構は、検出層位及び覆土から縄文時代の遺構と判断したが、遺構覆土からの遺物出土はなく、明確な時期決定は困難なものが大半である。また、平面形や断面形が不定形で自然地形を誤認している可能性があるものを含むが、現地調査の所見を尊重し、遺構として報告した。土坑6基が確認された(第10表)。

なお、礫については、集石遺構特有の礫の密集や、土坑等の共伴は認められず遺構認定は困難なことから、図により礫の分布、状況を報告するにとどめた。

##### (2) 土坑

土坑は1～3区で各1基、4区で3基の合計6基確認された。栗色土層～休場層上面で確認されている。SX101 1区西側(X-8グリッド付近)で確認された長径1.03m、短径0.75m、深さ0.47mの楕円形を呈する土坑である。断面形は逆台形に近い。検出面は、休場層上面である。

SX201 2区西側(AA-9グリッド付近)で確認された長径0.59m、短径0.38m、深さ0.80mの楕円形を呈する土坑である。断面形は細長いU字形である。検出面は、休場層上面である。陥穴状遺構である可能性がある。

SX311 3区東側(AB-7グリッド付近)で確認された長径0.87m、短径0.53m、深さ0.40mの楕円形を呈する土坑である。断面形は深皿形を呈する。検出面は、栗色土層上面である。

SX405 4区西側(AK-7グリッド付近)で確認された長径1.20m、短径1.19m、深さ0.41mの円形を呈する土坑である。断面形は、東側が最深となる。覆土に焼土粒を多く含んでいるが、焼成に伴う土坑壁面の硬化は認められないため、土坑として扱った。検出面は富士黒土層上面である。

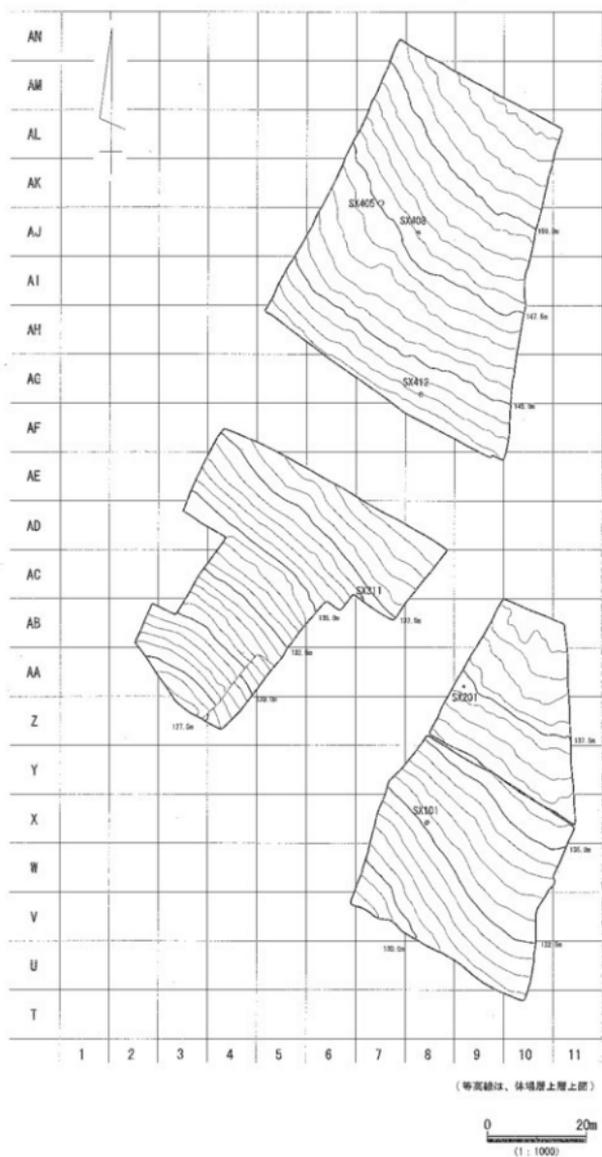
SX408 4区中央(AJ-8グリッド付近)で確認された長径0.90m、短径0.51m、

第10表 天ヶ沢東遺跡 縄文時代遺構一覧

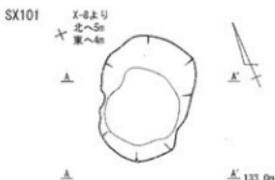
遺構	遺構名	概位置	グリッド	傾斜(単位: m/10m)推定			形状	備考
				北西	南南	東北		
土坑	SX101	休場層上	X-8	1.05	0.75	0.47	楕円形	逆台形
	SX201	休場層上	AA-9	0.59	0.38	0.80	楕円形	U字型
	SX311	栗色土層	AB-7	0.87	0.53	0.40	楕円形	深皿形
	SX405	富士黒土層	AK-7	1.20	1.19	0.41	円形	逆台形
	SX408	休場層上	AJ-8	0.90	0.51	0.35	楕円形	陥穴
	SX412	休場層上	AG-8	1.05	0.91	0.18	楕円形	深皿

第11表 天ヶ沢東遺跡 縄文環組成表

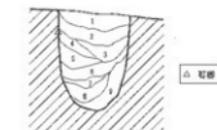
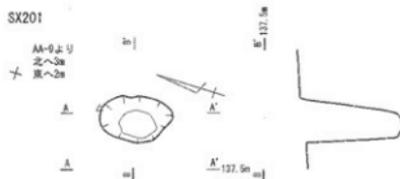
土器	土器名	土器															合計	
		Utsunomiya																
陶器	陶器	1	2														5	
陶器	陶器	4	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	15
陶器	陶器	21	4	11	3	4	4	1	3	4	1	17	15				2	107
陶器	陶器	3															1	3
陶器	陶器																5	5
陶器	陶器	1															1	1
陶器	陶器																1	1
合計	合計	34	6	11	5	7	7	5	9	1	14	14	1	1	1	2	107	107



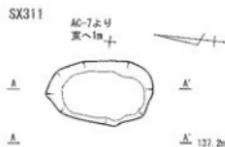
第13図 天ヶ沢東遺跡 縄文時代遺構全体図



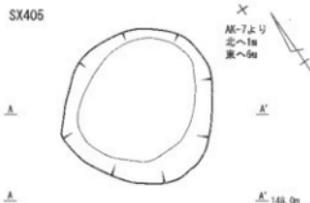
- 1 暗褐色土 褐色スコリアをわずかに含む。
- 2 暗褐色土 褐色スコリアを比較的多く含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土ブロックを含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土ブロックが少し含む。



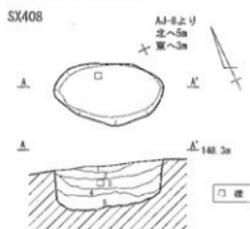
- 1 黄褐色土 黄灰色ブロックを多く含む。
- 2 黄褐色土 黄灰色ブロックを少し含む。
- 3 黄褐色土 しまりなし。
- 4 黄褐色土 暗褐色土ブロックを多く含む。
- 5 暗褐色土 黄褐色土ブロックを少し含む。
- 6 暗褐色土 黄褐色土ブロックを多く含む。
- 7 暗褐色土 黄褐色土ブロックを少し含む。
- 8 暗褐色土 黄褐色土ブロックを少し含む。
- 9 暗褐色土



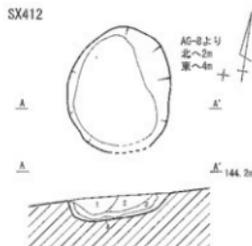
- 1 暗褐色土 径1~2mmの赤色・白色スコリアを少し含む。粘性ややあり。
- 2 暗褐色土 黄褐色土のブロックを少し含む。粘性ややあり。しまりやや強い。



- 1 暗褐色土 径2mm次の粘土粒が散っている。径2mm~1mm次の粘土をわずかに含む。粘性なし。
- 2 赤色土 赤化した細かい粘土の土中に、径2~3mm次の粘土を密に含む。やや固く、粘性なし。
- 3 暗褐色土 粘土粒を多く含む。粘性なし。しまりなし。
- 4 暗褐色土 径1~2mm次の粘土粒をわずかに含む。
- 5 暗褐色土 粘土粒をわずかに含む。粘性なし。
- 6 暗褐色土 黄褐色土との中間的な色調。粘土粒をわずかに含む。粘性ややあり。



- 1 暗褐色土 粘性なし。
- 2 黄褐色土 暗褐色土が少量混在。K<sub>1</sub>層相当。
- 3 暗褐色土 粘性ややあり。F<sub>3</sub>層相当。
- 4 暗褐色土
- 5 暗褐色土 K層よりスコリアを多く含む。



- 1 黒色土 白色スコリア[径3m]を多く含む。褐色スコリア[径3m]を少量含む。粘性なし。しまりややあり。
- 2 黒色土 白色スコリアを含む。
- 3 黒色土 スコリアをわずかに含む。粘性少しあり。
- 4 黒色土 丸磨との漸移の色調。粘性あり。しまり強い。

0 1m  
1:40

第14図 天ヶ沢東遺跡 縄文土坑



第15図 天ヶ沢東遺跡 縄文礫分布図

深さ0.33mの楕円形を呈する土坑である。断面形は壁面が直立した箱形を呈する。検出面は、休場層上面である。覆土中位から礫（多孔質玄武岩）が1点出土している。

SX412 4区南端（AG-8グリッド付近）で確認された長径約1.02m、短径0.84m、深さ0.18mの楕円形を呈する土坑である。断面形は皿状を呈する。検出面は、休場層上面である。

### (3) 礫の出土状況

今回の調査では、暗褐色土～漸移層から1,477点の礫が出土している（第11表）、大半は縄文時代に相当するものと判断され調査区のほぼ全域から出土している。数箇所ややまとまった出土状況を示す箇所があるが、一般的な集石遺構の礫の密集度とは異なり散漫なあり方を示す上、明確に土坑に伴う状況を示すものも認められないため、礫の接合関係、被熱の有無を図により提示するにとどめる。

## 2 遺物

### (1) 土器

概要 土器は、暗褐色土層から休場層にかけて、485点（現地取り上げ点数）が出土した（第10表、第14図）。時期が特定できたものはいずれも縄文土器で、早・前・中期に比定されるものであった。土器の記載は、以下の分類をもとに行う。なお、分類は、天ヶ沢東、古木戸A、古木戸B遺跡の3遺跡共通のものとした。また、点数の記載について、出土点数は現地取り上げ点数を、図示点数は接合作業後の実測図点数を示している。

#### 第Ⅰ群土器 早期前半土器群

- A類 押型土器
- B類 縄文土器
- C類 無文土器
- D類 田戸下層式土器

#### 第Ⅱ群土器 早期後半土器群

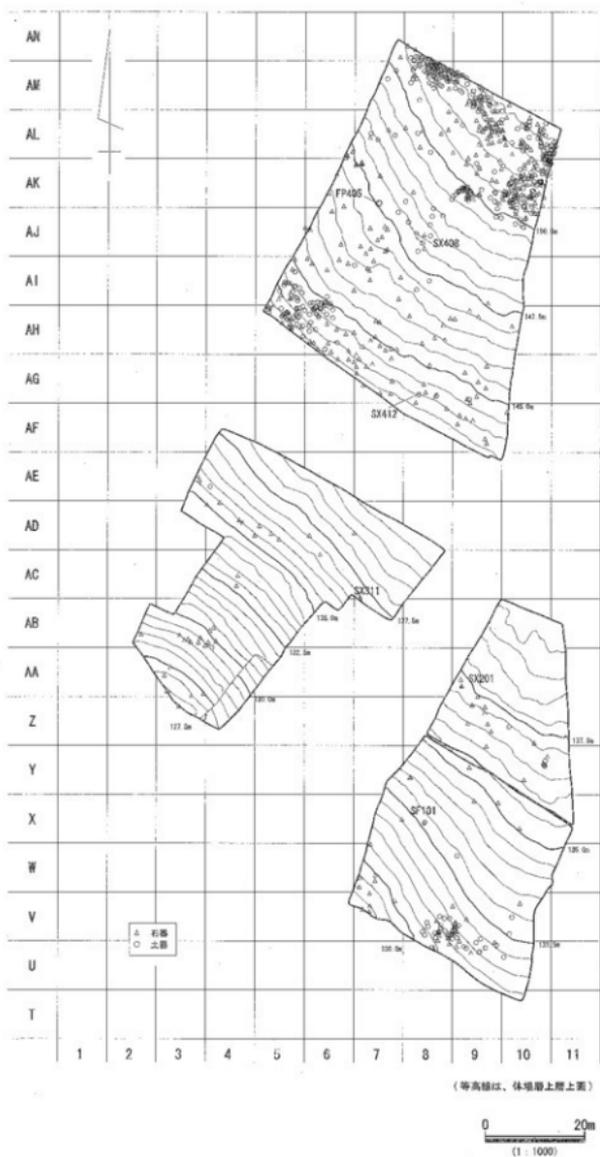
- A類 子母口式土器
- B類 清水柳E類土器
- C類 無文・条痕土器
- D類 縄文土器
- E類 粕畑式土器
- F類 打越式土器

#### 第Ⅲ群土器 前期土器群

- A類 諸磯式土器
- B類 清水ノ上Ⅱ式土器に類似したもの
- C類 北白川下層式土器
- D類 大蔵山式土器（前期末）

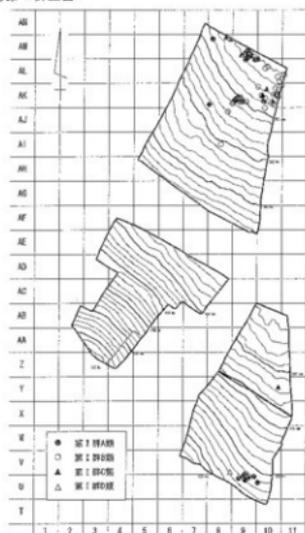
#### 第Ⅳ群土器 中期土器群

- A類 沈線土器（前期末から中期初頭の土器、便宜的に中期土器群に含める）
- B類 五領ヶ台式土器
- C類 加曾利E3式土器
- D類 北浦C式土器
- E類 その他

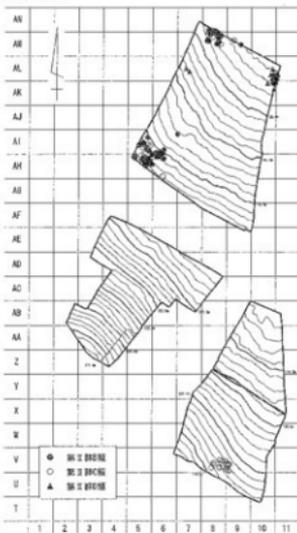


第16図 天ヶ沢東遺跡 縄文遺物分布図

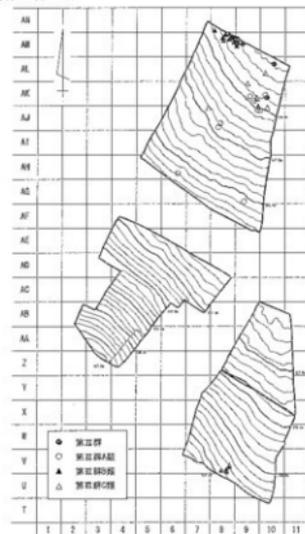
①第I群土器



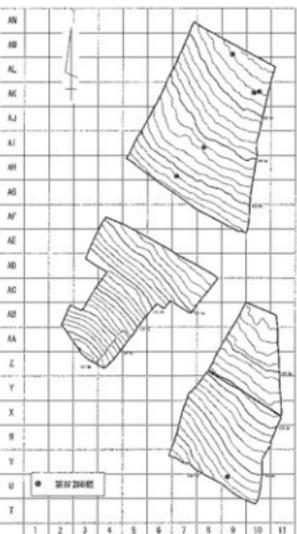
②第II群土器



③第III群土器



④第IV群土器



第17図 天ヶ沢東遺跡 縄文土器分布図

天ヶ沢東遺跡では、第I～IV群が確認されており、各群・類ごとに分布に違いを見せている(第15図)。出土層位、点数は第11表のとおりである。

第I群は、A～D類が認められる。4区北半と1区南端に分布の中心がある。A類は4区北半と1区南端に集中域があるが、前者には山形押型文と楕円押型文(ネガティブ)を施文する一群及び押型文土器と同様の焼成・胎土をもつ無文土器(C類)が、後者には同一個体と考えられる斜格子・矢羽根状の押型文を施文する一群が分布している。

B類は4区北半にのみ分布がみられ、前述の山形押型文、楕円押型文と重複して出土している。D類は、1点だけの出土であるが、1区南端で斜格子・矢羽根状の押型文群に近接して出土している。

第II群は、B・C・D類が認められ、4区北端と南端、及び1区南端に分布の中心がある。B類は、4区北端と南端の2箇所に集中域があるが、細隆起線文をもつものは、南端部に限定されるようである。C類は、1区南端で第I群A類に隣接して分布している。D類は4区北東端に分布の中心がある。

第III群は、A～C類が認められる。4区北半と1区南端に分布の中心がある。A類は、4区北半に、B類は、4区北半と1区南端の2箇所に集中域があるが、4区ではA・C類と分布を異にしている。C類は、4区北半に散漫な分布を示す。

第IV群は、B・C・E類が認められる。B類は1・4区に認められるが散漫な分布を示している。C・E類は、表採及び出土位置不明であるが、各1点の出土であり客体的である。

第12表 天ヶ沢東遺跡 縄文土器集計(分類・層位別)

群	類	器式名等	AN	KU	FB	Za	YL	他区	層位不明	合計	
I	A	押型文		1	20					21	
	B	縄文		4	56				1	61	
	C	無文		3	10					13	
	D	田戸下層式			1					1	
II	B	細隆起線文		11	41					52	
	C	縄文・糸線文	1	6	31	1				39	
	D	縄文		1	5	30				36	
	分類不明			2	3				1	6	
III	A	網襪式	1	5	3		1			10	
	B	網襪式併行		1	1					2	
	B	網水ノ上皿式併行		13	12					25	
	C	北山用下層式		3	3		1			7	
IV	B	五領ノ台式		1	5				2	8	
	C	加賀利式							1	1	
	その他(無胎土器)								1	1	
	不明・その他		1	59	127	4	1	3	5	2	202
	合計		6	114	353	5	1	5	10	3	480

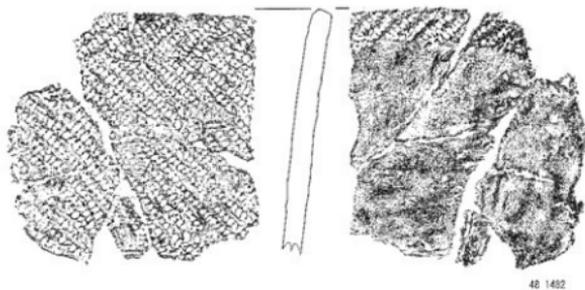
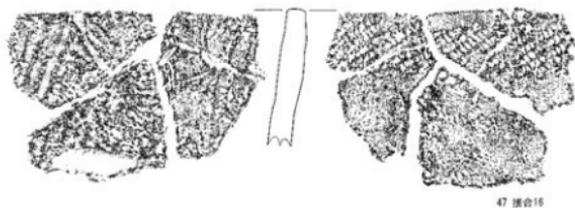
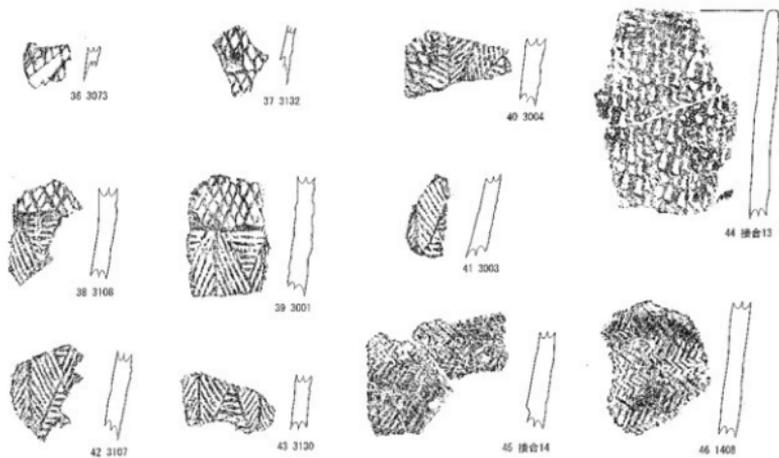
### 第I群土器 早期前半土器群

**A類 押型文土器** 21点が出土している。11点を図示した。36～43は色調胎土が類似することから同一個体の可能性がある。40を除きいずれも横回転密接施文によるものと考えられる。40は土器の形状から天地を決定し縦回転密接施文と判断したが、その場合、他と施文方向が異なることになることから、部位により、横回転と縦回転が使い分けられていた可能性がある。36・37は、斜格子状、41～43は、矢羽根状、38～40は、両者を併用した部分の破片である。43は、中央付近で施文の重複部分が確認される。44はいわゆるネガティブ押型文に該当する。縦回転密接施文でやや小粒の楕円押型文が施されている。器壁の摩耗によりやや不鮮明であるが口縁部付近は横回転の可能性がある。45・46は、山形の押型文で、いずれも縦回転によるものである。

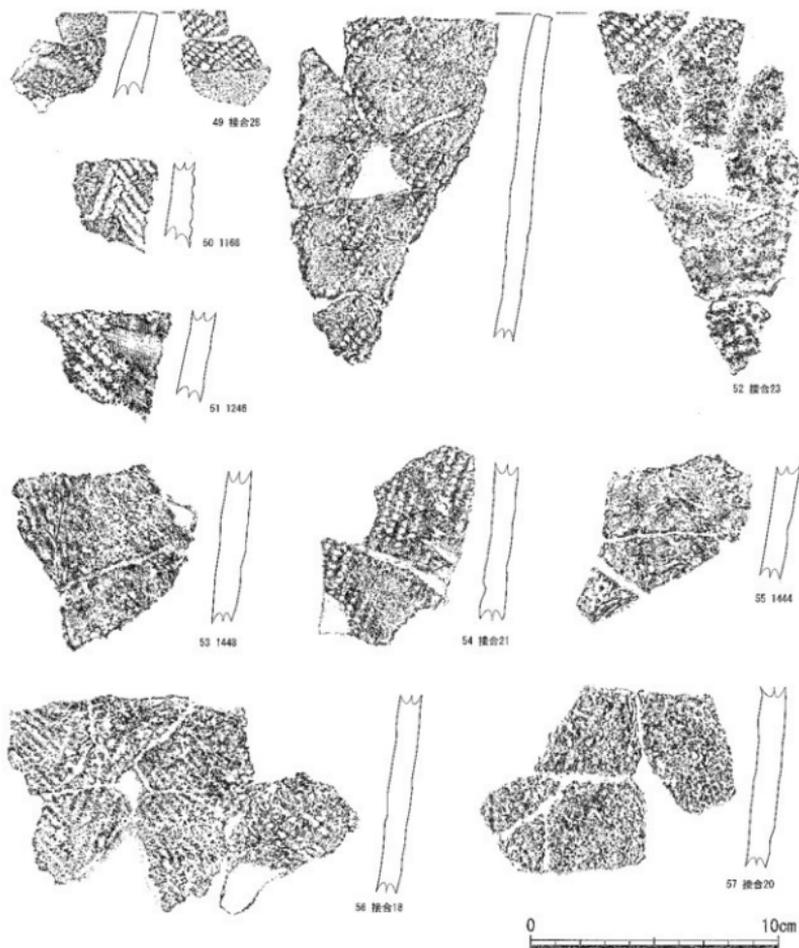
**B類 縄文土器** 61点が出土している。11点を図示した。口縁部内面の縄文は横回転のLRで共通するが、外面の縄文は、縦回転、横回転が錯綜する可能性が高い上、器壁の摩耗が激しいため施文方向が不明瞭なものが多い。47～49・52は、外傾気味の口縁部を有し、口唇部上外方に面を持つ縄文施文の口縁部破片である。口縁部内面に横回転によるLR縄文を施す。48は口縁部内外面を横回転のLR縄文、口縁部外面以下にRL縄文を施しており、外面縄文施文は羽状となっている。50・51・53～57はこれと類似した色調、胎土を持つ外面に縄文を施する胴部破片である。50・56では縦位の羽状縄文となる部分が確認できる。また、52・54は外面の縄文(縦回転のRL)に部分的なナゲ消しが確認できる。

**C類 無文土器** 図示していないが、A・B類と同様の胎土・焼成を持つ無文の土器片をC類とした。13点出土している。A・B類の無文部分または、A・B類に並行する無文土器と考えられる。

**D類 田戸下層式** 1点が出土した。58は、上外方に面を持つ口唇部にキザミを施す口縁部破片である。口縁部外面は剥離により器壁が荒れているが、半截竹管状工具によるとみられる刺突が確認できる。



第18図 天ヶ沢東遺跡 縄文土器1



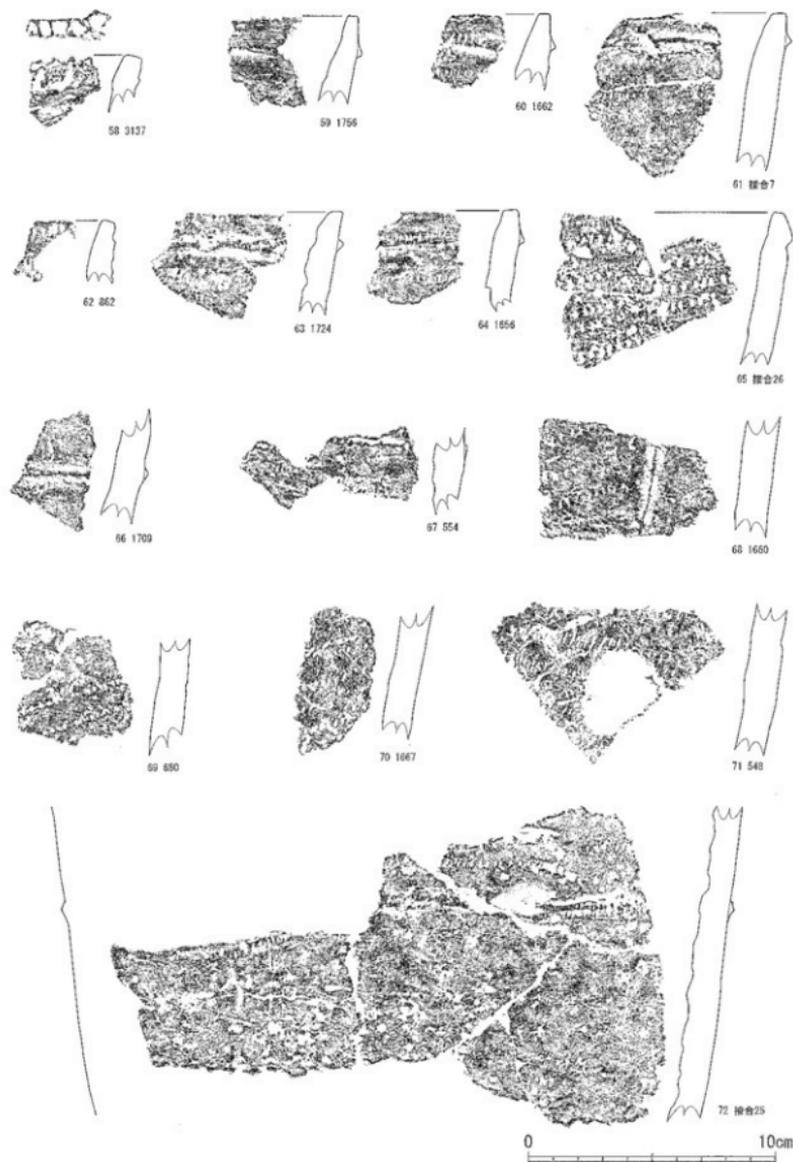
第19図 天ヶ沢東遺跡 縄文土器 2

第II群土器 早期後半土器群

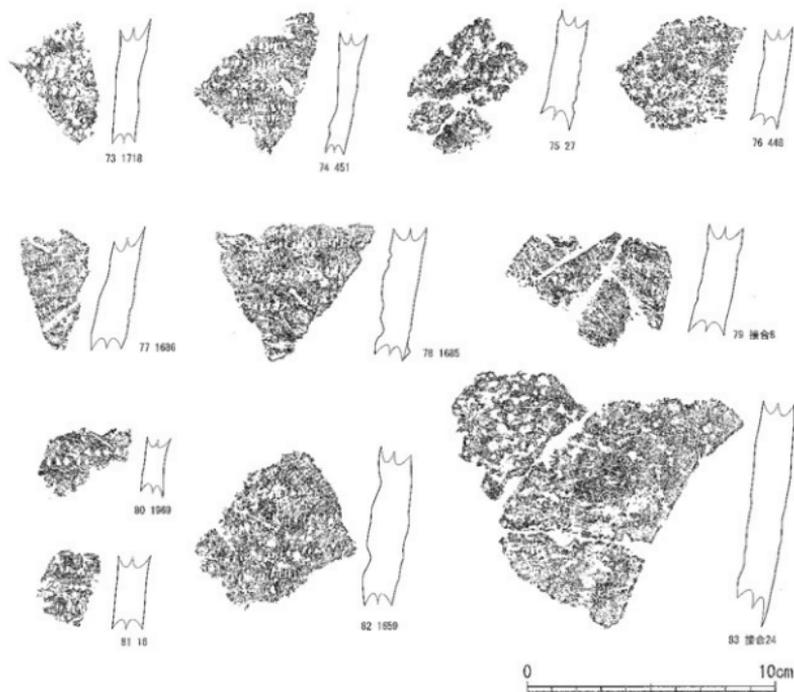
B類 清水柳E類 52点が出土している。25点を図示した。いずれも淡橙色～黄白色を呈し、胎土に繊維、径1.0mm以下の白色粒子、長石・雲母及び径1.0～3.0mmの小石・スコリアを含み、外面に絡条帯圧痕文を施すものである。

59～65はわずかに開く口縁部の破片である。口唇部は上方に面を持ち、口縁部外面のやや下に細隆起線文をめぐらしている。60・63・64では細隆起線文上に絡条帯圧痕が確認できる。

66～83は胴部破片であり、いずれも外面に絡条帯圧痕文が確認できる。66～68は、細隆起線文が貼付



第20図 天ヶ沢東遺跡 縄文土器3



第21図 天ヶ沢東遺跡 縄文土器 4

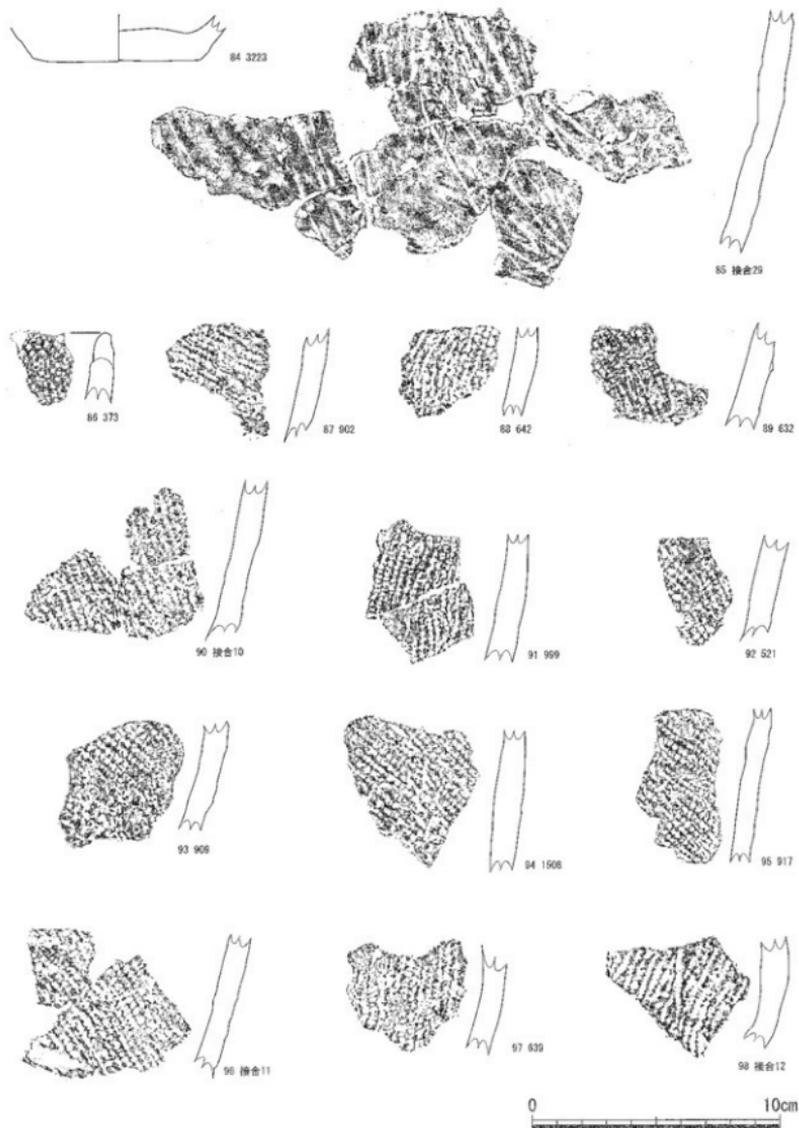
される部分で、68は縦位の細隆起線文であり、方形区画の縦位区画部分に該当しよう。細隆起線文左側区画に絡条帯圧痕文が施文されるが右側区画は無文である。

C類 無文・条痕文土器 胎土に繊維を含む無文のもの、条痕を施すものを本類に該当させた。39点が出土し、2点を図示した。84は、平底の底部破片、85は外面に条痕が認められる胴部破片である。

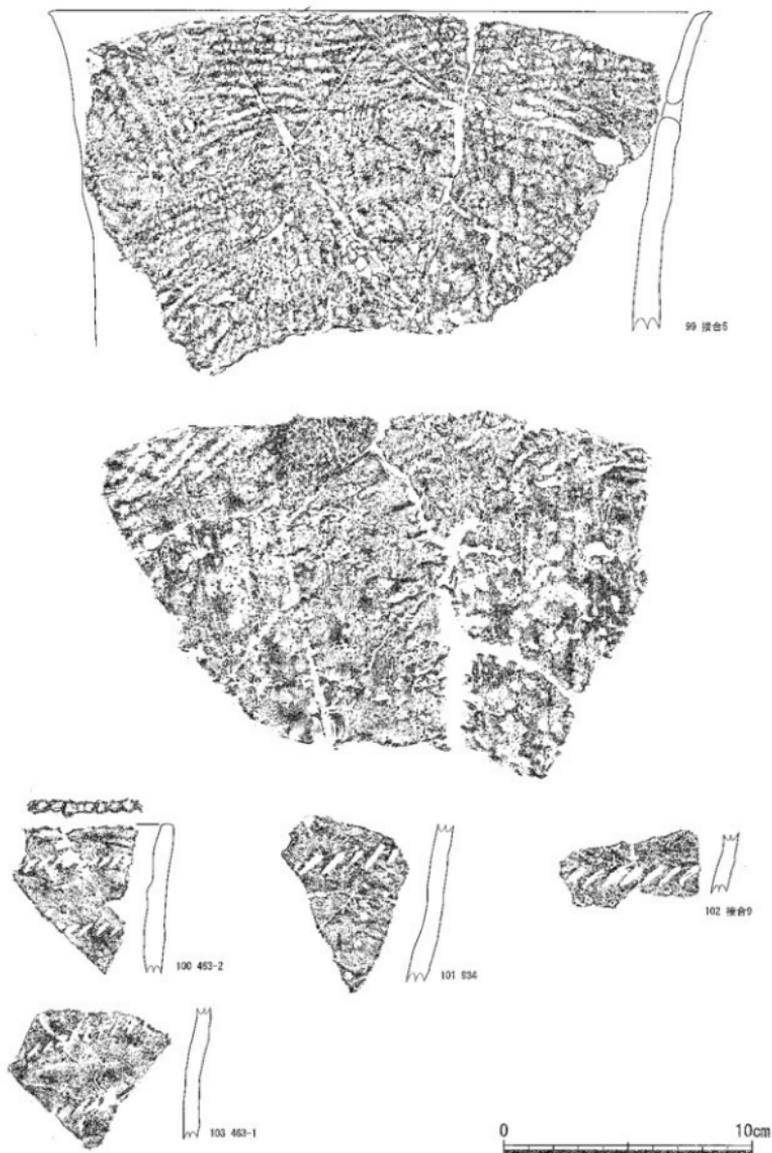
D類 縄文土器 外面に縄文を施すもののうち、橙色を呈し、胎土に繊維を含むものを本類に該当させた。36点が出土しており14点を図示した。86・99は口縁部破片で、口唇部を丸く収める86と外方に引き出し気味に収める99がある。86は外面にやや斜め方向に回転した単節縄文、99は外面に縦回転を基調とした不定方向の単節縄文を、口縁部内面には無節縄文を施している。なお、口縁部下位に補修痕とみられる穿孔が認められる。87～98は、胴部破片で、外面に横回転を基調とした単節縄文が確認できる。

#### 第III群土器 前期土器群

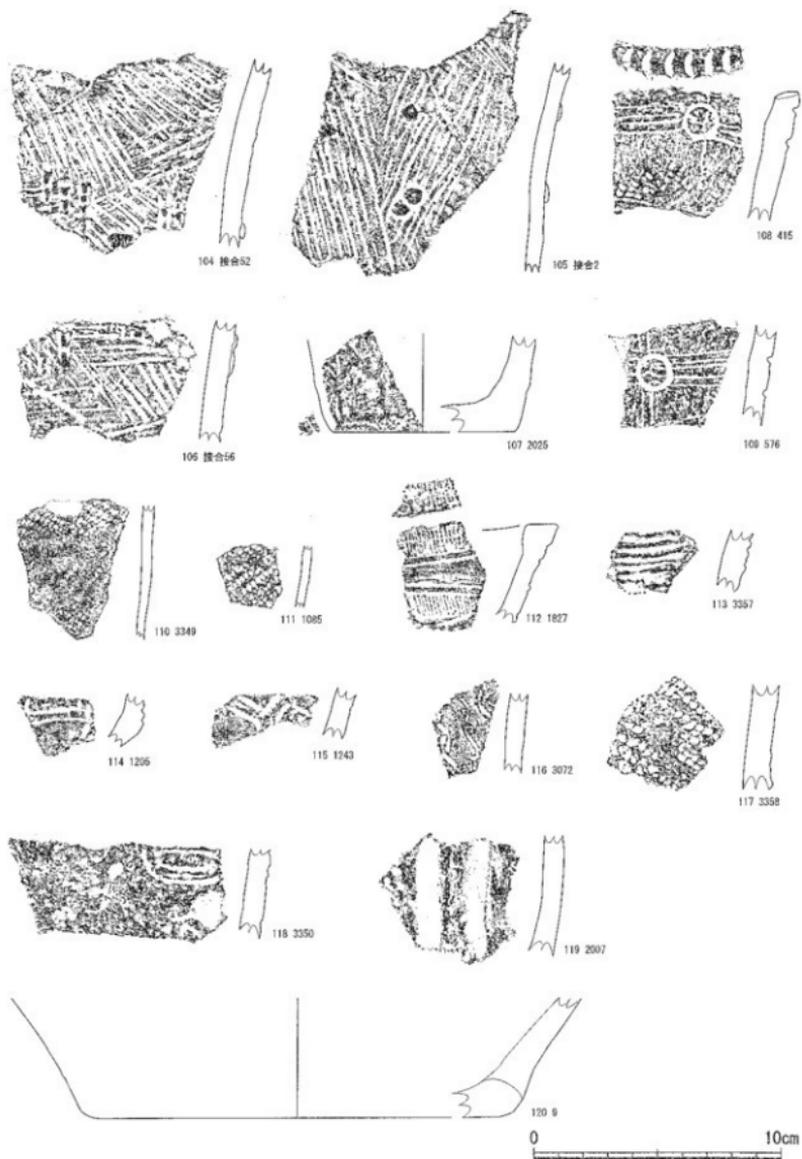
A類 諸磯式 12点が出土しており6点を図示した。104～107は、外面に直線的な集合条線を斜行させる典型的な諸磯C式の胴部及び底部破片で、ボタン状貼付文(104・105)、棒状貼付文(104・106)が認められる。108・109は、縄文を地文とし、半截竹管状工具による縦位の区画を施し、その間に同じ工具による横方向の直線または弧線を配した後、その交点に竹管状の工具による円形の刺突文を加える口縁部及び胴部破片である。半截竹管状工具を用いた文様構成を肋骨文の一種と判断すると、諸磯a式に並



第22図 天ヶ沢東遺跡 縄文土器5



第23図 天ヶ沢東遺跡 縄文土器6



第24図 天ヶ沢東遺跡 縄文土器7

行する土器の可能性が考えられるため、本類に含めた。108は口縁部破片で、わずかに外反し、面を持つ口唇部に竹管状工具による刻みを施している。

**B類 清水ノ上Ⅱ式に類似したもの** 25点が出土している。4点を図示した。100～103は外面に連続刺突を施すものである。2は口縁部破片で、口唇部にも同様の刺突を施す。にぶい黄褐色～黒褐色を呈し、胎土に繊維を含み器壁は薄く作られている。

**C類 北白川下層式** 7点が出土している。2点を図示した。110・111は、外面に羽状編文を施す胴部破片である。橙色を呈し、器壁は、非常に薄く作られている。

**第IV群土器 中期土器群**

**B類 五領ヶ台式** 8点が出土しており、6点を図示した。112は、波状を呈する口縁部破片で、口唇部上端に面をもち、内面へ凸字形に突出する。口唇面には細線文が加えられる。口縁部文様帯は、縦位の細線文を描いた後、半截竹管状工具により横基調の区画を行っている。113・114は、口縁部文様帯付近の破片と考えられる。113は数本の文線で弧線を描いた部分と考えられる。114は内湾した形状がうかがえ、外面に半截竹管状工具による区画文の一部が確認できる。115～117は胴部破片である。12は口縁部文様帯の下に半截竹管状工具により施文されるいわゆるY字文である。116は縦回転の結節編文が認められる。117は縦回転の縄文（LR）が施文されている。120は底部破片である。色調・胎土の状況から本類に含めた。底部から大きく開く形状であることから、浅鉢の底部の可能性がある。

**C類 加曾利E3式** 1点出土している。119は胴部破片で、両端を太い沈線で区画した隆帯が垂下していることから加曾利E3式と判断した。左側の沈線縁には縄文（LRか）がわずかに確認できる。

**E類 その他** 118は、直線的にわずかに開く胴部破片で、外面に竹管状工具によるとみられる窓枠状の区画の一部が確認される。勝坂式土器の胴部破片と考えられる。

第13表 天ヶ沢東遺跡 縄文土器観察表

図番	図中	出土層	器	形式名称	グリス・図様	部位	胎土	図説	図解(内)	図解(外)	器名	備考							
16	76	73	I A	野梨文	U-8	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	野梨文								
16	87	332	I A	野梨文	U-9	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A1	107A1	野梨文								
16	90	338	I A	野梨文	U-9	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	野梨文								
16	99	1	I A	野梨文	U-10	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	野梨文								
16	99	6	I A	野梨文	U-9	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	野梨文								
16	41	3	I A	野梨文	U-9	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	野梨文								
16	42	307	I A	野梨文	U-9	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	野梨文								
16	43	330	I A	野梨文	V-5	底	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	野梨文								
16	44	689	653	I A	野梨文	AM-8 AM-9	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	野梨文	14 浅鉢付蓋						
16	45	170	876	I A	野梨文	AM-9	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	野梨文	14 浅鉢付蓋						
16	46	338	I A	野梨文	N1001 AM-10	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	野梨文								
16	47	1233	1234	1235	I B	縄文	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	縄文	16							
16	48	1492	I B	縄文	S3333 AJ-30	-	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	縄文	16							
16	49	2001	2002-1	I B	縄文	AE-9	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	縄文	18						
16	50	3346	I B	縄文	AE-9	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	縄文	18							
16	51	3346	I B	縄文	AE-10	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	縄文	18							
16	52	3473	3474	3475	3476	3477	3478	3479	3480	I B	縄文	AE-10	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	縄文	18
16	53	3448	I B	縄文	AE-9	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	縄文	18							
16	54	3498	3473	I B	縄文	N1001 AM-10	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	縄文	18						
16	55	3491	I B	縄文	AK-9	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	縄文	18							
16	56	1160	1170	1171	1172	1173	1174	I B	縄文	AK-8 AK-9	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	縄文	18		
16	57	1271	1272	1273	1274	I B	縄文	AE-9	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	縄文	18				
16	58	137	2	I B	加曾利形式	V-5	底	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	加曾利形式	18						
16	59	376	I B	加曾利形式	AH-6	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	加曾利形式	18							
16	60	3662	I B	加曾利形式	AH-6	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	加曾利形式	18							
16	61	342	343	I B	加曾利形式	AE-10	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	加曾利形式	18						
16	62	362	I B	加曾利形式	AH-6	口	黄褐色の白色胎土を多く含む	片	107A2	107A2	加曾利形式	18							



(2) 石器

縄文時代の石器は、暗褐色土へ漸移層にかけて総点数411点（礫を除く）が出土している。いずれも包含層出土であるため、草創期に比定される尖頭器・有舌尖頭器以外は、土器と出土分布状況の比較を通じて推測せざるを得ない状況であった。また、明確に縄文時代の石器として判別できるもの以外は、漸移層より上層を縄文時代として扱った。

尖頭器・有舌尖頭器 草創期の尖頭器は旧石器時代の尖頭器と分別が困難な資料も存在するが、層位及び形状から分別を行った。出土層位は富士黒土層（11点）、漸移層（5点）、層位不明（1点）であり、合計17点が出土している。1・3・4区で確認され、4区南東付近、3区中央付近で同一石材の尖頭器が近接して出土している以外は散漫な出土状況と言える。また、尖頭器の分布は早期以降の土器、石器の分布集中範囲とは異なっていると考える。石材は、ホルンフェルス8点、ガラス質黒色安山岩7点、珪質頁岩1点、黒曜石1点である。17点全点を図示した。121～127はガラス質黒色安山岩製の尖頭器である。柳葉形（121・122・124・125・127）と細身の形態（123・126）に大別できる。後者は基部を欠損する有舌尖頭器と考えられる。

なお、124は、両側縁の中間やや上部にわずかな内湾部分が確認されるため、天地逆とし有舌尖頭器となる可能性もある。

128～135はホルンフェルス製の尖頭器である。128・129は柳葉形を呈し、基部を円形に調整するものである。130は柳葉形、131は細身を呈し、基部に明確な茎部は形成されていないが、基部を意図したと考えられる剥離が認められる。132は基部に明確な茎部を形成する有舌尖頭器で先端を欠損する。133は有舌尖頭器の基部の可能性がある。134・135は逆刺が発達したいわゆる「花見山型」の有舌尖頭器である。いずれも全長は3cm以下と小型で4mm程度の薄い素材を用いている。136は珪質頁岩製、137は黒曜

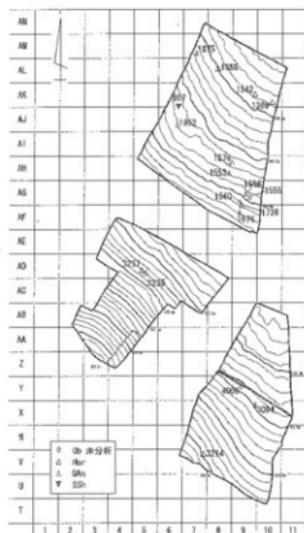
第14表 ケツ沢東遺跡 縄文石器組成表

層位	群種																合計	
	群種不明																	
暗褐色土層	1																1	
富士黒土層	6	3	3	4	2	3	4	2	4	4	4	4	3	1	1	1	1	53
漸移層	5	1																11
層位不明																		3
合計	12	3	3	4	2	3	4	2	4	4	4	4	3	1	1	1	1	71

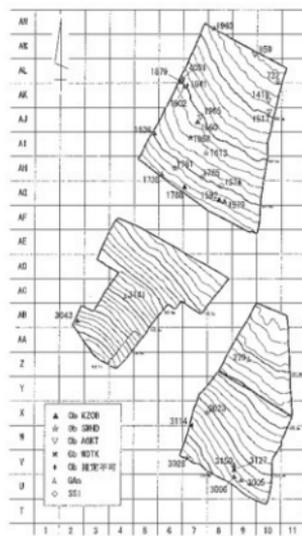
第15表 ケツ沢東遺跡 縄文石器組成表

群種	群種																合計	
	群種不明																	
KZOD	1																	1
SWTD	7																	7
AGBY	2																	2
WDYU																		0
WDYK																		0
層位不明																		1
未分析																		0
Hcr	2																	2
ISS																		0
SI																		0
SS																		0
Tu																		0
Aut(Py)																		0
Ba																		0
Bka																		0
CaG																		0
SSA																		0
Ch																		0
Rhy																		0
CSS																		0
MSS																		0
FSS																		0
St																		0
SSS																		0
VAn																		0
Via																		0
Rts																		0
Ag																		0
FG																		0
Ca																		0
AutEor																		0
Ap																		0
Ba																		0
CSc																		0
Dt																		0
Dc																		0
GB																		0
LZ																		0
QP																		0
Scr																		0
St																		0
合計	12	3	3	4	2	3	4	2	4	4	4	3	1	1	1	1	1	71

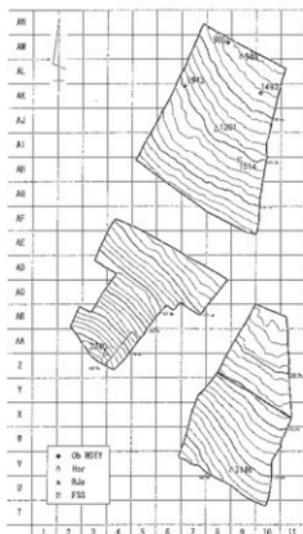
## ①尖頭器



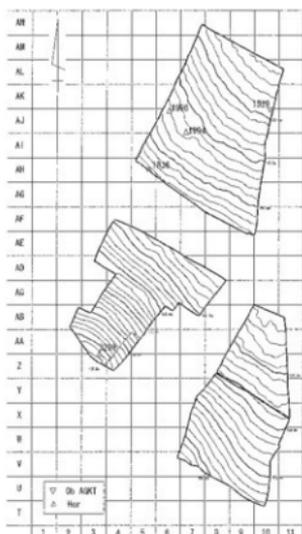
## ②石鏡



## ③スクレイパー類

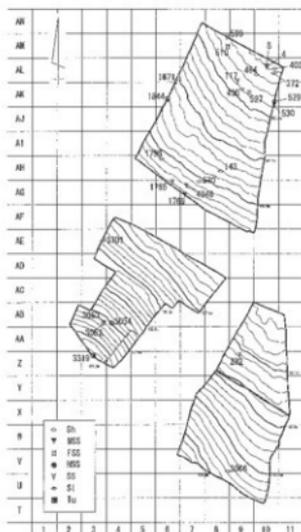


## ④石核

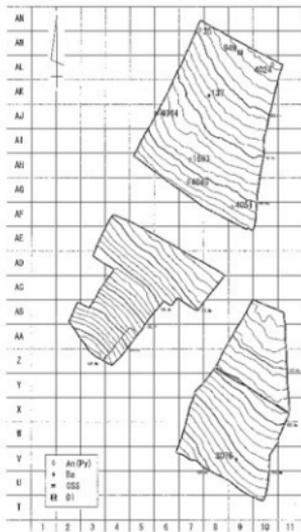


第25図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器分布図 1

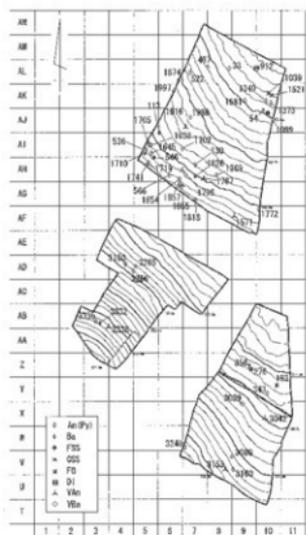
①打製石斧類



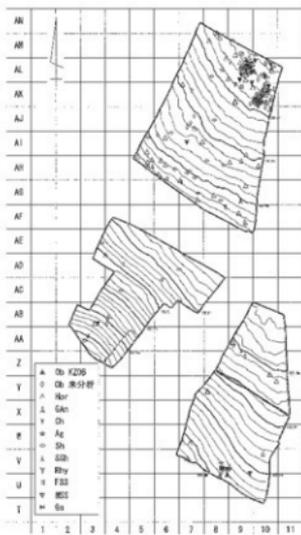
②敲石



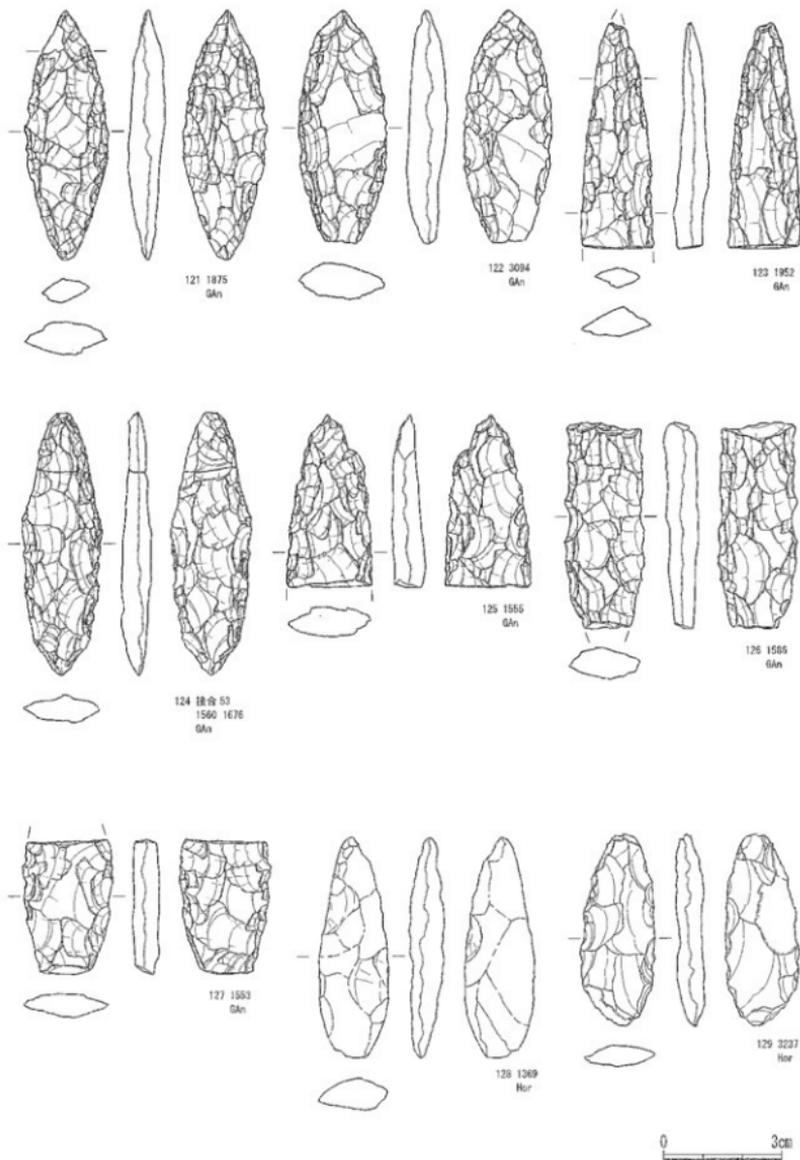
③磨製石類



④剥片

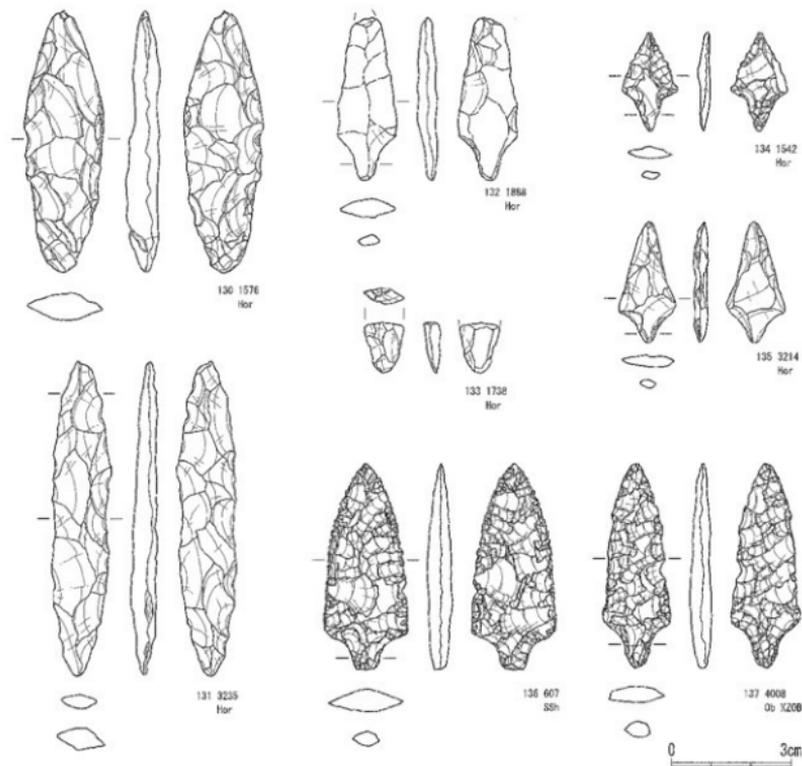


第26図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器分布図2



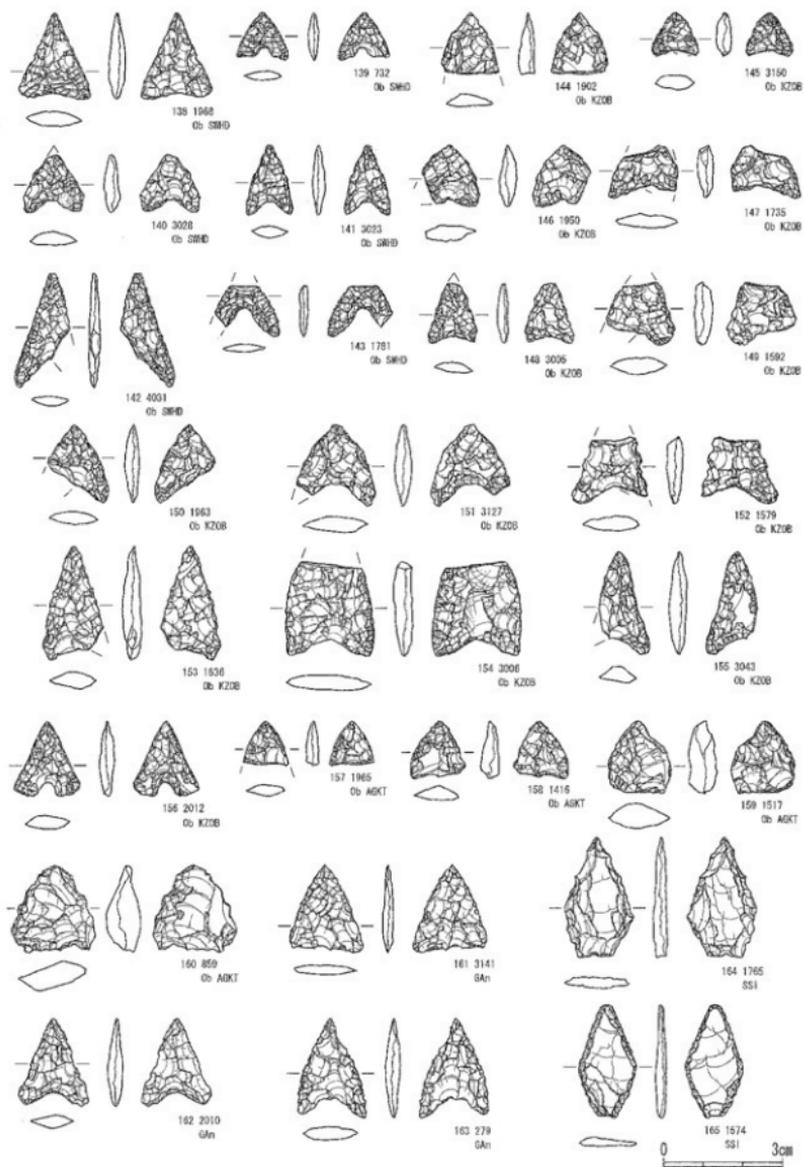
第27図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器1 (尖頭器1)

石（神津島恩馳島群）製の有舌尖頭器である。136は柳葉形を呈し、縁辺には鋸齒状の剥離が加えられている。137はやや細身の柳葉形を呈し丁寧な基部調整が認められる。



第28図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器 2（尖頭器 2）

石鏃 石鏃は、未製品を含め33点が出土している。出土層位は、暗褐色土4点、栗色土層1点、富士黒土層25点、攪乱1点、表採1点、出土位置不明1点で富士黒土層を主体に出土している。石材は、黒曜石28点（神津島恩馳島群15点、諏訪屋ヶ台群7点、天城柏峠群4点、和田土屋橋北群1点、推定不可1点）、ガラス質黒色安山岩3点、珪質粘板岩2点である。石材・産地別、形態別に28点を図示した。138～143は黒曜石製（諏訪屋ヶ台群）である。基部が平坦に近い138、凹基となるものは、正三角形に近い139・140と縦長の二等辺三角形となる141・142があるが、基部の形状は様様ではない。143は脚部が長い形態である。144～156は黒曜石製（神津島恩馳島群）である。僅かに凹基となる145～148は正三角形に近い145・146と縦長の二等辺三角形となる148がある。凹基の149～156は、正三角形に近い149～151と二等辺三角形となる152～156に大別できる。基部の形状は、脚端部が丸または方形に調整される149・152・155・156と尖り気味に調整される150・151・154がある。157～160は、黒曜石製（天城柏峠群）である。



第29図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器3 (石鏃)

158は表面左半の平坦剥離が不十分で基部が折断面となっていることから、製作途中で基部が折損した未製品である可能性がある。159・160も同様に石蕨未製品と考えられる。161～163はガラス質黒色安山岩製である。基部がほぼ平坦となる161と凹基となる162・163がある。164・165は珪質粘板岩製である。いずれも本石材に特徴的な五角形状を呈する周縁に押し剥離を加えた形態である。なお、図示したもの以外に、石蕨未製品と考えられる石器が1点出土している（黒曜石製：和田麿山群）。

**エンドスクレイパー** 素材剥片の端部に刃部を形成したものをエンドスクレイパーとした。富士黒土層から2点出土しており、2点とも図示した。166は基部を欠損するため、形状は不明である。幅広剥片の端部に湾曲した刃部を形成することからエンドスクレイパーと判断した。ホルンフェルス製である。167は、自然面を残す幅広剥片の端部に湾曲した刃部を形成する。黒曜石製（和田麿山群）である。

**サイドスクレイパー** 剥片素材の側縁（長辺）に刃部を形成するものをサイドスクレイパーとした。富士黒土層から4点出土しており、3点を図示した。174・175はホルンフェルス製である。174は幅広の剥片の端部に刃部を作出する。175は、やや幅広の大型の剥片の側縁及び端部に刃部を作出している。表面は自然面を残している。176は、細粒砂岩製である。幅広の大型剥片を素材として、端部に刃部を形成している。表面に自然面を残している。打製石斧に多い石材であることから、石斧素材を得る際に出た剥片をサイドスクレイパーに流用した可能性がある。

**ノッチドスクレイパー** 内湾した刃部を作出するものをノッチドスクレイパーとした。富士黒土層から2点が出土しており、1点を図示した。173はホルンフェルス製で幅広の剥片を用い、内湾する刃部を形成している。

**石匙** 石匙は、富士黒土層及び確認調査TP84（層位不明）から横長形態のものが2点出土しており（いずれもホルンフェルス製）、2点とも図示した。168は、風化が著しく詳細な観察は困難であるが、表裏両面からの調整によりつまみ及び体部を整形している。169は、欠損部分が多いが、幅広の剥片の端部に施された急角度の剥離を刃部と考え、横長形態の石匙と判断した。つまみ部分及び左側縁を折損する。表裏面の整形に伴う剥離は少なく、剥片素材の剥離面が残されていることから、未製品の可能性も考えられるが、刃部が作出されていることから、完成品と判断しておく。

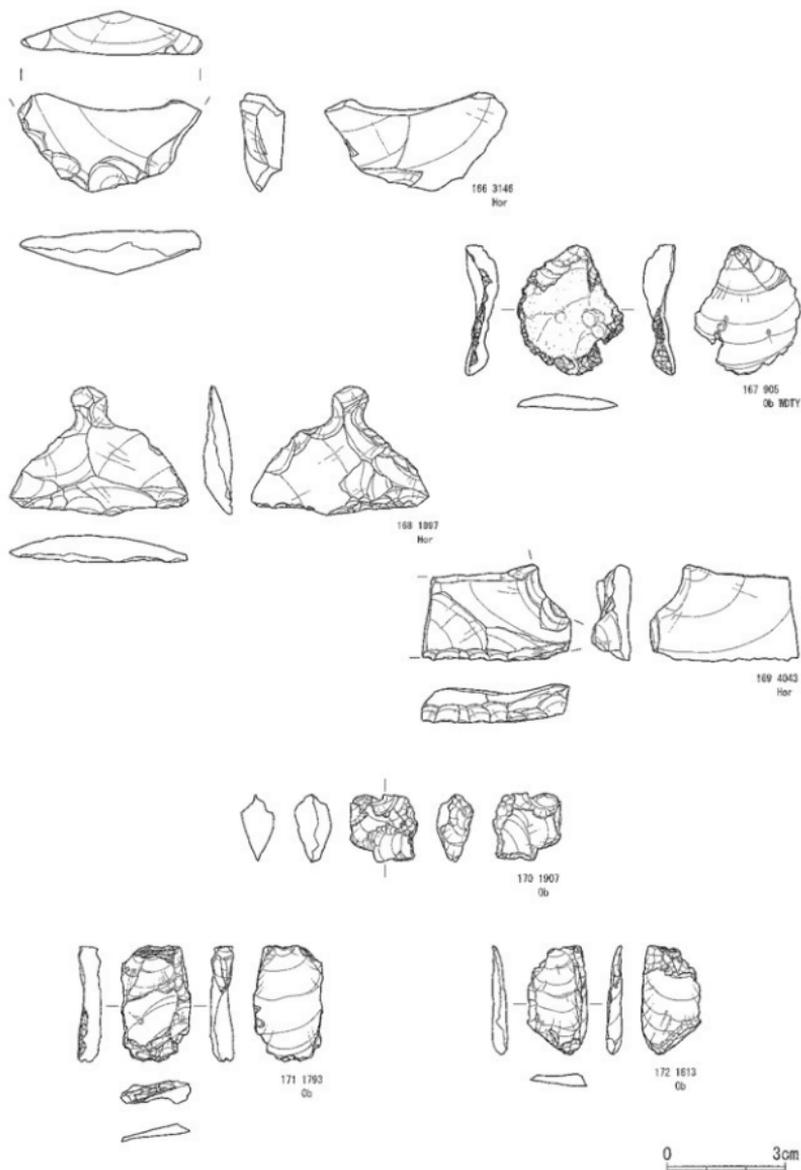
**楔形石器** 両極剥離が認められ、端部に潰れが認められる剥片を楔形石器とした。楔形石器は、富士黒土層4点を主体に栗色土層1点、表採1点、出土位置不明1点の合計7点が出土しており、3点を図示した。170～172はいずれも黒曜石製（産地未分析）で、170はやや厚みをもつもので、石蕨素材の可能性もある。171・172は薄い縦長の剥片の上下方向の両極剥離が認められる。

**打製石斧** 打製石斧は、未製品と考えられるものを含め27点が出土している。15点を図示した。平面形態により、1：両側縁がほぼ平行に近い短冊形、2：中位に括れをもつ撥形と（撥形1）、3：両側縁が裾広がりとなり、刃部に最大幅をもつ撥形（撥形2）に大別できるが、中間的な形態も認められ、厳密な分類は困難なものが含まれている。自然面を残しているものが多い。

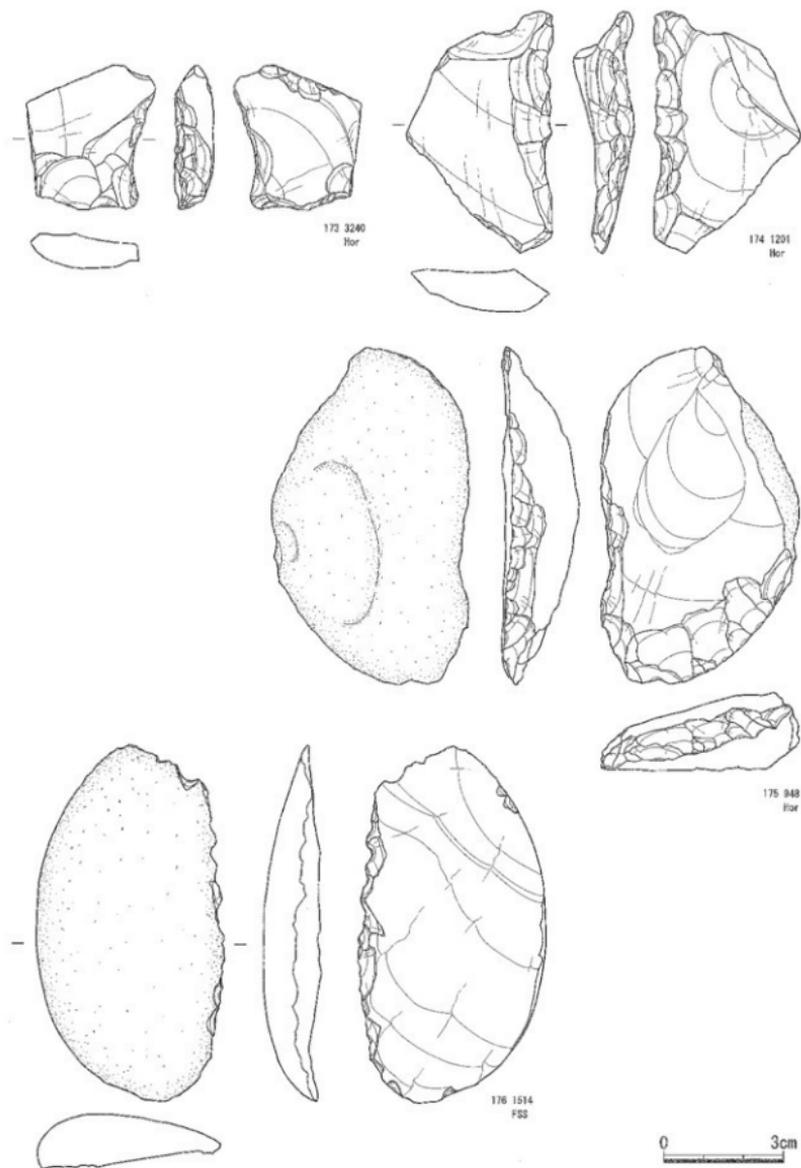
177～180は、短冊形に分類した。179・180は自然面を残している。石材は、砂岩（177・179）、細粒砂岩（178）、頁岩（180）である。178・179の両側縁中位は敲打によりエッジが潰れている。

181～184は中位に括れをもつ撥形1に分類した。いずれも自然面を残しており、形状、大きさも似通っている。181・182は刃部を欠損している。石材は、砂岩（182・183）、中粒砂岩（181）、頁岩（184）が認められる。183・184の右側縁にはエッジを意図的に潰したと考えられる敲打痕が確認できる。

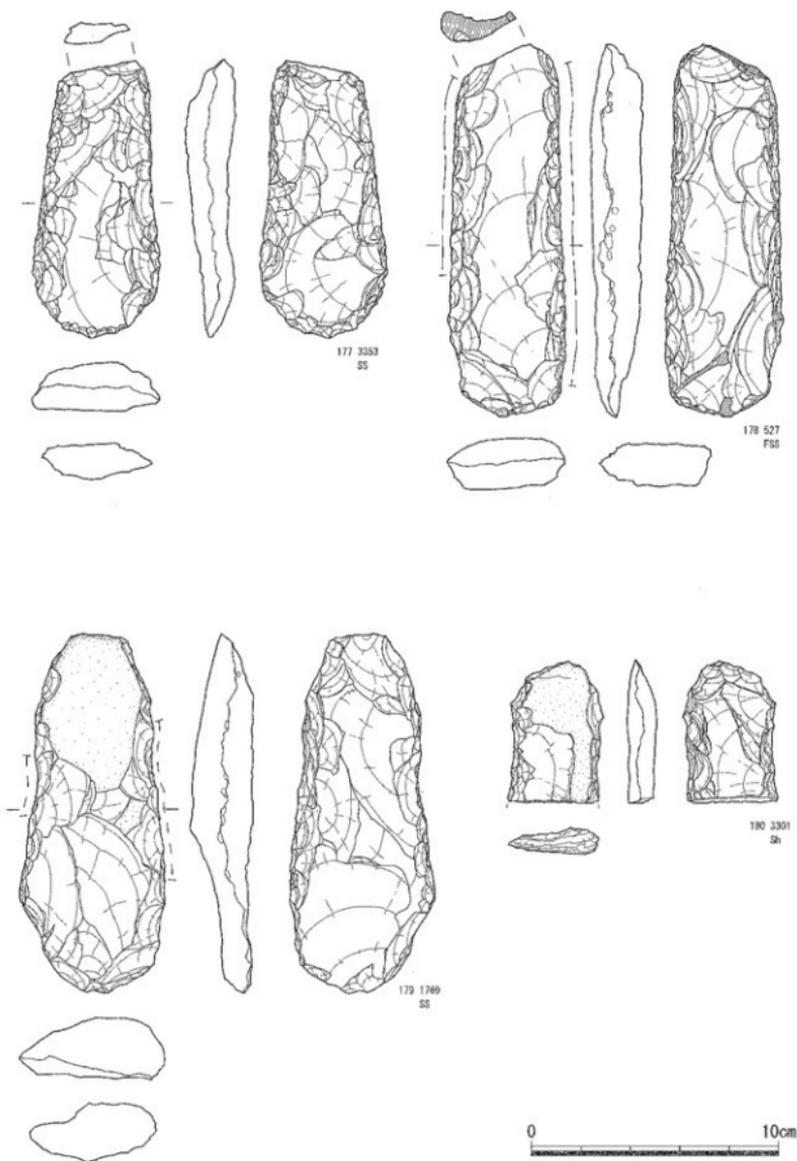
185～191-1は、両側縁が裾広がりとなり、刃部に最大幅をもつ撥形2に分類した。石材は、硬質砂岩（185・186）、頁岩（187・190、191-1）、細粒砂岩（188）、中粒砂岩（189）が認められ、いずれも自然面を残している。191-1・2は剥片との接合資料である。



第30図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器4 (エンドスクレイパー 石匙 模形石器)



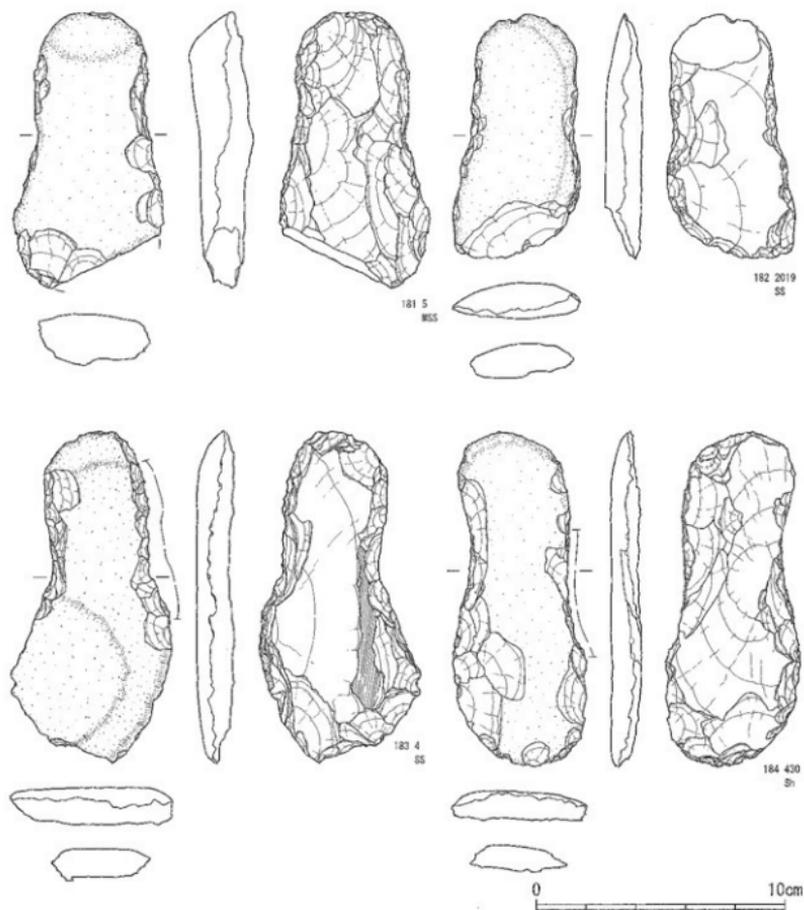
第31図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器5 (ノッチドスクレイパー サイドスクレイパー)



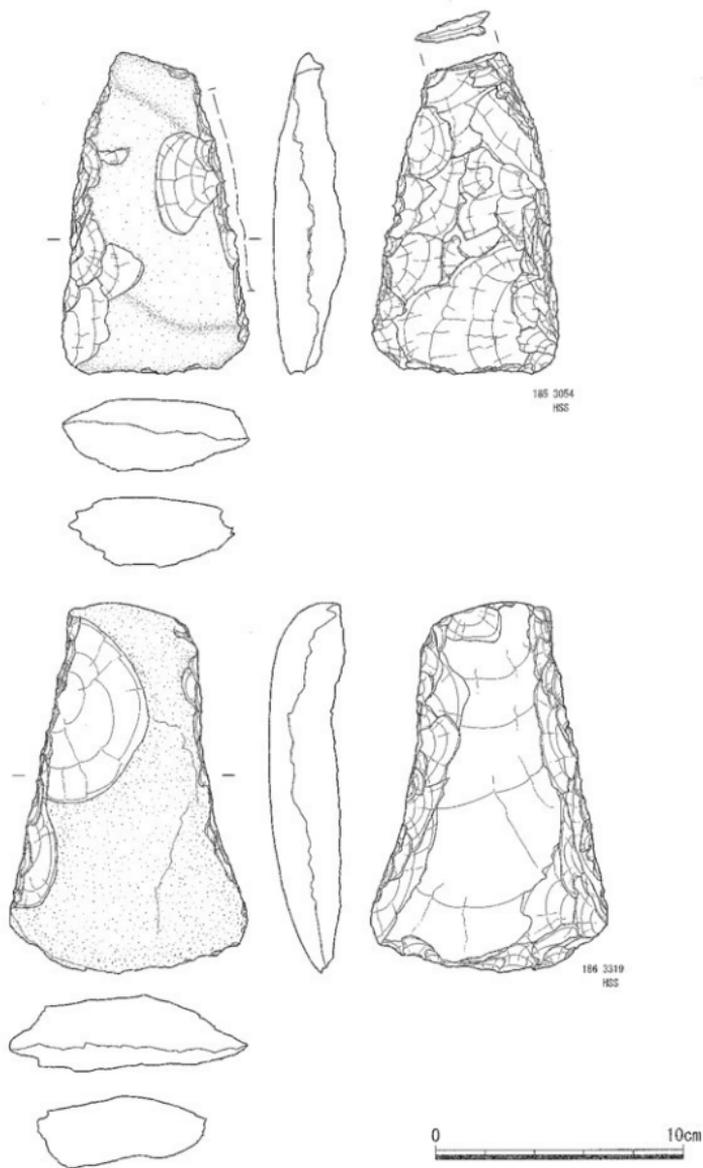
第32図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器6（打製石斧1）

磨製石斧 192は1点のみ出土した磨製石斧の基部破片である。表面には研摩痕が良好に確認できるが、裏面は折損し、折損面には両極剥離が認められることから、基部方向からの強い打撃により折損したものである可能性が考えられる。石材は凝灰岩である。

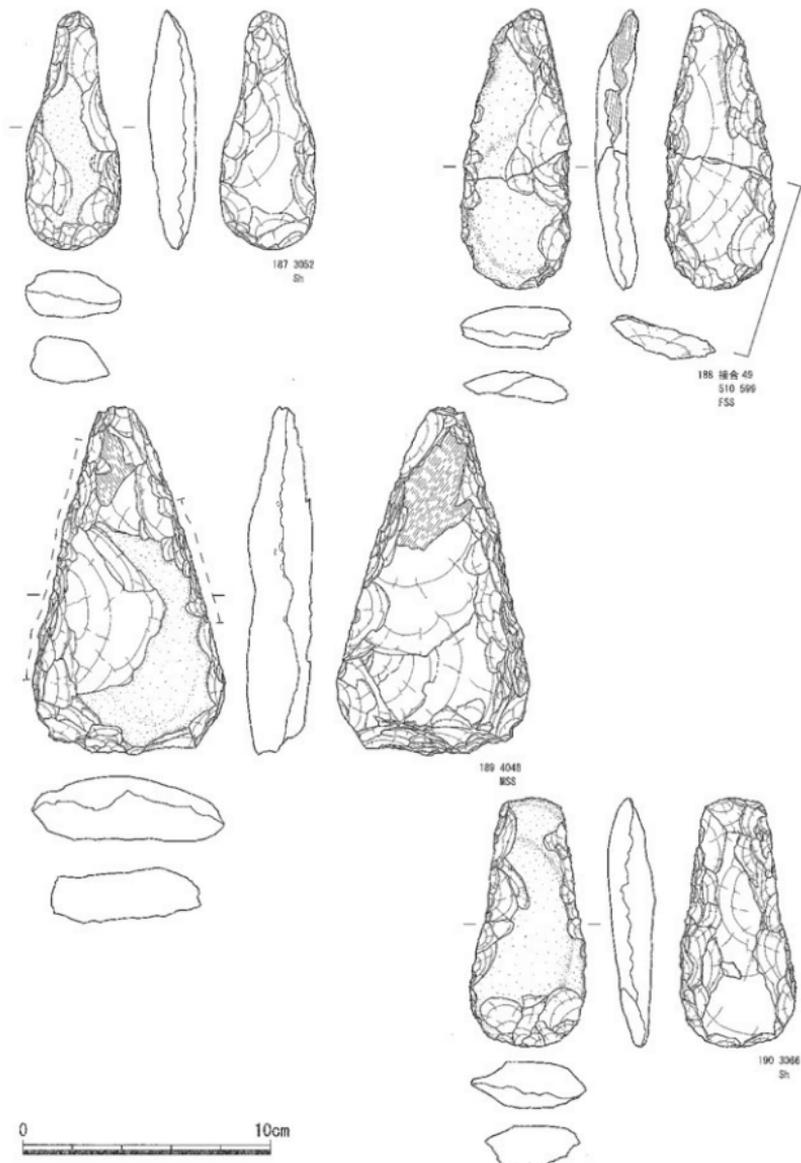
礫器 剥片石器に不適な石材を主体として自然礫に剥離による刃部を形成したと考えられるものを礫器と判断した。193・194は扁平礫の一端に剥離が施されている。195・197・198はやや厚みがある自然礫の一端に剥離が認められる。196は自然礫から得られた幅広い大型剥片の一端に刃部を作出するもので、スクレイパーとも考えられるが、幅10cm以上と大型であることからここに含めた。193・194・197は砂岩製、195は輝石安山岩製、196はホルンフェルス製、198は細粒安山岩製である。



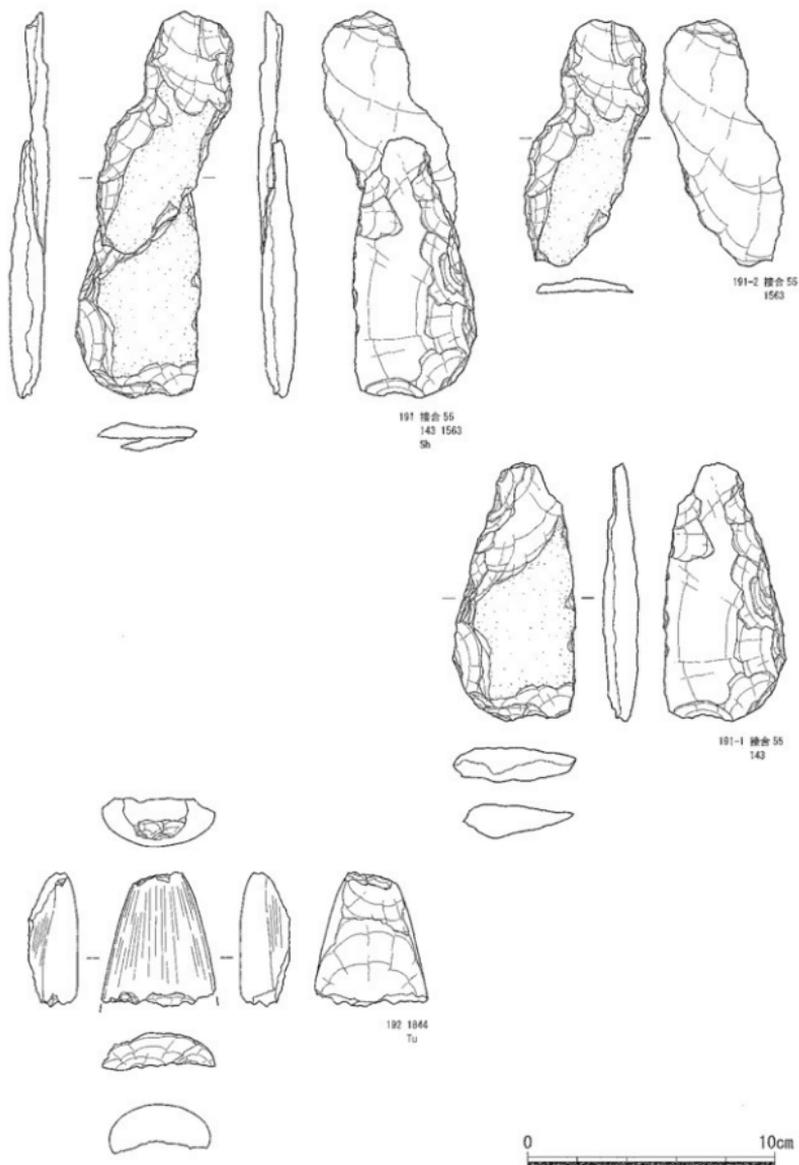
第33図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器7 (打製石斧2)



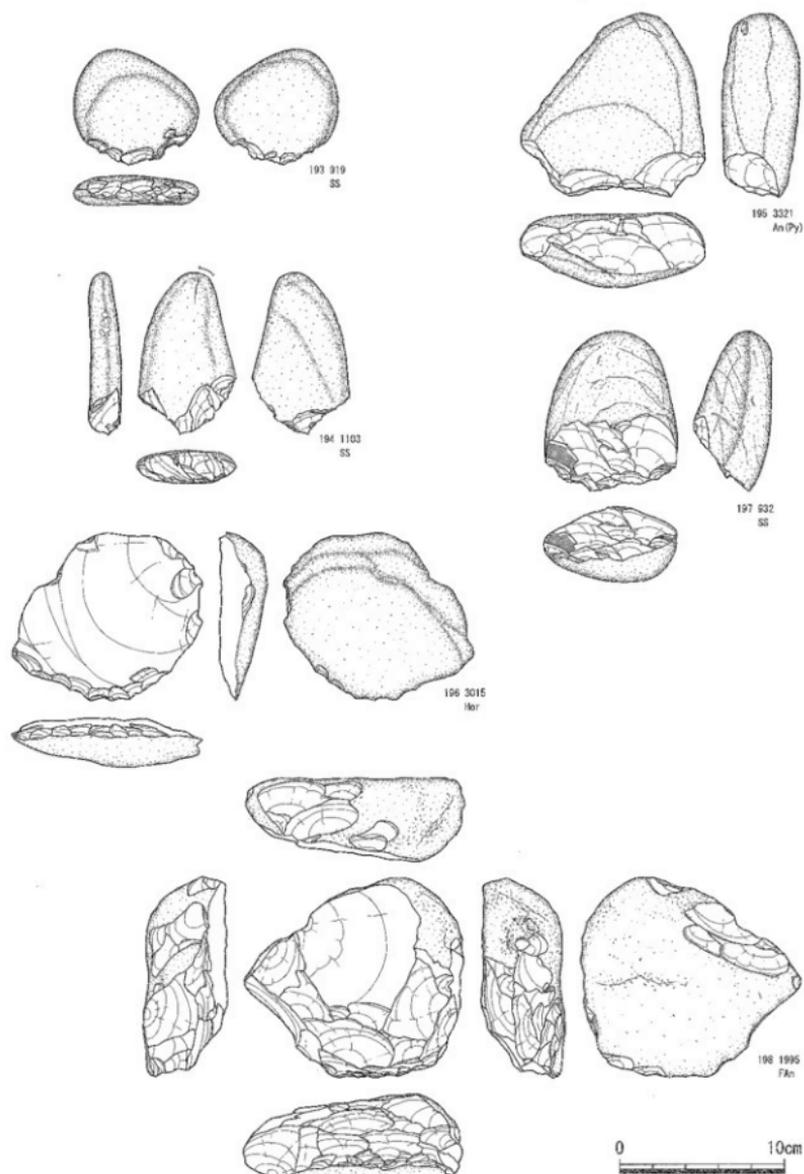
第34図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器8 (打製石斧3)



第35図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器9 (打製石斧4)



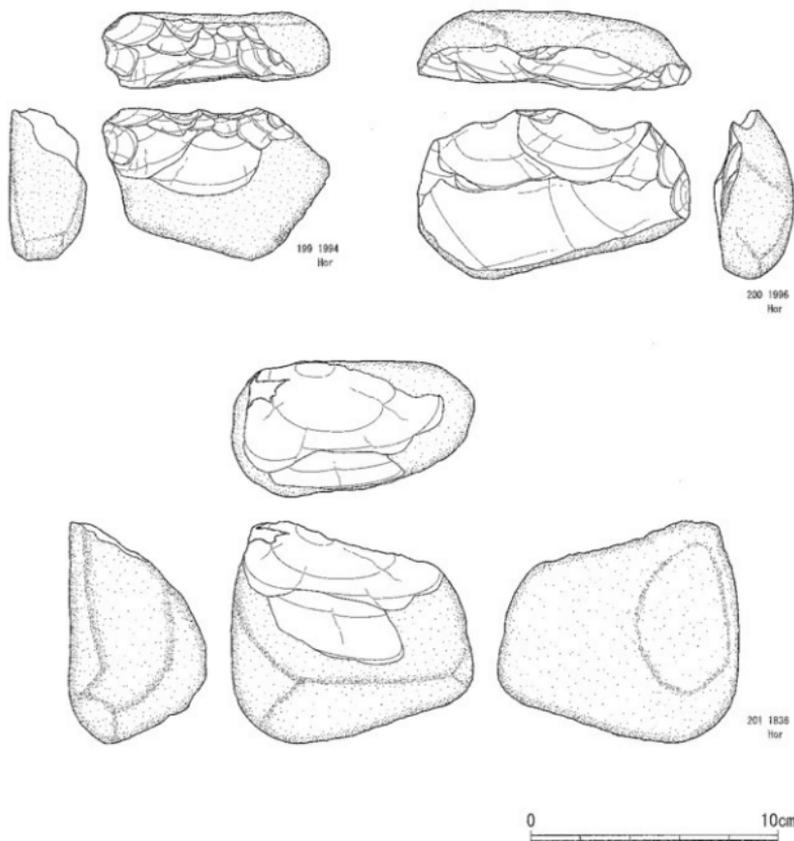
第36図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器10 (打製石斧5 磨製石斧)



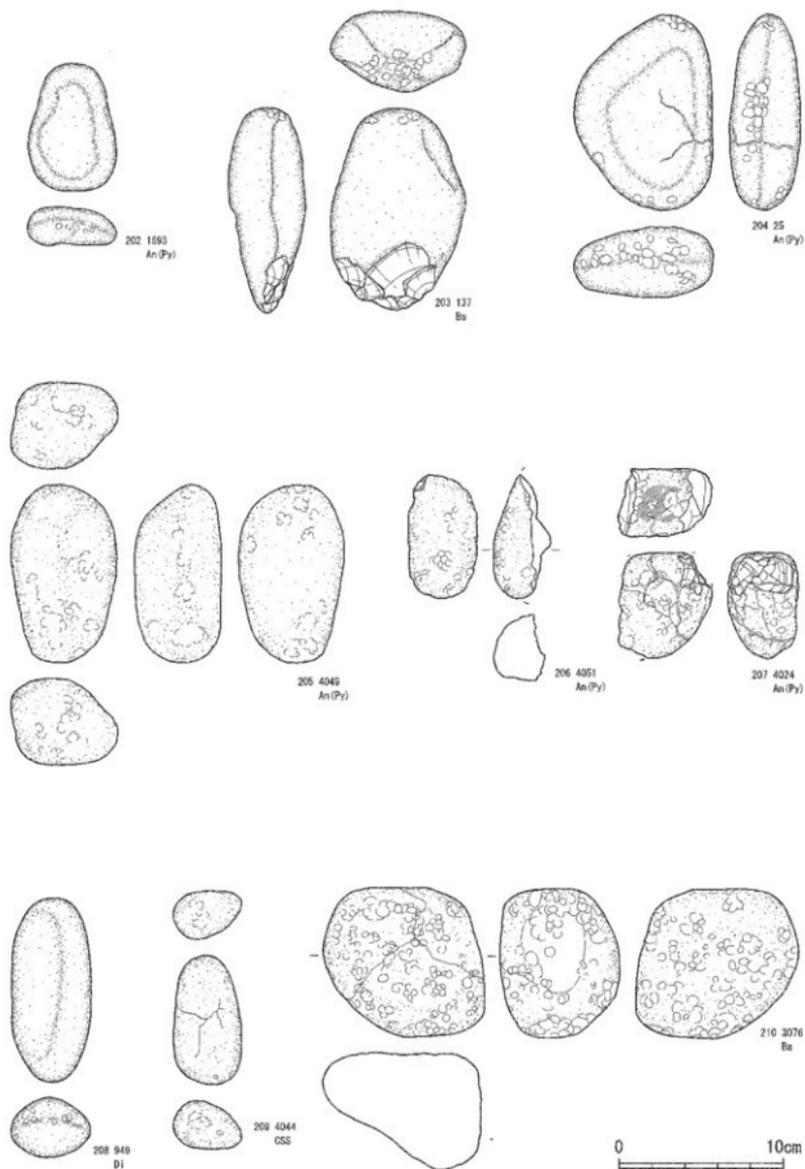
第37図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器11 (碌器)

石核 剥片石器に適した自然礫の一部に剥離痕が認められるものを石核と判断した(199~201)。いずれもホルンフェルス製で200・201は幅5cm以上の幅広の剥片を採取したと考えられる。

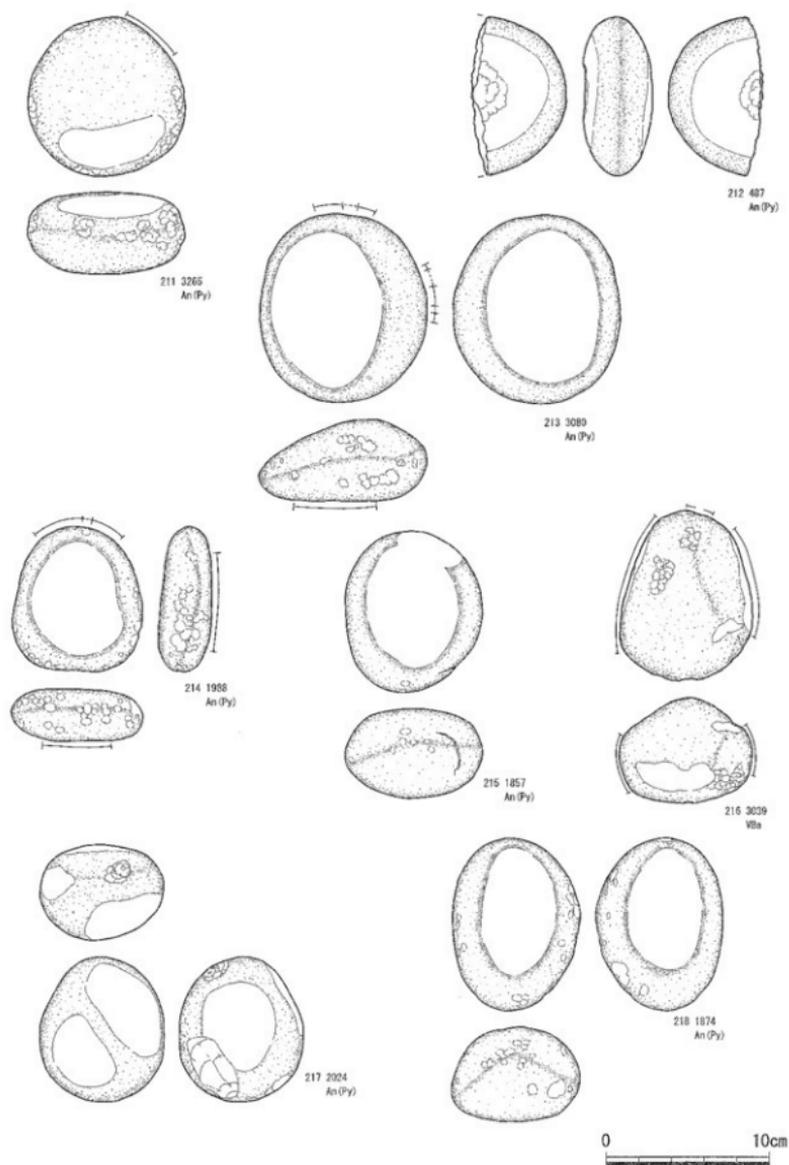
磨・敲石類 磨・敲石類は、確認調査及び暗褐色土層～富士黒土層から62点が出土しており、22点を図示した。敲石、磨敲石が認められている。石材は、輝石安山岩、多孔質玄武岩、多孔質安山岩、細粒砂岩、粗粒砂岩、閃緑岩、玄武岩等が認められる。形態により、1類：平面形が円形または楕円形で、断面形が扁平な楕円形となるもの。2類：平面形が円形または楕円形で、断面形がやや厚みがある楕円形となるもの。3類：平面形が長楕円形を呈する棒状で、断面形が円形または楕円形となるもの。4類：不定形なもの、に大別できる。磨敲石では、1は、表裏面に磨り面を持ち、側面に敲打痕が認められるものが多い。2は、表裏面または、側面に磨り面を持ち、側面に敲打痕が認められるものが多い。3は、側面に磨り面を持ち、両端部に敲打痕が認められるものが多い。



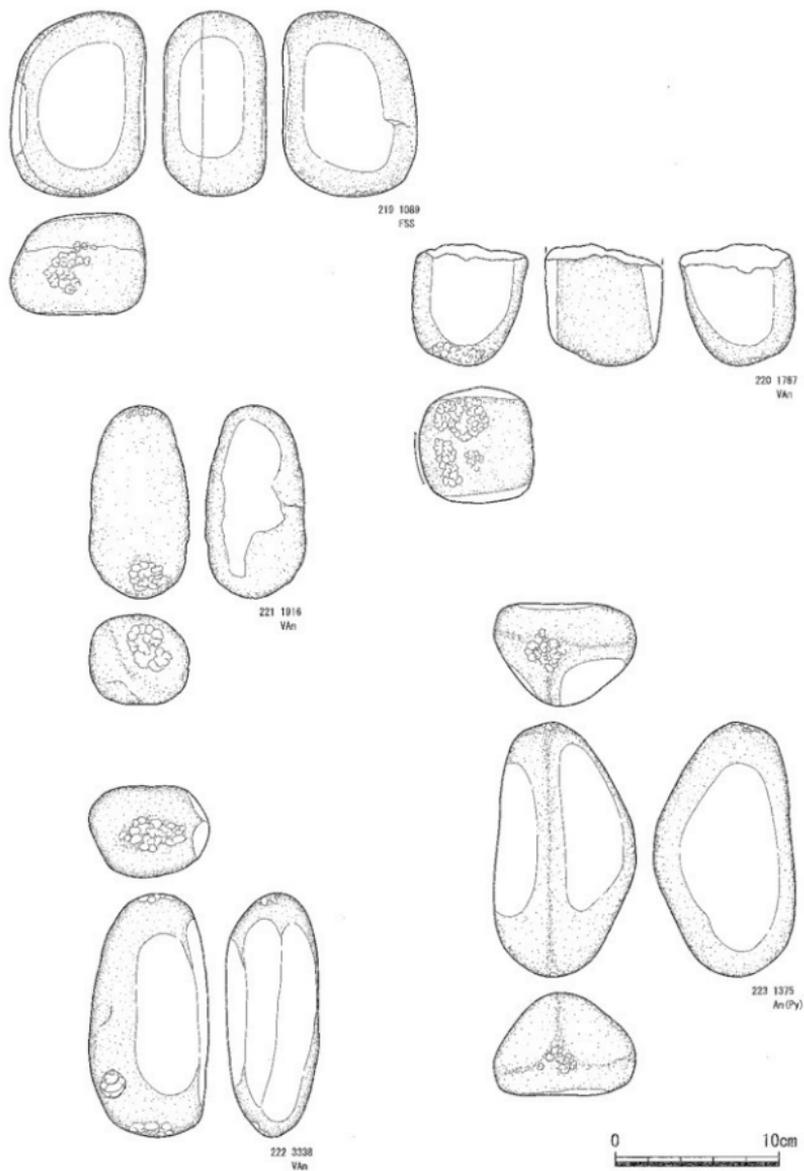
第38図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器12(石核)



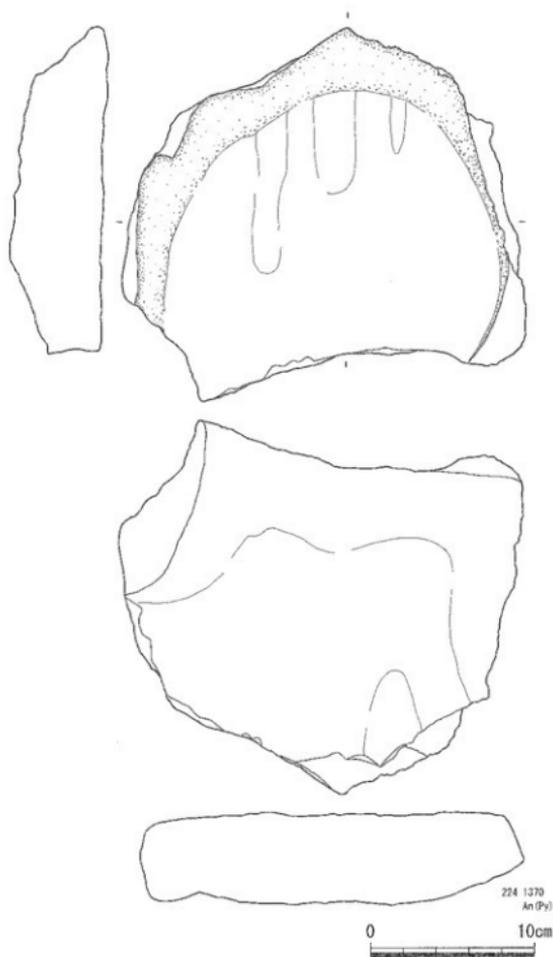
第39図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器13 (敷石)



第40圖 天ヶ沢東遺跡 縄文石器14 (磨斫石1)



第41図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器15（磨敲石2）



第42図 天ヶ沢東遺跡 縄文石器16 (石皿)

形が隅丸の三角形状となることから、ここに含めた。ほぼ全面に敲打痕が認められる。玄武岩製である。

**磨敲石** 磨敲石は、49点が出土しており、13点を図示した。211～214は平断面形が楕円形となる1類である。211は器面の風化が激しく詳細な観察は困難であるが、表面下位と右側縁上部に磨面と考えられる平坦面が観察でき、側縁に敲打痕が認められることから、磨敲石と判断した。212～214は表裏面及び側縁の一部に磨面が観察できる。敲打痕は、212が表面中央、213・214は側縁に確認できる。いずれも輝石安山岩製である。

**敲石** 敲石は、9点が出土しており、全点を図示した。202・203は平断面形が楕円形となる1類に分類され、端部に敲打痕が認められる。また、204はやや不定形な平面形であるが1類に含まれよう。両端部及び側縁を主体に敲打痕が認められる。203は、一端に剥離が認められ刃部を形成し礫器的な用途も考えられるが、端部に敲打による潰れが認められることから敲石に含めた。202・204は輝石安山岩製、203は玄武岩製である。

205～207は平面形が楕円形を呈し、断面形が円形または厚みをもった楕円形となる2類に該当する。敲打痕は各面に認められるようである。いずれも輝石安山岩製である。

208・209は平面形が棒状となる3類である。いずれも端部に敲打痕が認められる。208は閃緑岩製、209は粗粒砂岩製である。

不定形な形状を呈する4類としたものは1点確認された。210は2類に近いといえるが、横断面



## 第IV章 古木戸A遺跡

### 第1節 基本層序

本遺跡は、愛鷹山南西麓の標高約140～150mの北東から南西に延びる尾根上に立地している。遺跡が立地する尾根は、幅約100m、斜度約7度の緩やかな斜面となっている。尾根の先端は、遺跡の南西約250m（東名高速道路付近）で浮島ヶ原が広がる平野部をのぞんでいる。調査区の西側約50mには比高差約15mの小さな谷が入っており、天ヶ沢東遺跡の立地する尾根に続いている。一方、東側は、南北にのびる比高差約10mの小さな谷を挟み古木戸B遺跡が立地する尾根が続く。土層堆積は、農道敷設及び耕作による土地改変のため、黒色土、暗褐色土層の堆積は良好とは言えない状況であり、調査区内で安定して確認できるのは栗色土層以下の土層であった（第43図）。以下、各土層について記述する。

#### 第1層（表土層）

#### 第2層（黒色土層）

粘性なし、しまりやや強い。白色粒子（径3mm）を多く含む。

#### 第3層（暗褐色土層）

粘性なし、しまりやや強い。橙色スコリア（径1～2mm）を少し含む。

#### 第4層（栗色土層）

粘性弱い、しまり弱い。橙色スコリア（径1～2mm）を少し含む。

#### 第5層（富士黒土層）

粘性なし、しまり弱い。橙色スコリア（径1～2mm）を少し含む。

比較的土層堆積が良好な1区東側ではスコリアの含有状況によりa・bに細分することができた。

#### 第6層（漸移層）

粘性なし、しまり弱い。第5層と第7層の漸移的な土層

#### 第7層（休場層）

粘性強い、しまりやや強い。橙色スコリア（径2mm）を少し含む。

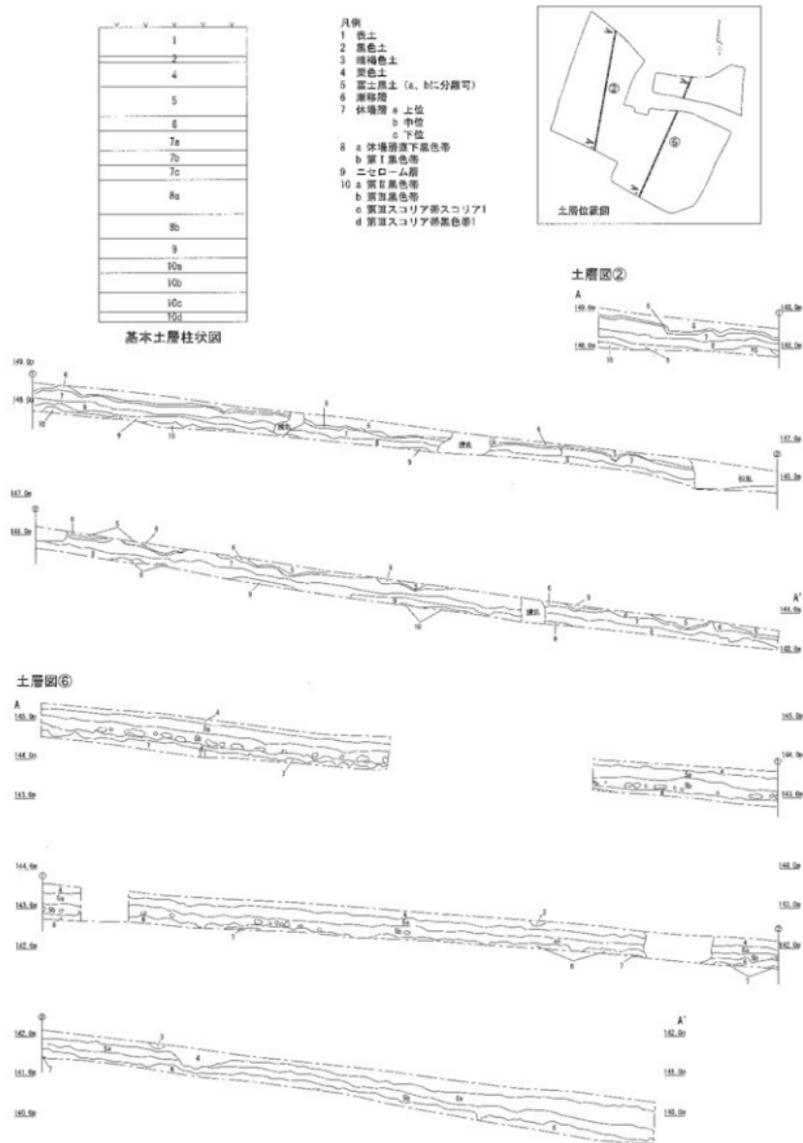
#### 第8層（休場層直下黒色帯～第1黒色帯）

粘性やや強い、しまりやや強い。橙色スコリア（径2mm）を多く含む。

### 第2節 旧石器時代の調査

#### 1 遺物

今回の調査では旧石器時代の遺構は未確認であり、暗褐色土層から第1黒色帯にかけて、石器23点、礫12点の合計35点が出土したにとどまる。また、休場層直下黒色帯、第1黒色帯で出土している礫3点をのぞき、すべて休場層より上層で確認されている。よって、ここでは遺物個別の記述を行い、諸特徴について触れるにとどめる。確認された器種は、ナイフ形石器、角錐状石器、尖頭器、石刃状の剥片、細石刃、敲石等で、石材は、輝石安山岩製の敲石をのぞき、黒曜石、ホルンフェルスが使用されている（第17表）。遺物の出土状況は調査区全体に散漫なあり方を示し、出土位置から得られる情報は限られている。調査区の呼称は南側調査区を1区、北側調査区を2区とする。



第43図 古木戸A遺跡 土層図



第44図 調査区とグリッド配置図(富士市都市計画図に加筆)

第17表 古木戸A遺跡  
旧石器組成表

遺物	遺物/素材・産地別									
	黒曜石	珪石	燧石							
KZOB				1		5				6
SWLD	1			1	2					4
TSVY	2			1						3
Ysa	1			3						4
AndP				1	2					3
Bu										4, 4
MSB										1, 1
Vsa										6, 4
合計	6	1	2	1	6	8	1	1	1	24

第18表 古木戸A遺跡  
旧石器組成表

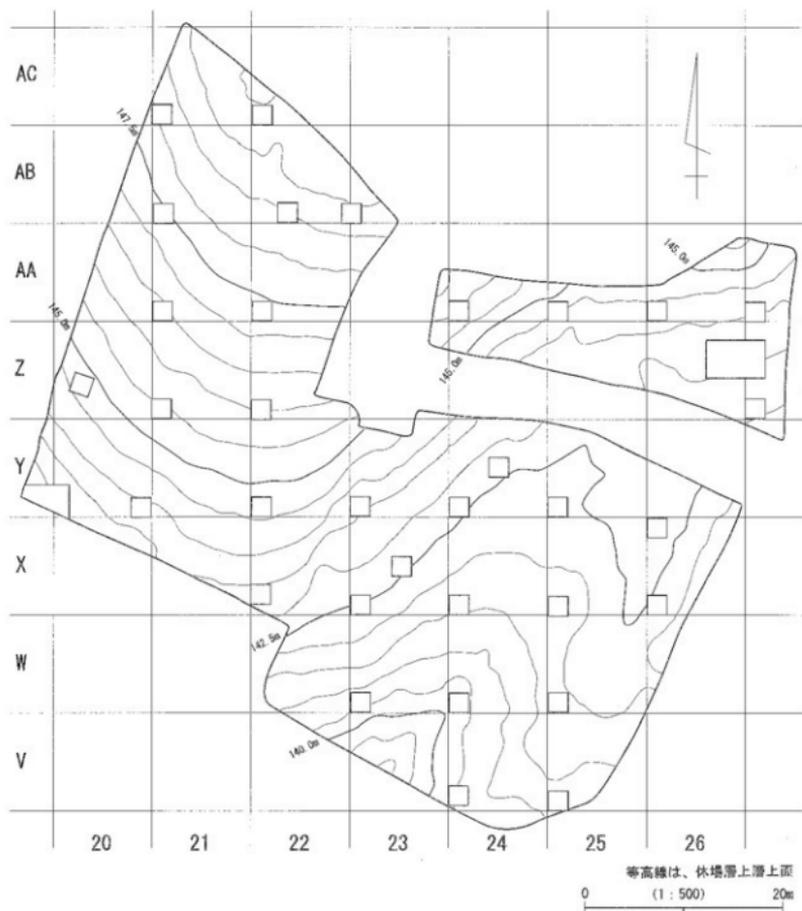
遺物	遺物/素材別									
	黒曜石	珪石	燧石							
写筒色土	1							1		2
黒山土層	1	2								3
宮本土層	1									2
宮本赤土層(小)	1									2
砂層	1									1
砂層	1	1	3	4	2	1	9	19		34
砂層	1									2
合計	6	1	2	1	4	0	1	11	14	54

断し、右側縁に押圧剥離によりブランティングを行っている。刃部は折損している。ホルンフェルス製。2・3・5は二側縁加工と推測されるが、基部または先端部が欠損しており、加工方法による分類が困難なものである。2は石刃状剥片を素材として、打点側を基部とし、左側縁を大ぶりの剥離により折断後、押圧剥離によりブランティングを行っている。黒曜石製(和田鷹山群)。3は縦長剥片を素材として、打点側を基部に用い、右側縁にブランティングを行っている。左側縁に微細な押圧剥離が認められるが、刃潰し加工としては不十分と判断し、分類不明とした。黒曜石製(和田鷹山群)。5は、横長剥片を素材として、左側縁にやや大ぶりの剥離による折断を行った後、折断面が鋭角になった裏面側の側縁に押圧剥離を加えている。右側縁は折損しているため、全形は不明で天地が逆となる可能性がある。黒曜石製(蓼科冷山群)。

黒曜石の産地は、細石刃が神津島愚馳鳥群を主体とし、信州系が含まれている以外はすべて信州系(諏訪星ヶ台群、蓼科冷山群、和田鷹山群)で占められている。以下、器種別に記述を行う。なお、点数の記載は、出土点数は現地取り上げ点数を、図示点数は接合後の実測回数点数を示している。

**角錐状石器** 1区西側尾根上の休場層から1点出土している。1はやや厚みがある縦長剥片の打点側を基部として、左側縁及び右側縁先端付近に器体中央まで及ぶ大ぶりの剥離を施し、先端部及び器体を作り出している。その結果、中位～先端にかけての断面形は高さのある三角形となっている。この大ぶりの剥離の後、両側縁に押圧剥離を加え、鋸歯状の側面形を作り出している。黒曜石製(諏訪星ヶ台群)である。

**ナイフ形石器** 1区東側と2区の暗褐色土層から休場層にかけて6点が出土しており、全点図示した。6は両側縁にブランティングを施し、上端に切出状の刃部を形成するものである。横長剥片を素材として、打点側である左側縁を大ぶりの剥離で折断した後、折断面が鋭角になった表面側の側縁に押圧剥離を加えエッジを潰している。また、右側縁は整った押圧剥離により直線的にブランティングを行っている。黒曜石製(蓼科冷山群)である。4・7は、二側縁加工の形態に分類される。4は石刃状の剥片の打点側を先端部に用い、基部及び先端部にブランティングを行っている。先端部の加工は少なく、基部加工に分類できるものの可能性もある。黒曜石製(蓼科冷山群)。7は、縦長剥片の打点側を基部として、左側縁を大ぶりの剥離により折



第45図 古木戸A遺跡 休場層以下試掘坑配置図

**尖頭器** 1区東側谷頂部と西側尾根上の栗色土層から2点が出土しており、全点図示した。いずれも片面加工の小型品で、全長は推定で2.5～3cm程度である。8はやや厚めの横長剥片を素材として、片面を平坦剥離により整形し器体を整えている。基部を欠損する。黒曜石製（蓼科冷山群）。9は縦長剥片の打点側を先端部として、片面の左面と右側縁下端に押圧剥離を加えている。右側縁上半は折れ面となっており、二側縁加工のナイフ形石器の可能性もあるが、表面左半の平坦剥離を評価して尖頭器と判断した。黒曜石製（和田鷹山群）。

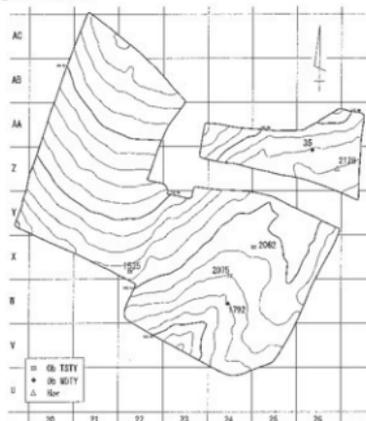
**剥片** 1区西側尾根上の休場層から1点が出土している。12は石刃状の剥片である。右側面は自然面であるが、断面三角形を呈し、両側縁には鋭い刃部が形成されている。右側縁に微細な剥離が認められ、

使用痕の可能性がある。黒曜石製（神津島恩馳島群）。出土層位、剥片剥離技術から旧石器に含めたが、神津島恩馳島群を用いている点は細石刃石器群以降の産地組成に近いといえる。

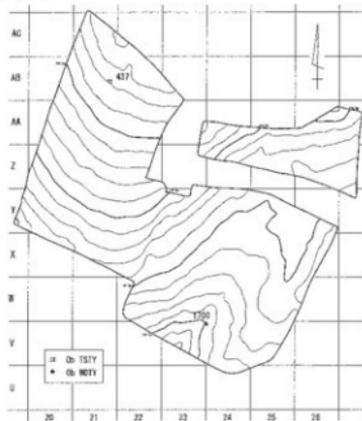
**細石刃** 1区東側谷頭部、西側尾根部、2区東側の暗褐色土～休場層で8点が出土しており全点図示した。いずれも黒曜石製で、12～16は神津島恩馳島群、17・18は諏訪屋ヶ台群、19は蓼科冷山群である。

**敲石** 1区東側谷頭部の休場層から出土した1点を出土層位から旧石器と判断した。21は平面及び断面形が楕円形を呈する円礫の両端面を主体に敲打痕が認められる。輝石安山岩製。

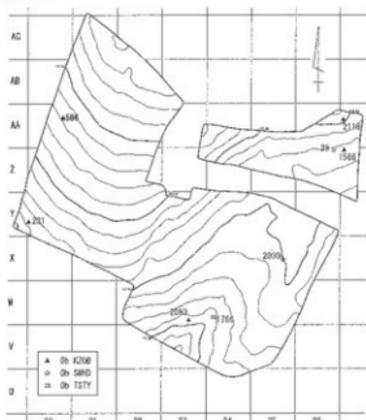
①ナイフ形石器



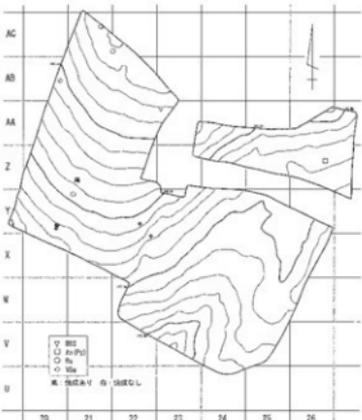
②尖頭器



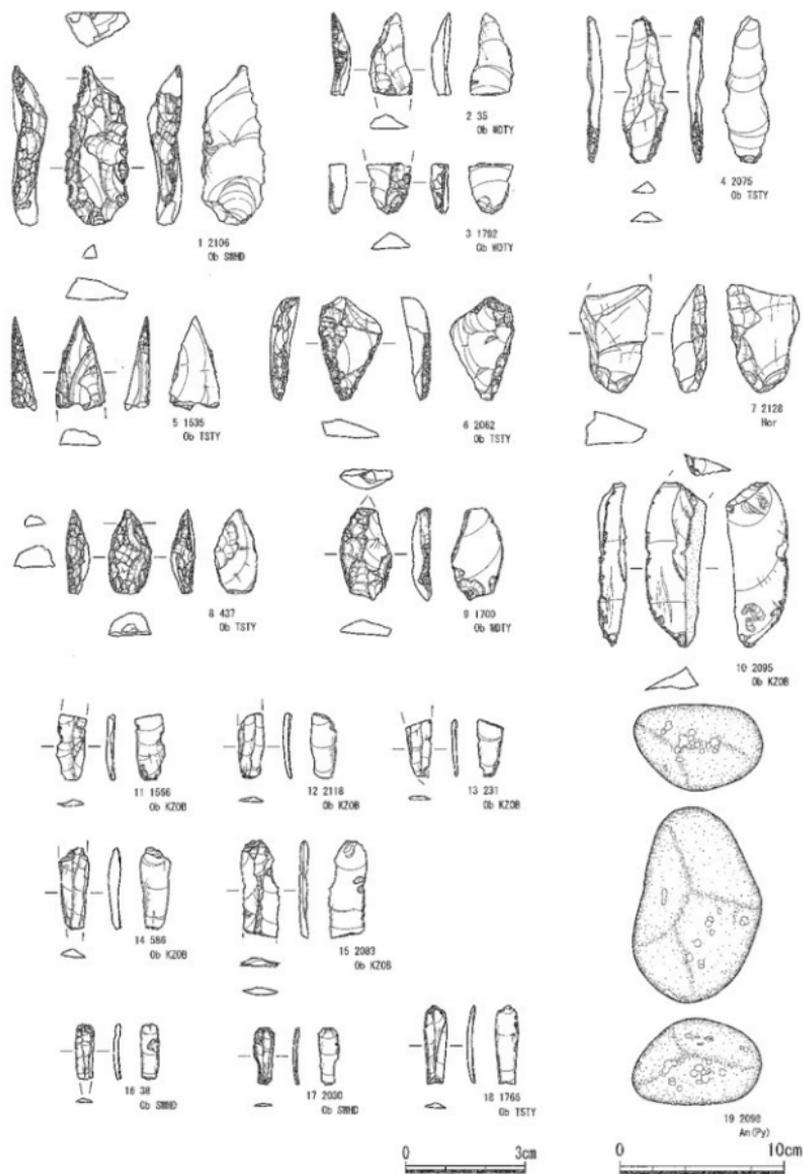
③細石刃



④礫



第46図 古木戸A遺跡 旧石器 石器分布図



第47圖 古木戸A遺跡 旧石器1 (角錐状石器 ナイフ形石器 尖頭器 石刃 網石刃 敲石)

第19表 古木戸A遺跡 旧石器観察表

調査区	遺構番号	層位	遺物	品名	材質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	用途	採取者
1	1506	埋土層	石	Y-22	Ch	80	10	1.0	0.44	0504.001	147.07
2	1507	埋土層	石	Z-20	Ch	90	10	0.8	0.47	0504.002	144.86
3	1508	埋土層	石	W-14	Ch	80	10	1.0	0.45	0504.003	141.80
4	1509	埋土層	石	X-16	Ch	70	10	0.8	0.40	0504.004	141.87
5	1510	埋土層	石	Y-22	Ch	70	10	1.0	0.42	0504.005	143.03
6	1504	埋土層	石	Z-20	Ch	70	10	0.8	0.40	0504.006	142.88
7	1523	埋土層	石	Z-20	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.007	143.07
8	1517	埋土層	石	W-14	Ch	70	10	0.8	0.40	0504.008	143.03
9	1516	埋土層	石	Y-22	Ch	70	10	0.8	0.40	0504.009	141.96
10	1509	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.010	144.86
11	1506	埋土層	石	Z-20	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.011	142.73
12	1518	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.012	143.03
13	1517	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.013	142.73
14	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.014	142.73
15	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.015	142.73
16	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.016	142.73
17	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.017	142.73
18	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.018	142.73
19	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.019	142.73
20	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.020	142.73
21	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.021	142.73
22	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.022	142.73
23	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.023	142.73
24	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.024	142.73
25	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.025	142.73
26	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.026	142.73
27	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.027	142.73
28	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.028	142.73
29	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.029	142.73
30	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.030	142.73
31	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.031	142.73
32	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.032	142.73
33	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.033	142.73
34	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.034	142.73
35	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.035	142.73
36	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.036	142.73
37	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.037	142.73
38	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.038	142.73
39	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.039	142.73
40	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.040	142.73

第20表 古木戸A遺跡 旧石器観察表

調査区	遺構番号	層位	遺物	品名	材質	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	用途	採取者
1	1506	埋土層	石	Y-22	Ch	80	10	1.0	0.44	0504.001	147.07
2	1507	埋土層	石	Z-20	Ch	90	10	0.8	0.47	0504.002	144.86
3	1508	埋土層	石	W-14	Ch	80	10	1.0	0.45	0504.003	141.80
4	1509	埋土層	石	X-16	Ch	70	10	0.8	0.40	0504.004	141.87
5	1510	埋土層	石	Y-22	Ch	70	10	1.0	0.42	0504.005	143.03
6	1504	埋土層	石	Z-20	Ch	70	10	0.8	0.40	0504.006	142.88
7	1523	埋土層	石	Z-20	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.007	143.07
8	1517	埋土層	石	W-14	Ch	70	10	0.8	0.40	0504.008	143.03
9	1516	埋土層	石	Y-22	Ch	70	10	0.8	0.40	0504.009	141.96
10	1509	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.010	144.86
11	1506	埋土層	石	Z-20	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.011	142.73
12	1518	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.012	143.03
13	1517	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.013	142.73
14	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.014	142.73
15	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.015	142.73
16	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.016	142.73
17	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.017	142.73
18	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.018	142.73
19	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.019	142.73
20	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.020	142.73
21	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.021	142.73
22	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.022	142.73
23	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.023	142.73
24	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.024	142.73
25	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.025	142.73
26	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.026	142.73
27	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.027	142.73
28	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.028	142.73
29	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.029	142.73
30	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.030	142.73
31	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.031	142.73
32	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.032	142.73
33	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.033	142.73
34	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.034	142.73
35	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.035	142.73
36	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.036	142.73
37	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.037	142.73
38	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.038	142.73
39	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.039	142.73
40	1506	埋土層	石	W-14	Ch	60	10	0.8	0.40	0504.040	142.73

## 第3節 縄文時代の調査

## 1 遺構

## (1) 概要

今回の調査では、栗色～休場層上面にかけて、土坑6基、集石遺構1基が検出された。これらは、検出層位、覆土から縄文時代に相当する遺構と判断した。調査区の地形は、1区の東側で谷頭部、中央に緩斜面を挟んで西側で尾根となっている。2区では1区東側と連続する谷頭付近の緩斜面が確認された。

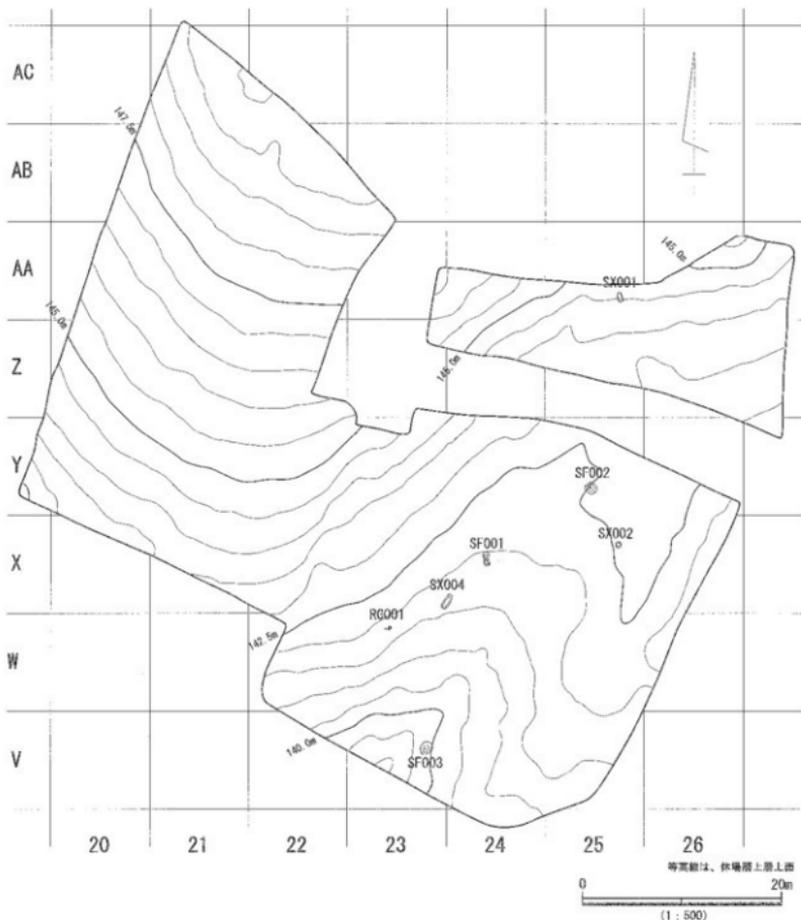
遺構は1区東側と2区で確認されている。1区西側尾根で遺構が未確認であるのは、当該箇所では後世の削平により栗色土層以上がほぼ皆無であることに加え、富士黒土層、漸移層が部分的に削平を受けていることに起因すると考えられる。土坑は、1区東側の谷頭部を廻るように掘削されている可能性がある。また、円形と楕円形のものがあり、逆茂木の設置痕と考えられる小穴の有無により大別できる。この小穴を持たないものは覆土に炭化物を含み、現存深度も浅いもので構成されている。遺構確認面は土坑1基と集石遺構が栗色土層での検出である以外は、漸移層～休場層上位での検出である。

## (2) 土坑・集石

SF001 1区東側X-24グリッドの漸移層中で検出された長径1.50m、短径0.55mの長楕円形を呈する土坑である。壁面は直立に近く立ち上がり、現存深度は最大1.0mを図る。底面には逆茂木の設置痕と考えられる直径7～13cm、深さ25～30cm程度の5基の小穴が穿たれていることから陥穴状遺構と考えられる。小穴は長軸線上に3基がほぼ等間隔で並ぶほか、2基が長軸線からずれた位置に穿たれる。土層堆積は、底部約10cmまでが水平堆積(13層)で、それ以上(1～12層)はレンズ状の堆積を示している。現地調査担当者の所見では、13層が逆茂木を固定するための埋土、それ以上が土坑使用後の自然堆積とされている。土坑覆土はいずれもローム粒(休場層か)を含む黒褐色土とされていることから、富士黒土層を主体に構成されていると考えられる。

SF002 1区東側Y-25グリッドの休場層上位で検出された直径1mの不定円形を呈する土坑である。壁面はほぼ直立し、現存深度は80cm程度である。底面中央に逆茂木の設置痕と考えられる直径10cm、深さ20cm程度の円形の小穴が穿たれていることから陥穴状遺構と考えられる。土層堆積は、底部約15cmまでが水平堆積(13・14層)で、それ以上(1～12層)がレンズ状の堆積を示している。現地調査担当者の所見では、13・14層が逆茂木固定のための埋土、それ以上が土坑使用後の自然堆積とされている。ただし、15層は逆茂木設置痕とされていないが13層により上部が塞がれている。分層結果を尊重すれば、13層以上を自然堆積とした方が15層の堆積を矛盾なく理解できると考えられるため、本報告では13層はしまりのある土層記載があるものの、自然堆積と判断しておく。土坑覆土はいずれもローム粒(休場層か)を含む黒褐色土とされていることから、富士黒土層を主体に構成されていると考えられる。

SF003 1区東側V-23グリッドの谷頭付近で休場層上位～中位で検出された長径1.1m、短径0.9mの楕円形を呈する土坑である。土坑断面は逆台形に近く、現存深度は50cm程度である。底面中央に逆茂木の設置痕と考えられる直径10cm、深さ20cm程度の小穴が穿たれていることから陥穴状遺構と考えられる。現地調査担当者の所見では、9層が逆茂木固定のための埋土、それ以上が土坑使用後の自然堆積とされている。10層は逆茂木設置痕とされている。土坑覆土はいずれもローム粒（休場層か）を含む黒褐色土とされていることから、富士黒土層を主体に構成されていると考えられる。SF001・002に比べ明らかに深度が浅く、本来の掘削面はより上層であることは明らかである。検出箇所は谷頭部に該当し、富士黒土層～漸移層の堆積が良好で土層帯では1mの厚さを確認できることを付記しておく。

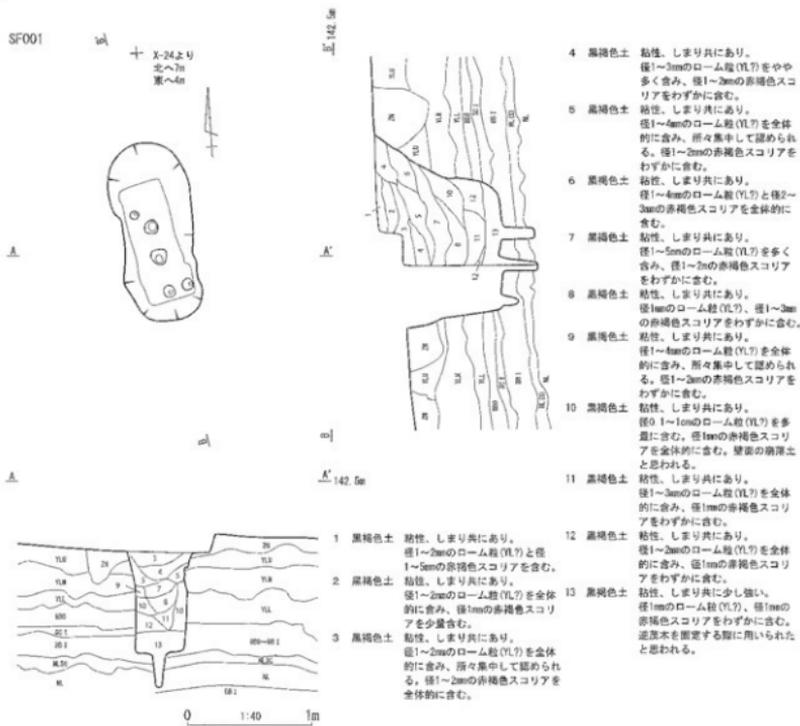


第48図 古木戸A遺跡 縄文時代遺構分布図

SX001 2区中央北端AA-25グリッドの休場層上位で検出された長径1m、短径50cmの長楕円形を呈する土坑である。土坑断面形は壁面が直立に近い逆台形を呈し、現存深度は25cm程度である。調査担当者の所見では遺構覆土は最上層が漸移層相当層とされており、これに従えば本来の掘削面はさほど高い位置ではない可能性が高い。陥穴状遺構としたSF001-003と谷を廻るような遺構配置を示すとも考えられるが、底面に逆茂木設置痕などは認められず、覆土に炭化物を含む層があること、本来の掘削面・深度も不明であることから土坑の性格は不明としておく。

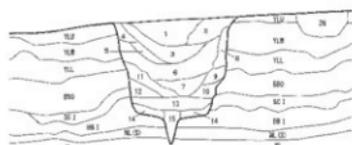
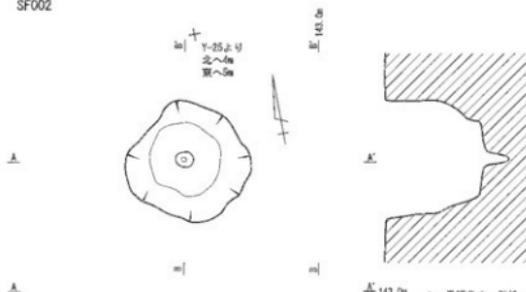
SX002 1区東側X-25グリッドの栗色土層で検出された直径60cm程度の円形土坑である。土坑断面形は逆台形を呈し、現存深度は20cmである。遺構覆土は暗褐色土を含んでおり、確認面も他の土坑とは異なっているため、時期的には土坑群に後続するものと考えられる。覆土中から黒曜石剥片（産地未分析）が1点出土している。

SX004 1区東側X-23-X-24の休場層上位で検出された土坑である。土坑の北東半は失われており正確な規模は不明であるが、おおむね長径1.6m、短径0.7mの長楕円形を呈するものと推測される。断面形は皿状を呈し、現存深度は30cm程度である。平面形は陥穴状遺構に類似し、遺構配置も関連性をうかがわれるものの、逆茂木設置痕が未検出であること、覆土に炭化物を含むこと、平面形が長楕円形を呈

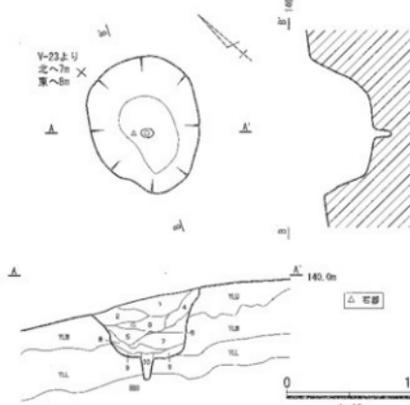


第49図 古木戸A遺跡 縄文土坑1

SF002



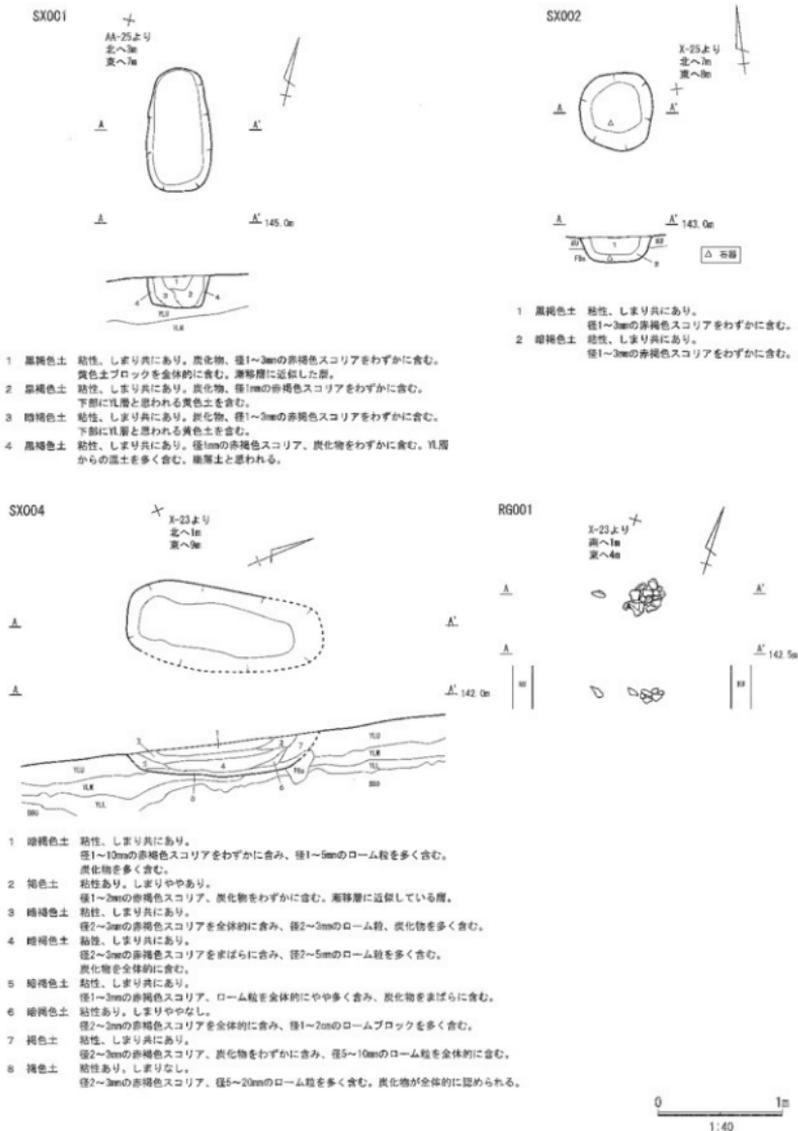
SF003



- 1 黒褐色土 粘性、しまり共にあり、径2mmのローム粒(丸?)をわずかに含み、径2mmの赤褐色スコリアを全体的に含む。
- 2 黒褐色土 粘性やや強い、しまりあり、径5~10mmのローム粒(丸?)を多く含み、炭化物、径2~5mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
- 3 黒褐色土 粘性あり、しまりなし、炭化物、径2~3mmのローム粒(丸?)、径2~3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
- 4 黄褐色土 粘性あり、しまりなし、径5~10mmのロームブロック(丸?)を多く含み、径2mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
- 5 黒褐色土 粘性あり、しまりややなし、径2mmのローム粒(丸?)、赤褐色スコリアをわずかに含む。
- 6 黒褐色土 粘性やや弱い、しまりややなし、径2~10mmのローム粒(丸?)、径2~3mmの赤褐色スコリアを全体的に含む、特に、土層中央付近に一部集中してブロック状に混入する。
- 7 黒褐色土 粘性あり、しまりややなし、径2~20mmのロームブロック(丸?)、径2~3mmの赤褐色スコリアを全体的に含む。
- 8 黒褐色土 粘性、しまり共にあり、径2~10mmのローム粒(丸?)を多く含み、径1cmの浮砂層状土をわずかに含む。
- 9 黒褐色土 粘性やや強い、しまりあり、径2~30mmのロームブロック(丸?)を多く含み、径2mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
- 10 黒褐色土 粘性やや弱い、しまりあり、径1cmのロームブロック(丸?)を全体的に含む。
- 11 黒褐色土 粘性、しまり共にややなし、径1~3mmのロームブロック(丸?)を多く含み、径1cmの浮砂層状土をわずかに含む。
- 12 黒褐色土 粘性あり、しまりややなし、径5~10mmのローム粒(丸?)を全体的に含む。
- 13 暗褐色土 粘性、しまり共にあり、径1~2mmのロームブロック(丸?)、径1cm前後の黒色土を全体的に含み、径2~3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
- 14 黒褐色土 粘性、しまり共にあり、径2~3cmのロームブロック(丸?)をわずかに含み、径1~3mmの赤褐色スコリアを全体的に含む。
- 15 黒褐色土 粘性あり、しまりなし、径2~3mmのローム粒(丸?)、径2~3mmの黒色土粒、径1~3mmの赤褐色スコリアを全体的に含む。

- 1 黒褐色土 粘性、しまり共にあり、径1~5mmのローム粒を全体的に含み、径2~3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
- 2 暗褐色土 粘性あり、しまりなし、径1~3mmのローム粒を全体的に含み、炭化物、径2~3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
- 3 黒褐色土 粘性あり、しまりややなし、径2~3mmのローム粒を多く含む中して含み、径1~3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
- 4 黒褐色土 粘性、しまり共にあり、径1~3mmのローム粒、径1~2mmの赤褐色スコリアを全体的に含み、径1~3mmの黒色土粒をわずかに含む。
- 5 褐色土 粘性、しまり共にあり、径1~10mmのローム粒を全体的に含み、径1~3mmの赤褐色スコリア、径3~5mmの黒色土粒をわずかに含む、隙間は腐葉土が混入しているため、ローム粒が風中混入する。
- 6 黒褐色土 粘性、しまり共にあり、径1~5mmのローム粒を全体的に含み、径1~3mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
- 7 褐色土 粘性、しまり共にあり、径2~5mmの赤褐色スコリアをわずかに含む、腐葉土が混入する。ロームを中心とした層。
- 8 黒褐色土 粘性、しまり共にあり、径2~5mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。
- 9 褐色土 粘性、しまり共にあり、径1~2cmのロームブロックを多く含む。
- 10 黒褐色土 粘性、しまり共にあり、径2~3mmのローム粒、黒色土粒、径1~2mmの赤褐色スコリアをわずかに含む。

第50図 古木戸A遺跡 縄文土坑2



第51図 古木戸A遺跡 縄文土坑3・集石

することは、前述のSX001に類似している。本報告では土坑の性格は不明としておく。遺構覆土は調査担当者の所見によると漸移層あるいは富士黒土層相当層とされている。

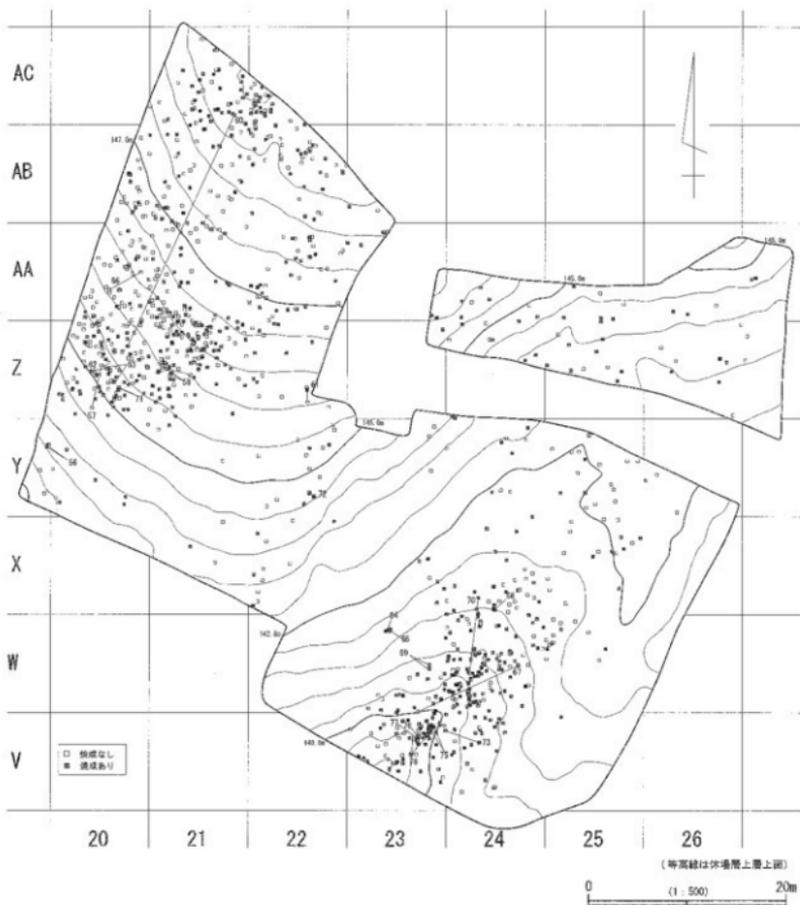
RG001 1区W-23グリッドの栗色土層中で検出された集石遺構である。

30cm四方程度にまとまる21個の礫で構成され、被熱率は90.5%である。

礫の密集は確認できたが、付属する土坑等は未確認である。石材は輝石安山岩、玄武岩、粗粒玄武岩が用いられている。

第21表 古木戸A遺跡  
RG001礫組成表

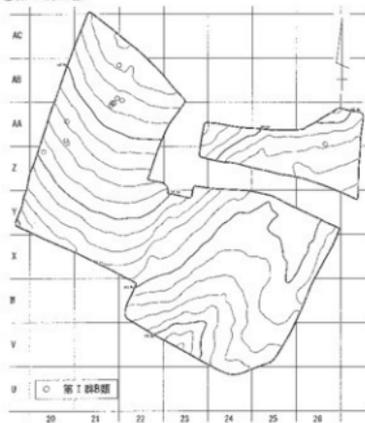
石材	礫数		合計
	区	数	
	Ac(Py)	16	
Ba	2		2
Da	1		1
合計	19	2	21



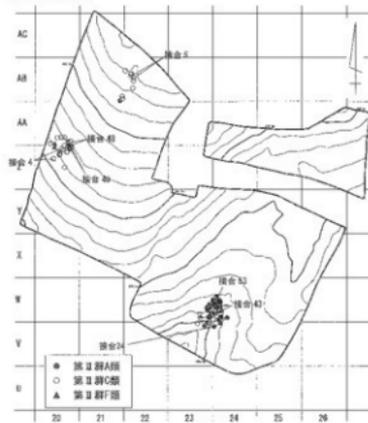
第52図 古木戸A遺跡 縄文礫分布図



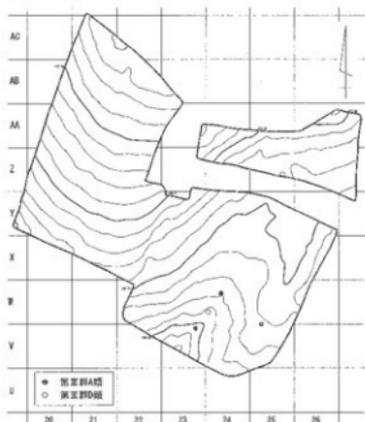
①第I群土器



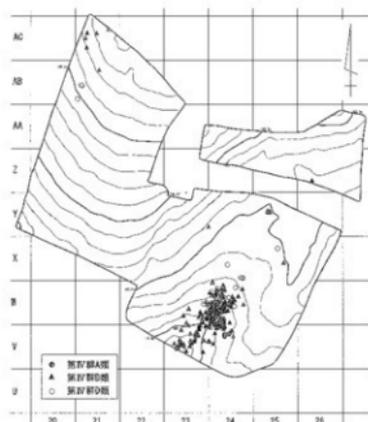
②第II群土器



③第III群土器



④第IV群土器



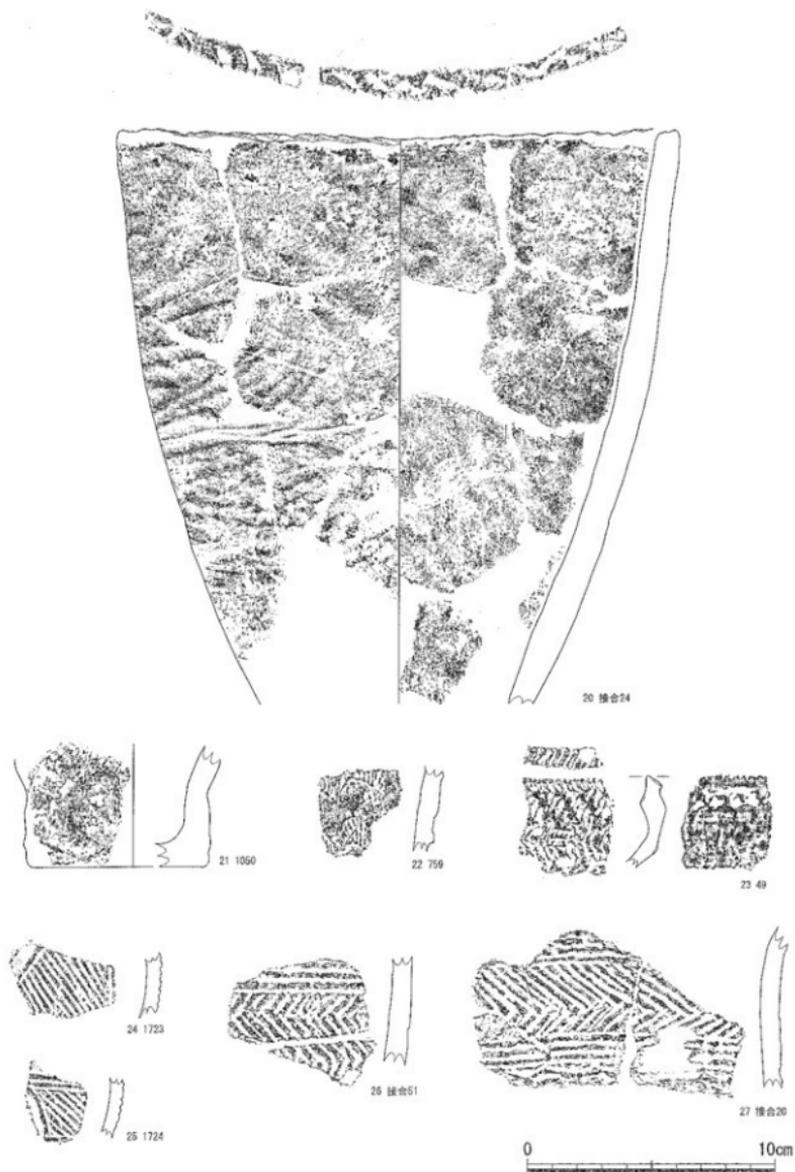
第53図 古木戸A遺跡 縄文土器分布図

C類（無文・象痕文土器） 54点が出土しているが、大半が小破片である。底部破片1点を図示した。21は、平底を呈する底部破片で、外面に先端が2つに割れた工具による刺突が施されるが施文方向に規則性はうかがえない。橙色を呈し、胎土に繊維をわずかに含む。

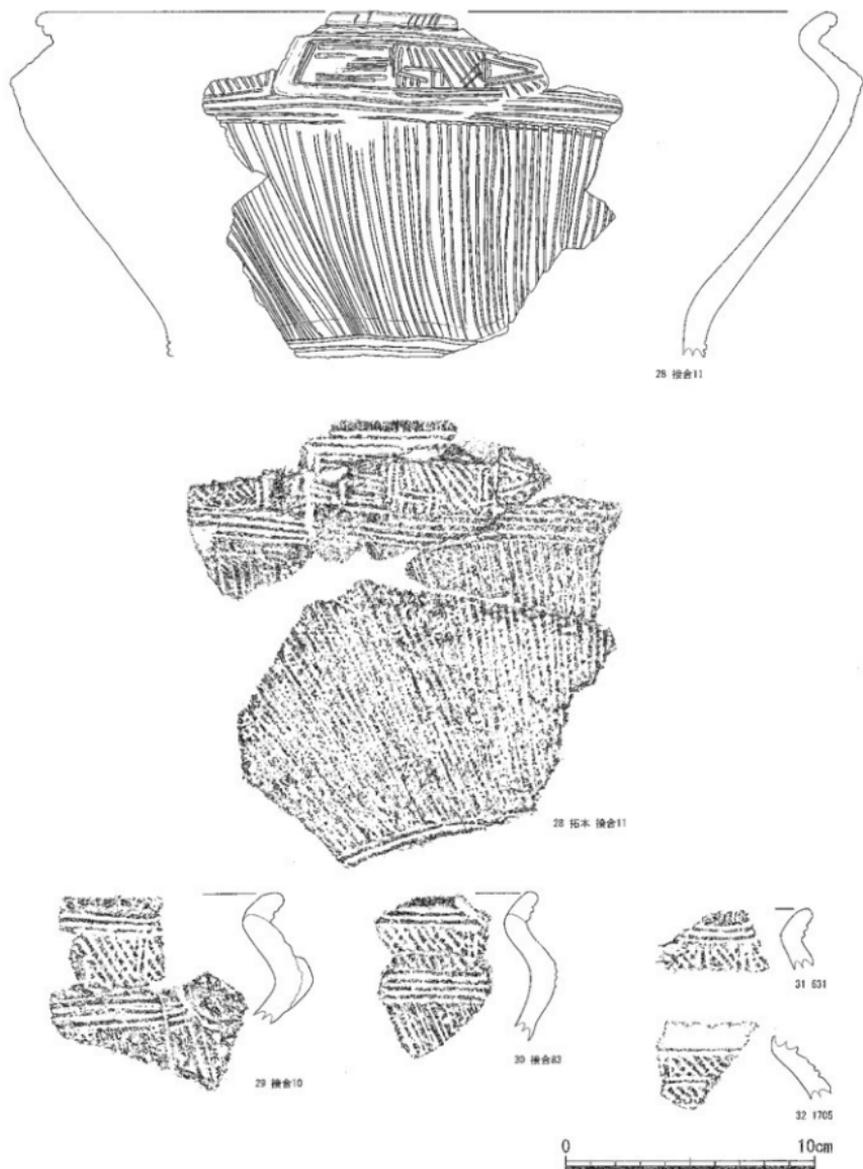
F類（打越式土器） 2点出土しており、1点を図示した。22は、外面に貝殻の押圧によると見られる山形文が2段確認される。褐色を呈し、径1.0mm以下の白色粒子を含む胎土である。

第III群土器（前期土器群）

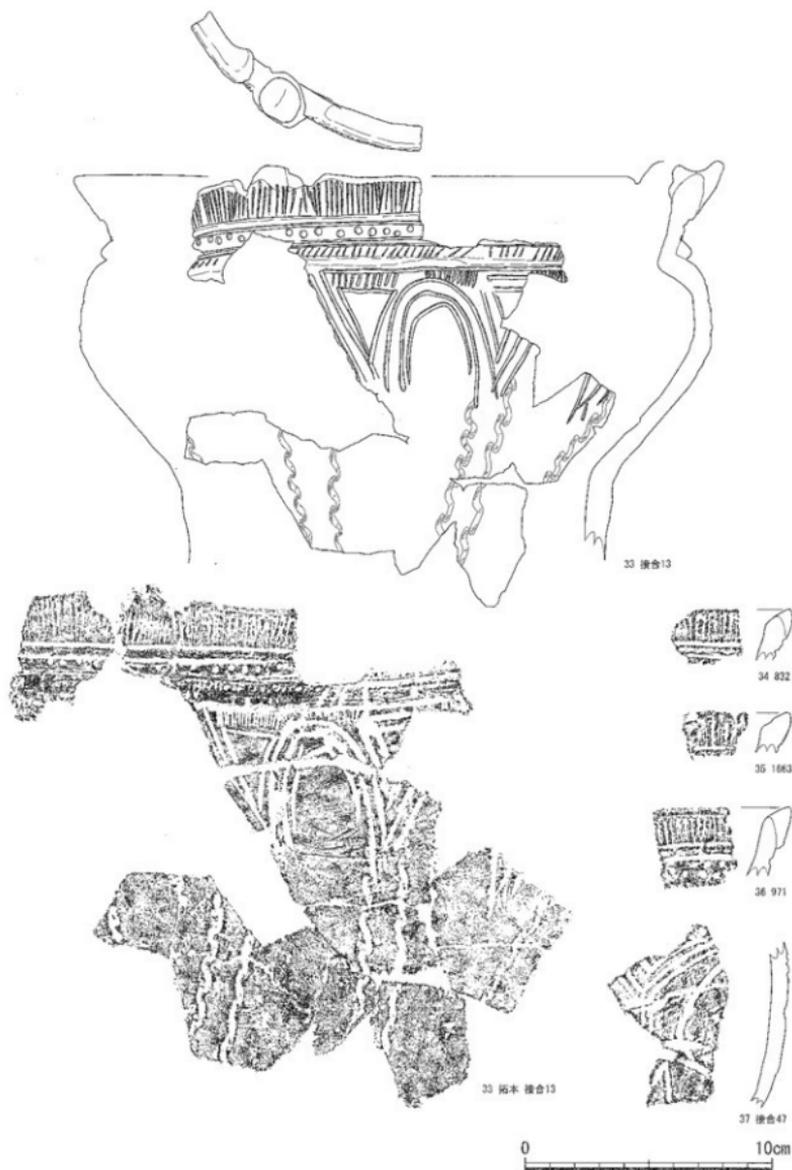
D類（大蔵山式土器） 2点出土しており、1点を図示した。23は、口縁部外面に縄文を施した後、その上下に竹管状工具による刺突文を連続させている。口縁部内面の内湾部分は土器成形時のさほど乾燥が



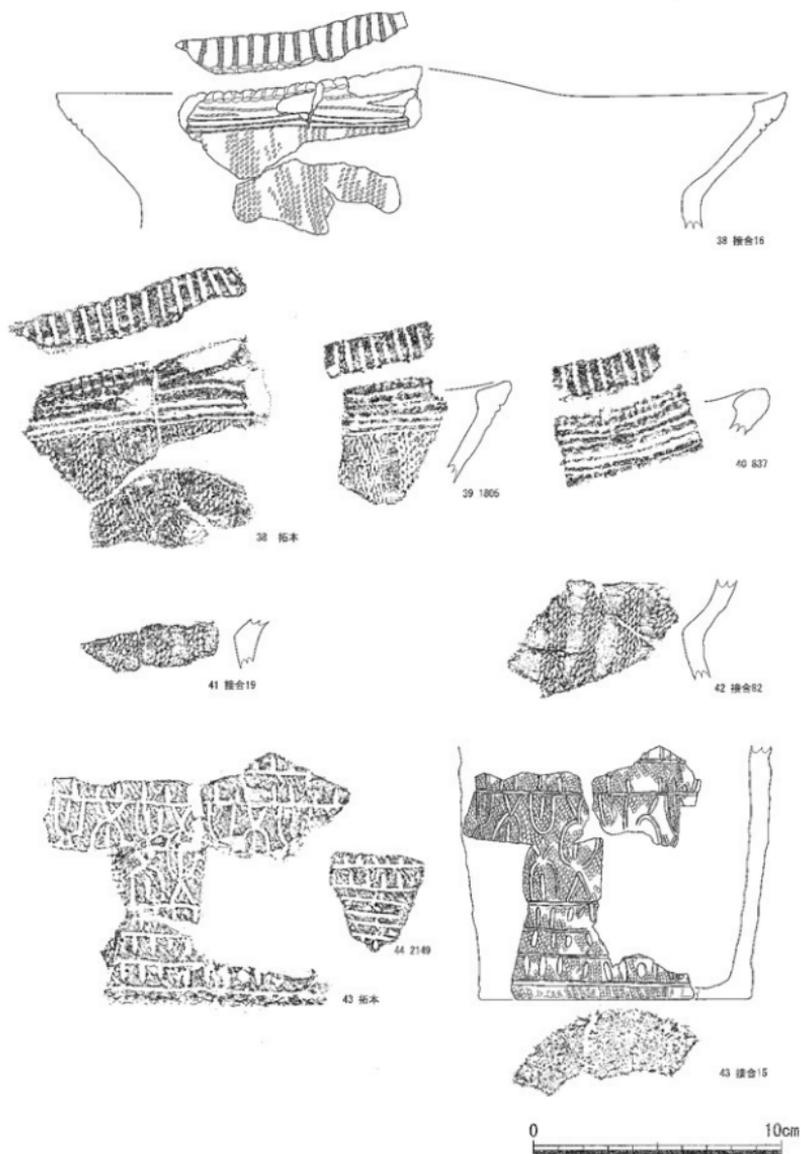
第54図 古木戸A遺跡 縄文土器 1



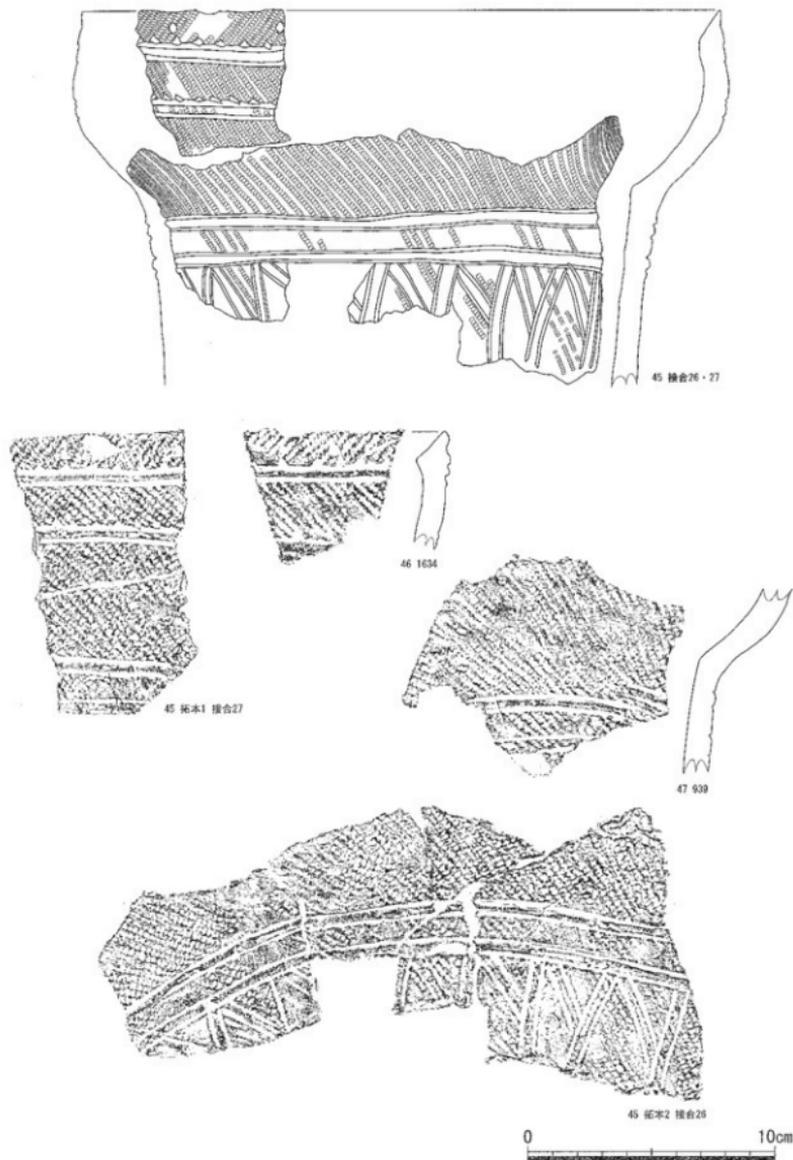
第55図 古木戸A遺跡 縄文土器2



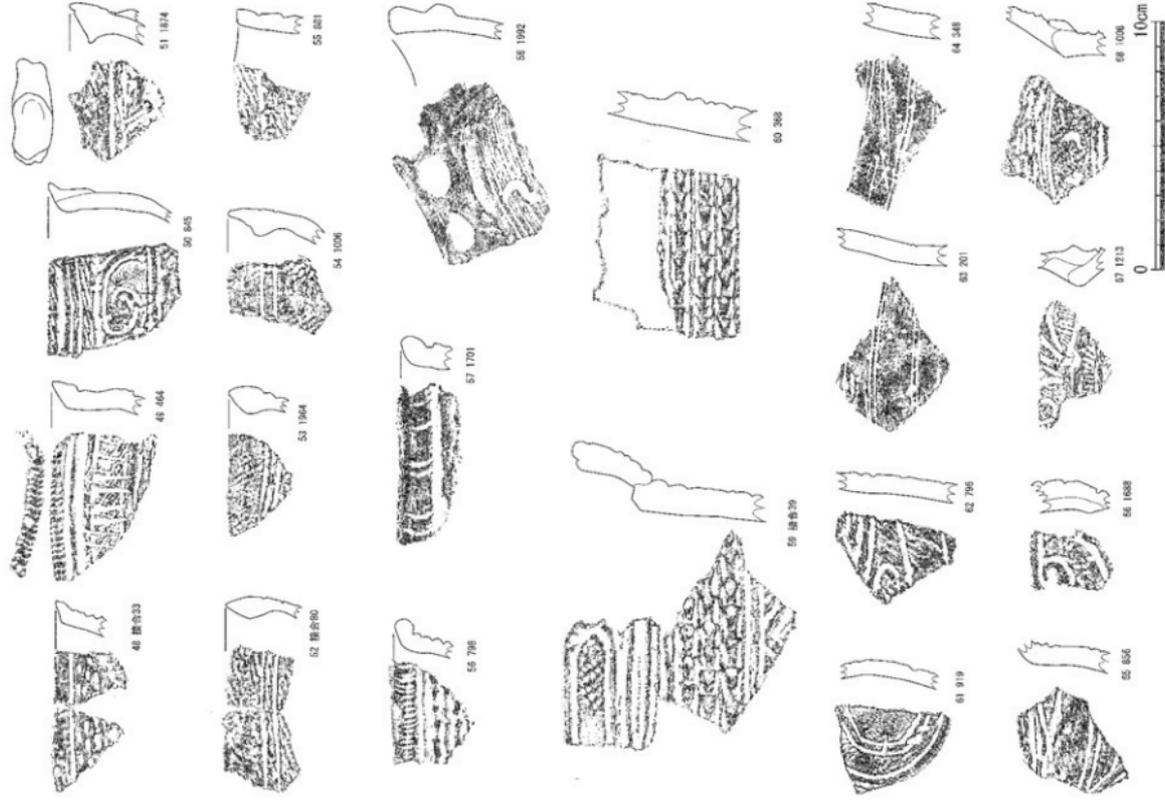
第56図 古木戸A遺跡 縄文土器3



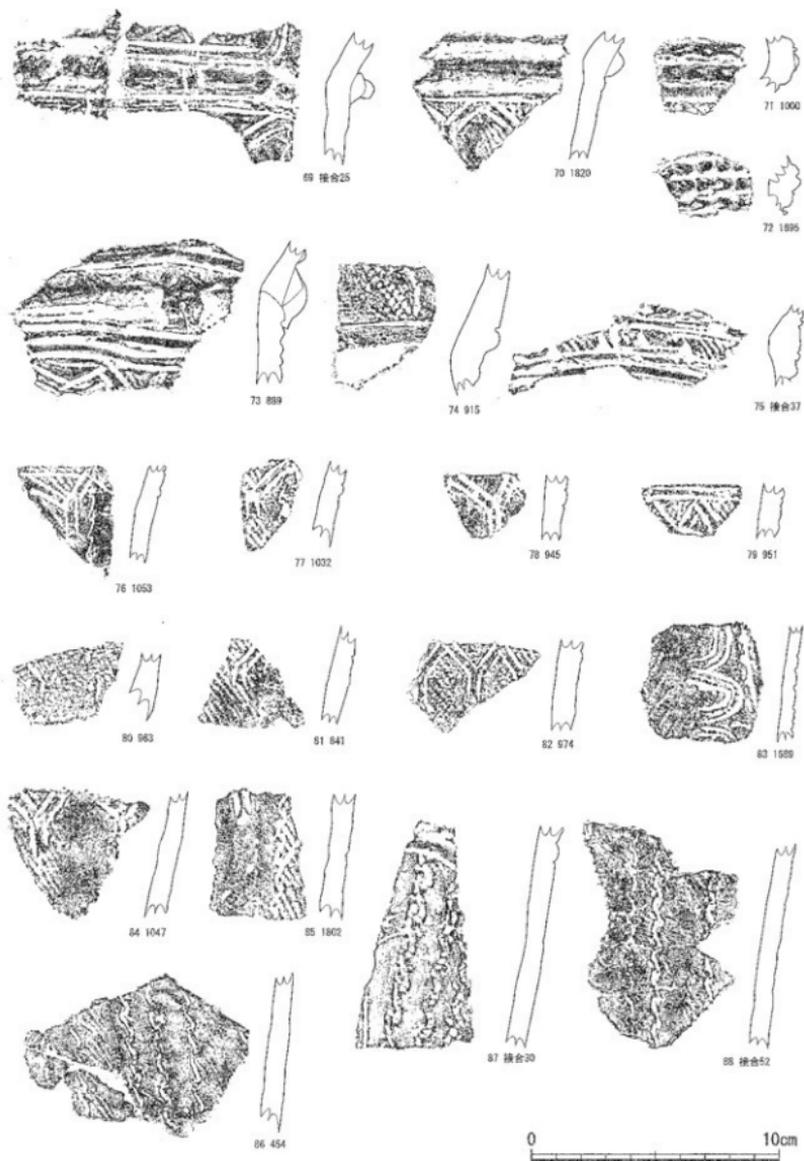
第57図 古木戸A遺跡 縄文土器4



第58図 古木戸A遺跡 縄文土器5



第59圖 古木戸A遺跡 縄文土器C



第60図 古木戸A遺跡 縄文土器7



第61圖 古木戸A遺跡 縄文土器 8

進んでいない段階でヨコナデされたとみられ、明確な内湾部が形成されている。

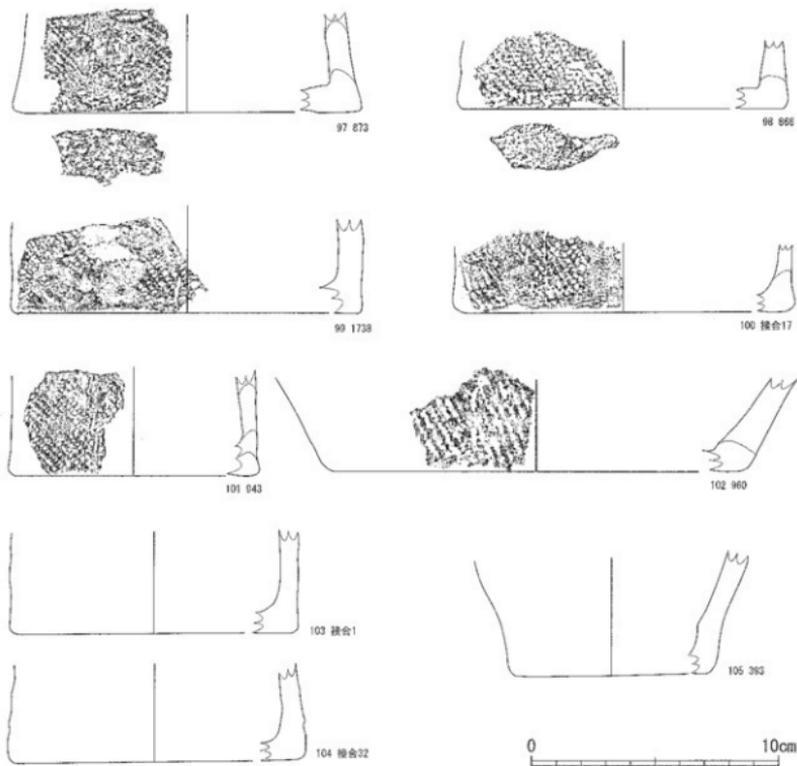
#### 第IV群土器（中期土器群）

**A類（沈線土器）** 24・25は細い竹管状工具によるとみられる集合沈線文を施すものである。沈線区画内に集合沈線を充填する手順で施文され、その後25では集合沈線脇に別途沈線を施している。施文はB群土器のそれに比べ繊細で精緻な印象である。

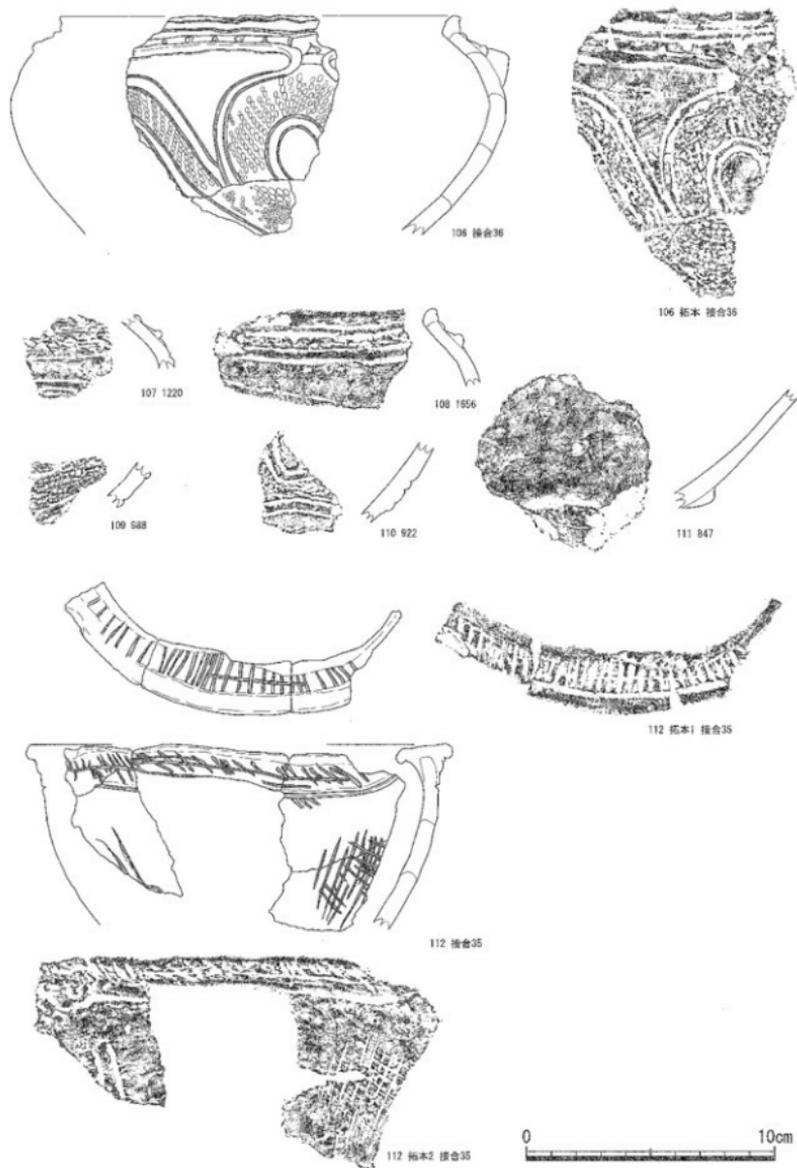
**B類（五領ヶ台式土器）** 破片資料から器形をうかがえる資料まで比較的多く出土している。土器の形態、施文にさまざまな形態が認められ、厳密な分類は困難であるが以下のように大別できる。

口唇部形態は、内面に肥厚し内傾する面を持つもの（38～40・52～54など）、内傾する面を持つもの（33～36・45・46・48～50など）、丸く取めるもの（28～31・56～58など）、上端に面を持つもの（55）などが認められる。

口縁部形態は、内湾するもの（33・38・39・45・46・49～54・58・59）、口縁端部が短く屈折して開くもの（28～31）、直立するもの（55）が、口縁部文様帯の施文方法は細線文を用いるもの（33～36）、半截竹管による集合沈線を主体に用いるもの（26～32・48～50・63～65など）、地文に縄文を施文するもの



第62図 古木戸A遺跡 縄文土器9



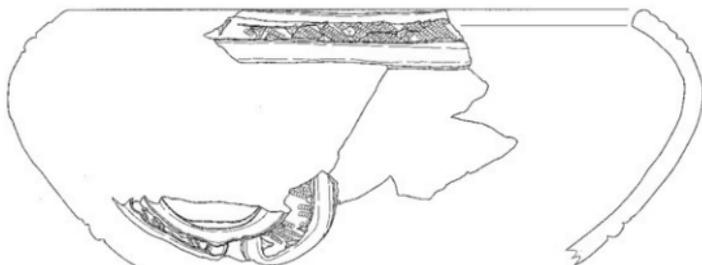
第63図 古木戸A遺跡 縄文土器10

(38~40・45~47・51~55・59・61・62・68など)が認められる。

なお、胴部はわずかに開く直立した胴部のもの(43・45・59・69・70・73など)があり、本類に特徴的な結節を伴う縦回転の縄文を地文とするものが多い。そして、上半にY字文を加えるもの(33・45・59・69・70・73・76~82・84・87・94)、縦位に連続した連弧文(83)、横位沈線区画内をU字文等で充填するもの(43)も認められる。底部は胴部がくびれた後、底部が広がるもの(93・97・104)と直立気味のもの(99・101)、外開きとなるもの(102・105)などがある。

D類(北浦C式土器) 106~111・112・113の3個体分が確認され、いずれも浅鉢になるものと考えられる。106~111は、丸く取めた口唇部からわずかに屈折して丸みを帯びた胴部につながるもので、口縁部外面に半截竹管状の工具による横位沈線を施し、その下位に隆帯を加え横位沈線との間に三角形の刺突文が連続する。隆帯は胴部に垂下する部分が橋状となり、半截竹管で作出した円形基調の区画につながる。区画内には縄文施文を加えている。111は底部に該当するものと考えられる。

112は、口唇部を内外面に突出させ、上端に面を持つもので、口縁部を最大径として椀形の胴部につな



113 複製34



113 原本 複製34



第64図 古木戸A遺跡 縄文土器11

がる。口唇部及び口縁部外面に集合沈線を加え、口縁部外面ではその下端を横位の竹管状工具による沈線と区画している。胴部は沈線による格子文と半截竹管状工具による沈線区画が認められ、後者は、口縁部下位の横位の沈線と橋状の隆帯で接続するようである。

113は、口唇部を丸く収めた内向した口縁部から胴部上半に最大径をもつ椀形の形態である。口縁部外面やや下位に竹管状工具による横位沈線を加え、その上位に縄文を地文として三角形の刺突文を連続させる。胴部文様は竹管状工具による同心円状の区画内に縄文を地文として三角形の刺突文を連続させている。本類は、いずれも浅黄色を呈し、胎土に白雲母と考えられる粒子を含むことから、東海西部からの搬入品の可能性が高い。

第25表 古木戸A遺跡 縄文土器観察表

図録番号	器名	出土層位	器種	形式番号	グラフ	形状	施土	技法	色相(内) 地相(外)	断面	備考
54	30	909 629 905 919 1518 1702 1797 1799 1890 1949 1949 1942 1846 1847 1848 1893 1461 1462 1463 1464 1267 1271 1270 1282 1311 1245 1844 1341 1688 1861 1961 1966 1972 1974	Ⅱ A	半截碗	V-18 W-14	AC EC FK	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の縦筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.9 褐色 1279A.9 褐色	24	長形刺突紋
54	31	1380	Ⅱ A	半截碗中央文	V-10	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の縦筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.9 褐色 1279A.9 褐色		
54	32	159	Ⅱ F	打丸	Z-10	FB	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の縦筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.4 褐色 1279A.4 褐色		長形刺突紋
54	33	49	Ⅱ D	半截碗	Z-15	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋・縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.5 褐色 1279A.5 褐色		長形刺突紋
54	34	2123	Ⅱ A	細頸一穴器	V-14	EC	径1.5mm-1.8mmの白色粒子を帯び、白色筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.9 褐色 1279A.5 褐色 1279A.4 褐色 1279A.4 褐色		長形刺突紋
54	35	1774	Ⅱ A	細頸一穴器	V-14	EC	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の白色筋の子午線を帯び、打筋・縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.9 褐色 1279A.4 褐色 1279A.4 褐色		長形刺突紋
54	36	1728 1730	Ⅱ B	高脚ハコ	V-24 W-24	EC	径1.5-2.0mmの白色粒子を帯び、白色筋の子午線を帯び、打筋・縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.5 褐色 1279A.5 褐色	31	
54	37	925 934 1790	Ⅱ B	高脚ハコ	V-24	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、白色筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.9 褐色 1279A.5 褐色	30	
54	38	921 927 929 931 939 938 939 939 935 936 935	Ⅱ B	高脚ハコ	V-23	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋・縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.9 褐色 1279A.9 褐色	11	
54	39	919 920 927 930	Ⅱ B	高脚ハコ	V-23	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋・縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.9 褐色 1279A.9 褐色	10	
54	40	911 916	Ⅱ B	高脚ハコ	V-23	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋・縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.9 褐色 1279A.9 褐色	10	
54	41	924	Ⅱ B	高脚ハコ	V-23	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋・縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.4 褐色 1279A.4 褐色	10	
54	42	1765	Ⅱ B	高脚ハコ	V-24	AM	径1.5-2.0mmの白色粒子を帯び、径1.5-2.0mmの白色筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.4 褐色 1279A.4 褐色		
54	43	942 931 939 940 947 948 948 941 931 933 948 975 955 1026 1077 1781 1840 1854	Ⅱ B	高脚ハコ	V-23 W-24	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋・縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.4 褐色 1279A.5 褐色 1279A.5 褐色	13	内面に長形刺突紋
54	44	932	Ⅱ D	高脚ハコ	W-24	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.4 褐色 1279A.5 褐色		
54	45	1002	Ⅱ D	高脚ハコ	W-24	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、白色筋の子午線を帯び、径1.5mm以下の縦筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.5 褐色 1279A.4 褐色		
54	46	974	Ⅱ D	高脚ハコ	W-24	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、縦筋を帯び、径1.5mm以下の白色筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.4 褐色 1279A.4 褐色		内面に長形刺突紋
54	47	1276 1064 2040	Ⅱ B	高脚ハコ	V-18 W-18	AM FK	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、縦筋を帯び、径1.5mm以下の打筋・縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.4 褐色 1279A.4 褐色	47	
54	48	992 993 1049	Ⅱ B	高脚ハコ	V-23	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.4 褐色 1279A.4 褐色	16	長形刺突紋
54	49	1003	Ⅱ B	高脚ハコ	V-24	EC	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.4 褐色 1279A.4 褐色	16	
54	50	897	Ⅱ B	高脚ハコ	W-24	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.5 褐色 1279A.5 褐色		
54	51	918 919	Ⅱ B	高脚ハコ	V-24 W-24	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.5 褐色 1279A.5 褐色	19	
54	52	932 935	Ⅱ B	高脚ハコ	W-24	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋・縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.5 褐色 1279A.5 褐色	12	溝状に長形刺突紋
54	53	796 802 807 824 925 945 946 928 1209	Ⅱ B	高脚ハコ	V-13 W-24	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋・縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.7 褐色 1279A.4 褐色 1279A.4 褐色	14	同一層位の胎土、一様性
54	54	2149	Ⅱ B	高脚ハコ	-	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、白色筋の子午線を帯び、径1.5mm以下の打筋・縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.7 褐色 1279A.4 褐色 1279A.4 褐色	14	同一層位の胎土、一様性
54	55	919 921 932 931 1017 1048	Ⅱ B	高脚ハコ	V-13 W-24	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋・縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.4 褐色 1279A.4 褐色	16	同一層位の胎土、一様性
54	56	945 1013 1042	Ⅱ B	高脚ハコ	W-22	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、白色筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.6 褐色 1279A.4 褐色	17	同一層位の胎土、一様性
54	57	1034	Ⅱ B	高脚ハコ	V-21	AM	径1.2-2.0mmの白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋を帯び	Ⅱ	1279A.6 褐色 1279A.4 褐色		内面に長形刺突紋
54	58	939	Ⅱ B	高脚ハコ	W-21	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、縦筋を帯び、径1.5mm以下の白色筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.6 褐色 1279A.4 褐色		内面に長形刺突紋
54	59	983 1050	Ⅱ B	高脚ハコ	W-24 Z-24	AM	径1.2-2.0mmの白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋を帯び、径1.5mm以下の白色筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.6 褐色 1279A.6 褐色	13	
54	60	981	Ⅱ B	高脚ハコ	X-25	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋を帯び、径1.5mm以下の白色筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.6 褐色 1279A.6 褐色		
54	61	845	Ⅱ B	高脚ハコ	W-24	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、縦筋を帯び、径1.5mm以下の白色筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.9 褐色 1279A.4 褐色		長形刺突紋
54	62	1044	Ⅱ B	高脚ハコ	W-24	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋を帯び	Ⅱ	1279A.9 褐色 1279A.6 褐色		
54	63	949 958	Ⅱ B	高脚ハコ	W-24	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋を帯び、径1.5mm以下の白色筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.6 褐色 1279A.6 褐色	19	
54	64	1064	Ⅱ B	高脚ハコ	W-24	FB	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋を帯び、径1.5mm以下の白色筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.6 褐色 1279A.4 褐色		
54	65	1096	Ⅱ B	高脚ハコ	W-23	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋を帯び、径1.5mm以下の白色筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.6 褐色 1279A.6 褐色		
54	66	981	Ⅱ B	高脚ハコ	W-21	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋を帯び、径1.5mm以下の白色筋の子午線を帯び	Ⅱ	1279A.7 褐色 1279A.4 褐色 1279A.4 褐色		
54	67	176	Ⅱ B	高脚ハコ	V-23	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、縦筋を帯び	Ⅱ	1279A.7 褐色 1279A.4 褐色 1279A.4 褐色		長形刺突紋
54	68	799	Ⅱ B	高脚ハコ	W-23	AM	管 径1.5mm以下の白色粒子を帯び、径1.5mm以下の打筋を帯び	Ⅱ	1279A.7 褐色 1279A.4 褐色 1279A.4 褐色		



(2) 石器

概要 縄文時代の石器は、暗褐色土～休場層にかけて総点数397点(礫を除く)が出土している。

前述のSX002出土の剥片1点を除き大半が包含層出土であるため、草創期に比定される尖頭器・有舌尖頭器以外は、土器と出土分布状況の比較を通じて推測せざるを得ない状況であった。また、明確に縄文時代の石器として判別できるもの以外は、漸移層より上層を縄文時代として扱った。

尖頭器・有舌尖頭器 1区の東側谷頭と西側尾根上の富士黒土層～漸移層で3点が出土している。全点を図示した。114は柳葉形を呈する両面加工のものである。断面はやや厚い三角形を呈し、表裏にやや大きな剥離を加え整形している。ホルンフェルス製。115は有舌尖頭器である。細身の体部からやや内湾気味に開いて逆刺を形成する。114と同様やや大きな剥離を加えて器体を整形している。先端部及び基部を欠損する。ホルンフェルス製である。116は欠損部分が多いが、両面加工の尖頭器と判断される。やや厚みのある剥片を用い、表裏に押し剥離により器体を整形している。裏面は素材剥片の反りが解消されずに残存している。黒曜石製(神津島恩馳島群)。

石鏃 1・2区の暗褐色土層～休場層にわたり比較的散漫な状況で33点が出土している(未製品1点を含む)。27点を図示した。ここでは、石材・産地を優先して形態分類を行い図示した。基部形態により平基、凹基、有基等に分類できるが、特に凹基では平基に近いものから抉りが深いものまであり、厳密な分類は困難である。また、平面形では正三角形に近いものと二等辺三角形のものがある。使用石材は黒曜石が大半であるが、ホルンフェルス製が2点、珪質頁岩、珪質粘板岩製が各1点確認されている。黒曜石製は産地同定により天城柏峠群(2点)、箱根畑宿群(1点)、神津島恩馳島群(13点)、諏訪星ヶ台群(10点)、和田土屋橋西群(1点)、未分析(2点)となっている。

神津島恩馳島群は、基部形態により、平基の117と、凹基のもの118～126があり、後者は抉りが浅い118～123と深い124～126に分けられる。平面形態では正三角形に近い118～123と、二等辺三角形の117・122～126に分類できることから、本群では平基のものは二等辺三角形、凹基は抉りが浅いものが正三角形、抉りが深いものが二等辺三

第26表 古木戸A遺跡 縄文石器組成表

器種/石材・産地別	器種																				合計	
	有舌尖頭器	尖頭器	石鏃	石鏃(未製品)	三日月形石	ナイフ	ナイフ(未製品)															
HNBJ	1	1																			1	
KZOB	1	12	1						1	4	1	1									21	
SWJHD		20																			15	
AGKT		2																			2	
WDTN		1																			1	
未分析		2							6	1	15	2	3	10							177	
Her	1	1	2		2	1	1	1	1		2	5	2								66	
Au(Py)														1	2	3	3	19	1	1	2	666
SS														1							4	
VAn																1	4	3			141	
Ba																2	2	3			130	
CSS											1						3				2	
VBa														1	5	1	1				116	
Ag											1	1									2	
Da																					9	
MSS										4		1	5	1							27	
CN(R)														1							1	
LT																				1	41	
HSS																					4	
FSS																					10	
SSI																					2	
Ss			1																		3	
SSB			1																		1	
Ap																					8	
Ser																					2	
DI																					1	
Ld																					2	
FAn																					2	
FDa																					5	
Ga																					2	
GC																					4	
Po																					1	
GP																					1	
RBF																					6	
St																					2	
Tu																					4	
合計	2	1	32	1	2	1	3	1	1	7	7	220	8	5	10	16	18	3	8	3	35	6
																					1	1
																					2	1165
																					1260	

角形の形態と関連していると言える。

諏訪星ヶ台群は、基部形態により平基の127~130と凹基の131~135があり、後者は扶りが浅い131と深い132~135に分けられる。平面形態では正三角形に近い127と二等辺三

第27表 古木戸A遺跡 縄文石器組成表

器種/部位別	器種																				合計		
	石錐	石匙未製品	石匙	有茎石器	石核	石片	打製石片																
凹基白色土層	0					1	5	47	3	3	4	6	4	3	6	2	1				1	85	
紫色土層	9	1	1			3	1	36	1	1	1	2	6	1		7	4				1	75	
黄土層土層	1	10		2	1	1	1	104	4		6	6	6	2	3	2	19				1	127	
宮上層土層a																						1	
宮上層土層b		1							4			1	1									7	
層位不明	3	2							4		1											9	
坪遺層		1					1															2	
遺層残土									3													1	
残土									1													1	
層位不明		1						2	15			1	3	1	2							24	
費接									8													9	
合計	21	130	1	2	2	1	2	1	71	7	296	8	5	10	16	164	3	8	35	6	1	2	21

角形の128~135に分けられることから、本群では平基のものは正三角形と二等辺三角形の二者が、凹基はいずれも二等辺三角形のものであることがうかがえる。

和田土屋橋西群は凹基で正三角形の135が、箱根畑宿群は凹基で二等辺三角形の137が各1点確認されている。天城柏峠群は、2点確認されており、いずれも有茎の形態で茎端部は欠損する。平面形は正三角形と二等辺三角形が認められる。

ホルンフェルス製は、いずれも凹基で、正三角形の140と二等辺三角形の141が認められる。142・143は縁辺部を主体に調整される五角形燧で、142は珪質頁岩、143は珪質粘板岩製である。

三脚石器 144・145はいわゆる三脚石器と呼ばれるものである。いずれもホルンフェルス製で、やや大きな剥離調整により器体を整形している。

石錐 146は、先端部の表裏面への剥離により尖頭部を作り出している。器面の風化が著しく詳細な観察は困難である。ホルンフェルス製。

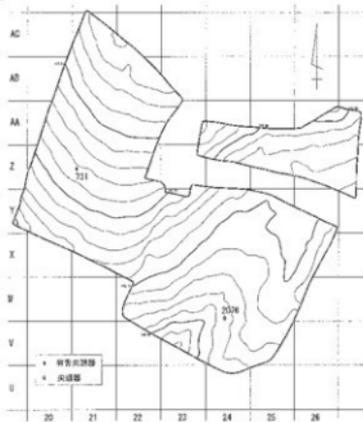
石匙未製品 147は形状から横型の石匙未製品と判断した。ホルンフェルス製でやや大きな剥離調整により器体を整形している。

スクレイパー 148は片面に自然面を残す三角形の大型の剥片の一端に刃部を作出したもので、エンドスクレイパーと判断した。ホルンフェルス製である。149・150は、片面に自然面を残す幅広い剥片を素材とし、長辺側を刃部としたもので、サイドスクレイパーと判断した。149は、鋸歯状の刃部を作出している。149は細粒砂岩製、150は頁岩製でいずれも打製石斧と共通の石材となっており、打製石斧製作時に伴出した剥片をスクレイパーに流用したものと考えられる。151は149・150と同様、片面に自然面を残す大型の剥片を素材として、長辺側を刃部を作出したものである。ホルンフェルス製である。

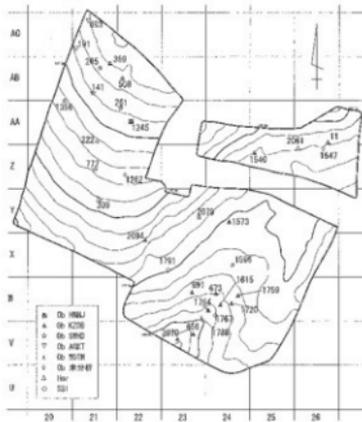
楔形石器 両極剥離が認められるものを楔形石器とした。いずれも黒曜石製である。152は、両端面からの圧力により左側面が階段状剥離を起こし、下面には潰れを伴う小さな剥離が認められる。表面及び左側面の剥離が細石核状に見えるが、打面が残されておらず、裏面は明確に両極剥離を示していることから、楔形石器と判断したが、石材は神津島恩馳島群を用いており、本来細石核であった可能性も考えられる。出土層位は不明である。153は下端に潰れを伴う剥離が認められる（産地未分析）。154は角柱状の剥片が用いられ両端に剥離が認められる（産地未分析）。155は平面台形の楔形の剥片を用いており、表面上端及び下端に潰れを伴う剥離が認められる。裏面中央付近には右からの極状剥離が認められる。器体中央を境に上下に折損しており、接合された資料である。黒曜石製（未分析）。

石核 156~158は打面転位を繰り返した結果、各面に数方向からの剥離が残された黒曜石製の石核である。157は剥片1点が接合している。156・157は神津島恩馳島群製（158は未分析）。159はやや扁平な自

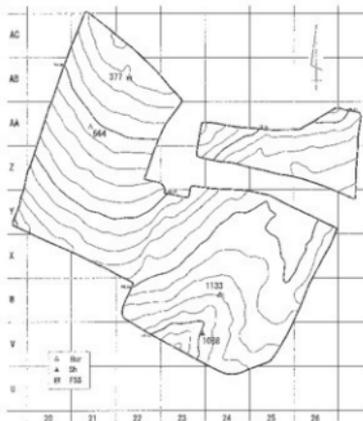
①尖頭鏃・有言尖頭鏃



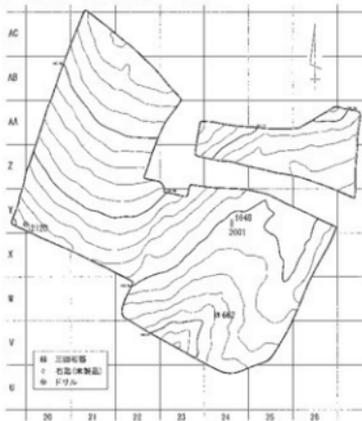
②石鏢類



③スクレイパー類



④三脚石斧・石匙(朱製品)・ドリル



第65図 古木戸A遺跡 縄文石器分布図1

然礫の一面に打撃を加え打面とし、小口面から剥片を作り出す単設打面の石核である。剥片剥離面の計測から長さ3.5cm、幅2.5～3.5cm程度の幅広い剥片を得ていたことが考えられる。ホルンフェルス製。打製石斧 16点が出土しており、9点を図示した。欠損部の多いものが多いが、平面形態から短冊形、撥形に大別できるが、中間的なものもあり、厳密な分類は困難である。短冊形(160～164)は表面に自然面を残す160・163がある。使用石材は、中粒砂岩(160)、頁岩(161)、細粒砂岩(162～164)が確認されている。撥形としたもの(165～168)は、166は表面に自然面を残す。使用石材は、砂岩(165)、頁岩(166・167)、輝石安山岩(168)が認められる。

石鏢 3点出土しており、1点を図示した。169は扁平なホルンフェルスの円礫を使用したものである。

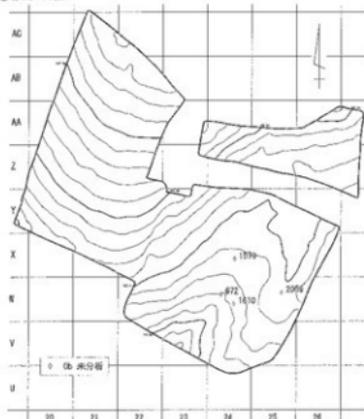
両端中央に剥離を行い抉りとしている。

**礫器** 2点が出土している。剥片石器石材に不適な石材に剥離が加えられているものを礫器と判断した。170は楕円形に近い扁平な礫の周縁に剥離が認められるもので、表面の中央部分及び裏面に自然面を残している。171は不定形な礫の一端に剥離が加えられたものである。いずれも輝石安山岩製である。

**磨鉢石類** 磨鉢石類は、凹石も含め54点が出土しており、23点を図示した。1類：平面が円形～楕円形で、断面形が扁平な楕円形となるもの、2類：平面が円形～楕円形で断面形が円形に近いもの、3類：棒状のもの、4類：不定形なものに大別した。

**敲石** 8点出土しており6点を図示した。172・173は1類に分類される形態で、敲打痕は端部(172)、

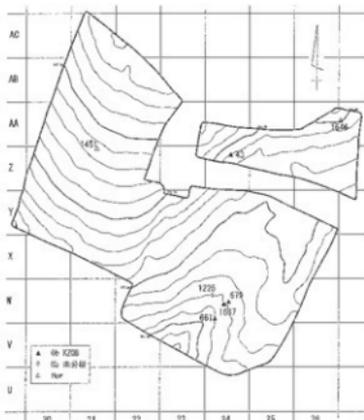
①楕形石器



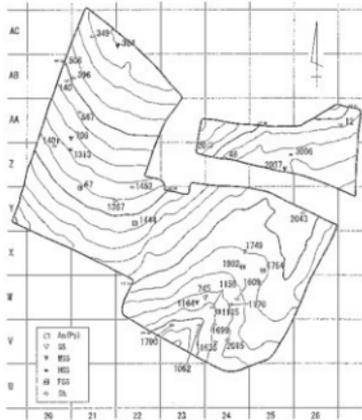
②RF・UF



③石核



④打製石斧類

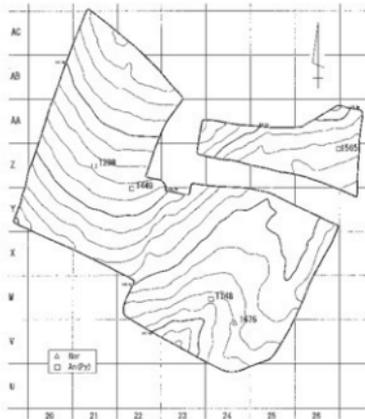


第66図 古木戸A遺跡 縄文石器分布図2

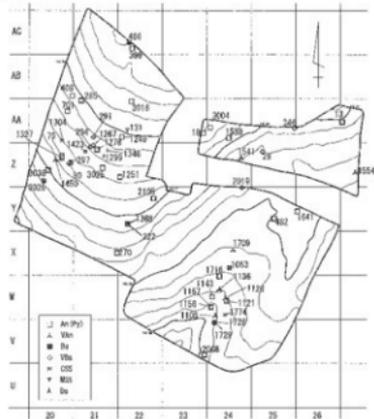
側面及び表面(173)に認められる。173はやや不定形であるが本類に含めた。174~176はやや不定形で平面形が3類に近いものも含まれるが2類と判断した。敲打痕は下端と裏面の一部(174)や両端(175・176)を中心に認められる。177は3類に分類される。表裏面及び両端部に敲打痕が認められる。172は中粒砂岩製、173は多孔質玄武岩製、174・175は輝石安山岩製、176は玄武岩製、177は多孔質安山岩製である。

凹石 平坦部に明確な凹面が認められるものを該当させた。7点出土しており4点を図示した。178・179は不定形な礫の表裏面中央付近に凹面が認められ、側面にも剝離痕が認められる。側面の剝離は敲打によるものであろうか。180・181はやや厚みがある楕円形の礫の平坦面(裏面)に凹面が認められる。

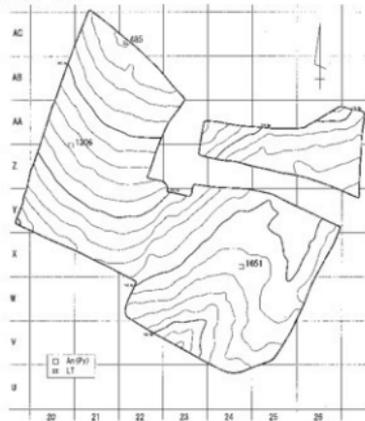
①紙石(有溝)・石錘



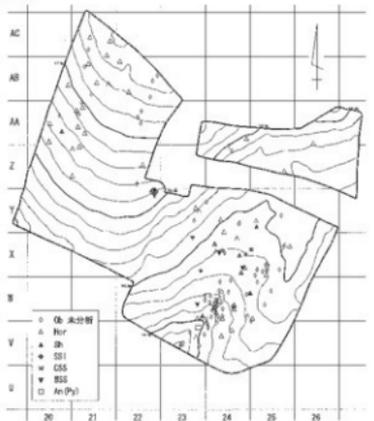
②磨取石類



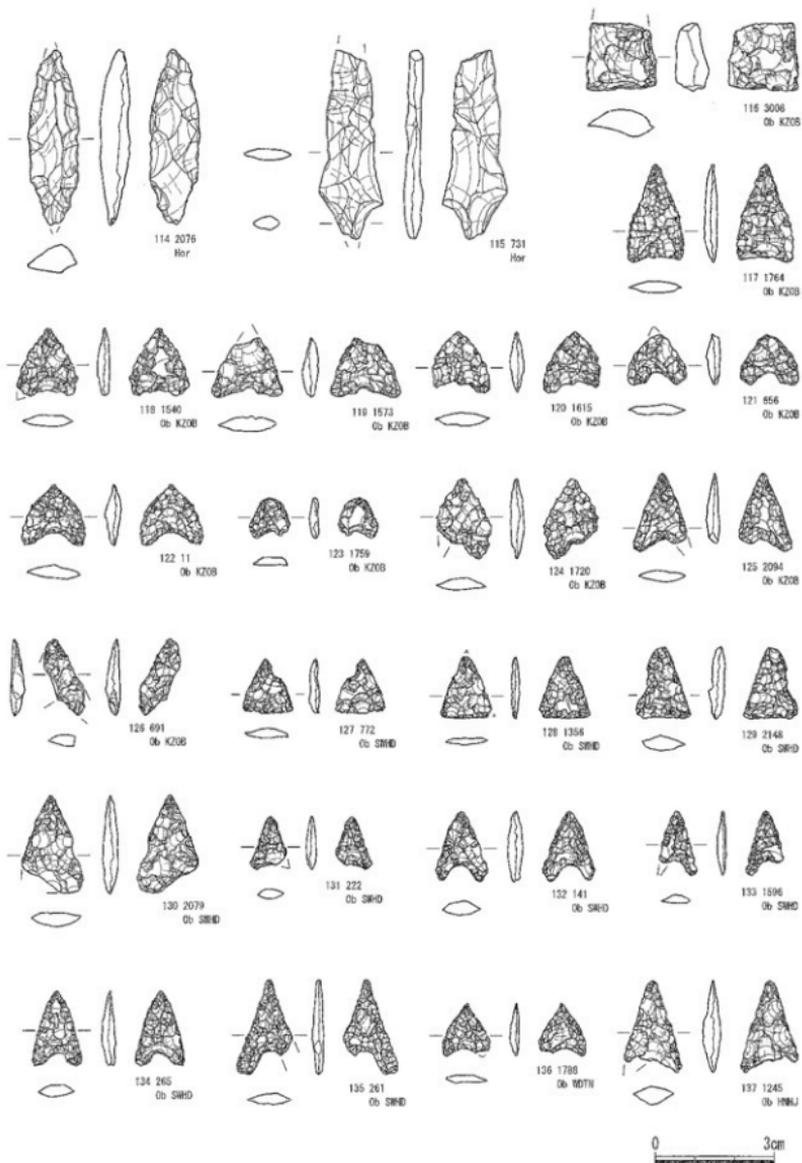
③標石・台石



④剥片



第67図 古木戸A遺跡 縄文石器分布図3



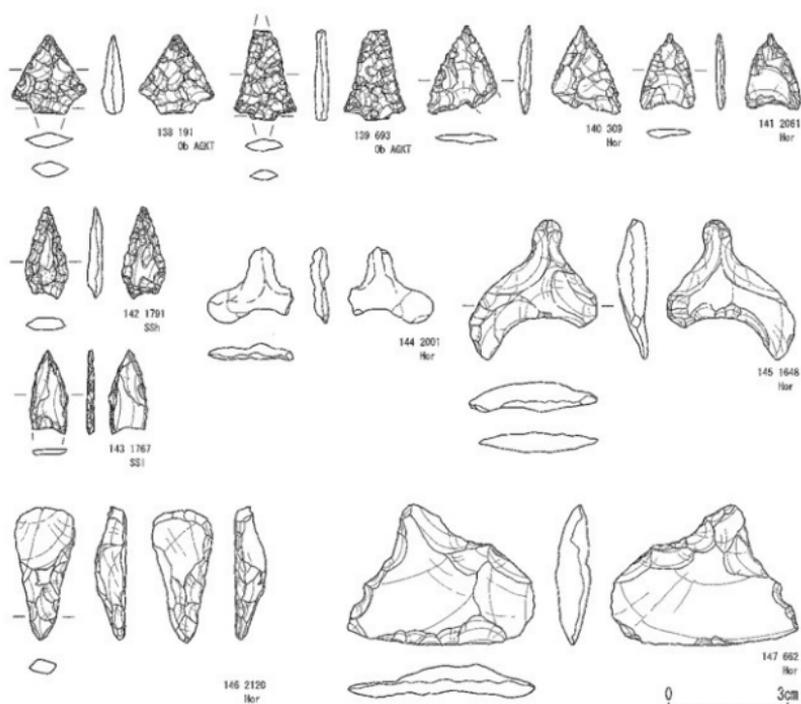
第68図 古木戸A遺跡 縄文石器1 (尖頭器 石鏃)

端部には敲打痕や剥離痕が認められる上、裏面（180）、側面（181）に磨面が認められることから、敲石や磨石の機能も持っていたと考えられる。178・180は多孔質玄武岩製、179・181は多孔質安山岩製である。

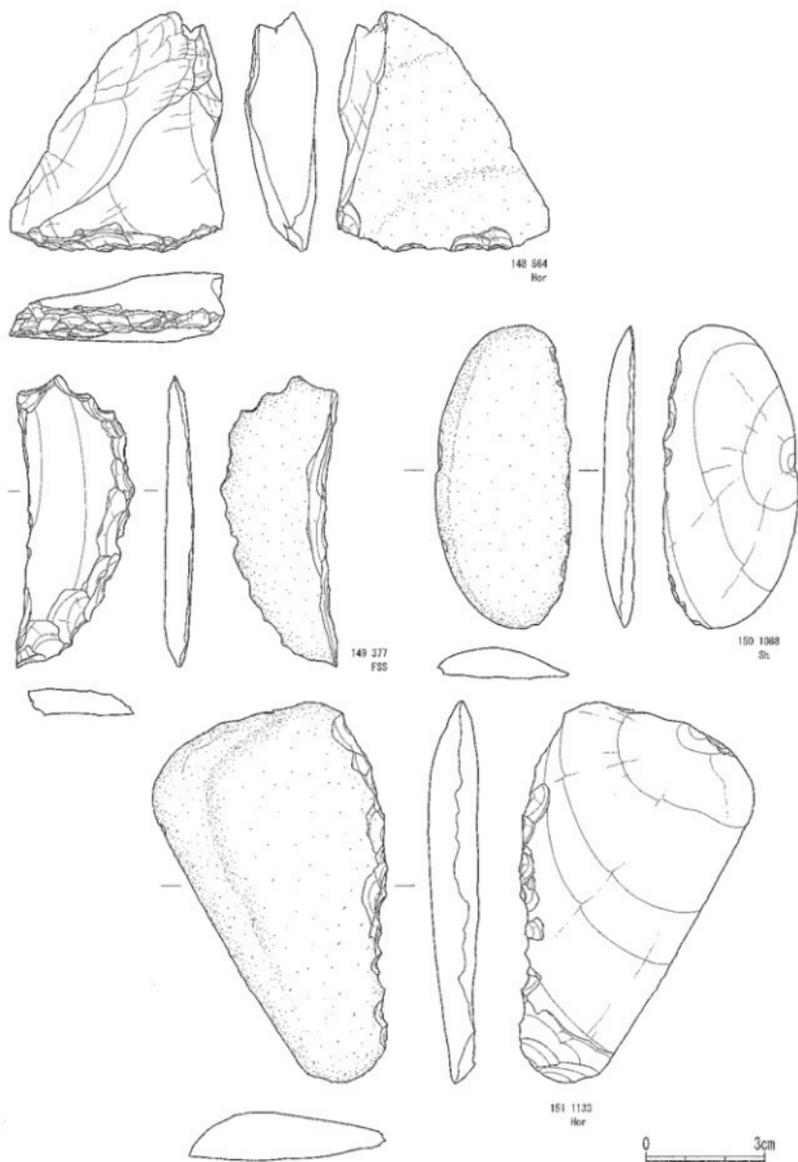
**磨石** 3点出土しており全点を図示した。182は裏表面、183は側面、184は表面と側面に磨面が確認できる。いずれも輝石安山岩製である。

**磨敲石** 36点出土している。11点を図示した。敲打痕は側面に認められるものが多いが、平面形が円形に近いものは表裏面に認められるものが目に付く。185～189は1類、190～195は2類に分類される。185は粗粒砂岩製、186は多孔質玄武岩製、187はデイサイト製、188・189・191・194・195は輝石安山岩製、190・193は多孔質安山岩製、192は玄武岩製である。

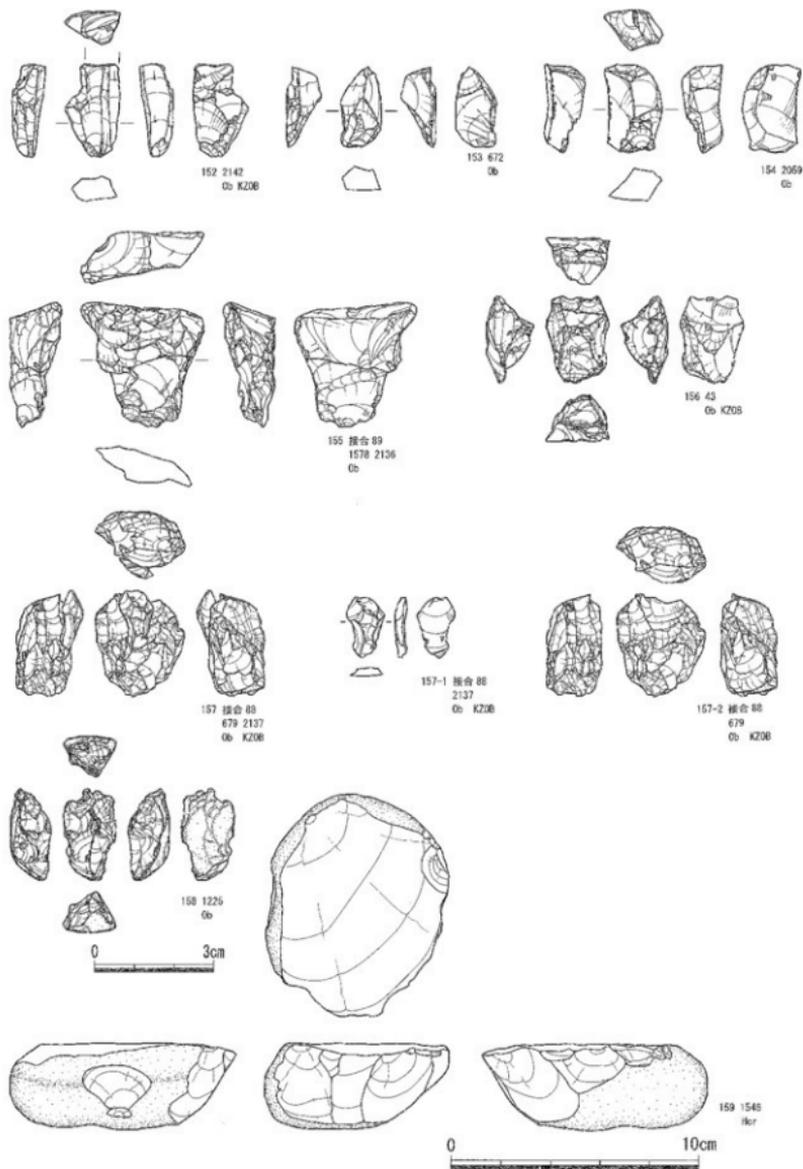
**砥石** 輝石安山岩製のものが2点出土している。196・197は柱状の礫の側面に研磨痕とみられる溝状の痕跡が認められるものである。出土層位から縄文時代遺物として扱ったが、具体的な用途は不明である。



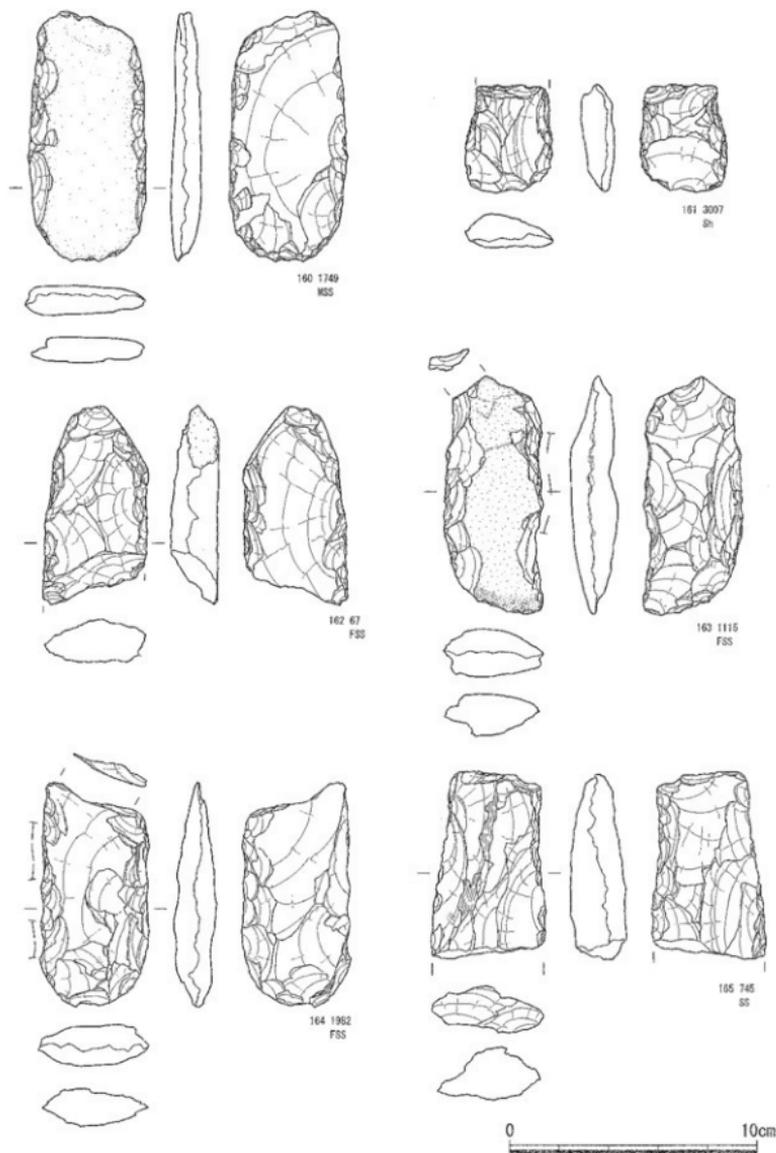
第69図 古木戸A遺跡 縄文石器2（石敲 三脚石器 石鏃 石匙未製品）



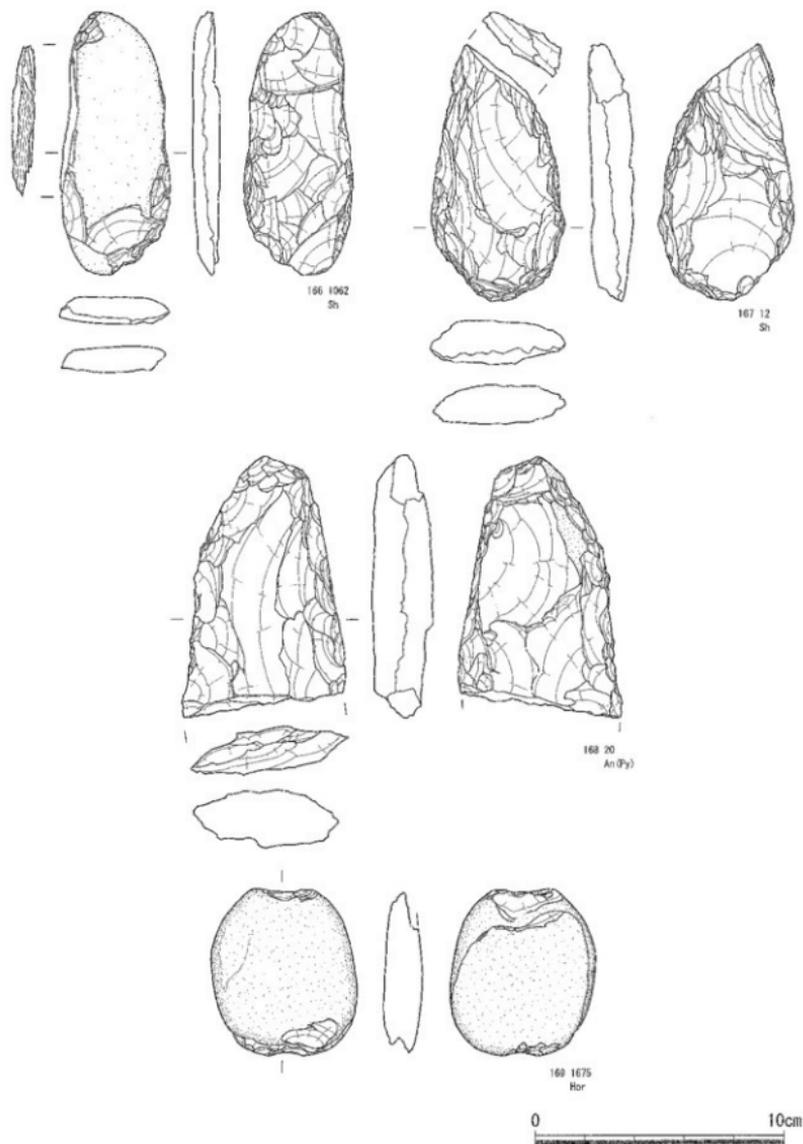
第70図 古木戸A遺跡 縄文石器3 (エンドスクレイパー サイドスクレイパー)



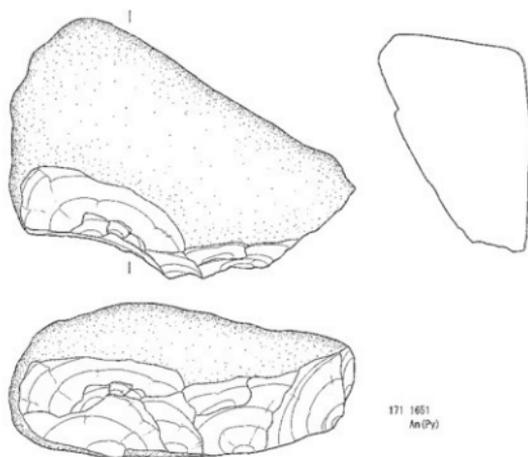
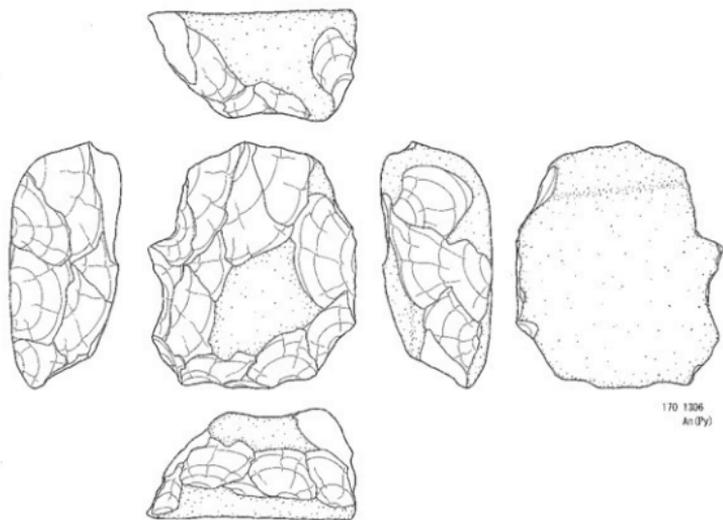
第71図 古木戸A遺跡 縄文石器4 (楔形石器 石核)



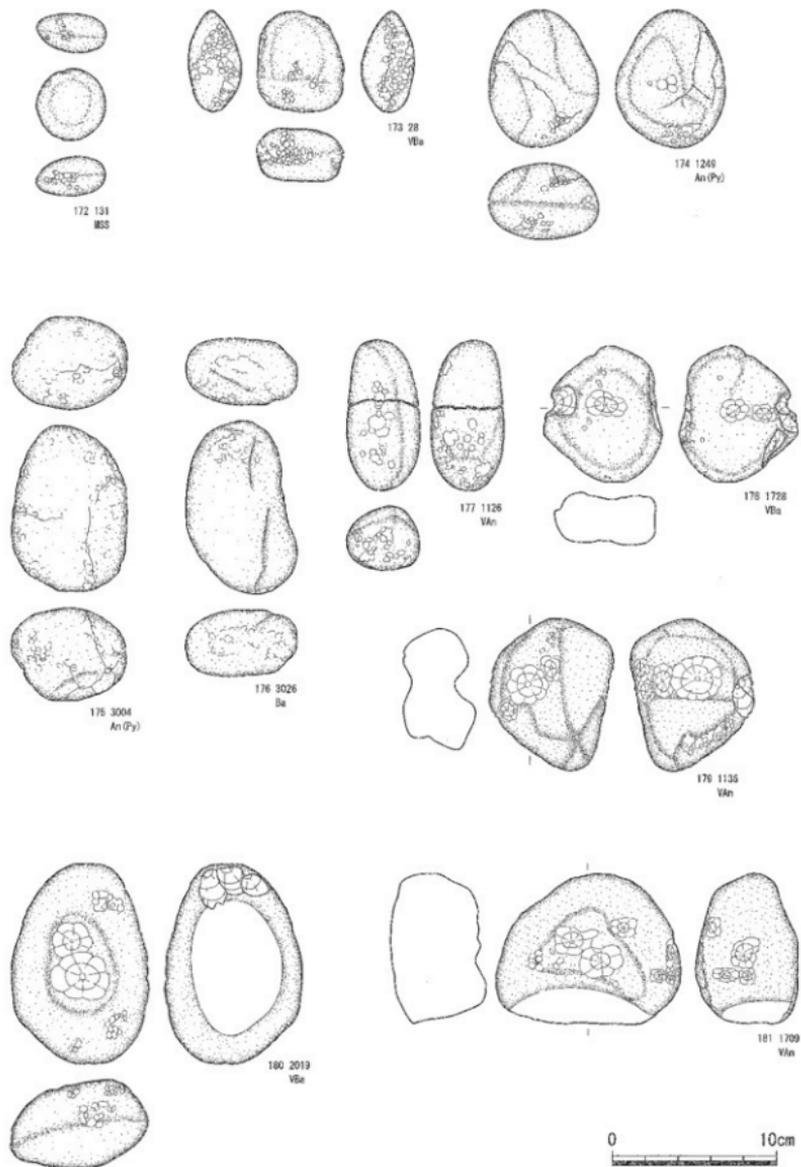
第72図 古木戸A遺跡 縄文石器5 (打製石斧1)



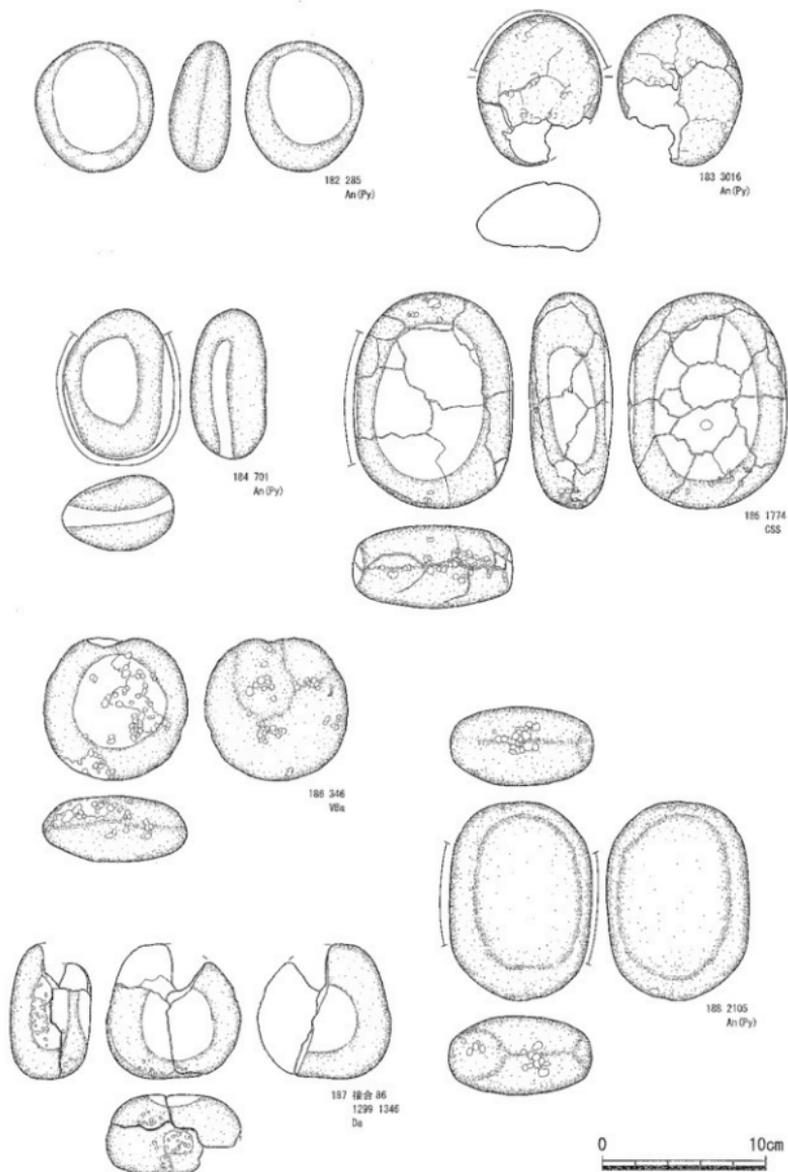
第73図 古木戸A遺跡 縄文石器6 (打製石斧2 石錘)



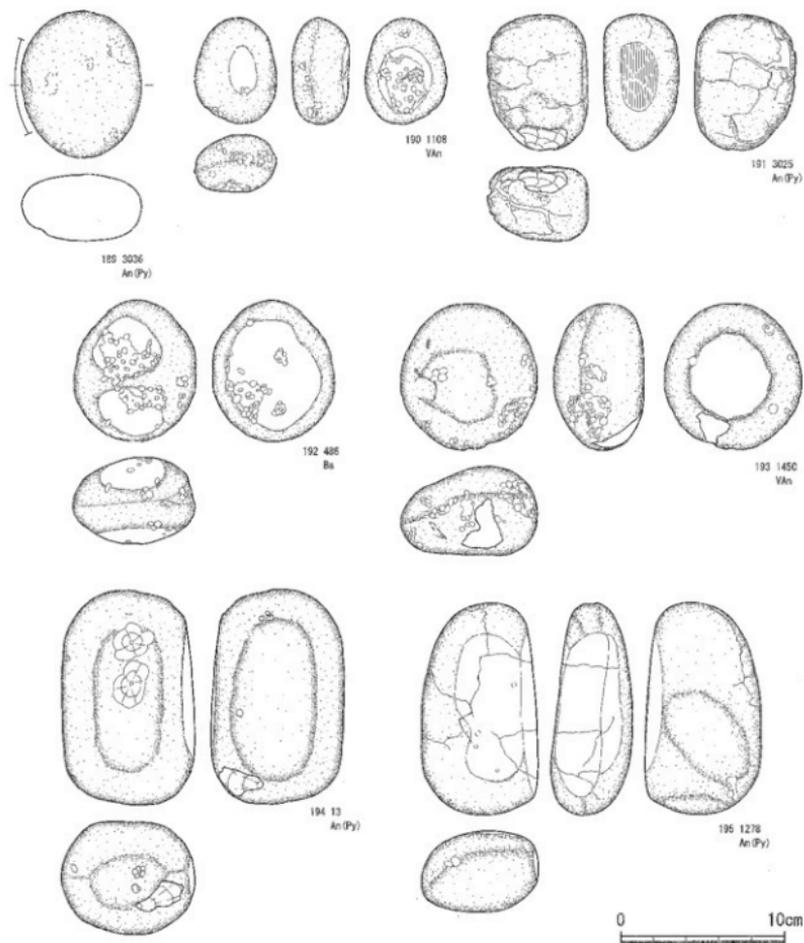
第74圖 古木戸A遺跡 縄文石器7 (磨器)



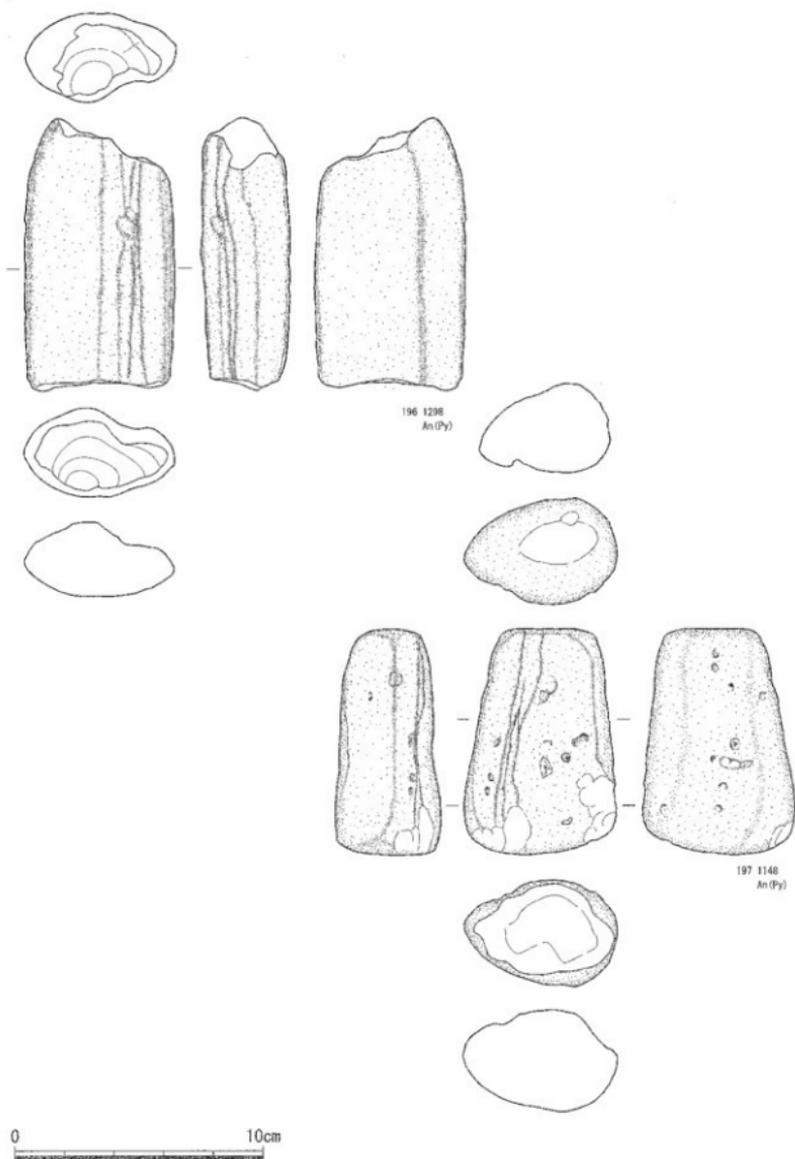
第75図 古木戸A遺跡 縄文石器B (鼓石 凹石)



第76図 古木戸A遺跡 縄文石器9 (磨石 磨敷石 1)



第77图 古木戸A遺跡 縄文石器10(磨斫石2)



第78図 古木戸A遺跡 縄文石器II (有溝砥石)

第28表 古木戸A遺跡 縄文石器観察表

図版 番号	器物 番号	材質	器種	標本 番号	グラフ	石材	出土地	遺構名	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	刃長 (cm)	Y径 (cm)	Z径 (cm)	備考
114	2076	穴部遺	ZN	X-24	Hor	(4.11)	(4.40)	1.28	0.75	-92509.31R			22524.299	141.613		
115	731	有爪張網石	FB	Z-21	Hor	(3.15)	(4.84)	1.5	0.48	-92506.439			23091.037	166.004		
116	2028	石鏃	ZN		KZOB	(0.7)	(2.1)	0.5	0.85							
117	1754	石鏃	KU	W-34	Ob	KZOB	0.9	2.48	1.42	0.31	-92577.444		22520.587	141.187		
118	1549	石鏃	KU	Z-35	Ob	KZOB	(0.6)	(1.68)	(1.83)	0.31	-92541.747		22440.041	144.844		
119	1573	石鏃	KU	Y-34	Ob	KZOB	(0.8)	(1.49)	1.78	0.38	-92557.431		22535.287	133.244		
120	1611	石鏃	Ob		KZOB	(0.6)	1.3	1.44	0.36	-92533.17			22523.17	145.665		
121	658	石鏃	AN	Y-23	Ob	KZOB	(0.4)	(1.28)	1.49	0.34	-92542.577		22527.216	140.91		
122	11	石鏃	AN	AA-25	Ob	KZOB	0.6	1.52	1.58	0.40	-92539.371		22537.468	145.023		
123	1799	石鏃	KU	W-24	Ob	KZOB	0.2	1.01	1.00	0.29	-92574.111		22577.314	141.95		
124	1720	石鏃	KU	W-24	Ob	KZOB	(0.7)	2.02	1.26	0.33	-92575.92		22575.802	144.278		
125	2094	石鏃	YL	X-22	Ob	KZOB	(6.5)	(1.97)	(1.82)	0.32	-92541.547		22514.265	143.905		
126	691	石鏃	AN	W-23	Ob	KZOB	(0.4)	(1.94)	(1.62)	0.33	-92573.392		22526.916	142.037		
127	772	石鏃	FB	Z-21	Ob	SWHD	0.3	1.18	1.44	0.31	-92545.502		22536.033	146.373		
128	1356	石鏃	FB	AB-20	Ob	SWHD	(0.3)	(1.85)	(1.20)	0.19	-92529.501		22136.243	146.964		
129	2148	石鏃	不明		Ob	SWHD	0.5	1.63	1.79	0.28						
130	2079	石鏃	ZN	Y-23	Ob	SWHD	(1)	(2.47)	(1.81)	0.38	-92556.364		22528.481	143.37		
131	222	石鏃	FB	AA-21	Ob	SWHD	(0.2)	1.34	(0.91)	0.25	-92529.107		22625.5	147.142		
132	141	石鏃	FB	AB-21	Ob	SWHD	0.5	1.79	1.32	0.36	-92528.241		22504.656	148.287		
133	1896	石鏃	KU	X-24	Ob	SWHD	(0.3)	(1.62)	(0.84)	0.29	-92567.108		22576.048	142.022		
134	245	石鏃	FB	AB-21	Ob	SWHD	0.5	1.58	1.23	0.36	-92522.508		22506.151	148.905		
135	261	石鏃	FB	AA-22	Ob	SWHD	(0.5)	2.38	(1.36)	0.29	-92511.606		22170.772	148.285		
136	1788	石鏃	KU	W-23	Ob	WDYN	(0.3)	1.30	1.18	0.22	-92529.204		22529.059	141.162		
137	1245	石鏃	FB	AA-22	Ob	HNTU	(0.8)	(2.32)	(1.65)	0.45	-92524.754		22513.650	147.867		
138	191	有爪張網石	FB	AC-21	Ob	AGKT	(1.2)	(1.89)	1.84	0.54	-92512.208		22529.784	144.545		
139	693	有爪張網石	FB	AC-21	Ob	AGKT	(0.9)	(2.38)	1.53	0.32	-92511.902		22503.649	140.105		
140	309	石鏃	FB	Y-21	Hor	(0.92)	2.24	(1.73)	0.33	-92522.245		22526.923	145.259			
141	2061	石鏃	ZN	Z-26	Hor	0.56	1.92	1.37	0.31	-92546.706		22550.817	144.133			
142	1751	石鏃	KU	X-22	SS	0.8	2.21	1.58	0.36	-92558.373		22521.51	142.732			
143	1767	石鏃	KU	W-24	SS	0.5	2.12	0.93	0.15	-92578.740		22532.188	141.260			
144	2001	三層石鏃	FB	Y-24	Hor	1.04	1.96	2.14	0.43	-92558.259		22536.205	142.992			
145	1648	三層石鏃	KU	Y-24	Hor	5.97	3.58	3.19	0.78	-92557.47		22536.755	143.244			
146	2139	石鏃	KU	X-22	SS	3.48	3.39	1.51	0.78	-92571.976		22199.59	143.839			
147	482	石鏃(穴部遺)	AN	W-24	Hor	11.07	3.59	4.7	0.89	-92578.629		22532.758	141.428			
148	564	エンドスタイルバー	FB	AA-21	Hor	48.22	6.12	5.34	1.8	-92535.595		22504.300	147.300			
149	377	マイクロステイルバー	FB	AB-22	FSS	16.7	7.42	2.918	0.7	-92524.644		22512.972	149.202			
150	1088	マイクロステイルバー	AN	V-22	Sh	25.4	7.62	3.388	0.79	-92542.402		22529.245	141.183			
151	1333	マイクロステイルバー	AN	W-24	Hor	7.9	3.69	5.9	1.3	-92571.336		22521.911	142.011			
152	2142	標石(有爪)	不明		Ob	KZOB	(2.2)	(2.36)	(3.3)	0.83	-					
153	672	標石(有爪)	AN	W-24	Ob		1.5	2.03	1.62	0.67	-92575.876		22523.112	141.804		
154	2029	標石(有爪)	FB	W-26	Ob		2.7	2.24	1.68	1.02	-92575.524		22516.999	142.271		
155	1575	標石(有爪)	KU	X-24	Ob		1.5	2.32	1.52	0.59	-92565.918		22526.158	142.599	80	
156	2138	標石(有爪)	不明		Ob		5.8	3.2	1.72	1.01	-					
157	43	石鏃	AN	Z-24	Ob	KZOB	22.7	5.92	2.54	1.89	-92541.921		22525.756	145.429	80	
157-1	2137	F	不明		Ob		1.3	2.35	1.46	0.34	-					88
157-2	679	石鏃	AN	W-24	Ob	KZOB	30.4	4.25	3.61	3.28	-92575.10		22535.418	141.24	88	
158	1229	石鏃	AN	W-24	Ob		10.9	5.71	1.4	1.4	-92575.665		22531.791	141.833		
159	1046	石鏃	AN	AA-27	Hor	518.2	8.98	7.4	3.6	-92534.186		22520.299	146.32			
160	1749	打製石鏃	KU	X-24	MSS	75.4	10.21	4.77	1.2	-92564.812		22528.881	142.564			
161	2007	打製石鏃	鹿斑		Sh	(23.4)	(4.411)	5.49	1.92	-						
162	67	打製石鏃	FB	Y-21	FSS	(75.5)	(8.998)	4.19	1.53	-92569.232		22521.388	145.543			
163	1115	打製石鏃	AN	W-24	FSS	77.5	5.712	4.90	1.958	-92578.267		22522.944	141.606			
164	1982	打製石鏃	FB	X-24	FSS	(75.5)	(9.131)	4.37	1.679	-92568.118		22528.481	142.265			
165	745	打製石鏃	AN	W-24	Sh	(88.3)	(7.618)	4.662	2.259	-92578.174		22520.075	141.817			
166	1062	打製石鏃	AN	V-22	Sh	(71.5)	(11.71)	4.391	1.11	-92551.416		22523.708	141.652			
167	12	打製石鏃	AN	AA-27	Sh	(118.4)	(19.48)	6.379	1.8	-92558.044		22589.445	145.253			
168	20	打製石鏃	AN	Z-24	An(Fy)	(196.8)	(10.68)	6.54	2.38	-92540.633		22523.137	145.676			
169	1675	石鏃	KU	V-24	Hor	94.3	6.805	5.9	1.65	-92580.87		22526.531	141.657			
170	1396	標石	FB	Z-20	An(Fy)	454	10.015	8.37	4.03	-92549.267		22519.671	146.427			
171	1661	標石	KU	X-24	An(Fy)	96.1	10.6	13.82	5.3	-92557.751		22527.468	142.368			
172	151	標石	FB	AA-22	MSS	66.2	4.4	4.25	2.4	-92537.196		22512.101	147.739			
173	58	標石	AN	Z-25	VBa	149.4	6.23	5.3	3.25	-92541.964		22542.384	145.657			
174	1249	標石	AN	AA-22	An(Fy)	363.3	8.48	6.77	4.65	-92538.62		22510.965	147.479			
175	2038	標石	FB	Z-20	An(Fy)	379	10.8	7.04	5.01	-92535.526		22522.235	146.7			
176	2036	標石	-	Z-20	Ba	375.2	10.631	6.77	4.65	-92548.564		22533.413	144.881			
177	1198	標石	AN	W-24	VAn	166.5	8.25	4.5	3.9	-92575.176		22524.152	141.89			
178	1728	標石	KU	V-21	VBa	177.3	8.3	7.15	3.46	-92609.703		22521.619	141.169			
179	1736	標石	AN	W-24	VAn	89.7	9.33	7.48	5.49	-92573.156		22522.842	142.023			
180	2031	標石+四釘	AN	Y-24	VBa	699.9	19.3	8.45	6.46	-92559.138		22517.808	144.249			
181	1709	標石	KU	X-24	VAn	578.5	11.1	9.25	6.16	-92564.227		22525.877	142.033			
182	285	標石	FB	AA-21	An(Fy)	345.3	8	7.3	3.65	-92530.399		22521.808	147.694			
183	2016	標石	-	AA-22	An(Fy)	(204.3)	9.964	7.63	4.253	-92530.613		22513.025	148.371			
184	701	標石	AN	AA-20	An(Fy)	382	9.2	7.42	4.5	-92535.92		22518.025	146.876			
185	1771	標石	KU	W-24	CSS	977.5	13.05	8.75	5.05	-92578.953		22524.07	141.81			
186	346	鹿斑石	FBa	AA-25	VBa	379.5	8.8	8.75	4.05	-92536.746		22549.685	145.136			
187	1299	鹿斑石	FB	Z-21	Da	78.2	8.97	4.90	3.25	-92649.234		22506.827	145.632	85		
187	1346	鹿斑石	FB	Z-21	Da	198.9	8.90	5.88	4.90	-92541.465		22527.628	146.676	85		
188	2105	鹿斑石	FB	Y-22	An(Fy)	810.7	12.2	8.7	4.85	-92553.625		22518.943	145.198			
189	3058	鹿斑石	-	Z-20	An(Fy)	401.8	9.041	7.312	4.392	-92645.229		22494.241	145.112			
190	1108	鹿斑石	AN	W-24	VAn	115	6.05	5	3.52	-92579.085		22521.843	141.514			
191	2025	鹿斑石	-	Z-21	An(Fy)	225.8	8.375	6.102	4.631	-92545.666		22526.577	146.339			
192	486	鹿斑石	FB	AC-22	VAn	349	9.2	7.45	5.3	-92551.759		22512.146	145.976			
193	1650	鹿斑石	FB	Z-20	VAn	450.1	9.04	8.3	5.5	-92543.724		22516.025	145.357			
194	13	鹿斑石	AN	AA-27	An(Fy)	869.1	13.23	8.18	6.95	-92625.288		22500.324	145.433			
195	1278	特殊鹿斑石	FB	Z-21	An(Fy)	(345.1)	(11.5)	6.91	3.52	-92641.533		22520.342	146.724			
196	1298	特殊石(有爪)	FB	Z-21	An(Fy)	(345.1)	(11.5)	6.91	3.52	-92645.269		22524.717	146.517			
197	1148	特殊石(有爪)	AN	W-24	An(Fy)	366.2	9.22	6.92	4.56	-92675.394		22531.168	141.798			

## 第V章 古木戸B遺跡

## 第1節 基本層序

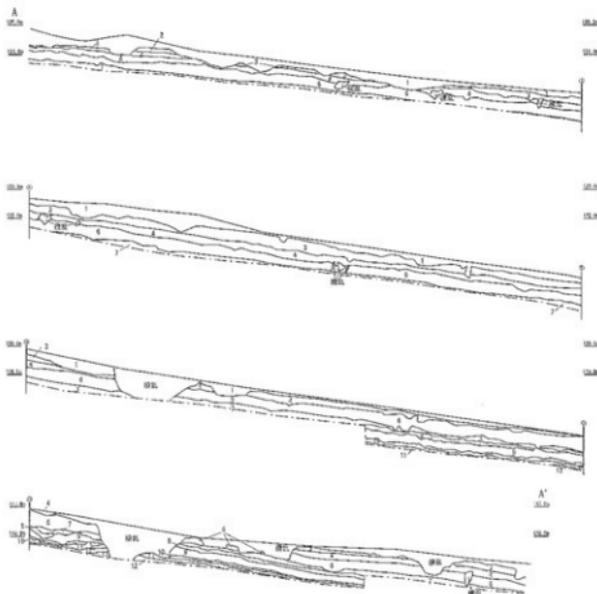
本遺跡は、愛鷹山南西麓の標高約115～125mの北東から南西に延びる尾根の東端に立地している。遺跡が立地する尾根は、幅約30m、斜度約10度の緩やかな斜面となっている。尾根の先端は、遺跡の南西約250m（東名高速道路付近）で浮島ヶ原が広がる平野部をのそんでいる。調査区の西側約60mには比高差約12mの小さな谷が入っており、古木戸A遺跡の立地する尾根に続いている。一方、東側は、南北にのびる比高差約70mの大きな谷が入っており、地形的に区別される。土層堆積については、農道敷設及び耕作による土地改変のため、黒色土、暗褐色土層、栗色土層の堆積は良好とは言えない状況であり、調査区内で安定して確認できるのは富士黒土層以下の土層であった（第79図）。



- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| 1 表土            | 11 第Ⅲスコリア帯黒色帯1  |
| 2 暗褐色土          | 12 第Ⅲスコリア帯スコリア2 |
| 3 栗色土層          | 13 第Ⅲスコリア帯栗色帯2  |
| 4 富士黒土層         | 14 第Ⅲスコリア帯スコリア3 |
| 5 海砂層           | 15 第Ⅲスコリア帯スコリア4 |
| 6 休耕層           | 16 第Ⅲスコリア帯スコリア5 |
| 7 休耕層下栗色帯→第Ⅰ黒色帯 | 17 第Ⅰ栗色帯→第Ⅰ栗色帯  |
| 8 ニセローム層        | 18 第Ⅳスコリア帯      |
| 9 第Ⅱ栗色帯→第Ⅱ栗色帯   | 19 中粒ローム層       |
| 10 第Ⅲスコリア帯スコリア1 |                 |



基本土層柱状図



第79図 古木戸B遺跡 土層図

## 第2節 旧石器時代の調査

概要 旧石器時代の遺構・遺物は第Ⅲスコリア帯～休場層で検出された。遺構は、第Ⅲスコリア帯～第Ⅲ黒色帯、第Ⅰ黒色帯、休場層で石器ブロック、礫群などが確認されている（第29表）。遺物は石器、礫が各層から出土している（第30表）。

## 1 第Ⅲスコリア帯～第Ⅲ黒色帯の遺構・遺物

## (1) 概要

調査区の南側、E-33～34、F-33～34グリッド付近を中心に第Ⅲスコリア帯黒色帯2から第Ⅲ黒色帯の層位で検出された石器群である。複数層にわたるが、厚さ5～15cm程度の第Ⅲスコリア帯スコリア1を挟んで接合関係を持つ資料が認められ、平面分布もほぼ一致することから一連の遺物群と認識した。石器の平面分布から3つの石器ブロックを認定した。剥片及び剥片石器の99%が黒曜石（産地同定ができたものは全て諏訪ヶ台産）であり、黒曜石を主体とした石器群である。ツールは、ナイフ形石器、スクレイパー、楔形石器、敵石が確認できる。

## (2) 遺構

資料整理の段階で分布状況をもとに石器ブロックを3箇所認定した。第Ⅲスコリア帯スコリア2から第Ⅲ黒色帯にかけて出土しており、平面分布は近接して認められる。また、立面分布では第Ⅲスコリア帯スコリア1での出土がなく、その上下層で分布が分かれる傾向があるが、同層を挟んだ接合関係も認められた。各石器ブロックの石材はいずれも類似しており、母岩及び個体の識別は困難であり、ブロック間、ブロック内外での接合関係も認められた。

一方、礫は散漫な出土状況を示しており、石器と同様第Ⅲスコリア帯スコリア1で出土量が著しく減じるという傾向は認められるが、礫群として認定するまでには至らなかったため、平面分布図と層位別の石材組成、観察表を提示するとともに、

石器ブロック3 F-33グリッドの第Ⅲスコリア帯黒色帯1で検出された。後述する石器ブロック4に北接する。他ブロックが複数の土層にまたがり、土層間での接合関係が認められるのに対し、本ブロックは単一土層に収まる。南北1.76m、東西0.99m、比高差約0.37mの範囲に29点（総重量5.8g）の石器が集中して出土している。二次加工剥片1点、使用痕がある剥片2点、剥片20点、チップ6点で構成され、ツールは確認されていない。全て黒曜石製である。石器の接合関係は認められなかった。

石器ブロック4 E-33～F-33グリッドの第Ⅲスコリア帯黒色帯1及び第Ⅲ黒色帯で検出された。石器ブロック3に南接し、石器ブロック5に西接する。東西約6.08m、南北約4.89m、比高差0.88mの範囲に79点（総重量204.4g）の石器が集中して出土している。ナイフ形石器1点、コアスクレイパー1点、

第29表 古木戸B遺跡 旧石器時代遺構一覧

類別	遺構名	層位	グループ	規模(単位:m)			備考
				長さ	幅	比高差	
石器ブロック	SB11	休場層	J-36	7.01	4.48	1.60	
	SB12	第Ⅰ黒色帯	E-33 F-33	1.83	1.60	0.10	
	SB13	SC3～BB3	F-33	1.76	0.99	0.37	
	SB14	SC3～BB3	E-33 F-33	6.98	4.89	0.88	
	SB15	SC3～BB3	E-33 F-34	7.51	3.99	0.94	
礫群	RC001	休場層	G-34	0.99	0.17	0.10	
	RC002	休場層	G-34	2.74	2.21	0.53	
	RC004	休場層	E-33	1.12	0.79	0.21	
	RC005	休場層	E-33	1.15	0.46	0.17	
	RC006	第Ⅰ黒色帯	F-33 F-33	2.66	1.79	0.58	

第30表 古木戸B遺跡 旧石器組成表

層位/層位別	ナイフ形石器	スクレイパー	楔形石器	敵石	石器										合計		
					剥片	剥片石器	片断	U形	ナイフ	スクレイパー	楔形石器	敵石	その他	未定			
第Ⅲスコリア帯スコリア2	6				1												3
休場層					1		1										2
BB0	12	1		11	1	232	2	1	51	10							448
BB1						2		2									7
BB2					1	5											88
BB3																	2
SC1								1									24
SC2								1									23
BB3			1	1	4	56	10	12	1	6	1						283
SC1																	2
SB1	1			1	1	88	7	11	1	13							74
SC2						2											90
SB2																	112
層位不明																	1
合計	19	1	0	1	2	17	1	370	28	27	3	70	1	11	1	1	1110

楔形石器1点、石核2点、調整剥片2点、二次加工剥片13点、使用痕がある剥片8点、剥片44点、チップ7点で構成され、剥片1点、石核1点をのぞき全て黒曜石製である。当該石器群におけるツール5点中、3点が本ブロックから出土している。第Ⅲ黒色帯と第Ⅲスコリア帯黒色帯1の間で石器ブロック内及びブロック外との接合関係があり、石器ブロック3資料との接合関係も認められる。両極剥離をうかがわせる資料が一定量存在する。

石器ブロック5 E-33~34グリッドの第Ⅲスコリア帯スコリア2~第Ⅲ黒色帯で検出された。石器ブロック4に東接する。北東~南西約7.51m、北西~南東約3.99m、比高差0.94mの範囲に86点(総重量252.0g)の石器が集中して出土している。石核3点、二次加工剥片10点、使用痕がある剥片9点、剥片58点、チップ5点、敲石1点で構成され、ツールは敲石の1点のみである。中粒砂岩製の敲石を除き全て黒曜石製で占められる。第Ⅲ黒色帯中において石器ブロック内・外で接合関係があり、石器ブロック2資料との接合関係も認められる。両極剥離をうかがわせる資料が一定量存在する。

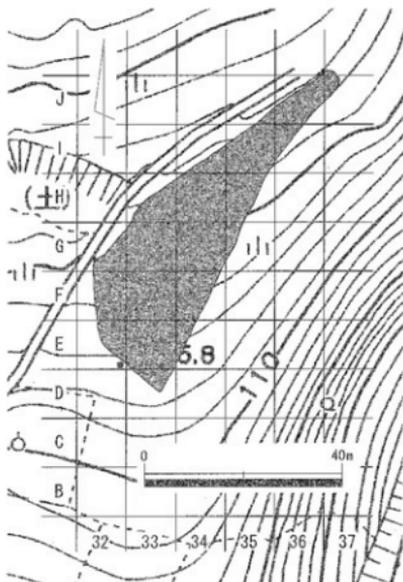
### (3) 遺物

石器ブロック3~5及びブロック外から出土している。石器ブロック4・5、及びブロック外出土の石器について図示した。なお、資料の大半は黒曜石製(諏訪星ヶ台群)であるため、石材の記述はその他石材の場合だけ記述する。また、接合資料(折断資料は除く)は5例を図示したが、石器ブロック間及び内外での接合関係が認められるため、剥片等個別実測図は遺構別に、接合状態の実測図は末尾に図示した。

石器ブロック4 1は礫面を残す厚みのある幅広の剥片を素材とした二側縁加工のナイフ形石器で1点出土している。剥片素材の打点側に対向剥離によるブランティングを施している。また、右側線下半は折断面をブランティングのかわりとしている。器体上半を欠損しており、全長や刃部の形状は不明である。

2は打面転移を繰り返し小型化した盤状の石核を利用し、下端に急角度の剥離により刃部を作出したコアスクレイパーと判断した。1点が出土している。上端及び表面右に礫面を残している。

3は表面に礫面を残す剥片の右側面に両極剥離が認められ、右下端に使用に伴う若干の小剥離(潰れ)



第80図 古木戸B遺跡 調査区とグリッド配置図

第31表 古木戸B遺跡 旧石器組成表

SCⅡ-DB遺跡 遺物/石材・原産地

	石材					合計
	S W H D	Ob 塊状不可	尖 分研	H O P	M S S	
ナイフ形石器	1					1
コアスクレイパー	1					1
調整剥片	2					2
楔形片断	2					2
石核	4			1		5
RP	25					25
UP	23					23
敲石			4	51	1	1
剥片	70	4	51	1		126
チップ	1		13			14
合計	129	4	69	2	1	205

SCⅡ-DB遺跡 遺物/石材・原産地

	石材					合計
	S W H D	Ob 塊状不可	尖 分研	H O P	M S S	
BB3	51	3	20	2	1	80
3B1	73	1	49			123
3S2	2					2
合計	126	4	69	2	1	202

第32表 古木戸B遺跡 旧石器 SCⅢ～BBⅢ 石器ブロック組成表

石器ブロック3

器種/石材・産地別

		器種				合計	重量 (g)
		剥片	R/F	U/F	チップ		
石材	SWHD	12	1	2		15	5.4
	未分析	8				6	14
	合計	20	1	2	6	29	5.8

器種/層位別

		器種				合計	重量 (g)
		剥片	R/F	U/F	チップ		
層位	BB3	20	1	2	6	29	5.8
	合計	20	1	2	6	29	5.8

石器ブロック4

器種/石材・産地別

		器種										合計	重量 (g)	
		ナイフ削石器	コアスクリュー	楔形石器	石核	剥片	R/F	U/F	チップ	合計	重量			
石材	SWHD	1	1	1	1	2	18	13	8			45	96.6	
	機能不可												2	0.2
	未分析										23		7	30
	Her				1	1						2	106.9	
合計	1	1	1	2	2	44	13	8	7	79	204.4			

器種/層位別

		器種										合計	重量 (g)
		ナイフ削石器	コアスクリュー	楔形石器	石核	剥片	R/F	U/F	チップ	合計	重量		
層位	BB3		1		2	15	10	3	1	5	37	169.4	
	BB1	1		1		29	3	6	1	42	35.0		
	合計	1	1	1	2	44	13	8	2	79	204.4		

石器ブロック5

器種/石材・産地別

		器種					合計	重量 (g)
		石核	剥片	R/F	U/F	チップ		
石材	SWHD	3	38	10	9	1	61	86.6
	機能不可						2	0.2
	未分析			18			4	22
	MSS		1				1	154.4
合計	3	1	68	10	9	6	86	252.0

器種/層位別

		器種					合計	重量 (g)
		石核	剥片	R/F	U/F	チップ		
層位	BB3	2	1	19	7	5	34	207.7
	BB1	1		37	3	4	5	50
	SS2			2			2	0.7
	合計	3	1	56	10	9	6	86

第33表 古木戸B遺跡 旧石器 SCⅢ～BBⅢ 礫組成表

BB2層

		器種		合計	重量 (g)
		有	無		
石材	As(Py)	18	93	111	719.2
	Fd	1	1	2	7.0
	合計	19	94	113	726.2

SS2層

		器種		合計	重量 (g)
		有	無		
石材	As(Py)	3	89	92	695.9
	Ba	1	1	2	12.0
	合計	4	90	94	707.9

BB3層

		器種		合計	重量 (g)
		有	無		
石材	As(Py)	29	173	202	1720.3
	Ba	6	10	16	154.0
	Ds	1	3	4	71.0
	LT	2	18	20	179.7
	Ta		7	7	65.0
	VAn	10	15	25	189.0
	VBa	3	8	11	157.0
合計	51	232	283	2565.0	

BB1層

		器種		合計	重量 (g)
		有	無		
石材	As(Py)	19	46	65	839.0
	Ba		5	5	31.0
	Ds		3	3	42.0
	LT		1	1	13.0
	合計	19	55	74	925.0

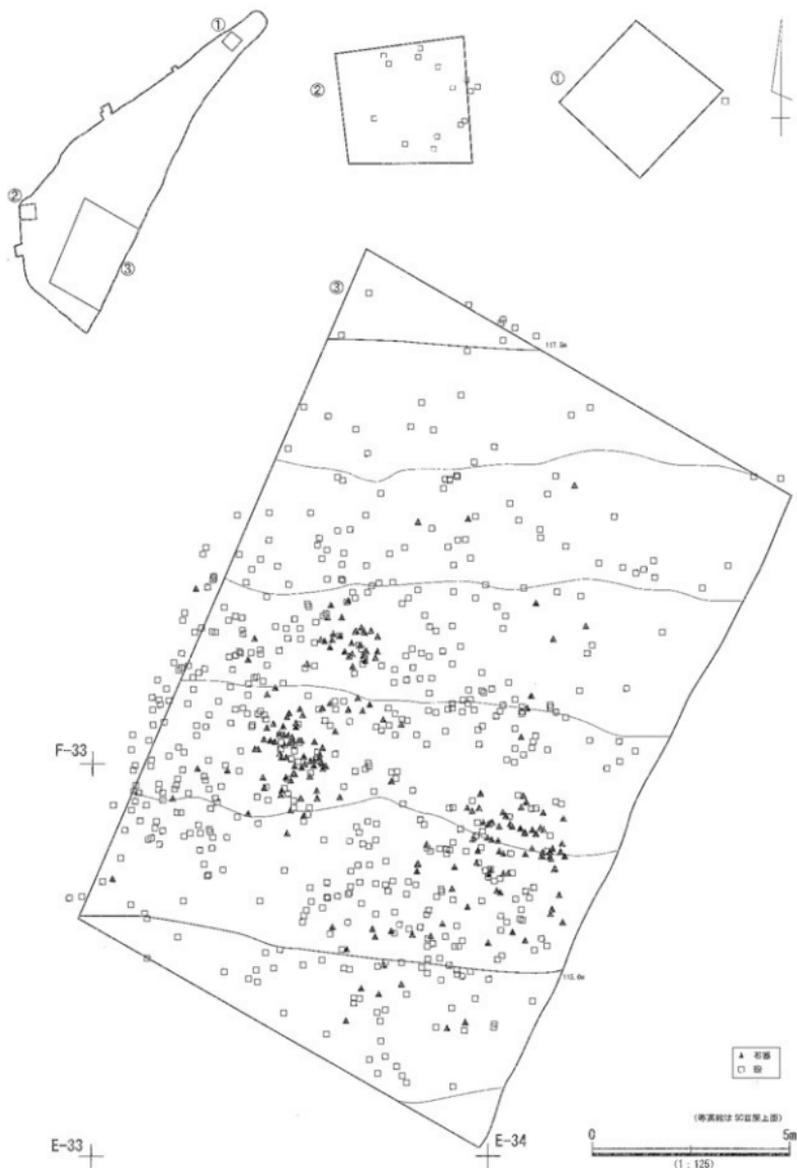
SS1層

		器種		合計	重量 (g)
		有	無		
石材	As(Py)		2	2	6.0
			2	2	6.0
	合計		4	4	12.0

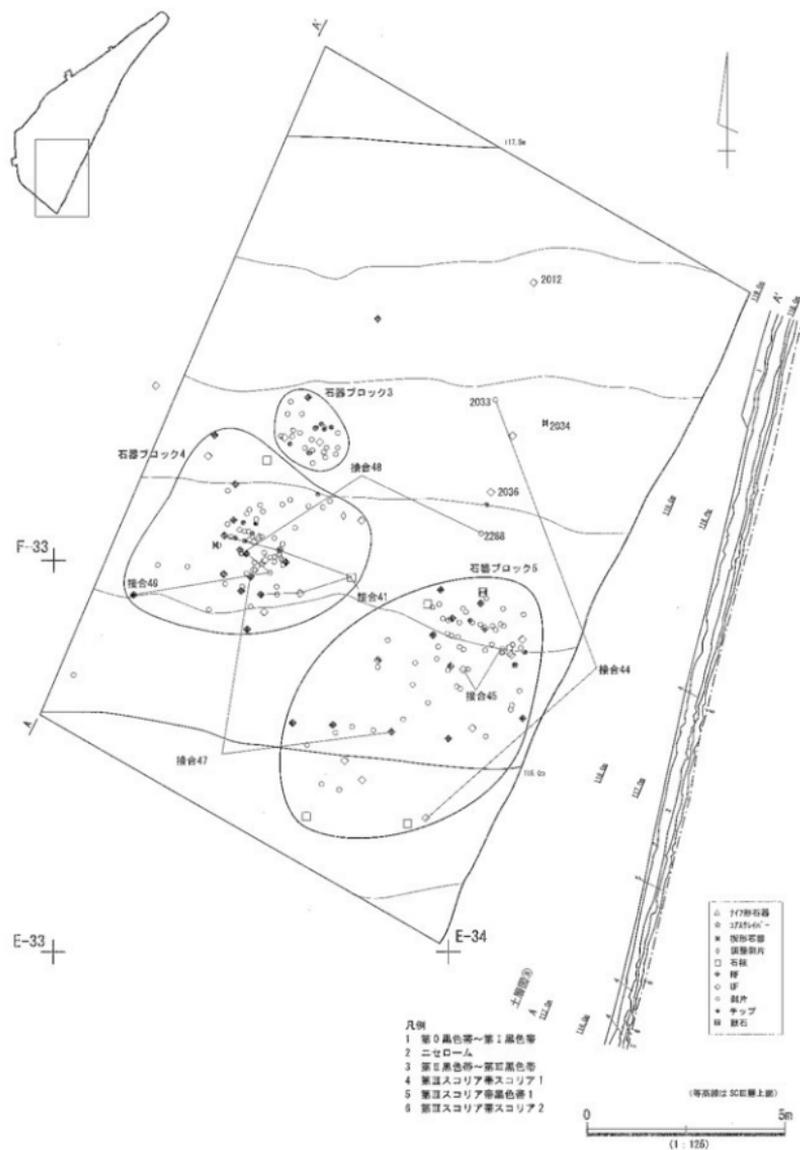
が認められることから楔形石器と判断した。1点出土している。下端面には刃器使用と見られる使用痕が認められる。

二次加工剥片は13点出土しており、8点を図示した。4・6・7・32-1・30-4は単殺または両設打面の石核から剥離したと考えられる縦長あるいはやや幅広く剥片に二次加工を加えるものである。4は表面上部に二次加工を施しており、左側縁には使用痕とみられる微細な剥離が認められる。6は両側縁に小剥離が認められるが、右側縁は表面主体、左側縁は裏面に向けて剥離を行っているようである。7は右側縁に小剥離が整然と連続している。左側縁も同様な剥離が行われているが、使用に伴う刃こぼれが多い。なお、表面にみられる上下方向からの剥離は端面の状況も勘案すると両極剥離によるものと考えられる。32-1は表面上端部の剥離を二次加工と判断した。石器ブロック5の二次加工剥片(32-2)と接合関係が認められる。30-4は表面中央に走る稜線に加工を施している。

5・33-3は折断等により剥片本来の形状が不明で不定形を呈する剥片に二次加工する剥片である。5は両側面からの両極剥離を加えたものである。33-3は異方向からの打撃が加えられた不定形の剥片

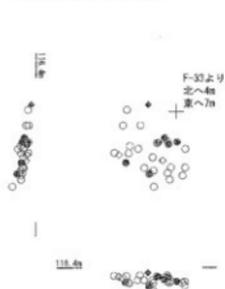


第81図 古木戸B遺跡 旧石器 第三スコリア帯～第三黒色帯 遺物分布図

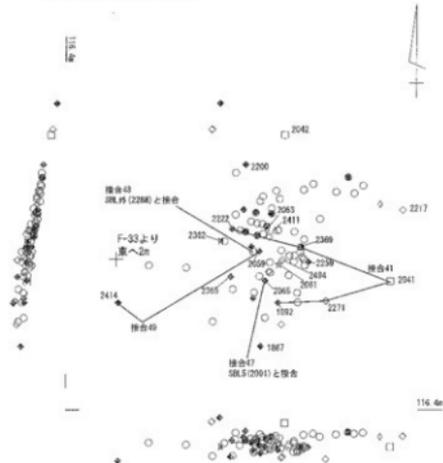


第82図 古木戸B遺跡 旧石器 第Ⅲスコリア帯～第Ⅲ黒色帯 石器分布図

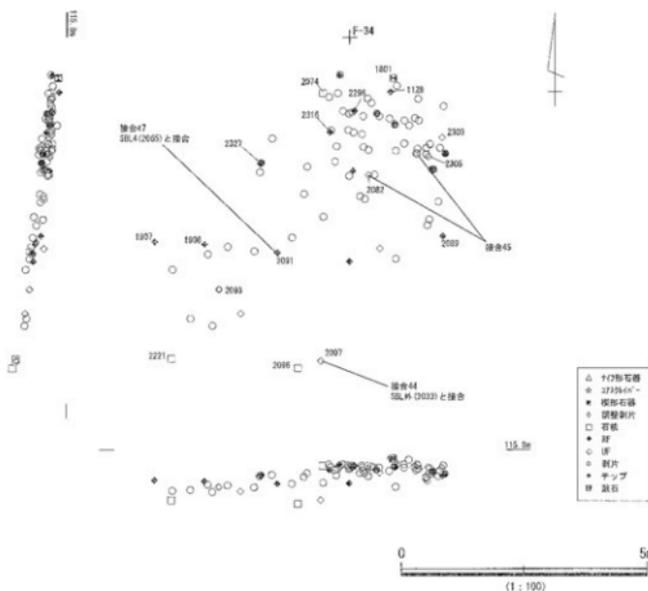
石器ブロック3 (SBL3)



石器ブロック4 (SBL4)

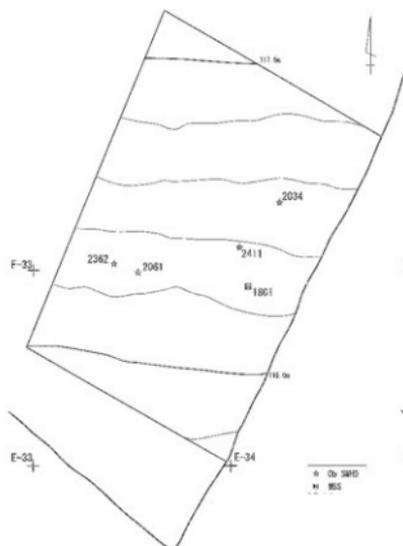


石器ブロック5 (SBL5)

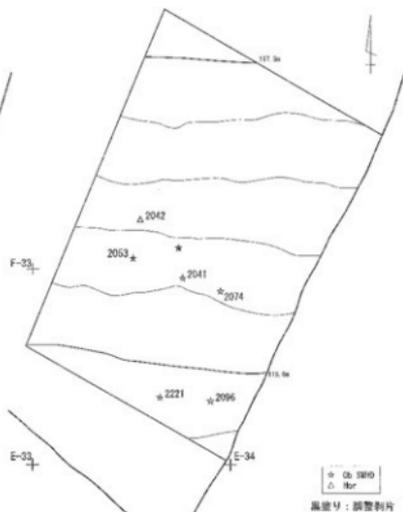


第83図 古木戸B遺跡 旧石器 第Ⅲスコリア帯～第Ⅲ黒色帯 石器ブロック

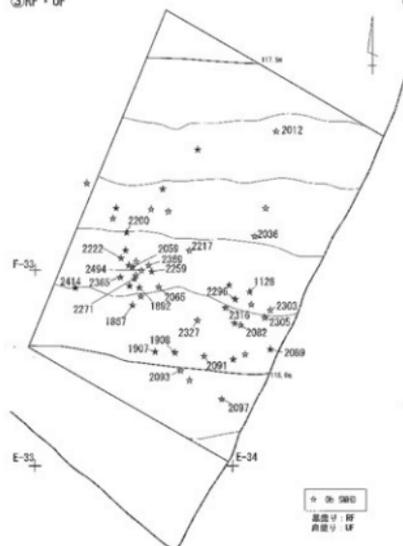
①ナイフ形石器・コブスクレパ - ・楔形石器・敲石



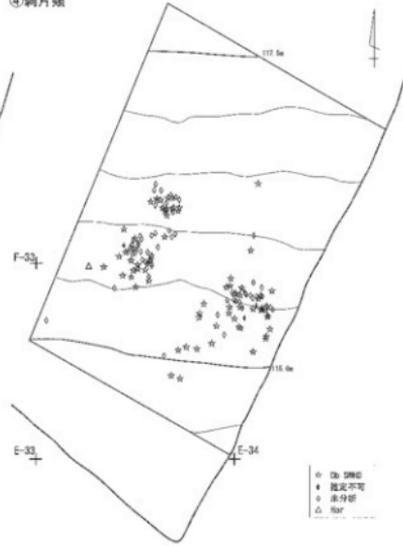
②石核・調整製片



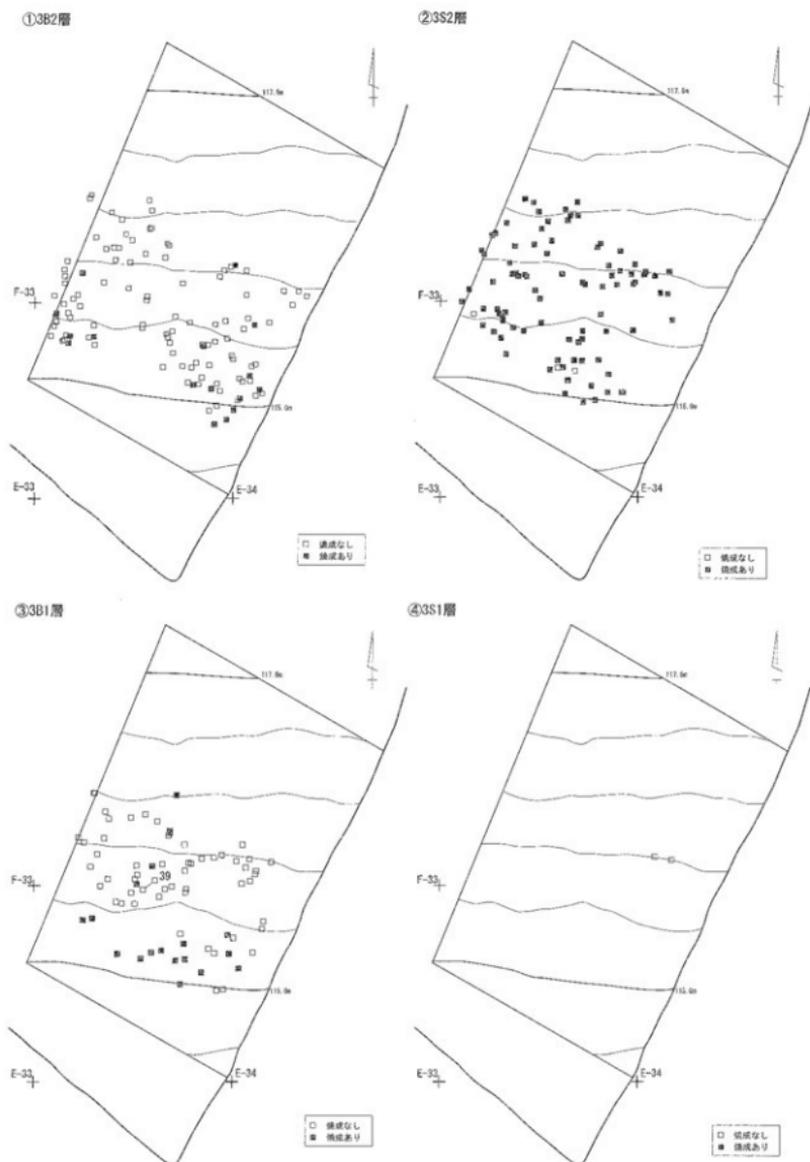
③RF・UF



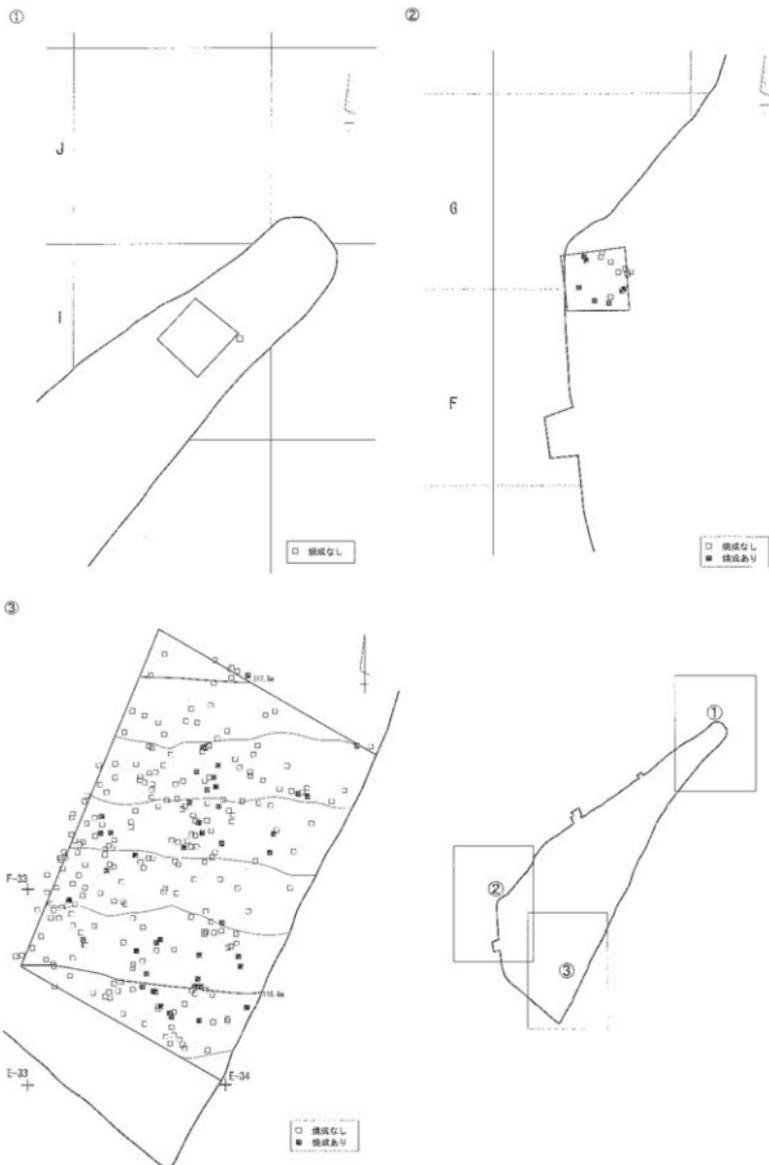
④剥片類



第84図 古木戸B遺跡 旧石器 第三スコリア帯～第三黒色帯 石器分布図



第85図 古木戸B遺跡 旧石器 第三スコリア帯～第三黒色帯 礫分布図



第86図 古木戸B遺跡 旧石器 第三スコリア帯～第三黒色帯 礎分布図

の右側縁に小剥離が認められる。

30-2は左側縁から下端にかけて微細な剥離が認められることから、二次加工剥片と判断した。ただし、石核(30-5)と接合関係にあり、後述する剥片剥離の状況を勘案すると、両極剥離に伴う面の潰れである可能性も考えられる。

使用痕がある剥片は8点出土しており、4点を図示した。8はやや縦長の剥片の左側縁に使用痕が認められる。表面には両極剥離が認められる。9は表面に数方向からの剥離が認められる縦長の剥片で、右側縁に使用痕が認められる。30-1・3は石核(30-5)と接合している資料で、側縁30-1、下端30-3にそれぞれ微細な剥離が認められる。

10は上面からの小剥離が表面に認められる調整剥片である。1点出土している。小剥片であり、調整対象がトゥールであるか石核であるかは今回の資料群からは判断しがたい。

33-1、34-1は小剥片で、剥片(33-4)、ブロック外の剥片(34-2)と接合関係が認められた。

30-5はやや幅広いの剥片を用いた両設打面石核である。剥片等4点と接合関係にあるため、詳細は接合資料の項目で触れる。11は本層石器群では数少ないホルンフェルス製の石核である。打面転移を繰り返した結果サイコロ状となった複設打面の石核で、現状では全長3.0cm程度の剥片を得ていたと考えられ、その大きさは本層石器群の主体をなす黒曜石製の剥片等とほぼ同大である。

石器ブロック5 楔形石器は1点出土している。27は両端に使用に伴う小剥離(潰れ)が認められ、表面にも両極剥離が認められる。

二次加工剥片は10点出土しており、7点を図示した。14-16・32-2は単設または両設打面の石核から得られたと考えられる剥片に加工を施す。14は上端の打点部付近に二次加工を施している。15は幅広いの剥片を用い、両側縁に小剥離を加えるものである。上端は折断面となっている。上下端からの両極剥離がうかがわれる。16はやや厚みのある細長の剥片を用い、下端に潰れを伴う上下からの両極剥離を行った剥片である。32-2はやや厚みがある細長の剥片を用い、右側縁上半に二次加工が認められる。石器ブロック4の二次加工剥片(32-1)と接合関係が認められる。

12は90度の打面転移により得られたと考えられるやや幅広い剥片に加工を施す剥片の右側縁に潰れを伴う二次加工が認められる。13・17は表面に複数方向からの剥離がうかがえ、表または裏面からの打撃による折断により剥片本来の形状が改変されている剥片に二次加工を加えるものである。13は下端部、17は表面に稜面を残す剥片を用い、上端、右側縁を折断面とし左側縁に小剥離を加えている。

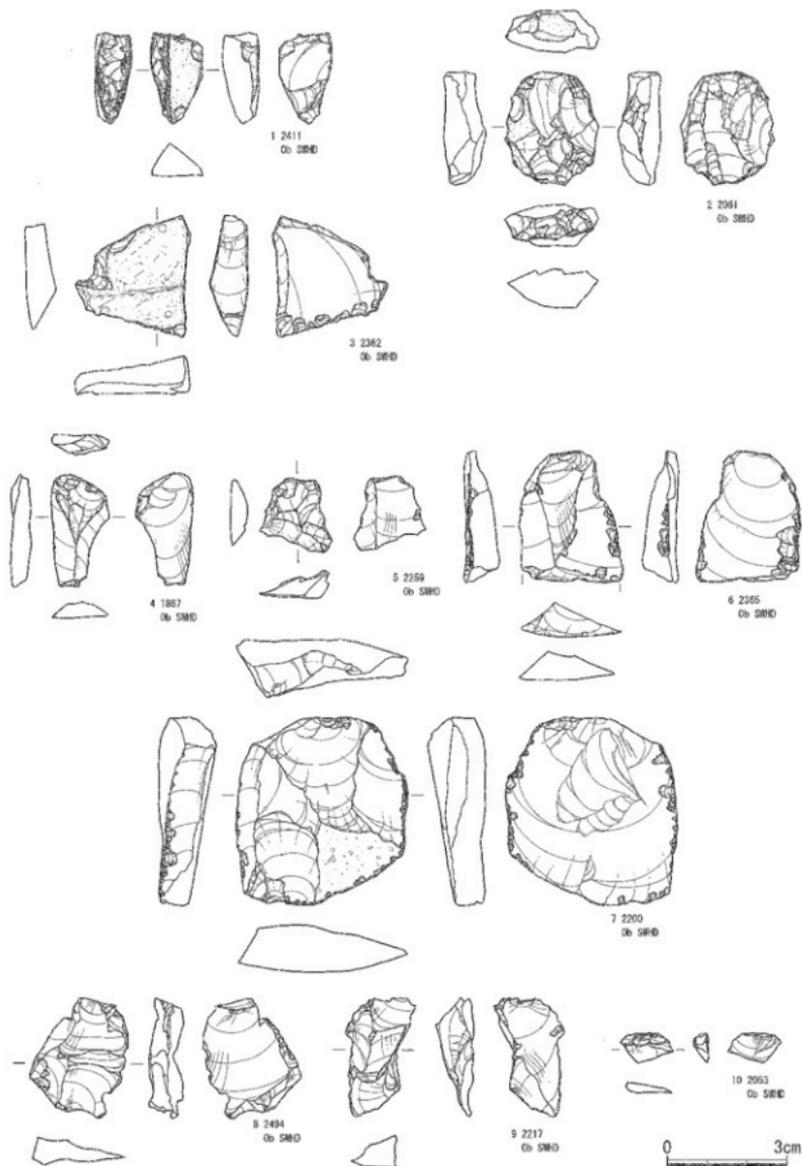
使用痕がある剥片は9点出土しており、6点を図示した。18-20は全長2.5-4.0cm程度の縦長剥片の両側縁に使用痕が認められるものである。21・22・31-2はやや幅広い剥片の側縁に使用痕が認められるものである。21は右側縁、22・31-2は両側縁に使用痕が認められる。

石核は、3点出土しており、全点を図示した。23は盤状を呈する単設打面の石核である。やや厚手の剥片の上面に打面を作出し、全長2.0cm程度の小型の剥片を得ている。24は盤状を呈する複設打面の石核である。まず、右側縁に打面調整を行い、裏面で全長3.0cm程度のやや幅広い剥片を剥離する。その後、90度の打面転移を行い、上面に打面調整を行い、表面で全長3.5cm程度の小型の縦長剥片を得ている。25は上端に打面が確認され、上下方向の両極剥離により表裏面で剥片を得ていたものと判断し石核とした。得られた剥片は最長でも全長2.2cm程度と小型である。

26は棒状の両端部に敲打痕が認められる中粒砂岩製の敲石である。敲打痕が多く使用頻度が高いことがうかがえる。

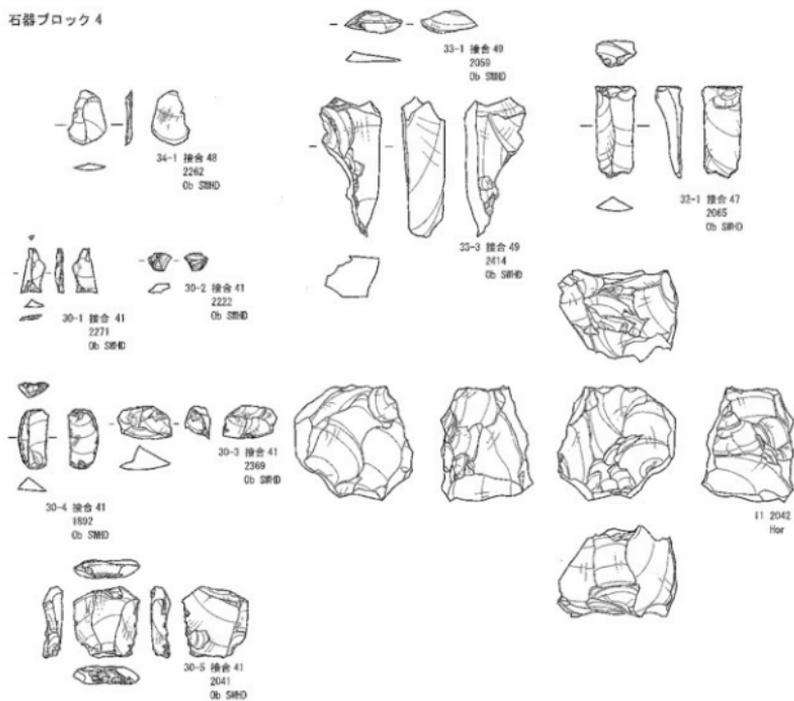
石器ブロック外 27は小型の剥片を用い、上下端に潰れを伴う小剥離が認められることから楔形石器と判断した。

28・29は使用痕がある剥片である。28は下半部を折断により失うが、29に類似したやや幅広い剥片素

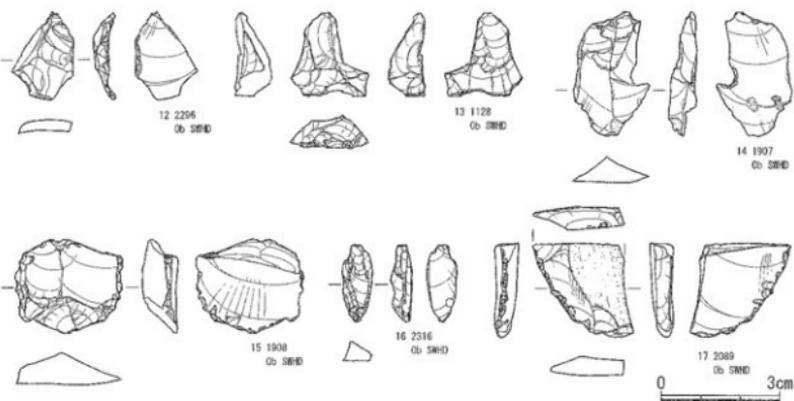


第87図 古木戸B遺跡 旧石器1 (石罫ブロック4-1)

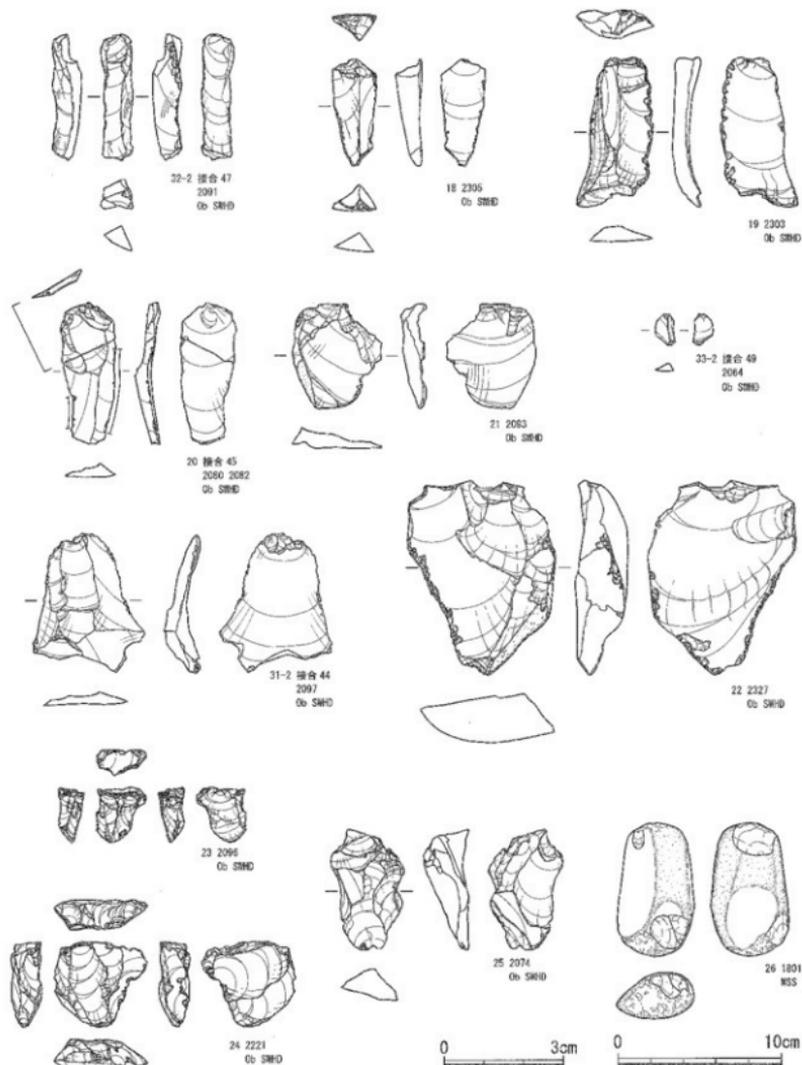
石器ブロック4



石器ブロック5



第88図 古木戸B遺跡 旧石器2 (石器ブロック4-2 石器ブロック5-1)

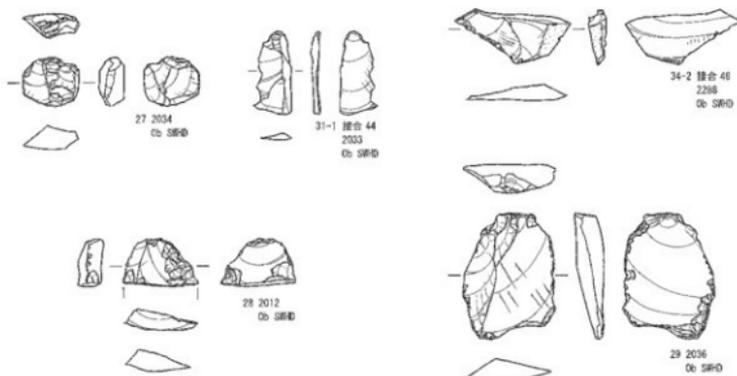


第89図 古木戸B遺跡 旧石器3 (石器ブロック5-2)

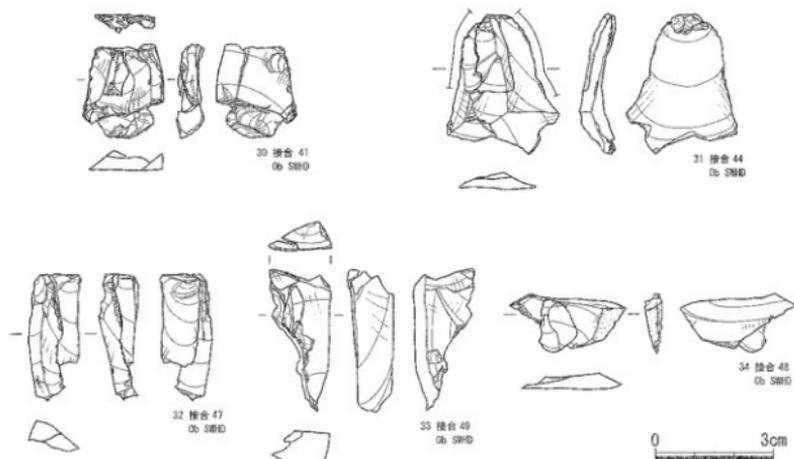
材と考えられる。両側縁に使用痕が認められる。右側縁の剥離は二次加工とし二次加工剥片と判断すべきかもしれない。29はやや幅広い剥片の両側縁に使用痕が認められる。接合関係は認められないものの、28・29は似通った形状を呈しており、一連の剥離作業で得られた剥片である可能性が高い。31-1、34-2は接合関係をもつ剥片である。31-1は石器ブロック5の使用痕がある剥片(31-2)と、34-2は石器ブロック4の小剥片(34-1)とそれぞれ接合関係にある。

**接合資料** 本石器群では石器ブロック間及び石器ブロック内外で接合関係が認められる使用が5例確認できた(折断部接合のぞく)ため、接合資料として一括記載する。

## ブロック外



## 接合資料

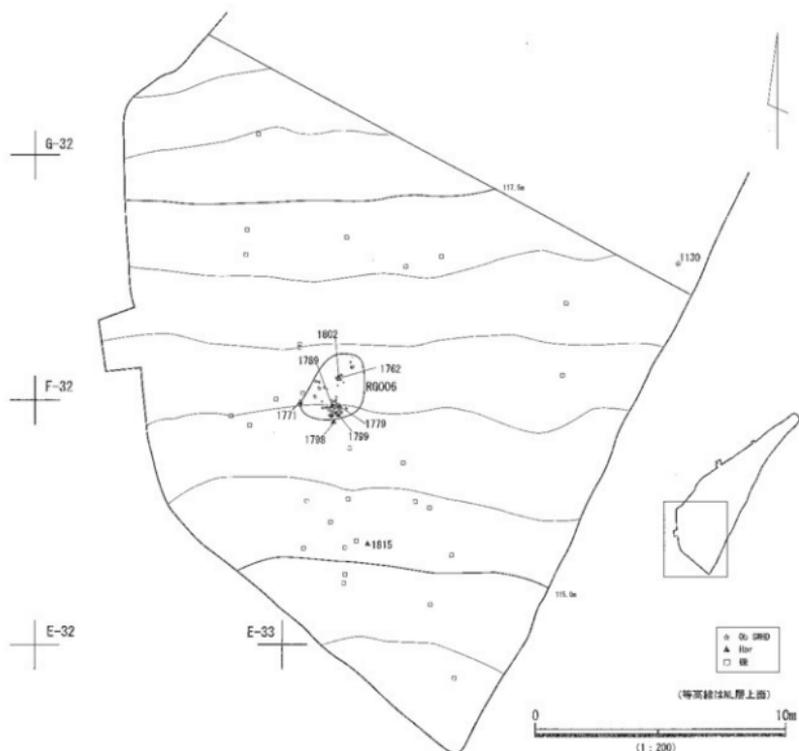


第90図 古木戸B遺跡 旧石器4 (石器ブロック外 接合資料)

30はやや幅広い剥片を用いた両設打面の石核(30-5)と二次加工剥片2点、使用痕がある剥片2点の接合資料である。剥離作業に伴う小剥離が両端に認められることから、両極剥離により剥片を得ていたと考えられる。いずれも石器ブロック4内での接合関係で、層位は第Ⅲ黒色帯(30-2・4・5)と第Ⅲスコリア帯黒色帯1(30-1・3)の間での接合である。上端の折断面を打面とし、両極剥離により全長2.5cm程度の剥片を表面中央(30-1)、及び右側縁裏面(30-4)で得ている。その際、下端部が折損したものが30-2・3と考えられる。

32は石核から同一方向から連続して剥離されたと考えられる全長3.0cm程度の縦長の剥片の接合資料である。

31は使用痕がある剥片に縦長の剥片が接合したものである。剥片剥離作業において、同一方向から連続して剥離を行う過程で31-1の先端が階段状に剥離し、剥片素材として十分な厚み、長さを得られなかったものと考えられる。石器ブロック5(31-2)と石器ブロック外(31-1)で、第Ⅲ黒色帯間の接合である。33・34は剥片に小さな剥片が接合したものである。剥片剥離作業において不意に破損したものと考えられる。33は石器ブロック4内で、第Ⅲ黒色帯(33-1・2)と第Ⅲスコリア帯黒色帯1(33



第91図 古木戸B遺跡 旧石器 第Ⅲ黒色帯 遺構・遺物分布図

ー3)の間において、34は石器ブロック4(34-1)と石器ブロック外(34-2)で第Ⅲスコリア帯黒色帯1内での接合である。

## 2 第Ⅱ黒色帯～休場層直下黒色帯の遺構・遺物

### (1) 概要

第Ⅱ黒色帯～休場層直下黒色帯からは石器・礫が出土しているが、遺構認定を行ったのは第Ⅰ黒色帯だけであり、その他の土層は遺物の資料数が限られている。第Ⅰ黒色帯からは石器ブロック1基、礫群1基が検出され、同層の遺物は剥片8点、石核1点、礫68点が認められる。

### (2) 遺構

**石器ブロック2** F-33～E-33グリッド付近の第Ⅰ黒色帯で確認された。ホルンフェルス製の剥片7点(総重量0.219kg)で構成される。南北1.83m、東西1.60m、比高差0.1mの範囲で確認され、礫群(RG006)と重複して検出されている。大型の縦長の剥片を生成しているが、接合関係は認められなかった(折損部の接合除く)。剥片は、薄手のものと厚手のものが確認できる。なお、本ブロックの南約5mにホルンフェルス製の石核、北東約15mの位置で黒曜石製の剥片が同じ第Ⅰ黒色帯から出土しているが、遺物の項で後述するように本石器ブロックと直接的な関係は希薄である可能性が高い。

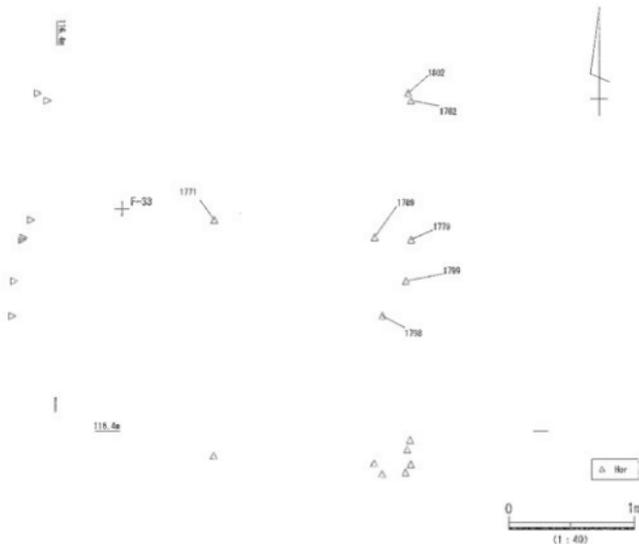
**礫群(RG006)** F-33～E-33グリッド付近で石器ブロック2と重複して検出されている。北東～南東方向2.86m、北西～南東1.73m、比高差0.58mの範囲に39点の礫が比較的集中して分布している。輝石安山岩の礫2点が接合している。石材は輝石安山岩18点、玄武岩3点、多孔質安山岩14点、多孔質玄武岩

第34表 古木戸B遺跡

BB1層 石器組成表  
採種/石材・産地別

		数量			重量 (g)
		石核	剥片	合計	
石核	Ob	SWID	1	1	0.5
	Hor		1	8	282.9
合計			1	9	283.4

### 石器ブロック2(SBL2)



第92図 古木戸B遺跡 旧石器 第Ⅰ黒色帯 石器ブロック2

4点で、総重量は17.806kg（平均0.457kg）である。

その他の礫 第II黒色帯、ニセローム層、第I黒色帯、休場層直下黒色帯では礫群の認定に至らなかった礫も出土していることから層位別の平面分布と被熱の有無、石材について図表により提示した。

### (3) 遺物

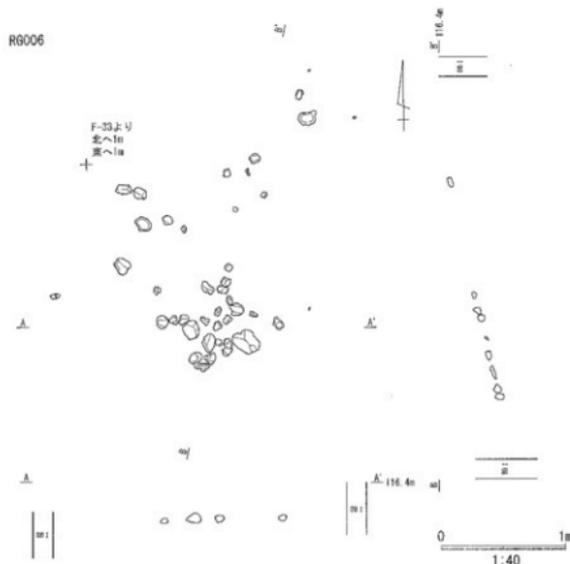
ニセローム層 35は右側縁及び下端に剥離が認められることから二次加工剥片と判断した。本土層唯一の石器である。礫面付近で剥片剥離を行った後、表面側からの打撃により上面に打面を形成して得られた剥片である。ただし、打面の直交方向に剥離がされず、打面から左にずれた剥片となっている。ホルンフェルス製。

第I黒色帯 36~40は第I黒色帯から出土した剥片である。黒曜石製（諏訪屋ヶ台）の42をのぞき全てホルンフェルス製である。36・39・40は石刃状の縦長剥片であり、全長6.5~8.5cm程度の大型の剥片である。37はやや厚手の石刃状の縦長剥片である。いずれも同一方向から連続して剥離して得られたものである。38は表面に多方向からの剥離面が認められ、長辺側からの打撃により幅広いの剥片となっている。

石器ブロック2の南約5mの第I黒色帯から石核1点が出土している。打面転移を繰り返した盤状とな

った石核である。上面は最終の打面と考えられ、1回の剥離で調整された打面から長辺面から長さ2cm程度の剥片を作成している。ホルンフェルス製であり、石器ブロック2の石材と一致するが、接合関係がない上、生成された剥片も異なることから同ブロックと直接的な関連は見出しがたい。

休場層直下黒色帯 本土層では使用痕がある剥片2点、剥片2点の計4点の石器が出土している。43は右側縁に使用痕がある剥片である。上面にある打面から剥離した幅広いの剥片の左側が折断されたもので、二次加工剥片とすべきかもしれない。表面には礫面を残している。黒曜石製（諏訪屋ヶ台群）。



第93図 古木戸B遺跡 旧石器 第I黒色帯 礫群 (RG006)

第35表 古木戸B遺跡 第I黒色帯

石材	種類		合計	重量 (g)	
	存在	数			
石核	Ae(Py)	17	1	18	8926.0
	Ba	3	3	3	2175.0
	VAn	14	14	14	3873.8
	VBa	4	4	4	2731.0
	合計	38	1	39	17805.8

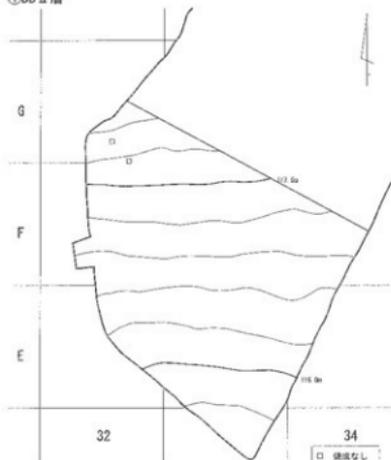
第36表 古木戸B遺跡

石材	種類		合計	重量 (g)	
	存在	数			
石核	FSS	1	1	5.0	
	Ae(Py)	22	16	38	9051.0
	Ba	3	5	8	2244.0
	VAn	14	2	16	3978.8
	VBa	4	1	5	3754.0
合計	43	35	68	17986.8	

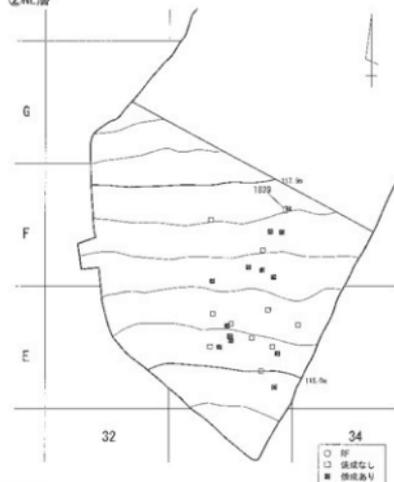
第37表 古木戸B遺跡 旧石器 BB II～BB O 標組成表

BB II層				NL層				BB III層				BB I層						
石種	検出		高さ (g)	石種	検出		高さ (g)	石種	検出		高さ (g)	石種	検出		高さ (g)			
	有	無			有	無			有	無			有	無		有	無	
	1	1	56.0	An(Py)	13	11	24	163.0		2	1	3	156.0	JSS	1	1	3.0	
	1	1	5.0						Bs	1	1	2	142.0	An(Py)	22	16	204.0	
									VBa	2	2	197.0	Bs	3	5	8	224.0	
合計	2	2	12.0	合計	13	11	24	163.0	合計	5	2	7	505.0	VAn	14	2	16	397.8
														VBa	4	1	5	273.0
														合計	43	25	68	1790.8

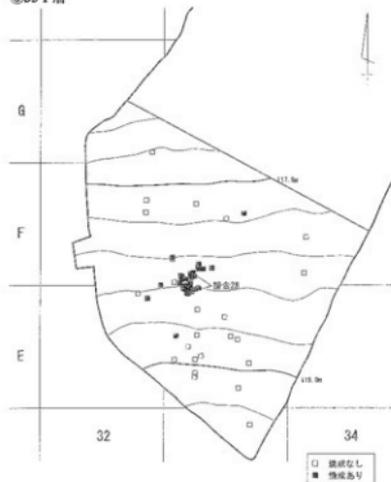
①BB II層



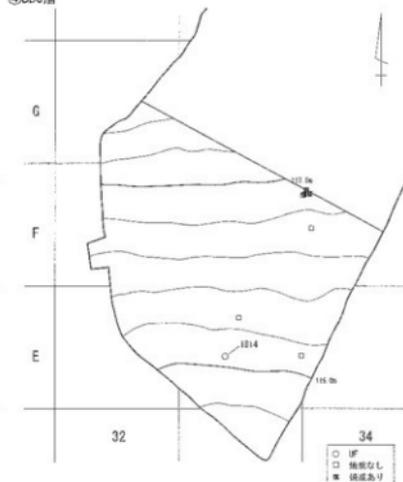
②NL層



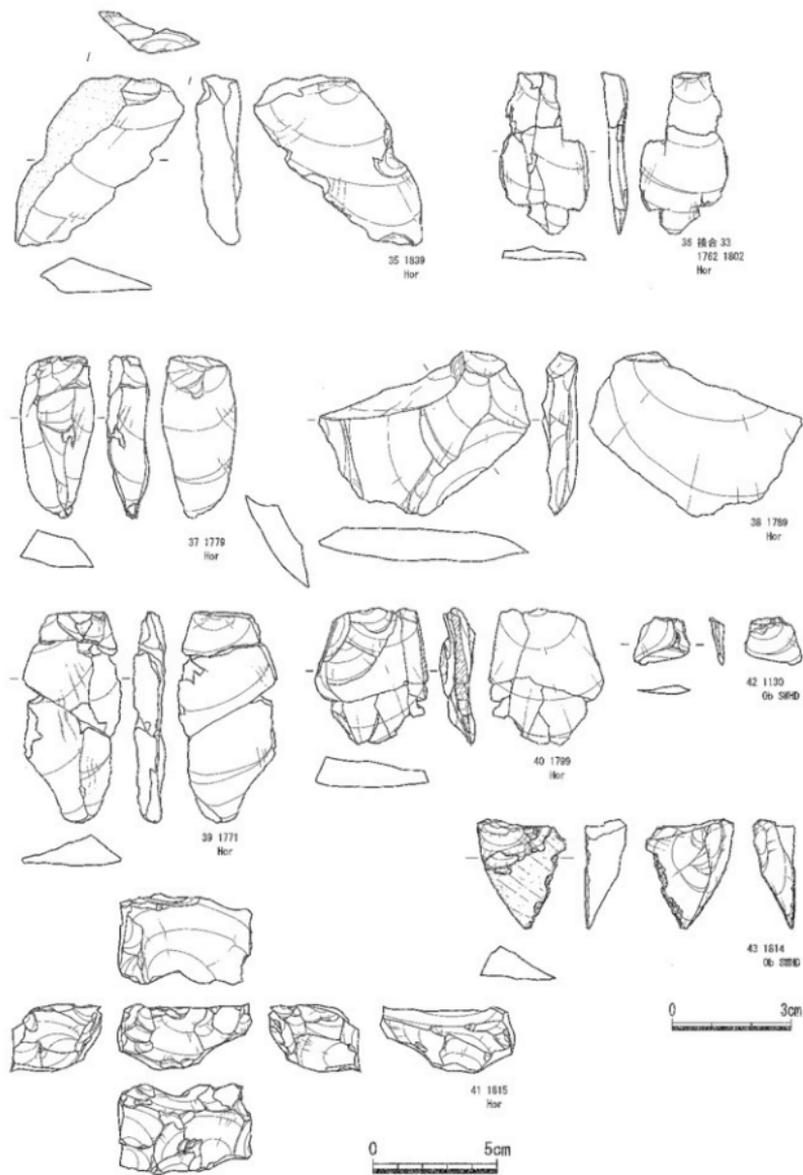
③BB I層



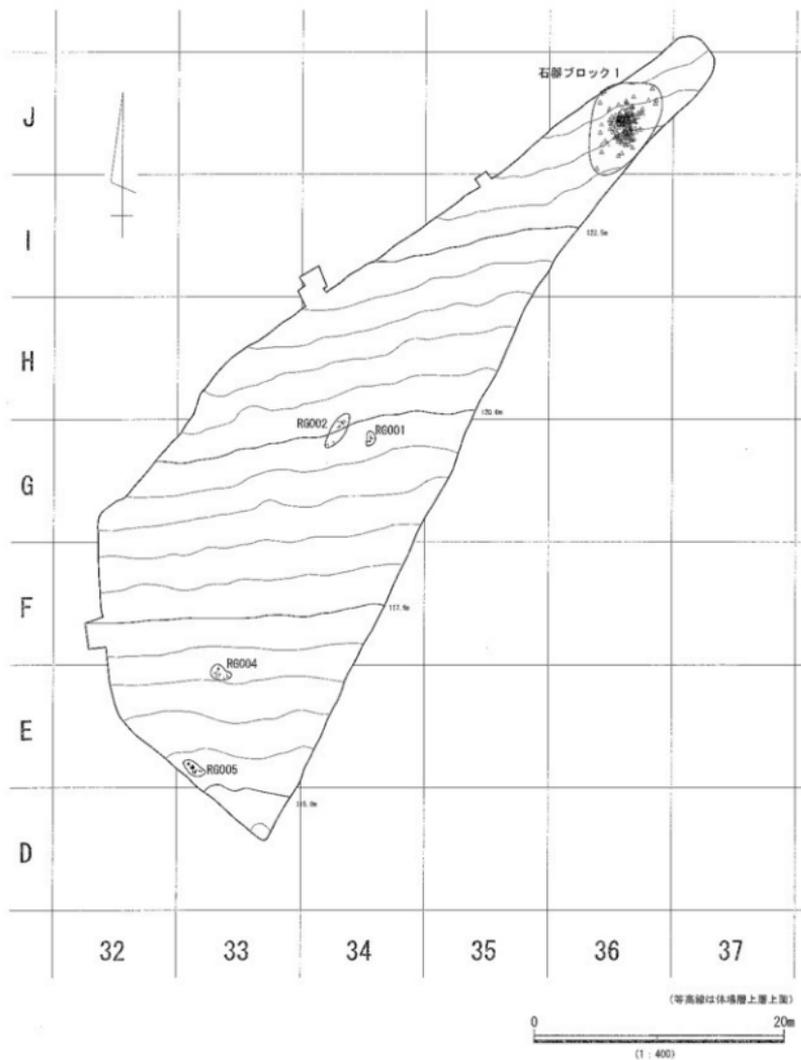
④BB O層



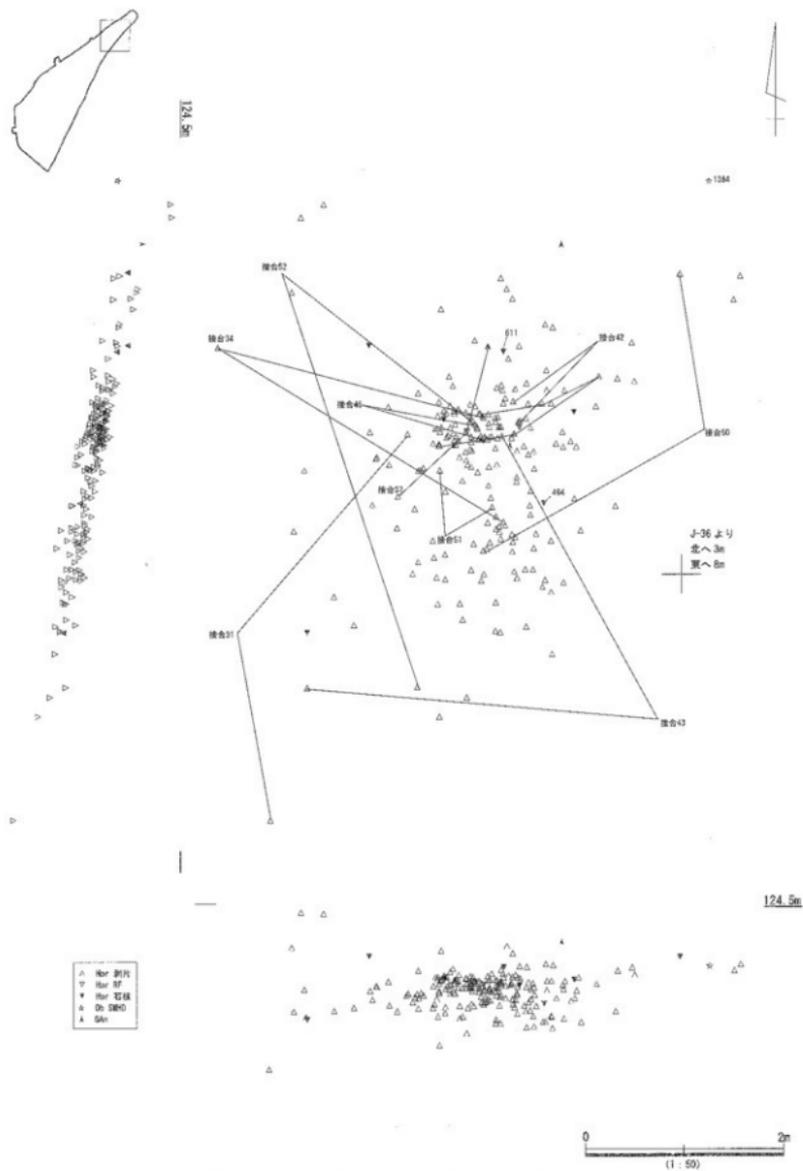
第94図 古木戸B遺跡 旧石器休場層直下黒色帯～Ⅱ黒色帯 標分布図



第95図 古木戸B遺跡 旧石器5 (剥片 石核)



第96図 古木戸B遺跡 旧石器 休場層 遺構分布図



第97図 古木戸B遺跡 旧石器 休場層石器ブロック1

## 2 休場層の遺構・遺物

## (1) 概要

休場層中から石器ブロック1基、礫群4基が検出された。遺物は石器329点、礫448点が出土している。なお、漸移層以上から出土した石器のうち、明確に旧石器時代と確認された資料については、休場層に関連した遺物と判断して本節で報告した。

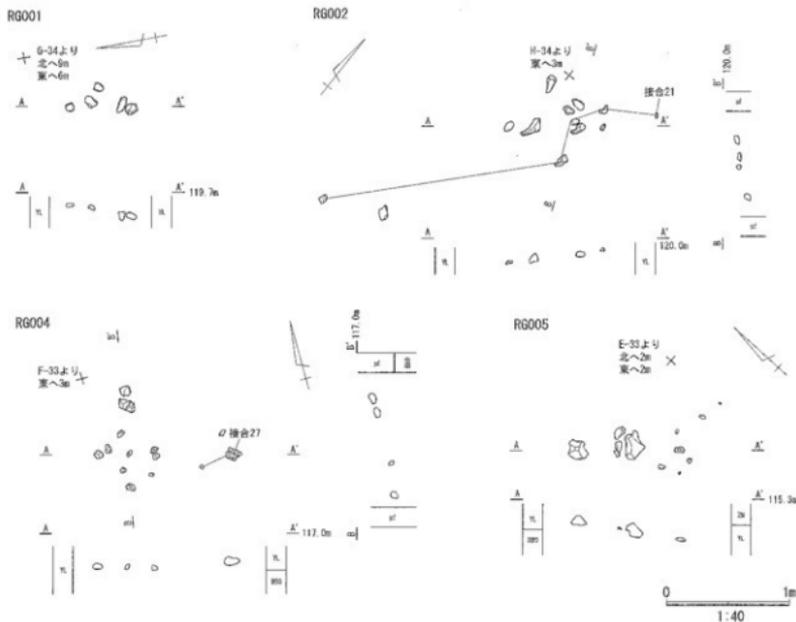
## (2) 遺構

石器ブロック1 J-36グリッドで検出された、北東～南西約7.91m、北西～南東約4.48m、比高差1.60mの範囲に217点（総重量2,945kg）の石器が集中して分布している。黒曜石1点、ガラス質黒色安山岩3点をのぞき全てホルンフェルスであり（213点）、同石材を主体とした石器ブロックである。トールは黒曜石製のナイフ形石器が1点確認される。出土層位から旧石器時代の石器ブロックと判断した。剥片の一部は漸移層、富士黒土層と接合関係があるため、平面分布が重複する漸移層以上の剥片も一部本ブロックに帰属させた。単設あるいは複設打面の石核から主に幅広い剥片と小型の縦長の剥片を生成していると考えられる。

礫群（RG001） G-34グリッドで検出されている。南北方向0.50m、東西方向0.17m、比高差0.1mの範囲に5点の礫が比較的集中して分布している。接合関係は認められない。石材は全て輝石安山岩で、総重量は1.519kg（平均0.304kg）である。

第38表 古木戸B遺跡 旧石器

		部類				合計	数量 (n)
		ナイフ形 石器	石核	削片	チップ		
石材	Obs/SWHD	1				1	2.1
	Hae	9	1	187	36	213	2835.75
	GAn			1	2	3	107.2
合計		10	1	188	38	217	2945.05



第98図 古木戸B遺跡 旧石器 休場層 礫群

礫群 (RG002) G-34グリッドで検出されている。南北方向2.21m、東西方向2.74m、比高差0.53mの範囲に10点の礫が比較的集中して分布している。礫5点が接合関係にある。石材は全て輝石安山岩で、総重量は3.529kg (平均0.353kg) である。

礫群 (RG004) E-33グリッドで検出されている。南北方向0.79m、東西方向1.12m、比高差0.21mの範囲に15点の礫が比較的集中して分布している。

輝石安山岩の礫2点が接合した。石材は全て輝石安山岩14点、火山礫凝灰岩1点の合計15点で、総重量は2.922kg (平均0.195kg) である。

礫群 (RG005) E-33グリッドで検出されている。南北方向0.46m、東西方向1.15m、比高差0.17mの範囲に11点の礫が比較的集中して分布している。接合関係は認められない。石材は輝石安山岩2点、火山礫凝灰岩9点の合計11点で、総重量は3.530kg (平均0.321kg) である。

その他の礫 休場層では礫群と認定したもの以外に礫が第40表のとおり出土している。輝石安山岩を主体とし、数種類の礫が用いられている。

### (3) 遺物

ナイフ形石器 富士黒土層と休場層において、18点が出土している。全点を図示した。44～53は縦長の剥片を素材とした黒曜石製 (44～50: 諏訪屋ヶ台群、51・52: 和田鷹山群、53: 和田小深沢群) のものである。いずれも縦長の剥片を素材とし、打点部を基部に用いる44・47・49～53と先端部に用いる45・46・48がある。44～46・48・51・53は二側縁加工のものに分類される。44は打点部を除去せず、剥片素材の主軸をあまり変えることなく、左側縁下半を折断し、折断部及び右側縁にブランティングを施す。先端部を欠損するが左側縁上半に刃部を確認できる。45・46は右側縁及び左側縁下半にブランティングを施している。左側縁上半の刃部は大半が欠損している。いずれも基部裏面には素材剥片の反りを解消したと考えられる平坦剥離が施される。特に46は裏面の平坦剥離と側縁のブランティングの境が不明瞭である。上部は欠損するが、左側縁上部に刃部を確認できる。48は上半部を欠損するが、両側縁にブランティングが確認できる。51は左側縁及び右側縁下半にブランティングが施されている。下半を欠損するが、右側縁に長い刃部を形成している。53は左側縁及び右側縁基部にブランティングが認められる。右側縁の刃部には微細な剥離があり使用痕と考えられる。

47は側縁加工のものとして判断される。やや厚手の縦長の剥片を素材とし、打点部を基部として左側縁上端にブランティングが確認できるが左側縁の大半は調査時に欠損している。基部は剥片剥離の打点部に近いため、打撃の際に折損したと考えられる面が残されている。表面に礫面を残す右側縁を刃部としており、刃部及び裏面には使用痕と考えられる微細な剥離・小剥離が認められる。

49は欠損により分類が困難なものである。49は厚手の剥片を素材とし、左側縁にブランティングが確認できる。表面からの打撃により下半部を欠損しているため、基部形態は不明である。右側縁の刃部には使用痕と考えられる微細な剥離が認められる。50・52は基部加工または二側縁加工と判断される。50は素材剥片の打点部を基部として、両側縁の基部にブランティングが認められる。表面には礫面を残し、上半の両側縁には刃部が認められる。黒曜石製 (諏訪屋ヶ台群)。本資料は石器ブロック1から出土して

第39表 古木戸B遺跡 休場層 礫群組成表

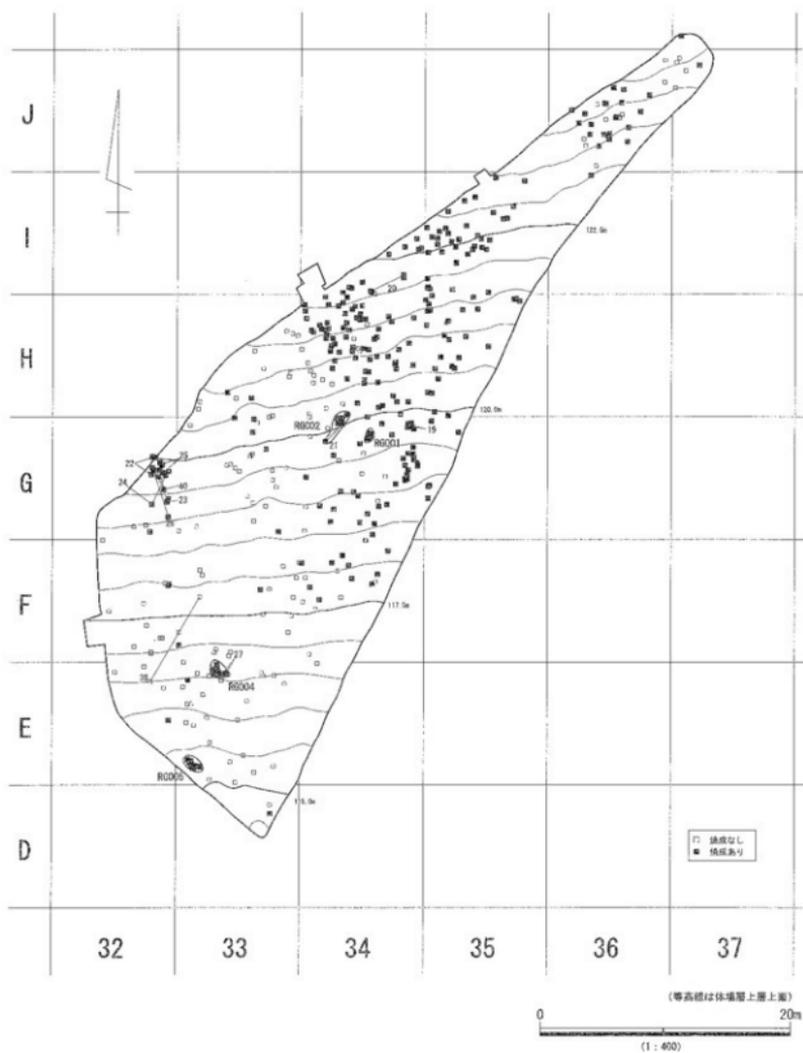
RG001				RG002					
石材	接合		合計	重量 (g)	石材	接合		合計	重量 (g)
	有	無				有	無		
An(Py)	5		5	1619.0	An(Py)	10		10	3529.0
合計	5		5	1619.0	合計	10		10	3529.0

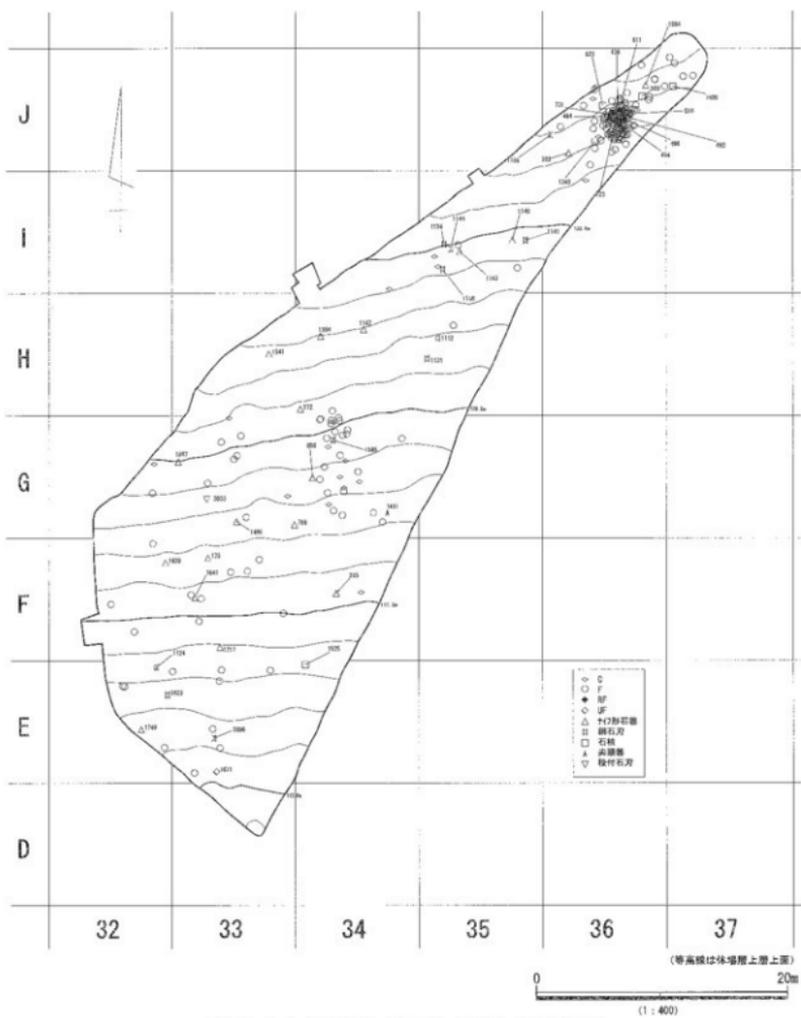
RG004				RG005					
石材	接合		合計	重量 (g)	石材	接合		合計	重量 (g)
	有	無				有	無		
n(Py)	14		14	2707.0	An(Py)	2		2	3.6
Lt	1		1	215.0	Lt	9		9	3535.0
合計	15		15	2922.0	合計	11		11	3539.6

第40表 古木戸B遺跡 休場層 礫組成表

石材	接合		合計	重量 (g)
	有	無		
JNS		1	1	74.0
MSS		1	1	1.7
Rhy	2		2	65.0
Tu	1	2	3	875.0
GC	1		1	7.0
Con		1	1	4.3
Lt	10	1	11	2787.0
An(Py)	279	108	387	29690.7
Ba		2	2	87.0
VAn	19	23	33	2195.5
VBa	2	3	5	253.7
合計	305	142	447	37193.9

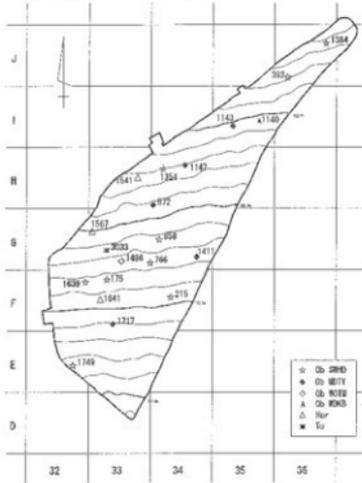


第99図 古木戸B遺跡 旧石器 休場層 礫分布図

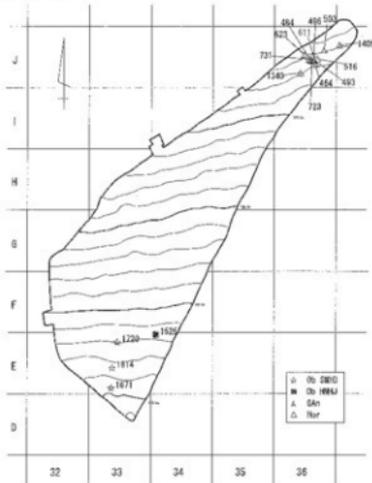


第100図 古木戸B遺跡 旧石器 休場層 石器分布図

① ナイフ形石器・尖頭器・稜状石刃



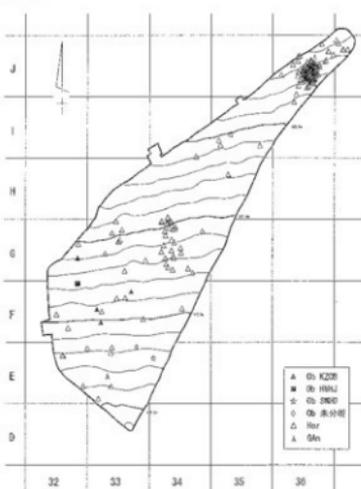
② 石核・RF・UF



③ 細石刃・細石核



④ 剥片類



第101図 古木戸B遺跡 旧石器 休場層 石器分布図

いる。同ブロックは前述のとおりホルンフェルスを主体とした石器ブロックであり、黒曜石は本資料のみである。52は縦長の剥片の打点側を基部に用い、両側縁下半にブランティングが認められる。先端部及び基部を欠損する。

54～56はホルンフェルス製である。石刃状の縦長の剥片を素材として、打点側を基部に用いる54、先端部に用いる55・56がある。55・56については裕面の風化が著しく刃部の位置は不明確であるが、図のとおり天地を判断した。54は右側縁及び左側縁下半にブランティングが確認できる二側縁加工のものである。刃部は左側縁に形成されるが、器面の風化が激しく、詳細な観察は困難である。55は右側縁、56は右側縁基部にブランティングが確認できるが、その他の側縁は風化により失われている。

57・58は二側縁加工、59・60は切出形を呈するもので、いずれも黒曜石製（57・58：諏訪屋ヶ台群、59：和田鷹山群、60：和田高松沢群）である。57～59は縦長の剥片を素材として、打点側を先端に用いている。60は幅広に近い剥片を素材として、素材剥片の打点側を左側縁に用いている。57は右側縁及び左側縁下半にブランティングを施し、左側縁上半に刃部を形成する。58・59は左側縁及び右側縁下半にブランティングを施し、右側縁上半に刃部を形成している。剥片素材の折断、ブランティングによりいずれも基部は尖基となっている。60は左側縁及び右側縁下半にブランティングを施す。№44地点の黒曜石産地同定を実施した中で和田高松沢群を石材とする唯一の資料である。

61はいわゆるティアドロップ形と呼ばれる基部を丸く収める形態である。全長2.0cmと小型の剥片を素材とし打点を基部に用い左側縁及び右側縁下半にブランティングを施し、刃部は右側縁上半に認められる。黒曜石製（和田鷹山群）である。

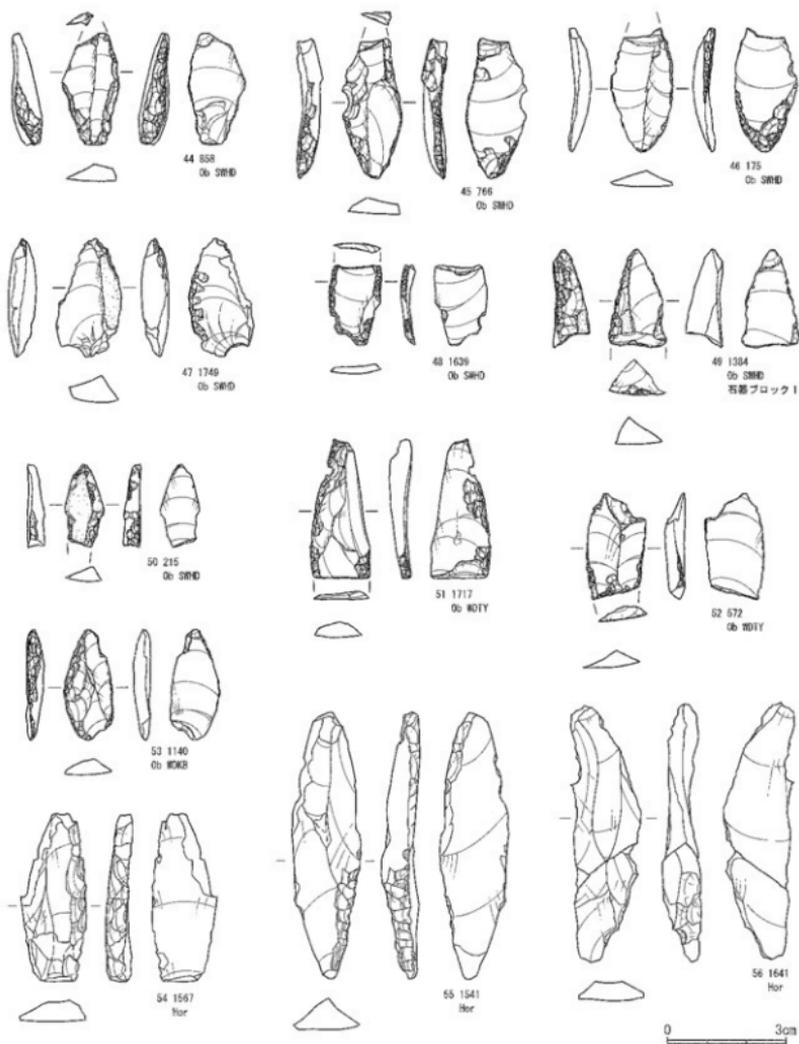
**尖頭器** 休場層から片面加工のものが1点出土している。62はやや幅広の剥片の打点側を先端部に用い、片面に押圧剥離を加えて器体を整形する。剥離作業は器面中央のやや大きめの剥離の後、縁辺部に小剥離を加えている。打点部は除去され、他よりも念入りに押圧剥離が加えられている。黒曜石製（和田鷹山群）。

**稜付石刃** 確認調査の試掘坑TP-100の休場層から1点が出土している。63は細長の石刃状の剥片を素材に用い、打点側を基部として先行剥離面の後に小剥離を加えている。凝灰岩製。

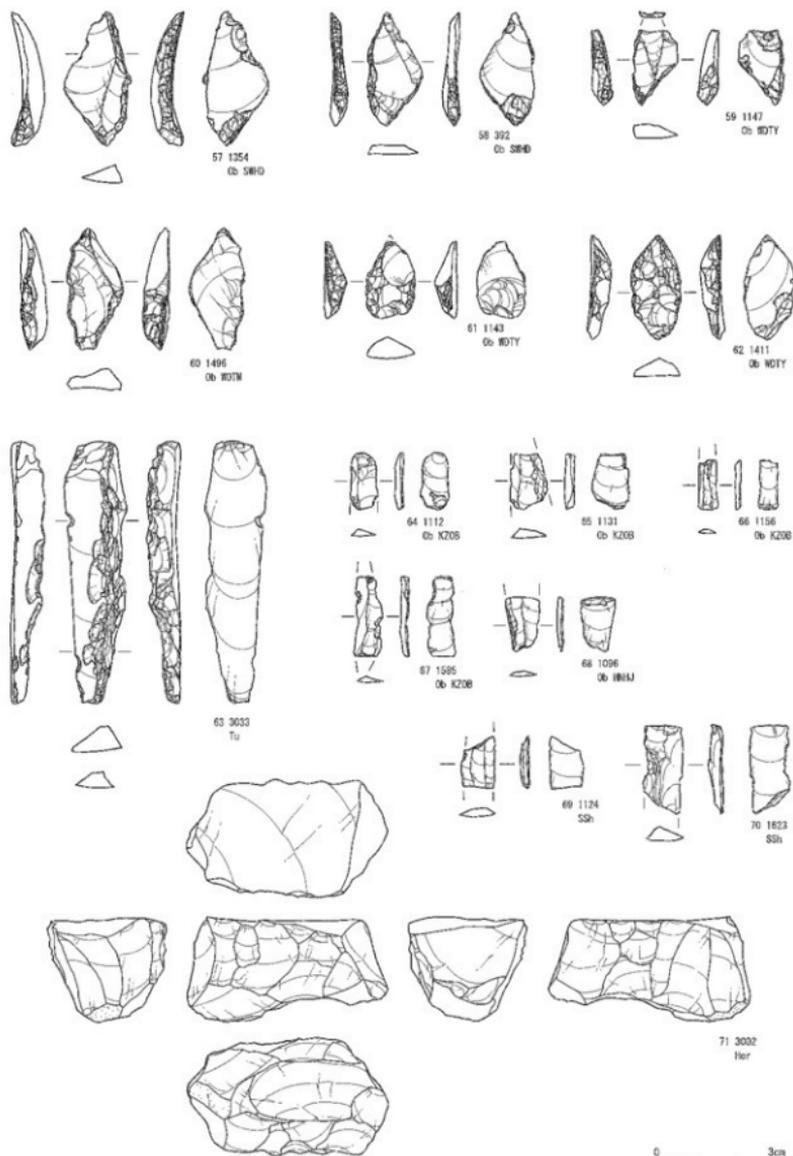
**細石刃** 富士黒土層及び休場層から11点出土しており、7点を図示した。64～67は、黒曜石製（神津島恩馳島群）である。いずれも一端または両端を欠損しており、全長は不明である。68は、黒曜石製（箱根畑宿群）である。細石刃の素材としてはあまり一般的ではないが、形状から細石刃と判断した。一端を欠損する。69・70は珪質頁岩製の細石刃である。一端または両端を欠損するため、全長は不明である。

**細石核** 確認調査の試掘坑TP-99から1点が出土している（出土層位不明）。71は船底形を呈するホルンフェルス製の細石核である。上面に打面を作り出し、側面から細石刃を作成している。剥離面から1.5～2.0cm程度の細石刃を作成していたと考えられる。形態から縄文草創期にくだる可能性があるが、細石刃に関連する遺物として旧石器時代で扱った。

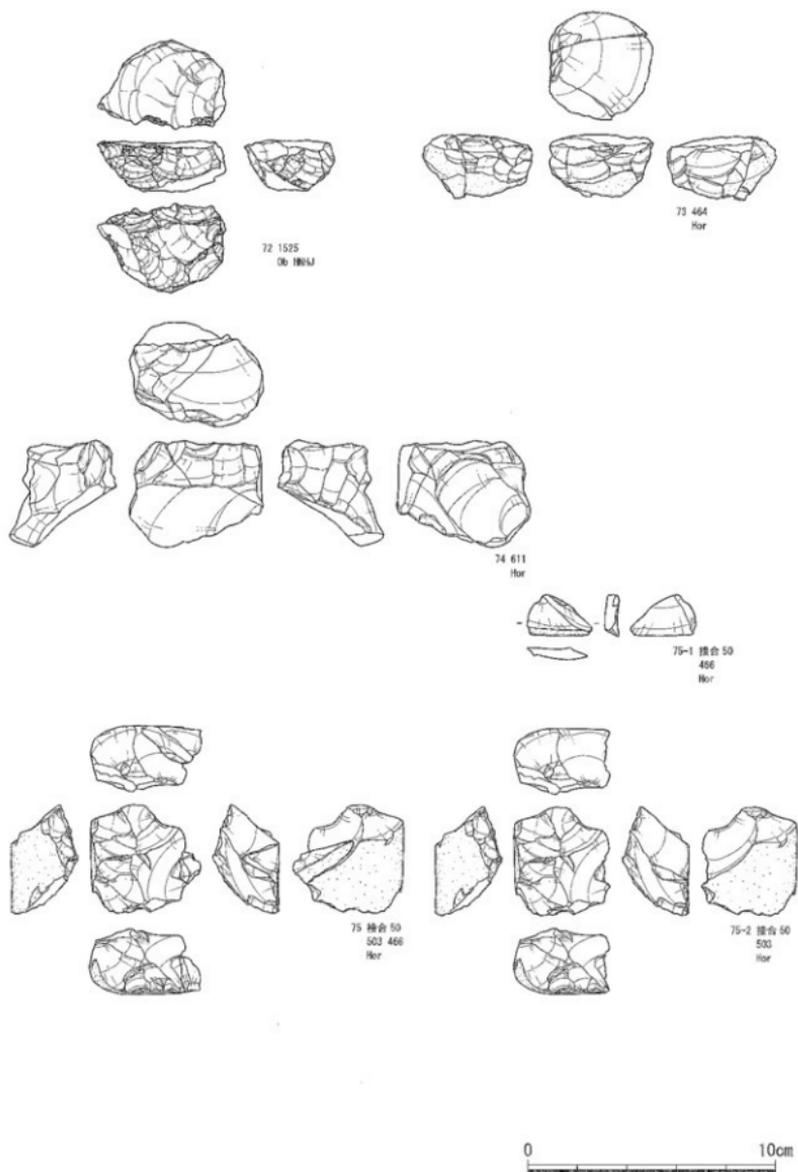
**石核** 休場層から11点が出土しており、3点を図示した。72は盤状を呈する黒曜石製（箱根畑宿群）の石核である。裏面の剥離痕から数回の打面転移がうかがえ、最新の剥離作業は、上面の一度の剥離で形成された打面で行っている。全長2cm弱のやや幅広の剥片を得ていたと考えられる。73は径4.5cm程度の円礫を一度の打撃で半截して打面とし、側面から剥離を行っている。剥離面から全長1.5cm程度の小型の剥片を得ていたと考えられる。74は数回の打面転移を繰り返し盤状となった石核である。最新の剥離作業は、上面の一度の剥離で形成された打面で行っている。側面から全長2.0～2.5cm程度の小さな剥片を得ていたと考えられる。73・74はホルンフェルス製である。



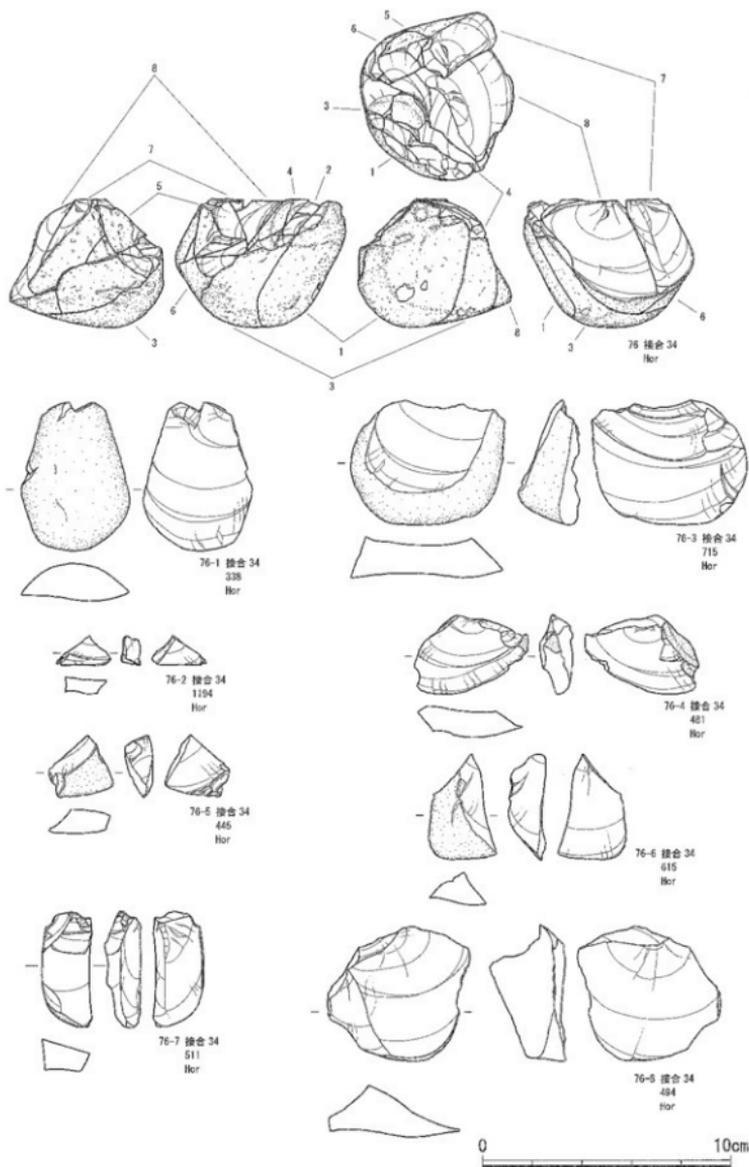
第102図 古木戸B遺跡 旧石器6 (ナイフ形石器)



第103図 古木戸B遺跡 旧石器7 (ナイフ形石器 尖頭器 稜付石刃 細石刃 細石核)

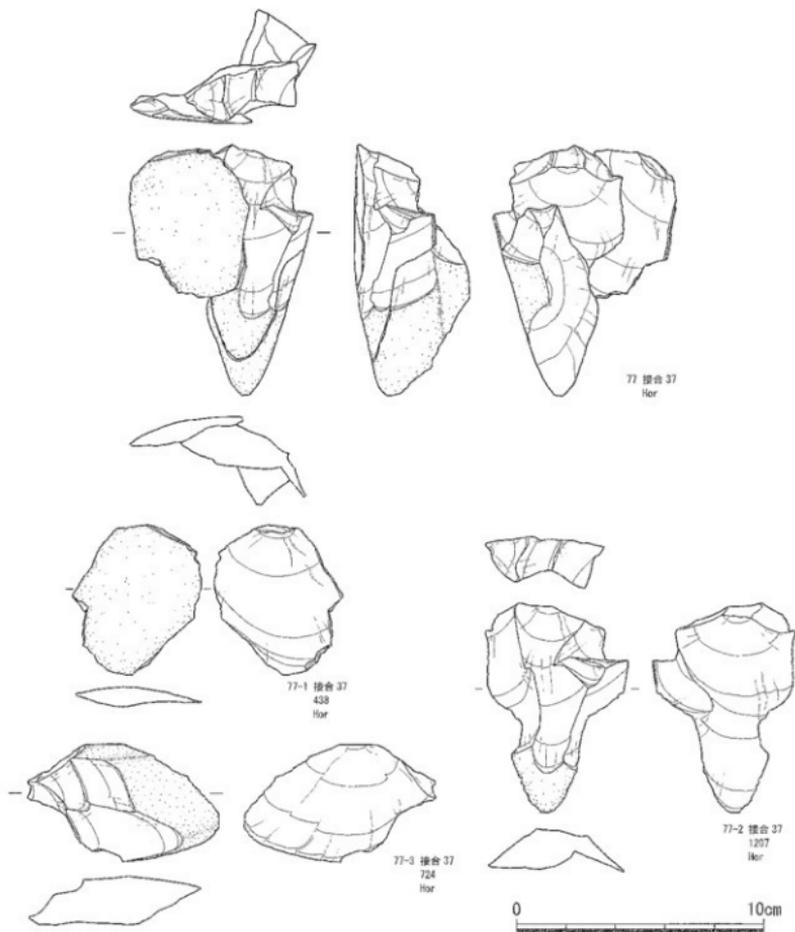


第104図 古木戸B遺跡 旧石器8 (石核 接合資料)



第105図 旧石器9 (接合資料 石器ブロック1)

接合資料 休場層の接合資料は3点を図示した。いずれも石器ブロック1出土のものである。75～77はホルンフェルス製の剥片の接合資料である。75は複数回の打面転移が確認できる石核に剥片が接合したものである。上面の打面から小型の幅広い剥片(75-2)を得ている。76は径6cm以上の不定形な円礫を素材として、上面に打面を設け、76-1・76-2・3・76-4・76-5・76-6・76-7の順番で剥離したと考えられる。76-8は裏面にも剥離があるため、石核とすべきかもしれない。77は径10cm以上の楕円形の礫を素材として、上面に打面を設けて77-1・77-2の順番で半時計回りに剥片を剥離したことがうかがえる接合資料である。また77-3は90度の打面転移を行い、礫面を打面として剥離を行っている。



第106図 旧石器10 (接合資料 石器ブロック1)





第V章 古木戸2遺跡

調査年度	調査区画	種類	埋蔵	形状	用途	年代	構造	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	位置	面積(m <sup>2</sup> )	埋蔵品	
2041	F	瓦葺	BS15	E-13	Oh	SWRD	BS15	8.4	1.33	0.41	5.76	-02712.133	20420.091	134.422
2046	F	瓦葺	BS15	E-11	Oh	SWRD	BS15	8.2	1.38	0.41	5.76	-02712.133	20420.091	135.203
2047	F	瓦葺	BS15	E-14	Oh	SWRD	BS15	8.3	1.38	0.75	5.13	-02713.233	20420.211	135.100
2048	F	瓦葺	BS15	E-24	Oh	SWRD	BS15	6.1	0.88	0.67	5.2	-02713.234	20420.394	135.203
2049	F	瓦葺	BS15	E-23	Oh	SWRD	BS15	7	1.14	0.59	6.25	-02713.234	20420.394	135.203
2057	F	瓦葺	BS15	E-13	Oh	SWRD	BS15	9.2	1.19	0.74	6.22	-02714.489	20427.149	135.128
2058	F	瓦葺	BS15	E-13	Oh	SWRD	BS15	9.2	1.18	0.68	6.22	-02714.489	20427.149	135.128
2059	F	瓦葺	BS15	E-23	Oh	SWRD	BS15	9.2	1.28	1.68	5.1	-02714.721	20428.425	134.978
2019	埋	瓦葺	BS15	F-12	Oh	SWRD	BS15	1.8	1.21	1.60	0.87	-02712.836	20425.981	134.706
1919	埋	瓦葺	BS15	F-14	Oh	SWRD	BS15	0.9	0.9	0.9	0.9	-02714.613	20428.122	134.622
2014	UP	瓦葺	BS15	F-23	Oh	SWRD	BS15	1.15	2.20	4.10	1.03	-02716.155	20437.080	136.402
2025	埋	瓦葺	BS15	F-19	Oh	SWRD	BS15	0.1	0.1	0.2	0.20	-02712.836	20425.981	134.706
2027	C	瓦葺	BS15	F-14	Oh	SWRD	BS15	0.9	0.9	0.9	0.9	-02714.613	20428.122	134.622
1914	F	瓦葺	BS15	F-01	Hor	R102	BS15	26.5	2.99	3.3	1.60	-02710.844	20334.434	139.994
2022	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	10.3	4.69	2.65	1.65	-02710.844	20334.434	139.994
1920	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	20.6	8.24	4.3	0.94	-02711.813	20325.5	139.281
1930	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	6.1	6.19	6.19	6.19	-02711.813	20325.5	139.281
1936	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	6.9	6.75	5.77	4.62	-02711.813	20325.5	139.281
1937	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	5.6	5.39	5.37	5.3	-02711.813	20325.5	139.281
1940	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	6.3	5.95	5.92	6.71	-02711.813	20325.5	139.281
1947	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	7.6	5.89	2.6	0.75	-02710.844	20334.434	139.994
1948	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	1.9	1.89	1.95	0.55	-02710.844	20334.434	139.994
1954	C	瓦葺	BS15	F-14	Hor	R102	BS15	0.9	0.9	0.9	0.9	-02710.844	20334.434	139.994
1715	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	12.6	8.85	2.86	0.60	-02710.746	20329.009	135.404
197	埋	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	5.6	4.14	2.80	2.57	-02710.844	20334.434	139.994
1918	埋	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	7.62	6.89	4.84	2.89	-02710.844	20334.434	139.994
223	埋	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	5.2	4.95	3.88	2.52	-02710.844	20334.434	139.994
723	埋	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	10	4.74	4.92	2.27	-02710.844	20334.434	139.994
731	埋	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	160.2	8.8	5.2	2.83	-02710.844	20334.434	139.994
1340	埋	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	20.9	6.5	1.1	3.99	-02710.844	20334.434	139.994
496	埋	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	21.1	3.64	3.88	1.22	-02710.844	20334.434	139.994
498	埋	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	37.2	6.82	6.82	1.89	-02710.844	20334.434	139.994
499	埋	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	10.1	1.32	0.61	0.61	-02710.844	20334.434	139.994
440	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	0.3	1.4	0.9	0.49	-02710.844	20334.434	139.994
441	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	0.3	1.3	0.4	0.4	-02710.844	20334.434	139.994
443	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	1.9	1.87	1.58	0.43	-02710.844	20334.434	139.994
450	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	2.8	1.3	1.81	0.19	-02710.844	20334.434	139.994
456	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	1.6	1.6	1.63	0.3	-02710.844	20334.434	139.994
457	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	11.4	4.46	2.06	1.35	-02710.844	20334.434	139.994
458	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	0.7	1.36	0.99	0.99	-02710.844	20334.434	139.994
420	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	3.7	1.8	2.05	1.23	-02710.844	20334.434	139.994
490	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	5.7	1.13	0.73	0.99	-02710.844	20334.434	139.994
461	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	13.6	3.48	3.39	1.79	-02710.844	20334.434	139.994
452	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	5.2	0.22	0.73	0.99	-02710.844	20334.434	139.994
462	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	8.24	5.6	4.6	2.3	-02710.844	20334.434	139.994
465	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	12.8	3.25	3.67	0.89	-02710.844	20334.434	139.994
497	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	0.5	0.87	0.70	0.80	-02710.844	20334.434	139.994
468	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	0.9	1.39	1.60	0.49	-02710.844	20334.434	139.994
499	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	0.8	1.5	1.6	0.49	-02710.844	20334.434	139.994
470	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	4.4	4.4	4.4	0.92	-02710.844	20334.434	139.994
471	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	12.6	2.95	2.50	1.40	-02710.844	20334.434	139.994
472	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	5.1	0.9	0.9	0.9	-02710.844	20334.434	139.994
473	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	0.8	1.61	0.89	0.27	-02710.844	20334.434	139.994
474	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	6.23	3.83	3.81	1.31	-02710.844	20334.434	139.994
475	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	6.82	6.82	6.82	0.82	-02710.844	20334.434	139.994
477	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	6.86	2.3	0.83	0.83	-02710.844	20334.434	139.994
478	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	6.1	6.1	6.1	0.82	-02710.844	20334.434	139.994
479	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	5.63	5.7	5.96	1.71	-02710.844	20334.434	139.994
480	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	6.1	6.86	6.61	1.71	-02710.844	20334.434	139.994
481	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	3.6	1.75	1.3	0.87	-02710.844	20334.434	139.994
482	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	11.7	4.25	4.61	1.31	-02710.844	20334.434	139.994
483	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	0.8	0.42	0.86	0.86	-02710.844	20334.434	139.994
484	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	0.1	0.9	0.61	0.39	-02710.844	20334.434	139.994
485	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	10.1	4.85	2.66	1.32	-02710.844	20334.434	139.994
486	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	10.1	3.9	2.88	1.32	-02710.844	20334.434	139.994
487	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	3.1	2.3	2.4	1.1	-02710.844	20334.434	139.994
488	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	41.2	1.57	1.5	1.5	-02710.844	20334.434	139.994
489	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	43.7	3.88	0.91	1.69	-02710.844	20334.434	139.994
490	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	4.9	2.96	3.41	0.4	-02710.844	20334.434	139.994
500	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	8.6	8.22	8.24	1.82	-02710.844	20334.434	139.994
502	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	21.8	6.43	4.92	0.80	-02710.844	20334.434	139.994
501	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	3.7	2.85	3.82	1.82	-02710.844	20334.434	139.994
503	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	0.1	0.62	0.80	0.19	-02710.844	20334.434	139.994
507	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	1.1	2.45	0.60	0.75	-02710.844	20334.434	139.994
508	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	20.7	4.5	2.11	1.3	-02710.844	20334.434	139.994
509	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	3.9	1.91	1.9	0.75	-02710.844	20334.434	139.994
510	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	1.5	1.39	1.8	0.41	-02710.844	20334.434	139.994
512	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	10.3	2.1	1.6	1.41	-02710.844	20334.434	139.994
513	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	3.6	3.1	1.71	1.81	-02710.844	20334.434	139.994
514	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	0.8	0.8	0.8	0.8	-02710.844	20334.434	139.994
515	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	10.4	4.15	3.68	2.11	-02710.844	20334.434	139.994
517	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	6.7	0.8	2.6	0.6	-02710.844	20334.434	139.994
518	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	10.6	3.39	3.16	1.69	-02710.844	20334.434	139.994
519	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	5.8	6.85	6.9	2.2	-02710.844	20334.434	139.994
520	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	30.7	8.82	8.64	1.61	-02710.844	20334.434	139.994
521	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	1.8	1.79	1.11	0.88	-02710.844	20334.434	139.994
522	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	7.4	1.7	2.62	1.97	-02710.844	20334.434	139.994
512	F	瓦葺	BS15	F-10	Hor	R102	BS15	33.3	3.35	3.39	1.79	-		



第V章 古木戸B遺跡

測点番号	地物番号	種類	方位	寸法	方向	方位角	距離(m)	高さ(m)	傾斜(%)	傾斜角(°)	距離(m)	傾斜(%)	傾斜角(°)	距離(m)	傾斜(%)	傾斜角(°)	距離(m)	傾斜(%)	傾斜角(°)	備考
1411	F	VL	G-04	Hor			3.3	2.0	1.81	6.71	-02751.602	23334.107	117.853							
1442	F	VL	G-04	Hor			20.9	6.1	2.65	6.7	-02713.588	23324.779	119.837							
1446	F	VL	G-01	Hor			2.9	1.6	0.87	-02751.484	23335.119	119.765								
1446	F	VL	G-24	Hor			0.5	0.92	0.56	6.38	-02753.191	23311.939	119.127							
1451	F	VL	J-07	Hor			22.7	9.17	2.62	1.22	-02752.265	23304.233	122.942							
1479	F	VL	J-08	Hor			13.4	6.53	2.83	0.77	-02756.395	23311.429	123.716							
1486	F	VL	G-20	Hor			1.8	2.13	1.18	0.88	-02753.095	23321.8	119.348							
1502	F	VL	G-02	Hor			13.8	6.96	3.78	6.78	-02753.294	23321.268	119.686							
1508	F	VL	G-23	Hor			24.5	6.4	5.38	6.9	-02753.176	23321.989	119.697							
1527	F	VL	J-07	Hor			0.1	0.77	0.81	0.31	-02750.719	23309.936	124.161							
1529	F	VL	J-07	Hor			2.1	2.16	1.46	0.58	-02750.2	23300.828	124.094							
1530	F	VL	J-07	Hor			0.6	3.07	0.74	6.97	-02750.202	23304.225	124.007							
1531	F	VL	J-07	Hor			0.1				-02750.207	23301.189	124.061							
1557	F	VL	G-08	Hor			4.8	2.05	2.08	0.89	-02751.684	23326.237	118.791							
1560	F	VL	G-08	Hor			14.4	4.6	3.49	1.1	-02756.529	23325.025	119.895							
1583	F	VL	G-03	Hor			2.1	2.26	1.37	0.4	-02758.275	23326.825	118.588							
1588	F	VL	G-02	Ob	K20B		0.8	1.61	0.8	0.32	-02756.29	23318.141	119.218							
1671	F	VL	F-02	Ob	K20K1		0.2	1.08	1.02	0.18	-02746.423	23318.473	118.837							
1574	F	VL	F-08	Hor			0.3	0.8	0.64	0.51	-02751.228	23329.697	117.511							
1578	F	VL	F-01	Hor			0.4	1.03	0.83	0.33	-02753.886	23326.154	117.903							
1577	F	VL	F-03	Ob	K20B		0.1	1.23	0.5	0.13	-02743.911	23327.26	118.899							
1626	F	VL	E-02	Hor			9	2.71	1.23	0.78	-02752.961	23314.697	118.553							
1632	F	VL	F-02	Hor			7.8	2.61	2.52	1.29	-02747.637	23318.958	117.178							
1640	F	VL	F-03	Ob	K20B		0.5	1.62	1.33	0.23	-02744.613	23314.136	117.152							
1643	F	VL	F-02	Hor			7.1	2.72	1.26	1.21	-02752.788	23324.768	117.786							
1668	F	VL	E-03	Hor			11.79	5.17	5.5	1.89	-02751.668	23328.827	116.217							
1670	F	VL	E-03	Ob	K20B		7.1	6.86	3.86	0.83	-02751.883	23323.361	116.676							
1680	F	VL	F-03	Ob	K20B		1.1	2.63	0.92	0.8	-02746.766	23322.286	117.104							
1681	F	VL	F-23	Hor			0.8	0.81	2.81	0.87	-02744.914	23322.274	117.327							
1760	F	VL	E-03	Hor			0.5	1.2	0.92	0.81	-02759.141	23321.638	114.952							
1761	F	VL	E-02	Hor			1	1.05	1.66	0.96	-02752.1	23314.149	116.142							
1762	F	VL	F-02	Hor			0.5	1.07	0.72	0.52	-02743.267	23316.651	117.266							
1726	F	VL	F-02	Ob			0.1	0.74	0.43	0.65	-02750.271	23327.948	116.281							
1747	F	VL	F-01	Hor			2.8	1.94	2.42	0.88	-02757.227	23328.595	115.244							
1750	F	VL	E-03	Hor			12.2	4.78	3.15	1.05	-02756.861	23328.654	115.389							
1135	C	VL	I-16	Hor			0.9	-	-	-	-02756.90	23341.237	122.219							
1137	C	VL	I-14	Hor			-	-	-	-	-02758.642	23347.921	122.889							
1138	C	VL	I-15	Hor			-	-	-	-	-02757.428	23341.826	122.693							
2364	C	VL	I-16	Hor			0.6	-	-	-	-02759.279	23352.127	122.739							
1110	C	VL	G-18	Hor			-	-	-	-	-02780.192	23421.627	126.126							
1136	C	VL	G-14	Hor			0.6	-	-	-	-02758.897	23352.126	118.806							
1138	C	VL	G-14	Hor			0.1	0.1	-	-	-02752.657	23354.007	125.21							
1615	C	VL	G-24	Hor			0.2	-	-	-	-02752.287	23329.616	119.493							
1188	C	VL	G-10	Hor			0.3	-	-	-	-02756.954	23325.161	118.686							
1181	C	VL	G-24	Hor			0.1	-	-	-	-02751.951	23353.163	118.966							
1180	C	VL	G-04	Hor			0.8	-	-	-	-02756.28	23323.29	118.794							
1183	C	VL	G-04	Hor			1.9	-	-	-	-02757.223	23322.689	118.814							
1180	C	VL	F-04	Hor			-	-	-	-	-02741.895	23334.285	117.712							
1628	C	VL	G-03	Hor			0.1	-	-	-	-02753.846	23348.576	119.282							

第42表 古木戸B遺跡 旧石器層観察表

遺物番号	種別	器型	素材	形状	長さ (g)	径 (mm)	厚 (mm)	重量 (g)	文庫番号	写真番号	図録番号	備考
1137	石	AmPn1	C	R01	409	3.9	0.3	0	-02713.780	25516.526	118.091	
1138	石	AmPn1	C	R02	416	3.8	0.7	6	-02713.780	25516.526	118.091	
1139	石	AmPn1	D	R01	153	7.3	0.7	8.1	-02713.183	25516.526	118.091	
1140	石	AmPn1	D	R02	146	9.6	0.7	4	-02714.209	25516.526	118.091	
1141	石	AmPn1	D	R02	147	8.9	0.3	3.1	-02714.209	25516.526	118.091	
1142	石	AmPn1	D	R02	20	3.8	3.4	0.1	-02720.876	25517.1	118.104	
1143	石	AmPn1	D	R02	4	1.0	8.4	0.3	-02720.876	25517.1	118.104	
1615	石	AmPn1	U	R02	370	12.2	6.4	4.8	-02730.113	25516.526	118.091	
2516	石	AmPn1	D	R02	290	6.9	1.9	0	-02732.202	25516.526	118.091	
2517	石	AmPn1	D	R02	199	8	0.5	4.8	-02732.202	25516.526	118.091	
1618	石	AmPn1	C	R02	170	18.5	0.7	0	-02738.181	25516.526	118.091	
1619	石	AmPn1	D	R02	18	1.6	8.4	0.2	-02738.181	25516.526	118.091	
1620	石	AmPn1	D	R02	440	12.1	6.0	5.4	-02739.618	25516.526	118.091	
1621	石	AmPn1	D	R02	1034	17.3	3.2	7.8	-02739.618	25516.526	118.091	
1624	石	AmPn1	D	R02	40	1.1	3.8	1	-02742.002	25516.526	118.091	
1684	石	AmPn1	C	R01	626	8.2	0.2	6.6	-02750.177	25517.075	118.122	
1686	石	AmPn1	D	R04	410	9.8	7.8	0.4	-02750.177	25517.075	118.122	
1705	石	AmPn1	D	R04	533	10.2	10.9	6.3	-02750.177	25517.075	118.122	
1706	石	AmPn1	D	R04	69	8.7	6.9	2.3	-02750.177	25517.075	118.122	
1707	石	AmPn1	D	R01	149	7	2.0	1	-02750.612	25516.967	118.121	
1708	石	AmPn1	D	R04	30	7.7	4.8	3.1	-02750.612	25516.967	118.121	
1709	石	AmPn1	D	R04	91	5.8	4.5	4.0	-02750.612	25516.967	118.121	
1710	石	AmPn1	D	R04	130	5.9	5.9	8.0	-02750.792	25516.967	118.121	
1711	石	AmPn1	D	R04	30	4.4	3.1	2	-02750.792	25516.967	118.121	
1712	石	AmPn1	D	R02	186	4.9	6.1	6.6	-02750.792	25516.967	118.121	
1713	石	AmPn1	D	R04	54	2.4	4	3.5	-02750.792	25516.967	118.121	
1714	石	AmPn1	D	R04	360	19.8	8.1	8.5	-02750.792	25516.967	118.121	
1715	石	AmPn1	D	R04	16	7.7	8.8	3.1	-02750.792	25516.967	118.121	
1716	石	AmPn1	D	R04	6	1.4	1.7	0.8	-02750.652	25516.967	118.121	
1717	石	AmPn1	D	R04	215	8.7	7.1	6	-02750.652	25516.967	118.121	
1718	石	AmPn1	D	R04	1.8	8.2	1.0	0.8	-02750.652	25516.967	118.121	
1719	石	AmPn1	D	R04	10	1.8	1.2	0.7	-02750.433	25516.967	118.121	
1720	石	AmPn1	D	R04	1096	12.2	14.8	7.1	-02727.123	25516.967	118.121	
1721	石	AmPn1	D	R04	5	2.8	2	1.4	-02750.111	25516.967	118.121	
1722	石	AmPn1	D	R04	343	10.9	5.1	5.5	-02750.064	25516.967	118.121	
1723	石	AmPn1	D	R04	257	12.4	11.6	19	-02750.263	25516.967	118.121	
1724	石	AmPn1	D	R04	4	2.5	2.5	1.2	-02750.866	25516.967	118.121	
1725	石	AmPn1	D	R04	96	3.7	4.3	3.7	-02750.652	25516.967	118.121	
1726	石	AmPn1	D	R04	79	2.3	2.6	3.7	-02750.805	25516.967	118.121	
1727	石	AmPn1	D	R04	24	10.7	3.7	2.6	-02750.81	25516.967	118.121	
1728	石	AmPn1	D	R04	9	3.9	7.3	1.8	-02750.81	25516.967	118.121	
1729	石	AmPn1	D	R04	4	2.1	1.9	1.0	-02750.81	25516.967	118.121	
1730	石	AmPn1	D	R04	4	2.8	2.3	0.8	-02750.668	25516.967	118.121	
1731	石	AmPn1	D	R04	0	1.5	1.8	1.7	-02749.87	25516.967	118.121	
1732	石	AmPn1	D	R04	202	7.9	7.2	3.6	-02748.473	25516.967	118.121	
1733	石	AmPn1	D	R04	153	5.8	6.4	4.6	-02749.279	25516.967	118.121	
1734	石	AmPn1	D	R04	74	6.6	4	1.7	-02749.103	25516.967	118.121	
1735	石	AmPn1	D	R04	790	11.8	8.1	8.1	-02749.103	25516.967	118.121	
1736	石	AmPn1	D	R04	16	4.4	4.6	4.8	-02749.103	25516.967	118.121	
1737	石	AmPn1	D	R04	221	6.1	4.5	4.0	-02750.025	25516.967	118.121	
1738	石	AmPn1	D	R04	140	7.7	5.9	3.5	-02750.143	25516.967	118.121	
1739	石	AmPn1	D	R04	899	23.6	11.8	9.6	-02750.220	25516.967	118.121	
1740	石	AmPn1	D	R04	900	2.9	18.2	5.1	-02749.158	25516.967	118.121	
1741	石	AmPn1	D	R04	347	8.1	7.3	3.9	-02750.529	25516.967	118.121	
1742	石	AmPn1	D	R04	294	8.6	6.4	5.1	-02750.464	25516.967	118.121	
1743	石	AmPn1	D	R04	196	5.2	5.2	4.5	-02750.428	25516.967	118.121	
1744	石	AmPn1	D	R04	745	22.0	12.3	12.5	-02750.527	25516.967	118.121	
1745	石	AmPn1	D	R04	11	7.9	6.1	5.9	-02750.827	25516.967	118.121	
1746	石	AmPn1	D	R04	23	1.9	1.5	1.5	-02750.214	25516.967	118.121	
1747	石	AmPn1	D	R04	146	36.9	8.4	7	-02744.228	25516.967	118.121	
1748	石	AmPn1	D	R04	660	12.5	13.2	4	-02748.126	25516.967	118.121	
1749	石	AmPn1	D	R04	666	6.8	5.8	6.6	-02748.378	25516.967	118.121	
1750	石	AmPn1	D	R04	215	8.8	7.6	4.5	-02750.602	25516.967	118.121	
1751	石	AmPn1	D	R04	82	4.8	1.2	2.4	-02747.327	25516.967	118.121	
1752	石	AmPn1	D	R04	204	9.1	8.2	8.1	-02746.982	25516.967	118.121	
1753	石	AmPn1	D	R04	134	6	2.4	3.9	-02749.409	25516.967	118.121	
1754	石	AmPn1	D	R04	241	4.2	7.3	4.7	-02750.096	25516.967	118.121	
1755	石	AmPn1	D	R04	280	8.7	8.8	5.8	-02750.098	25516.967	118.121	
1756	石	AmPn1	D	R04	221	12.5	8.1	8.1	-02750.768	25516.967	118.121	
1757	石	AmPn1	D	R04	771	22.8	8.9	7.9	-02750.211	25516.967	118.121	
1758	石	AmPn1	D	R04	381	11	7.8	6.9	-02750.079	25516.967	118.121	
1759	石	AmPn1	D	R04	284	7.2	6	5.8	-02750.295	25516.967	118.121	
1760	石	AmPn1	D	R04	181	2.7	5.6	5.2	-02750.295	25516.967	118.121	
1761	石	AmPn1	D	R04	15.8	33.1	1.9	0	-02750.538	25516.967	118.121	
1762	石	AmPn1	D	R04	182	7.1	6.3	3	-02750.288	25516.967	118.121	
1763	石	AmPn1	D	R04	318	30.4	10.6	5.9	-02748.163	25516.967	118.121	
1764	石	AmPn1	D	R04	1104	13.9	11.2	7	-02749.248	25516.967	118.121	
1765	石	AmPn1	D	R04	514	20.8	8.4	7.1	-02749.651	25516.967	118.121	
1766	石	AmPn1	D	R04	283	8.1	6.6	6.6	-02750.28	25516.967	118.121	
1767	石	AmPn1	A	R07	405	2.4	6.5	4	-02750.28	25516.967	118.121	
1768	石	AmPn1	A	R07	2	1.6	1.2	1.0	-02754.128	25516.967	118.121	
1769	石	AmPn1	A	R07	5	1.7	1.8	0.8	-02753.208	25516.967	118.121	
1770	石	AmPn1	A	R07	4	1.9	1.5	0.8	-02748.241	25516.967	118.121	
1771	石	AmPn1	A	R07	8	2.7	1.7	3.3	-02752.008	25516.967	118.121	
1772	石	AmPn1	A	R07	7	1.2	1.2	0.1	-02751.75	25516.967	118.121	
1773	石	AmPn1	A	R07	8	2.7	2.5	1.3	-02751.905	25516.967	118.121	
1774	石	AmPn1	A	R07	6	1.1	2.5	0.7	-02753.827	25516.967	118.121	
1775	石	AmPn1	A	R07	8	2.8	0.8	1.2	-02754.461	25516.967	118.121	
1776	石	AmPn1	A	R07	2.4	2.9	1.1	1.1	-02754.094	25516.967	118.121	
1777	石	AmPn1	A	R07	4	0.7	2.3	0.1	-02754.066	25516.967	118.121	
1778	石	AmPn1	A	R07	16	4	3.4	3.5	-02756.488	25516.967	118.121	
1779	石	AmPn1	A	R07	6	1.8	1.8	1.1	-02756.800	25516.967	118.121	
1780	石	AmPn1	A	R07	0	1.8	1.9	1	-02750.22	25516.967	118.121	
1781	石	AmPn1	A	R07	9	2.6	2.2	1.1	-02754.329	25516.967	118.121	
1782	石	AmPn1	A	R07	11	2.8	2.1	0.9	-02748.110	25516.967	118.121	
1783	石	AmPn1	A	R07	4	1.3	0.9	0.9	-02748.367	25516.967	118.121	
1784	石	AmPn1	A	R07	6	2.2	1.9	1.4	-02748.560	25516.967	118.121	
1785	石	AmPn1	A	R07	3	1.2	1.2	0.1	-02754.408	25516.967	118.121	
1786	石	AmPn1	A	R07	3	1.2	1.2	0.1	-02751.690	25516.967	118.121	
1787	石	AmPn1	A	R07	1	1.8	1.7	1.4	-02751.18	25516.967	118.121	
1788	石	AmPn1	A	R07	5	1.5	1.4	1	-02750.878	25516.967	118.121	
1789	石	AmPn1	A	R07	6	2.1	1.4	0.9	-02750.718	25516.967	118.121	
1790	石	AmPn1	A	R07	3	1.1	1.4	0.9	-02750.28	25516.967	118.121	
1791	石	AmPn1	A	R07	2	2.8	1.6	1.0	-02751.602	25516.967	118.121	
1792	石	AmPn1	A	R07	2	2.8	1.6	1.0	-02751.60			





第7章 古木FB造橋

支脚番号	柱号	部材	工種	形状	数量	長さ(m)	断面積(m <sup>2</sup> )	重量(kg)	重量(kg)	下脚部(m)	支脚部(m)	単位
1800	303	AM(F)	F	17	3.3	1.7	-	-9758.273	23725.132			132.13
1801	303	AM(F)	A	3	2.1	1.4	0.9	-9758.617	23733.999			134.332
1802	304	AM(F)	A	6	1.8	1.8	1.7	-9757.186	23741.991			135.414
1803	304	AM(F)	A	11	3	2.6	1.2	-9757.332	23749.239			135.766
1804	305	AM(F)	A	3	1.7	1.3	1.2	-9757.672	23756.991			135.185
1805	305	AM(F)	A	3	1.9	1.1	1	-9757.873	23762.549			135.183
1806	305	AM(F)	A	4	2.1	1.4	1.1	-9758.068	23768.111			135.111
1807	306	AM(F)	A	4	2.5	3	1.3	-9757.973	23784.603			134.003
1808	306	AM(F)	A	20	4	3.2	2.6	-9757.696	23829.237			133.11
1809	307	AM(F)	A	3	1.8	1.5	1.6	-9757.948	23837.991			134.842
1810	307	AM(F)	A	3	1.8	1.5	1.8	-9757.888	23837.996			134.279
1811	308	AM(F)	A	2	2	2	2	-9756.539	23838.999			134.299
1812	308	AM(F)	A	2	2	2	2	-9756.601	23838.999			134.6
1813	309	AM(F)	A	2	2.6	3.5	2.4	-9747.801	23841.999			135.6
1814	309	AM(F)	A	4	4	2.9	1.7	-9748.061	23856.112			137.132
1815	310	AM(F)	A	5	6.5	3.8	2.8	-9757.64882	23868.999			138.796
1816	310	AM(F)	A	5	2.7	1.8	1.6	-9756.605	23869.999			138.793
1817	311	AM(F)	A	2	2	2	2	-9756.191	23874.991			138.474
1818	311	AM(F)	A	2	1.7	1.2	1.4	-9746.537	23885.549			138.443
1819	312	AM(F)	A	3	2.5	2.4	2.7	-9747.821	23891.999			138.282
1820	312	AM(F)	A	13	3.4	3.9	2.1	-9757.648	23905.323			141.858
1821	313	AM(F)	A	12	3.7	3.1	1.6	-9749.603	23911.794			143.754
1822	313	AM(F)	A	2	2.4	2	1.6	-9756.184	23926.971			142.794
1823	313	AM(F)	A	5	2.3	1.8	1.9	-9751.471	23928.273			143.461
1824	314	AM(F)	A	3	3.1	2.1	1.7	-9757.033	23938.999			143.616
1825	314	AM(F)	A	27	5.3	4.3	1.6	-9751.689	23938.287			145.508
1826	315	AM(F)	T	5	2.1	1.6	1.6	-9752.286	23938.999			144.112
1827	315	AM(F)	A	7	3.6	1.7	1.8	-9752.731	23938.999			144.672
1828	316	AM(F)	A	8	2	1.7	1.8	-9752.293	23938.999			145.389
1829	316	AM(F)	A	2	2.4	1.8	1.1	-9752.527	23938.999			145.468
1830	317	AM(F)	A	30	6.9	4	2	-9753.137	23938.1			146.644
1831	318	AM(F)	A	2	1.9	1.3	0.5	-9751.162	23931.489			145.373
1832	318	AM(F)	A	20	4.3	2.8	1.9	-9752.738	23938.999			145.474
1833	319	AM(F)	A	3	1.2	0.9	0.9	-9752.301	23939.239			145.239
1834	319	AM(F)	B	3	3.6	1.8	1.5	-9752.987	23942.999			146.299
1835	320	AM(F)	C	2	3	1.6	1.1	-9752.589	23942.999			146.299
1836	320	AM(F)	C	2	3.1	1.6	1.1	-9752.738	23942.999			146.297
1837	321	AM(F)	C	3	2.1	1.4	1	-9754.399	23938.999			145.966
1838	321	AM(F)	C	14	4.1	2.4	1	-9753.848	23942.999			146.849
1839	322	AM(F)	C	3	1.7	1.4	1.1	-9753.211	23942.999			146.994
1840	323	AM(F)	C	9	1.7	2.6	1.1	-9753.243	23932.635			134.975
1841	323	AM(F)	C	11	2.8	2.8	1.6	-9753.485	23932.635			134.986
1842	324	AM(F)	C	9	2.6	2.2	1.4	-9756.756	23937.269			134.774
1843	324	AM(F)	C	4	2.6	2.3	1.6	-9756.756	23937.269			134.774
1844	325	AM(F)	C	4	2.6	2.3	1.1	-9756.589	23938.491			135.113
1845	326	AM(F)	C	4	2.3	2.3	1	-9756.481	23946.271			135.912
1846	326	AM(F)	A	3.3	2.3	2.3	1.6	-9757.032	23942.999			136.939
1847	327	AM(F)	D	14	3.7	2.6	1.7	-9749.773	23931.717			137.967
1848	327	AM(F)	D	4	3.8	1.9	1.6	-9749.489	23931.717			137.912
1849	328	AM(F)	C	13	3.1	3.3	2.8	-9749.373	23931.717			137.967
1850	328	AM(F)	C	9	2.2	1.3	1.2	-9756.162	23931.717			137.967
1851	329	AM(F)	B	11	3.2	2.3	1.4	-9751.979	23931.992			137.031
1852	329	AM(F)	B	11	4.2	2.7	2.3	-9759.895	23931.714			137.963
1853	329	AM(F)	B	3.3	4	1.6	1.6	-9759.111	23931.714			137.477
1854	330	AM(F)	B	6	2.4	2.7	1.6	-9741.423	23939.213			137.232
1855	330	AM(F)	B	6	2.2	2.4	0.8	-9741.423	23939.213			137.232
1856	330	AM(F)	B	11	3.1	2.7	1.8	-9741.792	23929.963			138.395
1857	331	AM(F)	B	6	2.3	1.6	1.2	-9743.477	23938.999			136.949
1858	331	AM(F)	B	4	2.3	1.6	1.2	-9743.488	23938.999			136.949
1859	332	AM(F)	B	4	2	1.9	1	-9743.684	23938.999			136.471
1860	332	AM(F)	B	6	2.6	2.5	1	-9743.615	23938.999			136.599
1861	333	AM(F)	B	6	1.8	1.7	1.8	-9743.841	23931.1			138.841
1862	333	AM(F)	B	5	2.7	2	0.9	-9742.486	23934.983			138.26
1863	334	AM(F)	B	3	2.1	2.5	0.7	-9742.486	23932.463			135.249
1864	334	AM(F)	B	3	2.1	2.5	0.7	-9742.486	23932.463			135.249
1865	335	AM(F)	B	8	2.7	2.5	1.7	-9747.289	23938.999			135.039
1866	335	AM(F)	B	3	1.6	1.6	1.2	-9747.289	23938.999			135.039
1867	336	AM(F)	B	4	3.1	3.8	2.9	-9748.533	23939.762			135.904
1868	336	AM(F)	B	3	2.1	2.5	1.7	-9748.589	23938.999			135.774
1869	337	AM(F)	B	1.9	1.9	1.6	1.1	-9752.536	23938.999			134.911
1870	337	AM(F)	B	11	3.5	2.5	1.4	-9751.139	23929.112			134.871
1871	338	AM(F)	B	6	2.4	2.4	1.8	-9751.478	23938.999			134.999
1872	338	AM(F)	B	6	2.9	2	1.7	-9751.386	23927.269			134.629
1873	339	AM(F)	B	6	1.9	1.9	1.6	-9751.589	23938.999			134.994
1874	339	AM(F)	B	4	2.1	1.8	1.2	-9752.771	23938.999			134.778
1875	339	AM(F)	B	5	2.3	1.9	1.1	-9751.689	23938.999			133.79
1876	340	AM(F)	B	3	1.8	1.7	0.7	-9751.739	23931.489			134.739
1877	340	AM(F)	B	4	2.7	1.2	1.1	-9742.823	23938.999			134.912
1878	341	AM(F)	B	3	1.6	1.4	1	-9742.823	23938.999			134.912
1879	341	AM(F)	B	4	3.1	0.6	0.6	-9743.489	23938.999			134.912
1880	342	AM(F)	A	2	1.6	1.4	1	-9743.373	23938.999			134.739
1881	342	AM(F)	A	3	1.7	1.6	1.1	-9742.792	23938.999			134.912
1882	343	AM(F)	C	1	1.4	1.2	0.8	-9743.799	23939.847			135.77
1883	343	AM(F)	C	7	2.2	1.6	1.1	-9743.281	23938.999			135.039
1884	344	AM(F)	A	5	2.4	2.7	2.2	-9744.252	23937.3			136.992
1885	344	AM(F)	A	3	2	2.6	0.8	-9744.252	23937.3			136.999
1886	345	AM(F)	A	3	1.9	1.7	0.9	-9745.821	23937.3			136.133
1887	345	AM(F)	A	12	3.4	2.6	1.4	-9745.251	23938.176			136.461
1888	346	AM(F)	A	7	2.9	2.9	1.9	-9744.401	23938.999			136.17
1889	346	AM(F)	C	6	3.3	1.6	1.6	-9745.793	23938.999			134.476
1890	346	AM(F)	C	5	1.7	1.3	1.3	-9745.682	23938.999			135.247
1891	347	AM(F)	C	1	1.6	1.6	1.1	-9747.129	23938.999			136.132
1892	347	AM(F)	C	8	2.1	2.6	1.9	-9747.129	23938.999			136.132
1893	348	AM(F)	C	7	2.3	2.2	1.3	-9747.879	23938.999			135.538
1894	348	AM(F)	C	4	2.1	2.7	1.9	-9747.47	23937.239			135.921
1895	349	AM(F)	A	8	2.8	2.8	2.1	-9747.749	23937.239			136.136
1896	349	AM(F)	A	9	3.2	1.9	1.4	-9747.696	23937.239			136.133
1897	350	AM(F)	A	5	2.1	2	1.4	-9746.765	23937.239			135.939
1898	350	AM(F)	A	2	3.3	1.8	0.6	-9748.133	23938.429			135.814
1899	350	AM(F)	A	8	2.6	1.8	1.6	-9748.233	23937.742			134.688
1900	351	AM(F)	B	1.9	1.9	1.9	1.9	-9747.849	23937.742			135.92
1901	351	AM(F)	B	6.5	1.2	0.8	0.8	-9749.536	23937.899			135.289
1902	352	AM(F)	B	6	1.9	1.9	1.6	-9751.1	23947.847			134.847
1903	353	AM(F)	B	6	2.3	2	1.4	-9747.384	23937.239			134.623
1904	353	AM(F)	B	4	2.7	2	1.4	-9747.384	23937.239			134.623
1905	354	AM(F)	B	7	3.1	2.8	0.8	-9751.243	23938.999			134.764
1906	354	AM(F)	B	2	2.1	2.1	1	-9750.891	23938.999			134.849
1907	355	AM(F)	B	3	2.1	1.6	1.2	-9749.486	23937.239			135.484
1908	355	AM(F)	B	3	2.1	1.6	1.2	-9749.486	23937.239			135.484
1909	356	AM(F)	B	7	2.8	2.1	1.2	-9749.389	23938.999			135.28
1910	356	AM(F)	B									





## 第2期 旧石器時代の調査

調査番号	経緯	方位	名称	年代	構造	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	埋深(m)	土質(%)	土質(%)	土質(%)	備考
1201	Y	NE	AxP	D	0.1	0.7	0.4	0.4	-9774.608	13101.411	13153.0		
1202	Y	NE	AxP	D	0.3	1.1	0.6	0.4	-9774.373	13101.497	13159.6		
1206	Y	NE	AxP	D	0.1	0.8	0.4	0.4	-9774.108	13101.497	13160.8		
1207	Y	NE	AxP	D	0.1	0.8	0.6	0.3	-9774.770	13101.497	13174.7		
1208	Y	NE	AxP	D	1.6	1.4	1.4	1.4	-9774.522	13101.497	13218.1		
1209	Y	NE	AxP	D	0.3	0.9	0.7	0.5	-9773.27	13101.317	13171.7		
1240	Y	NE	AxP	D	2	1.5	1.2	1.0	-9770.174	13101.261	13127.6		
1241	Y	NE	AxP	D	1.1	1.2	1.1	0.9	-9771.484	13101.497	13178.4		
1242	Y	NE	AxP	D	1.4	1.9	1.9	0.8	-9772.244	13101.700	13137.7		
1243	Y	NE	AxP	D	1.5	1.6	1.5	1.1	-9774.027	13101.67	13170.7		
1244	Y	NE	AxP	D	0.1	0.8	0.9	0.3	-9775.319	13101.417	13128.8		
1245	Y	NE	AxP	D	0.1	1.1	0.9	0.8	-9774.179	13101.497	13160.0		
1247	Y	NE	AxP	D	0.6	1.0	1.1	0.6	-9771.871	13101.671	13173.0		
1248	Y	NE	AxP	D	1	1.4	1.4	0.9	-9774.267	13101.497	13174.4		
1249	Y	NE	AxP	D	0.3	2	1.7	1.1	-9770.301	13101.377	13142.6		
1249	Y	NE	AxP	D	0.1	0.9	0.6	0.6	-9770.084	13101.497	13166.6		
1261	Y	NE	AxP	D	16.6	4.2	2.3	1.5	-9771.486	13101.379	13193.5		
1262	Y	NE	AxP	D	2.6	1.7	1.3	0.6	-9775.77	13101.231	13161.1		
1263	Y	NE	AxP	D	0.2	0.7	1	0.7	-9771.97	13101.497	13170.7		
1264	Y	NE	AxP	D	0.1	1	0.8	0.4	-9774.371	13101.497	13181.1		
1265	Y	NE	AxP	D	2	1.8	1.6	0.7	-9771.844	13101.261	13126.1		
1267	Y	NE	AxP	D	0.5	1	0.9	0.7	-9770.623	13101.397	13127.4		
1268	Y	NE	AxP	D	1	1.1	1.1	0.7	-9771.391	13101.497	13161.1		
1269	Y	NE	AxP	D	1	1.1	1.2	0.7	-9771.526	13101.317	13143.1		
1269	Y	NE	AxP	D	5	2.7	2	1	-9774.130	13101.417	13124.1		
1269	Y	NE	AxP	D	0.2	0.9	0.6	0.3	-9774.368	13101.497	13161.1		
1269	Y	NE	AxP	D	1	1.3	0.9	0.6	-9771.486	13101.231	13137.6		
1269	Y	NE	AxP	D	1	1.4	1.3	0.5	-9772.269	13101.701	13132.2		
1269	Y	NE	AxP	D	0.2	0.8	0.5	0.6	-9771.396	13101.391	13139.6		
1269	Y	NE	AxP	D	2	1.8	1.1	0.8	-9772.962	13101.301	13117.6		
1269	Y	NE	AxP	D	1	1.2	1	0.7	-9772.821	13101.461	13134.6		
1269	Y	NE	AxP	D	1.7	1.4	0.8	0.7	-9772.065	13101.777	13174.7		
1269	Y	NE	AxP	D	1	1.0	0.9	0.8	-9772.468	13101.700	13170.0		
1269	Y	NE	AxP	D	4	2.0	2	1.3	-9770.172	13101.702	13144.6		
1269	Y	NE	AxP	D	4	1.8	1.4	1.4	-9772.2	13101.497	13184.7		
1270	Y	NE	AxP	D	1	1.2	1	1	-9771.189	13101.317	13111.1		
1271	Y	NE	AxP	D	1	1.4	0.8	0.8	-9770.093	13101.231	13128.8		
1272	Y	NE	AxP	D	0.2	1.3	1	0.2	-9774.161	13101.497	13174.4		
1273	Y	NE	AxP	D	4	2.1	1.8	1.3	-9771.812	13101.497	13223.3		
1274	Y	NE	AxP	D	0.6	0.2	0.6	0.2	-9771.396	13101.497	13166.6		
1275	Y	NE	AxP	D	1	1.3	1.7	1.2	-9771.708	13101.391	13133.3		
1276	Y	NE	AxP	D	0.1	1.1	0.7	0.4	-9771.361	13101.497	13161.1		
1277	Y	NE	AxP	D	1	1.5	1.1	0.7	-9771.396	13101.497	13166.6		
1278	Y	NE	AxP	D	1	1.4	1.1	1.1	-9771.243	13101.291	13129.1		
1279	Y	NE	AxP	D	1	1.6	1.4	1.4	-9771.561	13101.497	13184.7		
1280	Y	NE	AxP	D	1	1.3	1	0.6	-9771.486	13101.497	13174.4		
1281	Y	NE	AxP	D	1	1.6	1.3	1.1	-9771.189	13101.317	13144.6		
1282	Y	NE	AxP	D	5	1.4	1.2	1.2	-9771.670	13101.391	13159.6		
1283	Y	NE	AxP	D	2	2	1.4	0.6	-9772.487	13101.231	13121.6		
1284	Y	NE	AxP	D	1	1.8	1.8	1.8	-9771.812	13101.497	13193.5		
1285	Y	NE	AxP	D	2	2.3	1.2	2	-9770.782	13101.291	13107.7		
1286	Y	NE	AxP	D	0.6	1.2	0.9	0.6	-9771.189	13101.317	13144.6		
1287	Y	NE	AxP	D	8	1.4	1.2	1.2	-9770.049	13101.461	13172.0		
1288	Y	NE	AxP	D	1	1.4	1	0.9	-9770.174	13101.497	13174.4		
1288	Y	NE	AxP	D	0.4	2	1.5	1.5	-9770.172	13101.497	13166.6		
1291	Y	NE	AxP	D	6	1.7	1.8	1.2	-9772.06	13101.497	13179.6		
1291	Y	NE	AxP	D	3	1.9	2	1.9	-9771.486	13101.391	13166.6		
1292	Y	NE	AxP	D	4	1.7	1.8	0.8	-9774.285	13101.497	13193.5		
1293	Y	NE	AxP	D	1	1.6	1.4	0.6	-9771.243	13101.291	13129.1		
1294	Y	NE	AxP	D	0.5	1.1	1	0.7	-9774.564	13101.700	13184.6		
1295	Y	NE	AxP	D	0	1.3	2	1.4	-9773.721	13101.497	13161.1		
1296	Y	NE	AxP	D	1	1.8	1.6	0.7	-9771.670	13101.391	13159.6		
1297	Y	NE	AxP	D	3	2.1	1.4	0.9	-9770.897	13101.317	13159.6		
1298	Y	NE	AxP	D	1	1.5	1.5	1.5	-9771.396	13101.497	13166.6		
1299	Y	NE	AxP	D	0.2	1	0.7	0.5	-9772.06	13101.497	13174.4		
1300	Y	NE	AxP	D	1	1.2	1.1	0.9	-9771.486	13101.497	13166.6		
1301	Y	NE	AxP	D	0.2	1.7	1.4	0.8	-9771.189	13101.317	13144.6		
1302	Y	NE	AxP	D	2	1.8	1.8	0.8	-9771.189	13101.317	13144.6		
1303	Y	NE	AxP	D	1	1.8	1.7	1.4	-9771.486	13101.497	13166.6		
1304	Y	NE	AxP	D	8	2.6	1.5	1.5	-9771.91	13101.497	13144.6		
1305	Y	NE	AxP	D	0.1	0.8	0.9	0.1	-9770.812	13101.497	13166.6		
1306	Y	NE	AxP	D	2	1.3	1.1	0.9	-9771.812	13101.317	13144.6		
1310	Y	NE	AxP	D	1	1.2	1	0.7	-9771.680	13101.497	13161.1		
1311	Y	NE	AxP	D	6	3.4	1.8	1.7	-9771.312	13101.497	13174.4		
1312	Y	NE	AxP	D	7	3	2.3	1.4	-9771.729	13101.497	13166.6		
1313	Y	NE	AxP	D	6	1.6	1.6	1.6	-9771.447	13101.391	13154.4		
1314	Y	NE	AxP	D	7	2.3	0.8	1.7	-9771.416	13101.497	13151.2		
1315	Y	NE	AxP	D	0.1	0.8	0.6	0.4	-9771.486	13101.497	13166.6		
1316	Y	NE	AxP	D	2	1.8	1.4	0.8	-9771.471	13101.497	13166.6		
1317	Y	NE	AxP	D	1	1.3	1.2	0.9	-9770.225	13101.291	13129.1		
1318	Y	NE	AxP	D	1	1.5	1.4	0.8	-9770.812	13101.497	13166.6		
1319	Y	NE	AxP	D	6	2.8	1.8	1.5	-9770.897	13101.497	13159.6		
1320	Y	NE	AxP	D	8	2.8	2	1	-9770.174	13101.497	13166.6		
1321	Y	NE	AxP	D	1	1.4	1.1	0.7	-9771.670	13101.391	13159.6		
1322	Y	NE	AxP	D	1	1.3	0.8	0.9	-9770.812	13101.497	13166.6		
1323	Y	NE	AxP	D	0.1	0.8	1.9	0.9	-9774.066	13101.700	13197.7		
1324	Y	NE	AxP	D	1	1.4	0.8	0.4	-9771.491	13101.231	13137.6		
1325	Y	NE	AxP	D	1	1.2	1.2	0.8	-9771.091	13101.497	13166.6		
1326	Y	NE	AxP	D	5	1.8	1.5	1.3	-9770.174	13101.291	13107.7		
1327	Y	NE	AxP	D	1	1.5	1	0.9	-9772.06	13101.497	13174.4		
1328	Y	NE	AxP	D	1	1.5	1	0.9	-9771.812	13101.317	13144.6		
1329	Y	NE	AxP	D	2	1.3	1.3	0.9	-9771.812	13101.317	13144.6		
1330	Y	NE	AxP	D	2	1.8	1.4	0.8	-9771.486	13101.497	13166.6		
1331	Y	NE	AxP	D	2	1.8	1.4	0.8	-9771.486	13101.497	13166.6		
1332	Y	NE	AxP	D	1	1.5	1.2	0.9	-9770.225	13101.291	13129.1		
1333	Y	NE	AxP	D	1	1.5	1.4	0.8	-9770.812	13101.497	13166.6		
1334	Y	NE	AxP	D	6	2.8	1.8	1.5	-9770.897	13101.497	13159.6		
1335	Y	NE	AxP	D	8	2.8	2	1	-9770.174	13101.497	13166.6		
1336	Y	NE	AxP	D	1	1.4	1.1	0.7	-9771.670	13101.391	13159.6		
1337	Y	NE	AxP	D	1	1.3	0.8	0.9	-9770.812	13101.497	13166.6		
1338	Y	NE	AxP	D	1	1.4	0.8	0.4	-9771.491	13101.231	13137.6		
1339	Y	NE	AxP	D	4	1.1	1.8	0.9	-9774.066	13101.700	13197.7		
1340	Y	NE	AxP	D	1	1.2	1.1	0.4	-9774.079	13101.317	13144.6		
1341	Y	NE	AxP	D	1	1.2	1.1	0.4	-9774.079	13101.317	13144.6		
1342	Y	NE	AxP	D	1	1.2	1.1	0.4	-9774.079	13101.317	13144.6		
1343	Y	NE	AxP	D	1	1.2	1.1	0.4	-9774.079	13101.317	13144.6		
1344	Y	NE	AxP	D	1	1.2	1.1	0.4	-9774.079	13101.317	13144.6		
1345	Y	NE	AxP	D	1	1.2	1.1	0.4	-9774.079	13101.317	13144.6		
1346	Y	NE	AxP	D	1	1.2	1.1	0.4	-9774.079	13101.317	13144.6		
1347	Y	NE	AxP	D	1	1.2	1.1	0.4	-9774.079				

第V章 古木戸B遺跡

古木戸B	標高	用途	地種	形状	面積(m <sup>2</sup> )	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	土層番号	Y座標(m)	Z座標(m)	地質
1379	VL	As(砂)	D	1	1.4	1	0.7	-0271230	23443.127	225.094		
1380	VL	As(砂)	D	0.5	1.1	0.8	0.7	-0271040	23443.735	225.094		
1382	VL	As(砂)	D	1	1.8	1.4	0.9	-0271064	23443.737	225.094		
1383	VL	As(砂)	D	2	2.5	2.0	2.0	-0271028	23443.768	225.074		
1384	VL	As(砂)	D	1	1.4	1.1	1.0	-0270842	23443.768	225.074		
1386	VL	As(砂)	D	9	2.8	1.4	1.8	-0271032	23443.804	225.140		
1387	VL	As(砂)	D	1	1.1	1.1	0.7	-0271042	23443.804	225.140		
1388	VL	As(砂)	D	1	1.1	1.3	0.9	-0271038	23443.799	225.158		
1390	VL	As(砂)	D	1	1.5	1.3	0.7	-0271274	23443.771	225.079		
1391	VL	As(砂)	D	1	2.4	2.1	1.7	-0271048	23443.854	225.077		
1392	VL	As(砂)	D	14	3.0	2	1.7	-0270928	23443.854	225.073		
1393	VL	As(砂)	D	8	2.8	2.6	2.0	-0271038	23443.854	225.073		
1394	VL	As(砂)	D	4	2.3	1.8	1.6	-0271046	23443.854	225.096		
1395	VL	As(砂)	D	726	11.1	9.2	6.8	-0271036	23443.879	225.097		
1407	VL	As(砂)	D	5	5.1	2.4	2	-0271267	23443.141	225.229		
1408	VL	As(砂)	D	155	6.1	6.7	4.1	-0273244	23443.232	225.237		
1409	VL	As(砂)	D	9	6.4	6.7	4.2	-0273287	23443.232	225.237		
1413	VL	As(砂)	D	4	2.8	1.7	1.1	-0271032	23443.397	225.249		
1413	VL	As(砂)	D	70	2.8	2.3	2.4	-0271036	23443.397	225.249		
1415	VL	As(砂)	D	9	3.0	2	1.8	-0271073	23443.056	225.271		
1416	VL	As(砂)	D	18	3.0	2.6	1.8	-0270822	23443.235	225.273		
1417	VL	As(砂)	D	12	4.3	3.7	2.1	-0271036	23443.242	225.273		
1419	VL	As(砂)	D	1	1.5	1.8	1.0	-0270822	23443.261	225.281		
1420	VL	As(砂)	D	8	2.8	3.3	1.4	-0271036	23443.267	225.281		
1423	VL	As(砂)	D	3	1.0	1	1	-0274483	23443.001	225.404		
1425	VL	As(砂)	D	7	6	4.3	2	-0274485	23443.023	225.403		
1426	VL	As(砂)	D	4	2.2	1.8	1.1	-0274483	23443.023	225.403		
1428	VL	As(砂)	D	94	3.2	3.4	2.4	-0271036	23443.023	225.403		
1429	VL	As(砂)	D	4	2	1.6	1.2	-0271036	23443.023	225.403		
1430	VL	As(砂)	D	1	1.8	1.2	0.9	-0271036	23443.023	225.403		
1431	VL	As(砂)	D	35	3.1	3.1	2.3	-0271036	23443.023	225.403		
1432	VL	As(砂)	D	3	2	1.4	1	-0271036	23443.023	225.403		
1434	VL	As(砂)	D	5	2.9	2.1	1.6	-0271036	23443.023	225.403		
1440	VL	As(砂)	D	3	1.8	1.6	0.7	-0273329	23443.808	225.423		
1441	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1442	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1443	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1444	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1445	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1446	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1447	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1448	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1449	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1450	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1451	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1452	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1453	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1454	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1455	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1456	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1457	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1458	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1459	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1460	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1461	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1462	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1463	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1464	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1465	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1466	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1467	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1468	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1469	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1470	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1471	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1472	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1473	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1474	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1475	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1476	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1477	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1478	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1479	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1480	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1481	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1482	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1483	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1484	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1485	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1486	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1487	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1488	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1489	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1490	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1491	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1492	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1493	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1494	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1495	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1496	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1497	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1498	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1499	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1500	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1501	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1502	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1503	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1504	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1505	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1506	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1507	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1508	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1509	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1510	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1511	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1512	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1513	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1514	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1515	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1516	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1517	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1518	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1519	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1520	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1521	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		
1522	VL	As(砂)	D	2	1.8	1.2	0.7	-0273344	23443.808	225.423		

第 2 節 旧石器時代の調査

調査地点	遺構	層位	土質	形状	用途	長さ(L)	幅(B)	厚さ(H)	容積(V)	位置(北緯・東経)	調査年	調査者
1025	YL	AmPy1	B	2.4	1.0	1.2	-92748.54	25134.04	136.81			
1031	YL	AmPy1	B	2.3	1.0	1.1	-92748.890	25134.615	117.433			
1033	YL	AmPy1	B	1.6	1.3	1	-92748.249	25134.7	117.094			
1036	YL	AmPy1	B	9.3	3	1.3	-92748.987	25134.671	118.039			
1038	YL	AmPy1	B	2.6	1.2	1.2	-92748.822	25134.727	117.037			
1043	YL	AmPy1	B	1.1	0.3	1.0	-92750.225	10491.18	131.561			
1047	YL	AmPy1	D	109	7.9	4.3	-92750.365	10491.966	183.511			
1049	YL	AmPy1	D	14	5.4	2.4	-92750.136	10491.787	118.794			20
1049	YL	AmPy1	D	60	7.1	4	2	-92747.139	25134.1	118.805		21
1057	YL	AmPy1	B	13.8	0.6	1.3	-92748.133	25134.1	117.637			
1061	YL	AmPy1	B	943	115.9	15.8	4.3	-92745.217	10338.338	117.639		
1061	YL	AmPy1	B	209	5.1	4.7	1.2	-92745.228	10338.435	117.639		
1064	YL	AmPy1	B	0.5	0.7	1.2	-92750.289	10338.339	118.91			
1069	YL	AmPy1	B	5.7	2.7	3	1.1	-92748.561	10334.948	118.713		
1072	YL	AmPy1	B	4.4	2.8	3	1.1	-92750.348	10334.948	118.747		
1075	YL	AmPy1	D	0.8	2.6	2	1.6	-92750.417	10334.913	118.747		
1075	YL	AmPy1	D	11	2.4	1.1	1.1	-92750.136	10334.913	118.747		30
1079	YL	AmPy1	D	41	6.3	3.9	2.1	-92748.627	10334.916	118.806		
1082	YL	AmPy1	D	17	5.9	2.6	1.9	-92744.497	10331.674	117.479		34
1084	YL	AmPy1	B	79	9	9.9	2.1	-92750.325	10334.916	117.817		
1084	YL	AmPy1	B	1.2	1.0	1.0	0.7	-92750.025	10334.916	120.939		
1085	YL	AmPy1	B	2.4	2.7	1	0.9	-92750.226	10334.916	120.939		
1086	YL	AmPy1	B	1.8	1.8	1.3	0.9	-92751.297	10334.916	121.51		
1097	YL	AmPy1	B	3.1	3.2	1.1	1.1	-92748.138	10334.916	117.762		
1118	YL	AmPy1	B	0.8	2	1.9	3.8	-92748.943	10334.271	118.274		
1119	YL	AmPy1	B	5.6	2.5	2.9	0.9	-92745.21	10334.916	116.47		
1184	YL	AmPy1	B	77	5	4.8	3.4	-92750.325	10334.916	118.419		
1136	YL	AmPy1	B	133	7.3	4.9	4.3	-92749.27	10334.916	118.589		
1139	YL	AmPy1	B	1.5	1.6	1.2	1	-92751.002	10334.916	118.128		
1150	YL	AmPy1	B	9	2.8	2.3	1.4	-92751.113	10334.916	118.234		
1161	YL	AmPy1	B	3.5	1.6	1.6	1.4	-92750.961	10334.916	118.213		
1162	YL	AmPy1	B	1.4	2	1.5	2.3	-92750.961	10334.916	118.213		
1163	YL	AmPy1	B	5.1	1.8	1.6	1.2	-92750.175	10334.916	118.299		
1164	YL	AmPy1	B	1.8	1.8	1.8	1.4	-92750.961	10334.916	118.299		
1165	YL	AmPy1	B	17.4	2.2	2.3	2.3	-92749.486	10334.916	118.406		
1166	YL	AmPy1	B	5.4	2.7	2.3	2.1	-92750.961	10334.916	118.299		
1168	YL	AmPy1	B	0.3	2.9	2.2	1.6	-92754.006	10334.916	118.589		
1169	YL	AmPy1	B	3.5	2.7	1.9	1.1	-92747.924	10334.916	118.897		
1172	YL	AmPy1	B	2.1	4.3	2.4	1.1	-92748.986	10334.916	117.964		
1175	YL	AmPy1	B	3	2.3	1.6	0.7	-92749.179	10334.916	118.299		
1176	YL	AmPy1	A	11.6	5.8	4.3	4.4	-92749.106	10334.916	117.639		
2043	YL	AmPy1	B	0.4	1.3	0.8	0.5	-	-	-	-	-
2044	YL	AmPy1	B	0.7	1.2	0.8	0.9	-	-	-	-	-
2045	YL	AmPy1	B	1.2	1.8	1.4	1.8	-	-	-	-	-
2048	YL	AmPy1	B	2	1.9	0.7	-	-	-	-	-	-
1119	YL	Ba	B	1	1.7	1.4	1	-92743.444	10334.011	117.838		
1026	YL	Ba	A	84	5.7	4.3	2.6	-92750.022	10334.916	116.477		
1089	YL	Com	A	4.3	2.6	1.8	0.8	-92750.071	10334.916	118.486		
1421	YL	GC	F	27	1.7	1.7	1.5	-92711.812	10334.916	118.096		
716	YL	HSS	D	74	7.4	5.6	2.8	-92755.35	10334.916	119.746		
1077	YL	MBS	A	16	3.4	2.6	2.1	-92744.481	10334.916	117.699		
1120	YL	Phy	C	4.7	1.9	0.9	1	-92755.528	10334.916	116.482		
1140	YL	Ry	C	40	4	2.0	2.1	-92752.191	10334.916	120.546		
482	YL	Ts	B	15	4.3	2.9	1.8	-92759.194	10334.916	119.906		
482	YL	Ts	B	901	10	8	7.1	-92750.293	10334.916	123.779		
1050	YL	Ts	D	30	44	3.8	4.1	-92750.266	10334.916	123.779		
1050	YL	Ts	B	15	4.9	5.5	1.8	-92754.479	10334.916	123.97		
1170	YL	VaA	D	5	1.1	1.7	1.8	-92755.618	10334.916	118.62		
1179	YL	VaA	C	266	84	7.2	5.3	-92751.783	10334.916	120.628		
1175	YL	VaA	B	959	94	7.1	7.1	-92752.268	10334.916	121.2		
1175	YL	VaA	D	290	9.2	0.7	5.2	-92711.027	10334.916	118.392		
1209	YL	VaA	D	112	7.4	3	3.7	-92761.389	10334.916	116.196		
1071	YL	VaA	D	7	1.7	1.8	0.9	-92758.984	10334.916	119.921		
1159	YL	VaA	B	312	3.2	2.8	1.9	-92757.764	10334.916	121.238		
1180	YL	VaA	D	11	5.1	2.5	1.6	-92711.023	10334.916	122.059		
1429	YL	VaA	B	6	2.8	2.1	1.7	-92737.058	10334.916	118.613		
1421	YL	VaA	B	2497	1.7	6.3	5.3	-92734.194	10334.916	119.273		
1033	YL	VaA	B	6.2	1	0.9	0.4	-92739.142	10334.916	119.759		
1097	YL	VaA	B	1.7	2	1.4	1	-92737.041	10334.916	118.856		
1500	YL	VaA	B	44.3	0.5	1.6	1.4	-92751.179	10334.916	119.854		
1504	YL	VaA	B	6.7	9	2.1	5.8	-92753.056	10334.916	119.73		
1530	YL	VaA	B	5	8.1	2.8	2	-92732.997	10334.916	121.629		
1538	YL	VaA	B	3.7	2.1	1.4	1.8	-92743.551	10334.916	121.211		
2129	YL	VaA	E	9.4	2.1	1.8	1.1	-92737.339	10334.916	120.628		
1033	YL	VaA	B	1.8	3.1	1.8	1	-92738.906	10334.916	119.794		
1581	YL	VaA	C	109	6.9	2.8	4	-92742.813	10334.916	117.4		
1627	YL	VaA	A	36	5.1	4.2	2.6	-92746.205	10334.916	115.762		
1638	YL	VaA	A	32	4.7	8	2.3	-92746.173	10334.916	118.961		
1639	YL	VaA	A	11	1.4	1	1	-92748.009	10334.916	117.076		
1624	YL	VaA	B	17	4	2.7	2.1	-92746.984	10334.916	117.494		
1611	YL	VaA	B	3.8	2.4	1.9	1.2	-92742.81	10334.916	117.294		
1648	YL	VaA	B	1.7	2.6	1.7	1.6	-92746.705	10334.916	119.794		
1649	YL	VaA	A	79	6.3	4.2	3.6	-92746.383	10334.916	117.311		
1652	YL	VaA	B	4.5	2.6	3	1.1	-92745.678	10334.916	117.582		
1668	YL	VaA	A	12	5.1	8.7	1.9	-92743.656	10334.916	118.077		
1674	YL	VaA	B	9.4	2.2	1.7	1.1	-92742.029	10334.916	118.286		
1696	YL	VaA	B	28	4.2	3.8	2.8	-92743.161	10334.916	118.822		
1680	YL	VaA	A	212	8.2	6.7	5.7	-92748.287	10334.916	115.627		
1776	YL	VaA	B	10.1	11.7	6.8	4.1	-92750.156	10334.916	116.612		
1797	YL	VaA	A	7	5.1	1.1	2.9	-92754.939	10334.916	115.029		
216	YL	VaA	D	7	1.2	1.9	0.9	-92736.571	10334.916	118.079		
316	YL	VaA	D	11	1.9	1.9	1.9	-92741.726	10334.916	115.862		
1171	YL	VaA	D	15	2.7	1.6	1	-92736.305	10334.916	118.684		
1641	YL	VaA	B	26.7	2.9	2.8	2.8	-92746.484	10334.916	118.486		
1618	YL	VaA	B	166	8.1	6.2	3.8	-92743.183	10334.916	117.285		
712	YL	AmPy1	D	909	26.9	21.1	10.1	-92750.524	10334.916	118.844		

### 第3節 縄文時代の調査

#### 1 遺構

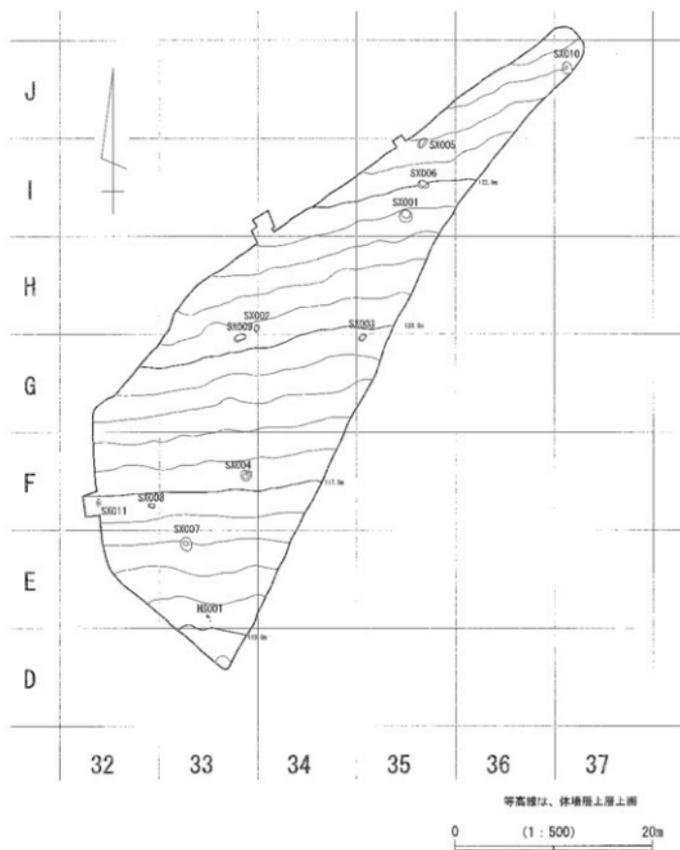
##### (1) 概要

古木戸B遺跡では、栗色土層から休場層（上面）にかけて、土坑11基と集石遺構1基が確認され、土器、石器礫等の遺物が多く出土した。いずれも出土層位や特徴から縄文時代に相当するものと判断した。

調査区で確認された地形は、北から南に緩やかに傾斜する斜面である。遺構は調査区のほぼ全域に分布している。

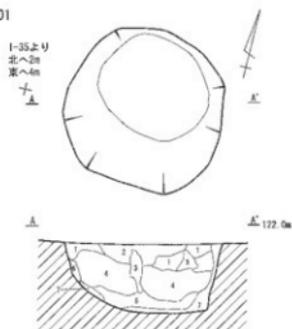
##### (2) 遺構

SX001 1-35グリッド付近で確認された直径約1.3m、深さ0.56mの円形の土坑である。断面形は深皿状



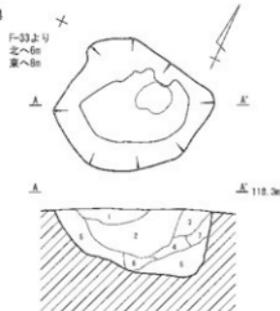
第107図 古木戸B遺跡 縄文時代遺構分布図

SX001



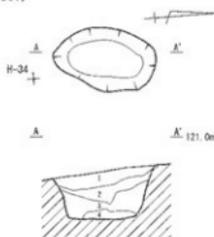
- 1 暗褐色土 2m次の黒色スコリアをわずかに含む。ややしまりなし。
- 2 暗褐色土 3~5m次の黒色スコリアを多く含む。
- 3 明黄褐色土 下部では黒色土が混じる。しまりなし。
- 4 赤色土 2~3mの黄色及び赤色スコリアを含む。
- 5 暗褐色土 ややしまりなし。
- 6 黄褐色土 YL層相当
- 7 褐色土 5層と6層の層移の形跡の色調を示す。

SX004



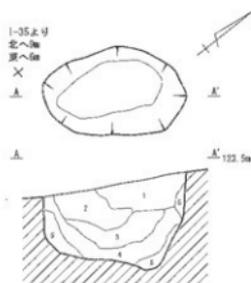
- 1 黄褐色土 焼土粒をわずかに含む。
- 2 赤褐色土 凝結して溶化した積土の塊の層。
- 3 暗褐色土 黄褐色土の混土層。焼土粒が全体に散っている。
- 4 暗褐色土 焼土粒が全体に散っている。
- 5 暗褐色土 焼土粒を少量含む。
- 6 暗褐色土 しまりなし。焼土粒が全体に散っている。
- 7 黄褐色土 暗褐色土がわずかに混じる。焼土粒をわずかに含む。

SX002 (FP007)



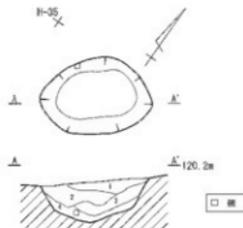
- 1 黄褐色土 径2mの焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土 径2mの焼土粒を含む。
- 3 黄褐色土 径2mの焼土粒をわずかに含む。
- 4 暗褐色土 径2mの焼土粒をわずかに含む。

SX005



- 1 黄褐色土 暗褐色土との混土。径3~5mの黒色スコリアを含む。しまりなし。
- 2 黄褐色土 暗褐色土との混土。径3~5mの黒色スコリアを含む。
- 3 黄褐色土 暗褐色土が少し混じる。径3~5mの黒色スコリアを少し含む。しまりなし。
- 4 暗褐色土 黒色スコリアをわずかに含む。粘性ややあり。しまりややなし。
- 5 黄褐色土 暗褐色土が少し混じる。黒色スコリアを少し含む。粘性、しまり共にややあり。

SX003

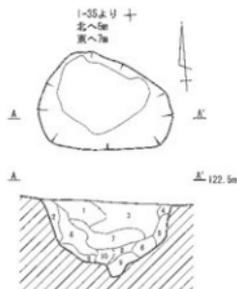


- 1 黄褐色土 黒褐色土混じり。径1mmの赤褐色スコリアを少し含む。
- 2 暗褐色土 径2mの赤褐色及び黄褐色のスコリアをわずかに含む。
- 3 暗褐色土 径1cmの黄褐色土のブロックを少し含む。
- 4 暗黄褐色土

0 1m  
(1:40)

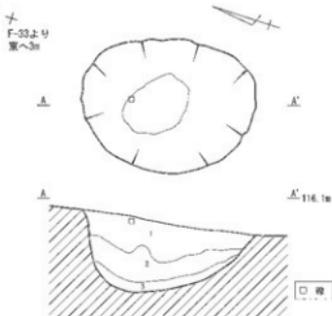
第108図 古木戸B遺跡 縄文土坑1

SX006



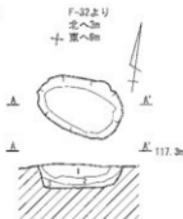
- 1 暗褐色土 黄褐色土混じり。径2m次の赤色スコリアをわずかに含む。しまりなし。
- 2 暗黄褐色土 径2m次の赤色スコリアをわずかに含む。粘性あり。
- 3 暗褐色土 黄褐色土との混土。径3～5m次の黒色スコリアと径2m次の赤色スコリアを含む。しまりややなし。
- 4 黄褐色土 暗褐色土混じり。
- 5 暗褐色土 やや厚みがある。黒色スコリアを少し含む。しまりややなし。
- 6 暗褐色土 黄褐色土をわずかに含む。黒色スコリアを少し含む。しまりややあり。
- 7 黒褐色土 暗褐色土混じり。しまりややなし。
- 8 暗褐色土 しまりなし。
- 9 黒褐色土 しまりなし。
- 10 黄褐色土 暗褐色土との漸移的色調。粘性ややあり。

SX007



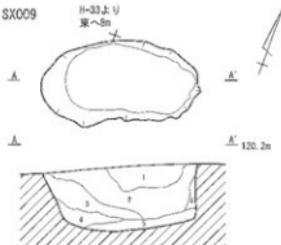
- 1 暗褐色土 やや色のくすんだ黄褐色土がパッチ状に混じる。しまりなし。
- 2 暗褐色土 しまりなし。
- 3 暗黄褐色土 粘性ややあり。しまりなし。

SX008



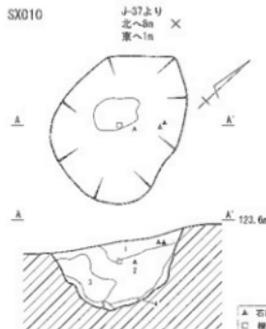
- 1 黒色土 1m次の赤色・黒色スコリアが混じる。
- 2 暗褐色土 ややくすんだ黄褐色土がパッチ状に混じる。
- 3 暗黄褐色土 粘性ややあり。しまりなし。

SX009



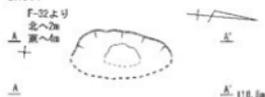
- 1 暗褐色土 くすんだ黄褐色土がブロック状に少し混じる。径2～3m次の赤色スコリアが少し混じる。ややしまりなし。
- 2 暗褐色土 くすんだ黄褐色土とブロック状に混じる。径3m次の黒色スコリアを含む。しまりなし。
- 3 暗褐色土 くすんだ黄褐色土がブロック状に混じる。径3m次の黒色スコリアを含む。しまりなし。
- 4 暗褐色土 径3m次の黒色スコリアを少し含む。
- 5 黄褐色土 粘性少しあり。ややしまりなし。
- 6 暗褐色土 黄褐色土が径3～5m次のパッチ状に混じる。しまりなし。(300層とY層の混土か)

SX010



- 1 黄褐色土 径2m次の薄い黒色スコリアをわずかに含む。しまりなし。
- 2 黄褐色土 粘性あり。しまりややなし。
- 3 黄褐色土 径3m次の黒色スコリア、炭化物を少し含む。粘り、しまり異になし。
- 4 暗黄褐色土 粘性あり。しまりややなし。
- 5 赤色土 径3m次の赤色スコリアと黒色スコリアの集積層。

SX011



- 1 黒褐色土 しまりなし。
- 2 黒色土 しまりなし。
- 3 暗褐色土 黄褐色土がパッチ状に混じる。
- 4 暗褐色土 黄褐色土混じり。
- 5 暗褐色土 粘性あり。
- 6 暗黄褐色土 しまりなし。



第109図 古木戸B遺跡 縄文土坑2

を呈し、北側及び東側の壁面は垂直に近く立ち上がる。検出面は休場層上端である。

SX002 H-33・H-34グリッド付近で確認された長径0.83m、短径0.52m、深さ0.40mの楕円形を呈する土坑である。断面形は逆台形を呈する。覆土に焼土粒を含んでいる。検出面は栗色土層である。

SX003 G-35グリッド付近で確認された長径0.90m、短径0.63m、深さ0.32mの楕円形を呈する土坑である。断面形は深皿状を呈する。検出面は栗色土層である。輝石安山岩製の礫1点が出土している。

SX004 F-33グリッドで確認された長径1.29m、短径1.10m、深さ0.55mの不定形を呈する土坑である。断面形は深皿形を呈するが、北及び東壁はやや強く立ち上がる。検出面は栗色土層である。

SX005 I-35グリッドで確認された長径1.13m、短径0.71m、深さ0.73mの楕円形を呈する土坑である。断面形は箱形を呈し、壁面の立ち上がりは直立に近い。検出面は休場層上端である。

SX006 I-35グリッドで確認された長径1.09m、短径0.77m、深さ0.60mの楕円形を呈する土坑である。断面形は深皿形を呈し、北壁面の立ち上がりは直立に近い。検出面は休場層上端である。

SX007 E-33グリッドで確認された長径1.42m、短径1.09m、深さ0.61mの楕円形を呈する土坑である。断面形は深皿形を呈し、北壁面の立ち上がりは直立に近い。検出面は休場層上端である。覆土上位から輝石安山岩製の礫が1点出土している。

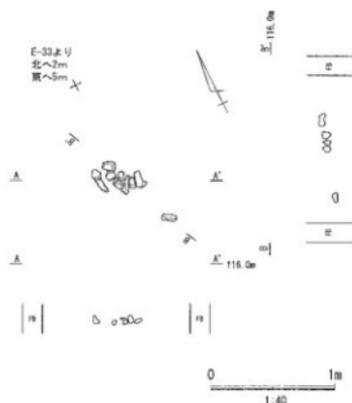
SX008 F-32グリッドで確認された長径0.71m、短径0.46m、深さ0.18mの楕円形を呈する土坑である。断面形は箱形を呈し、壁面は直立気味に立ち上がる。検出面は休場層上端である。

SX009 G-33グリッドで確認された長径1.29m、短径0.65m、深さ0.51mの楕円形を呈する土坑である。断面形は箱形を呈し、壁面は直立気味に立ち上がる。検出面は休場層上端である。

SX010 J-37グリッドで確認された長径1.32m、短径1.03m、深さ0.53mの楕円形を呈する土坑である。断面形は深皿形を呈し、壁面は直立気味に立ち上がる。

第43表 古木戸B遺跡 縄文時代遺構一覧

種別	遺構名	検出面	グリッド	規模(単位: m) (括弧は建込)			形状	備考	
				長径	短径	深さ			
土坑	SX001	休場層上段	I-35	1.50	1.26	0.56	円形	深皿形 旧SX001	
	SX009	栗色土層	H-33 H-34	0.83	0.52	0.40	楕円形	逆台形 旧PF007	
	SX005	栗色土層	G-35	0.90	0.63	0.32	楕円形	深皿形	
	SX004	栗色土層	F-33	1.29	1.10	0.55	不定形	深皿形 旧PF001	
	SX006	休場層上段	I-35	1.13	0.71	0.73	楕円形	深皿形	
	SX006	休場層上段	I-35	1.09	0.77	0.60	楕円形	深皿形	
	SX007	休場層上段	E-33	1.42	1.09	0.61	楕円形	深皿形	
	SX008	休場層上段	F-32	0.71	0.46	0.18	楕円形	箱形	
	SX009	休場層上段	G-33	1.29	0.65	0.51	楕円形	箱形	
	SX010	休場層上段	J-37	1.32	1.03	0.53	楕円形	深皿形	
	SX0011	埋没色 栗色土層	F-32	0.80	(0.40)	1.00	楕円形	U字形	
	基石	HS001	富士丸土層	E-35					



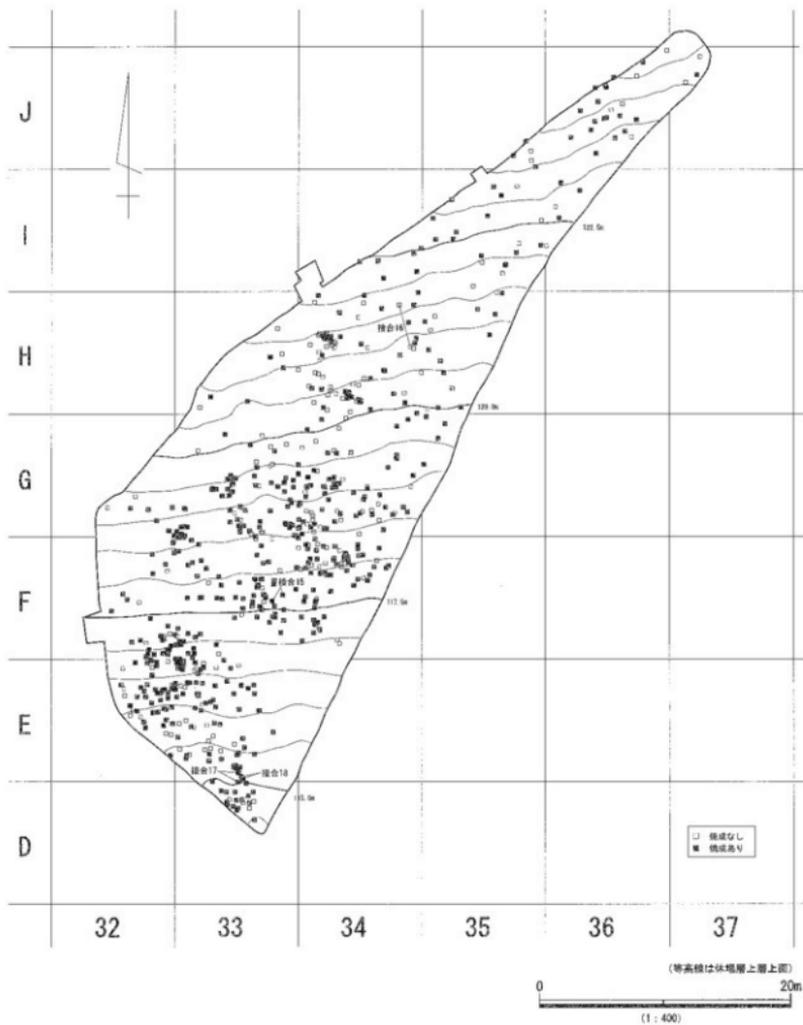
第110図 古木戸B遺跡 基石 HS001

第44表 古木戸B遺跡 HS001礫組成表

石種	新数		合計	重量(g)
	数	割合		
As(Py)	5	5	5	3219.0
Ba	2	2	2	540.0
VBa	5	5	5	1196.5
合計	12	12	12	5955.5

第45表 古木戸B遺跡 縄文礫組成表

石種	新数		合計	重量(g)
	数	割合		
CNS	1	1	2	85.0
FSS	7	29	36	754.5
MSS	6	23	29	764.0
SS		1	1	9.0
Tu		2	2	43.0
Kby	1	5	6	53.0
QP	1	8	9	305.0
Si		1	1	5.0
Da		2	2	78.0
Di		2	2	80.0
AP		1	1	19.0
GC	2	3	5	128.0
LT	11	3	14	1089.0
CSc		1	1	5.0
Scr	1	1	2	27.0
RN	1	1	2	36.0
As(Ho)	5	3	8	512.0
As(Py)	280	72	352	34289.0
Ba	42	13	55	4729.0
VAa	106	18	124	7581.4
VBa	153	13	166	8504.3
合計	422	202	724	79111.0



第111図 古木戸B遺跡 縄文礫分布図

検出面は休場層上位である。

覆土上位からホルンフェルス製の石核1点と剥片2点、輝石安山岩製の礫1点が出土している。SX011 F-32グリッドで確認された長径0.80m、短径0.40m（推定）、深さ1.09mの楕円形を呈する土坑である。断面形は深いU字形を呈し、壁面は直立する。検出面は暗褐色土層～栗色土層である。HS001 E-33グリッドで確認された集石遺構である。21個の礫が南北0.8m、東西0.3mの範囲に集中して検出された。接合関係は認められない。石材は輝石安山岩18点、玄武岩2点、粗粒玄武岩1点である。被熱率は90.5%である。

## 2 遺物

### (1) 土器

**概要** 土器は、栗色土層から富士黒土層にかけて、Ⅱ群A類（子母口式）が12点、Ⅱ群C類（無文・条痕文）が83点、Ⅱ群E類（粕畑式）が9点、Ⅱ群F類（打越式）が1点、その他不明が17点の合計122点（うち4点は層位不明）が調査区北端と南端で集中して確認されている。調査区中央付近では該当層位が存在し、遺構も確認されているにもかかわらず土器は全く出土していないことから、土器の使用場所は限定されていたと推測される。また、本遺跡では、一定の時期幅は認められるものの、時期の特定ができた全ての土器が早期に該当しており、天ヶ沢東遺跡、古木戸A遺跡が早期とともに前期、中期の土器を含んでいることに比べると、本遺跡が立地するNo.44地点の東側の土地利用は早期でほぼ終息している可能性が高い。16点を図示した。

**Ⅱ群A類（子母口式）** 78は、ほぼ直立し、口唇部に面をもつ口縁部破片である。口縁部外面下位を横位沈線で区画した後、沈線と口唇部の間を斜位の刺突で充填している。また口唇部にも同様の刺突を加えている。ふい赤褐色を呈し、胎土に繊維を少量含む。79は、ほぼ直立し、口唇部は丸く収める無文の口縁部破片である。色調、焼成、胎土は1に類似することから、本類に含めた。80～87は、外面に先が割れた半円形の工具（植物繊維か）による刺突を施すものである。いずれも灰黄色を呈し、白色粒子（0.5～1mm程度）を多く含む。胎土は粗く、繊維を多く含んでおり、同一個体である可能性が高い。80・81は口縁部破片で、口唇部端面には外面と同様の工具による刺突が認められる。82～87は胴部破片である。

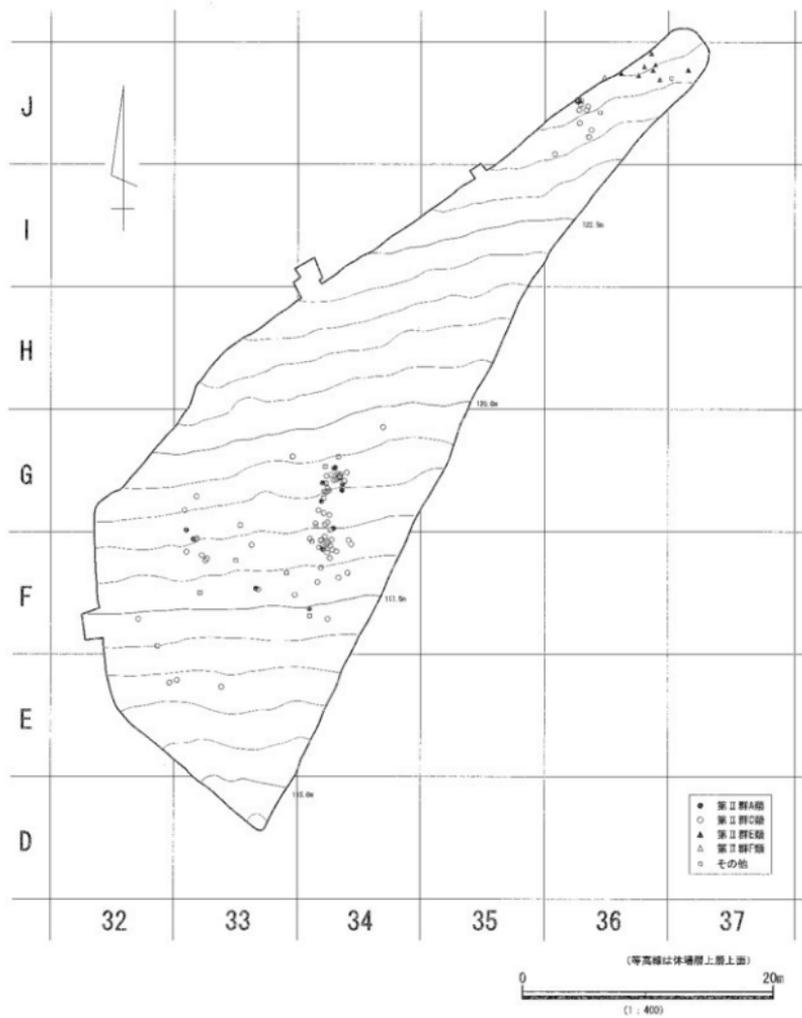
**Ⅱ群C類（無文・条痕文）** 88は、無文の胴部破片である。内外面に斜～横位の粗い条痕を施している。ふい赤褐色を呈し、胎土に繊維を少量含む。無文部位破片のため、型式等詳細は不明である。

**Ⅱ群E類（粕畑式）** 89～92は、灰黄色を呈し、白色粒子（0.5～1mm程度）、繊維を多く含む薄手の胴部破片である。内外面に斜～横位の粗い条痕を施している。胎土及び出土状況からみて同一個体である可能性が高い。89～91には外面に二枚貝によるとみられる爪形の刺突文が1列認められる。非常に薄手につくられていること、色調、胎土などから搬入品の可能性が考えられる。

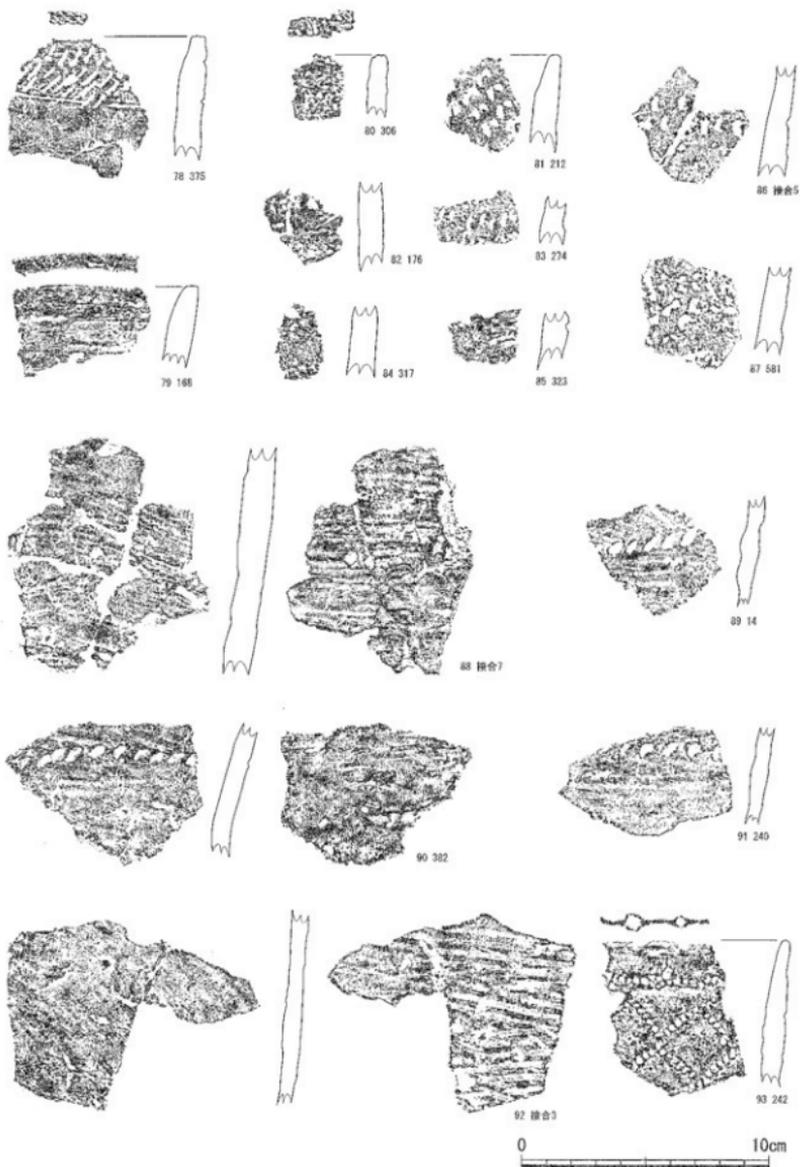
**Ⅱ群F類（打越式）** 93は、赤褐色を呈し、白色粒子（0.5mm程度）、黒色粒子（0.5～1mm程度）を多く含む、繊維を少し含む口縁部破片である。口唇部及び口縁部外面に二枚貝による刺突を施す口縁部破片である。

第46表 古木戸B遺跡 縄文土器集計

分類・層位別		ⅡA	ⅡB	ⅡC	ⅡE	ⅡF	不明	計
Ⅱ	A	子母口式	4	8				12
	C	無文・条痕文	24	56			1	81
	E	粕畑式	8	1				9
	F	打越式	1					1
		不明・その他	5	12				17
		合計	42	76	1		1	122



第112図 古木戸B遺跡 縄文土器分布図



第113図 古木戸B遺跡 縄文土器

第47表 古木戸B遺跡 縄文土器観察表

図録番号	出土層	形状	器名	アット	アット	特徴	調査	色相(内面、外面)	備考	
113	78	375	Ⅱ A	子母口式	F-23	FR	底径1.0~2.0mmの黒色粒子を多く含む。径1.0mm以下の石灰・白色粒子を含む	灰 灰緑色(内面、外面) S7B5/4 におよぼす褐色		
113	79	168	Ⅱ A	子母口式	G-34	KU	径1.0~2.0mmの白色粒子を多く含む。径4.0mmの白い小片を含む	灰 7.2Y5/6.4 褐色 7.2Y5/6.4 褐色		
113	80	306	Ⅱ A	子母口式	G-31	FR	径1.0~2.0mmの白色粒子を多く含む。径0.5mmの黒色粒子を少し含む	灰 10Y7/4 におよぼす褐色 10Y7/4 におよぼす褐色		
113	81	212	Ⅱ A	子母口式	G-34	FR	径1.0mmの白い小片を含む。径1.0~3.0mmの白色粒子を含む	灰 10Y6/4におよぼす褐色 10Y6/4におよぼす褐色		
113	82	176	Ⅱ A	子母口式	F-23	KU	径1.0~2.0mmの白色、灰色粒子を多く含む。径0.5mmの黒色粒子を多く含む	灰 10Y6/4 におよぼす褐色 10Y6/4 におよぼす褐色		
113	83	274	Ⅱ A	子母口式	G-34	FR	径1.0mm以下の黒色粒子・白色粒子を多く含む。径1.0~4.0mmのスコリアを含む	灰 7.2Y5/6.4 におよぼす褐色 7.2Y5/6.4 におよぼす褐色		
113	84	317	Ⅱ A	子母口式	F-34	FR	径1.0~5.0mmの白色粒子を多く含む。0.5mmの石灰・黒色粒子を少し含む	灰 10Y6/4 におよぼす褐色 10Y6/4 明褐色		
113	85	383	Ⅱ A	子母口式	F-34	FR	径1.0~2.0mmの白色粒子を多く含む。0.5mmの黒色粒子を少し含む	灰 10Y6/4 におよぼす褐色 10Y6/4 におよぼす褐色		
113	86	461	Ⅱ A	子母口式	G-34	KU	径1.0~2.0mmの白色粒子を含む。1.0~3.0mmの黒色粒子を含む	灰 7.2Y5/6.4 褐色 10Y6/4 におよぼす褐色	5	
113	87	561	Ⅱ A	子母口式	G-34	FR	径0.5mmの石灰・白色粒子・黒色粒子を多く含む。径2.0mm程度のスコリア・小粒をしばしば含む	灰 7.2Y5/6.4 褐色 7.2Y5/6.4 におよぼす褐色		
113	88	206 170 270	Ⅱ C	胴式・壺式	F-34 G-24	FR KU	径1.0~2.0mmの白色粒子を含む	灰 5Y7/6.4 におよぼす褐色 5Y7/6.4 におよぼす褐色	7	
113	89	14	Ⅱ B	短筒式	J-36	KU	径3.0mmの白い小片を含む。径1.0~3.0mmの白色粒子を含む	灰 7.2Y5/6.4 におよぼす褐色 10Y6/4 におよぼす褐色		
113	90	263	Ⅱ B	胴式	J-27	KU	黒粒多量。径0.5~1.5mmの石灰・灰石を多く含む。径3.0mm程度の石灰中に黒粒もある	灰 7.2Y5/6.4 におよぼす褐色 7.2Y5/6.4 におよぼす褐色		
113	91	240	Ⅱ B	短筒式	J-36	KU	径1.0~3.0mmの白色粒子を含む	灰 10Y6/4 におよぼす褐色 10Y6/4 明褐色		
113	92	13	203	Ⅱ B	胴式	J-36	KU	黒粒多量。径1.0~3.0mmの白色粒子を含む。径1.0~3.0mmの黒色粒子を多く含む。径4.0mmの白い小片を含む	灰 10Y6/4 明褐色 10Y6/4 明褐色	3
113	93	243	Ⅱ C	短筒式	J-26	KU	径1.0~2.0mmの白色粒子・黒色粒子を含む	灰 7.2Y5/6.4 褐色 5Y7/6.4 明褐色	内面に炭化物付着	

## (2) 石器

第48表 古木戸B遺跡 縄文石器組成表

概要 縄文時代の石器は、暗褐色土～休場層にかけて総点数137点(礫を除く)が出土している。SX10出土の石核1点、剥片2点を除き大半が包含層出土であるため、草創期に比定される尖頭器・有舌尖頭器以外は、土器と出土分布状況の比較を通じて推測せざるを得ない状況であった。また、明確に縄文時代の石器として判別できるもの以外は、漸移層より上層を縄文時代として扱った。

尖頭器・有舌尖頭器 9点を図示した。いずれも両面加工により製作されている。94~97はガラス質黒色安山岩製で平面形は柳葉形を呈する。いずれも全長8~9cm程度となっている。器面の風化により詳細な観察は困難であるが、96・97は基部に茎を意図したと考えられるわずかな括れが認められる。98・99はホルンフェルス製で、細身の形態(98)と細身の柳葉形(99)が認められる。99は基部を欠損しているが、細身の形態から有舌尖頭器となる可能性があろう。いずれも器面の風化により詳細な観察は困難である。100は黒曜石製(箱根畑宿群)で、欠損部が多いが柳葉形を呈するものと考えられる。他に比べ厚みもち、両面に加工を行っている。101は大型の木葉形を呈する。表裏面ともにやや大きな平坦剥離により器面を整形した後、周縁部を小さな押圧剥離により微調整している。また、左側縁が曲線的に調整されているのに対し右側縁は中位にある最大径を頂点として直線的に整形されており、左右非対称となっている。裏面からの圧力により基部は欠損しており、残存長は9.8cmである。チャート(灰色)製。102はいわゆる花見山型と呼ばれる逆刺が発達した小型の有茎形態である。全長4.7cmの小型品でガラス質黒色安山岩製である。

石鏃 7点を図示した。103~106は黒曜石製(神津島恩馳鳥群)である。わずかに凹基となる103~105と凹基の106が認められる。平面形状は、正三角形に近い103・105と二等辺三角形に近い104・106に分類

図録/製作別

製作別	器種													合計	
	尖頭器	有舌尖頭器	石核	石葉製品	ナイフ	短筒石	胴式	U F	ナラフ	打石	打石製品	磨石	磨石		礫
暗褐色土	1					3			3	1				9	16
灰色土層			2	1	1	10			3			2		145	164
宮土層上層			3	1	1	4	32	2	4	2		2	2	1	561
漸移層	1	1				1	12		1					2	19
休場層	7			1											8
遺構層上						1	2								3
炭燼							3			1					4
層位不明			1				7	20				2			4
合計	9	1	6	2	3	1	13	21	2	5	9	1	4	1	724

でき、前者の方が小型である。107は黒曜石製（産地同定不可）で凹基の形態である。裏面からの圧力で先端部を欠損するが、二等辺三角形の平面形を呈するものである。108は黒曜石製（諏訪星ヶ台）の石鏃未製品と判断した。わずかに凹基となる基部形態で、右側縁及び先端部を中心に押圧剥離が確認できる。109はホルンフェルス製の凹基形態である。器面の風化により、詳細な観察は困難である。先端部及び右脚部を欠損する。サイドスクレイパー 2点を図示した。110は幅広の剥片を用い、表面からの押圧剥離により、右側縁に刃部を形成している。黒曜石製（神津島思馳島群）。111は縦長の大型剥片を素材として、左側縁に刃部を作している。表面左は礫面となっている。ホルンフェルス製。

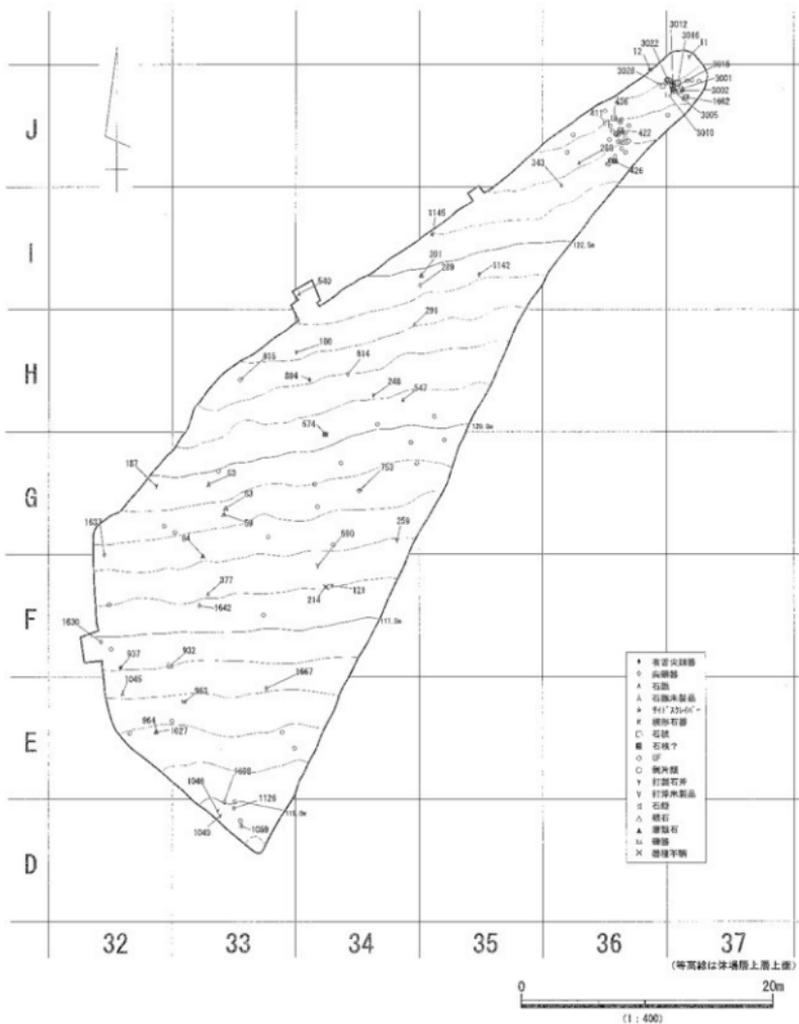
石核 5点を図示した。ガラス質黒色安山岩製の114をのぞき全てホルンフェルス製である。112は長径5.4cm程度の円礫を用い、左小口面、上面（図中央）、側面（図下）の3面を主体として数回の打面転移を行い、2.0～2.5cm程度の剥片を得ている。剥離が及ばない側面（図上）から右小口面には礫面が残されている。113は長径5.0cm程度の楕円形の礫を用い、上面（図中央）を打面として両側面を主体に剥離作業を行い長さ3.0cm程度の剥片を得た結果、断面形は正方形を呈している。小口面には礫面が残されている。114は礫面側を打面として、周縁から剥離作業を行っている。最終剥離作業は礫面に設けた1枚の剥離面を打面として、長さ1.0cm程度の小剥片を得ている。なお、一側面には礫面からの押圧剥離が連続しており、スクレイパーに転用していた可能性がある。115は長径7.0cm程度の楕円形の礫を用い、上面（図中央）に打面を設定し、側面で剥離作業を行い長さ3.0cm程度の幅広の剥片を得ている。また、この剥片剥離面を打面として剥離作業を行っているようであるが、得られた剥片は長さ1.0cm前後の小型のものが多いようである。116は長径12.0cm以上の扁平な礫を用い、表裏の礫面を打面として小口面で剥離作業を行った後、側面で幅8.0cm、長さ5.0cm程度の幅広の剥片を得ている。剥離作業を行ったこの2面以外は礫面を残している。

打製石斧 8点を図示した。117～120は両側縁が並行に近い短冊形を呈するもの、123・124は撥形に近い形態であるが、124は中位が大きく括れている。いずれも表面に礫面を残している。121・122は基部の破片と判断した。欠損部分が多く全形は不明であるが、122は刃部に向かい幅広となる撥形を呈するものと推測される。117は粘板岩製、118・120・122は頁岩製、119は中粒砂岩製、121・124は砂岩製、123はホルンフェルス製である。

第49表 古木戸B遺跡 縄文石器組成表

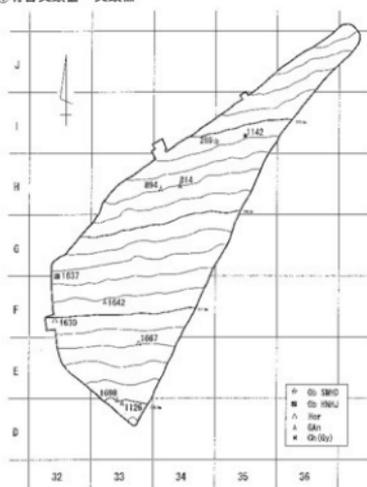
部類/石材・産地別

	器類	部類														合計		
		器類																
O	HNU	1																1
	KZOB			4	1	1	1		1	1								3
B	SWBD	1			1				1									3
	産地不可				1													1
H	非産地								5	1								6
	Has	2		1	1	1	12	65		5	1							87
G	GAs	4	1					1										6
	Ch(Gy)	1																1
S	Sh								8		3	1						12
	Sl																	1
T	Ts										1							2
	SS										3							1
M	MSS										1		2					29
	CSS																	2
P	PSS								1									36
	Rhy																	6
A	Ap																	1
	Ds																	1
D	Ds																	4
	Ts																	2
Q	QP																	9
	Ant(Py)												3	1				357
A	Ant(Ho)																	5
	PAs																	2
B	Bs											1						55
	VAs											1	1					121
V	VAs																	68
	GC																	5
L	L <sup>2</sup>																	14
	CSc																	1
C	CSc																	2
	合計	9	2	6	2	2	1	15	81	2	5	9	1	1	4	4	1	724

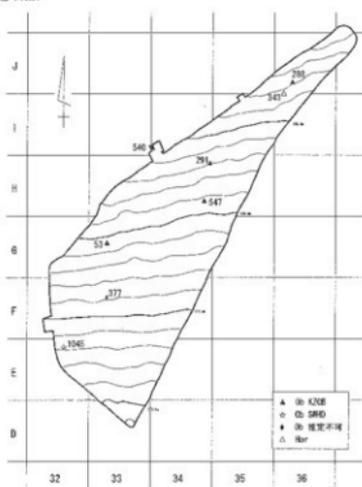


第114図 古木戸B遺跡 縄文石器分布図

①有骨尖頭器・尖頭器



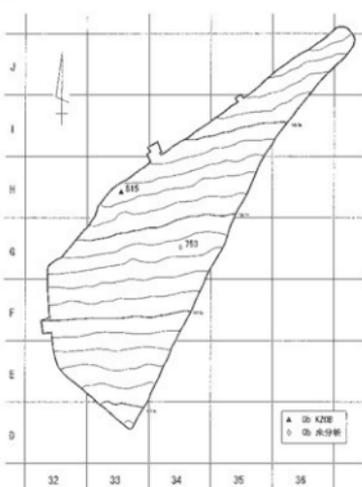
②石鏃



③スクレイパー・楔形石器



④UF



第115図 古木戸B遺跡 縄文石器分布図

①石椙



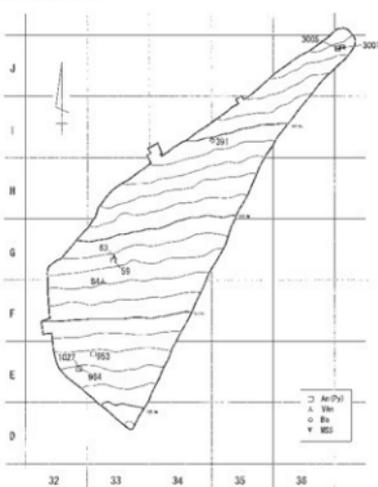
②割片



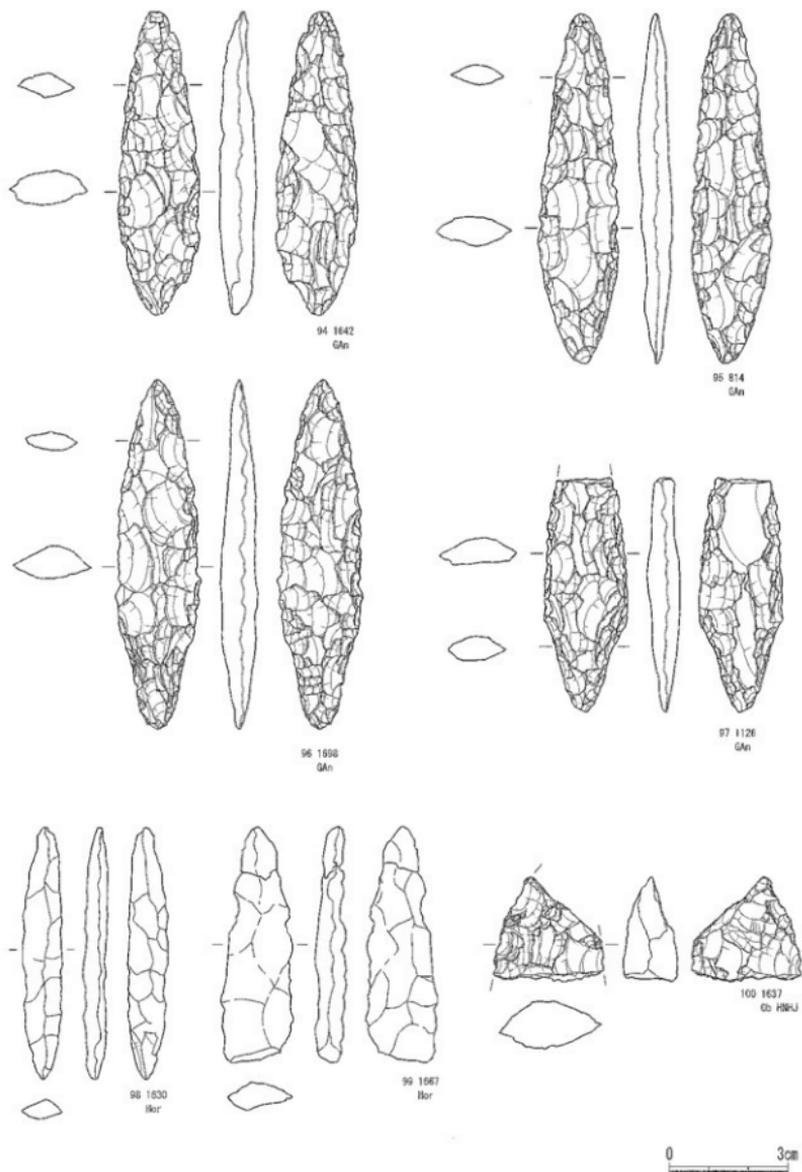
③打製石斧類



④磨製石器・石器



第116圖 古木戸B遺跡 縄文分布図(器種別・石材別)

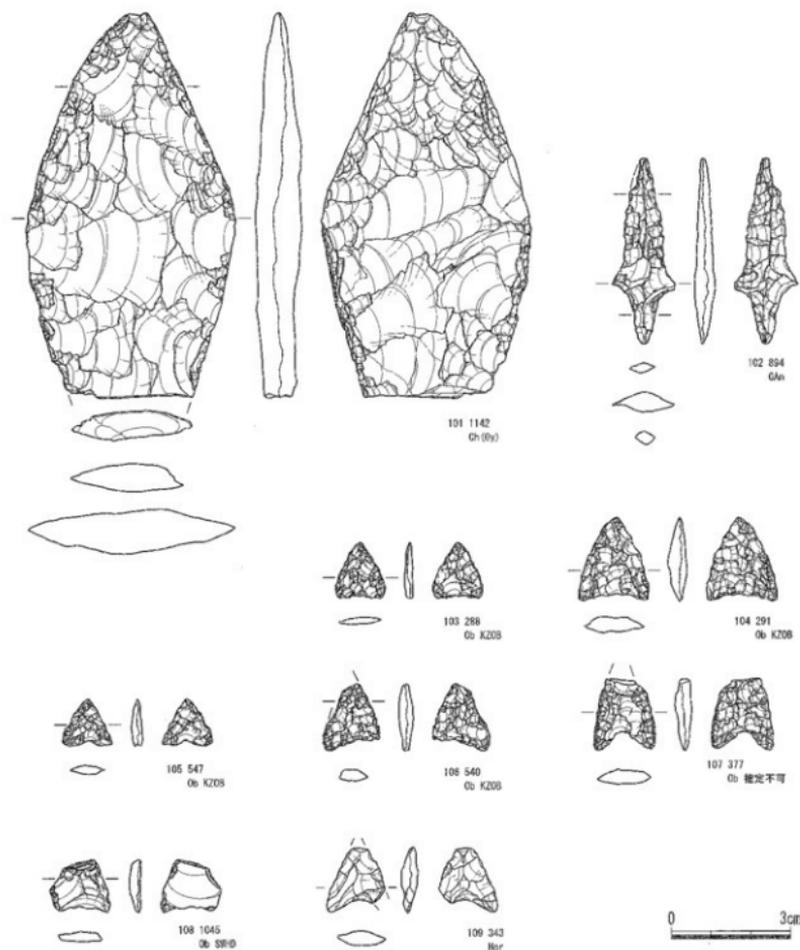


第117圖 古木戸B遺跡 縄文石器1 (尖頭器1)

石錘 1点出土している。扁平な平面楕円形の礫を用い、上下地に剥離を行って抉りを設けているが、抉りは必ずしも十分ではない。凝灰岩製。

礫器 礫の一端に刃部状の剥離調整が認められるものを礫器と判断した。1点出土している。平面形が隅丸長方形を呈する厚手の輝石安山岩の礫を用い小口面に刃部状の剥離調整が認められる。

磨敵石類 磨敵石類は、栗色土層、富士黒土層から8点出土しており、7点を図示した。形態により、1類：平面形が円形または楕円形で、断面形が扁平な楕円形となるもの、2類：平面形が長楕円形で、

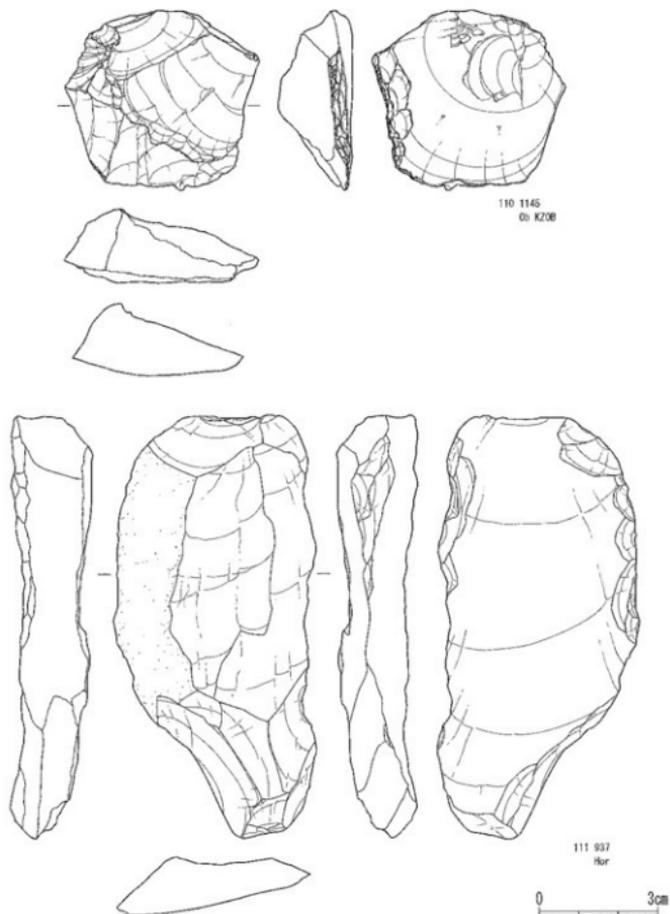


第118図 古木戸B遺跡 縄文石器2 (尖頭器2 石錘)

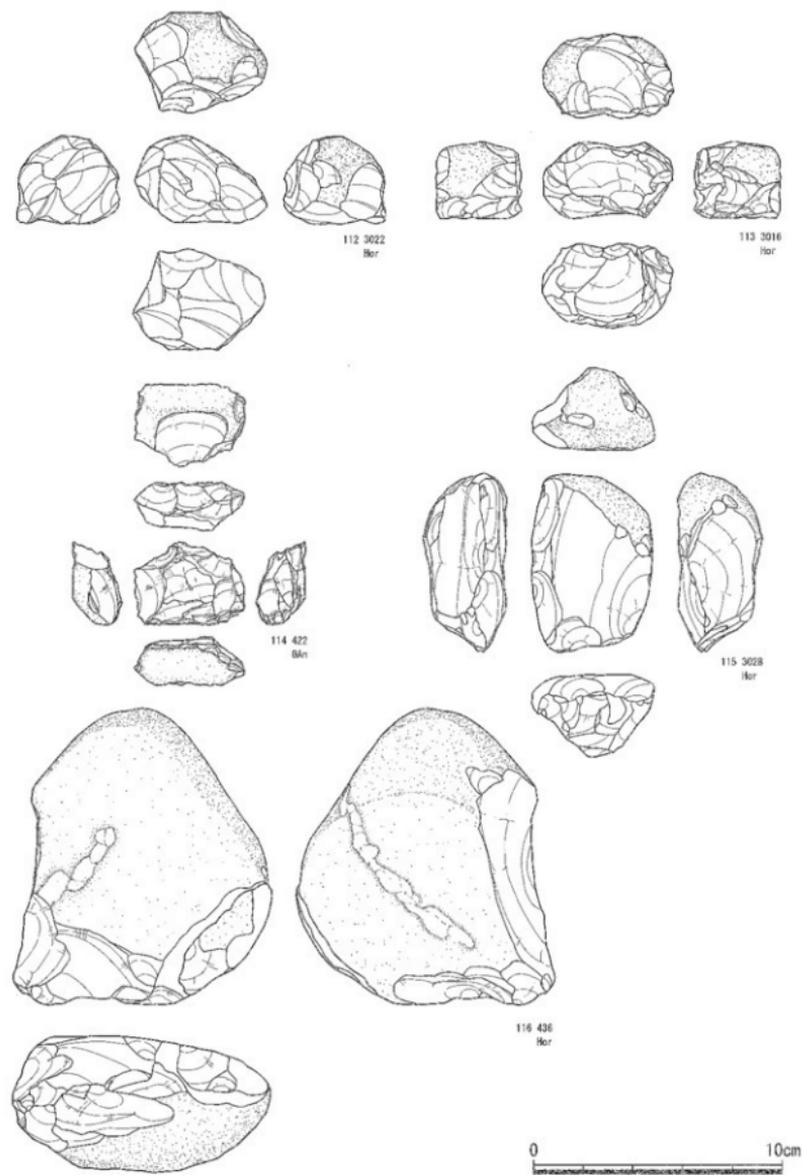
断面形が円形となるもの、3類：棒状のもの、4類：不定形なものに大別できる。

敲石 130は1類に分類される。表裏面及び側面に敲打痕が認められる。127～129は、やや不定形なものも含まれるが2類に分類した。端部を主体に側面、表裏面に敲打痕が認められる。127・129が中粒砂岩製、128が多孔質安山岩製、130が玄武岩製である。

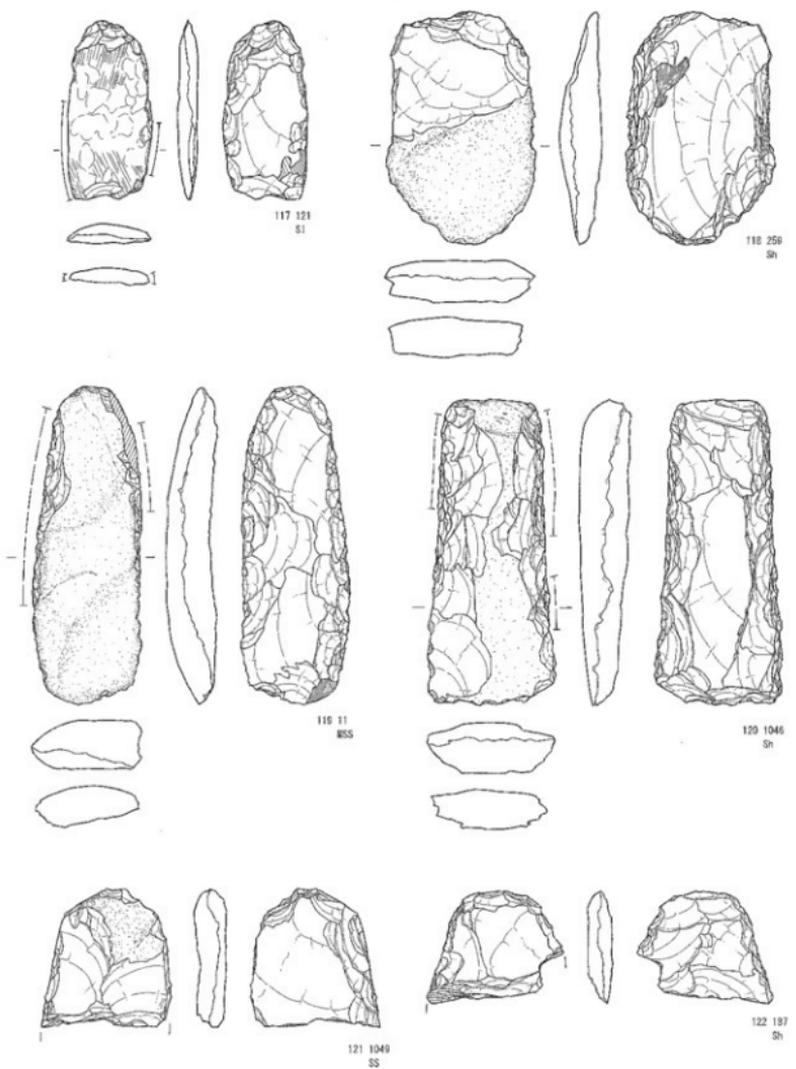
磨敲石 131は3類に分類される棒状を呈するものである。側面にする面が確認され、両端部と側面の一部に敲打痕が認められる。輝石安山岩製。132・133は不定形を呈する4類に分類した。132は表面及び両



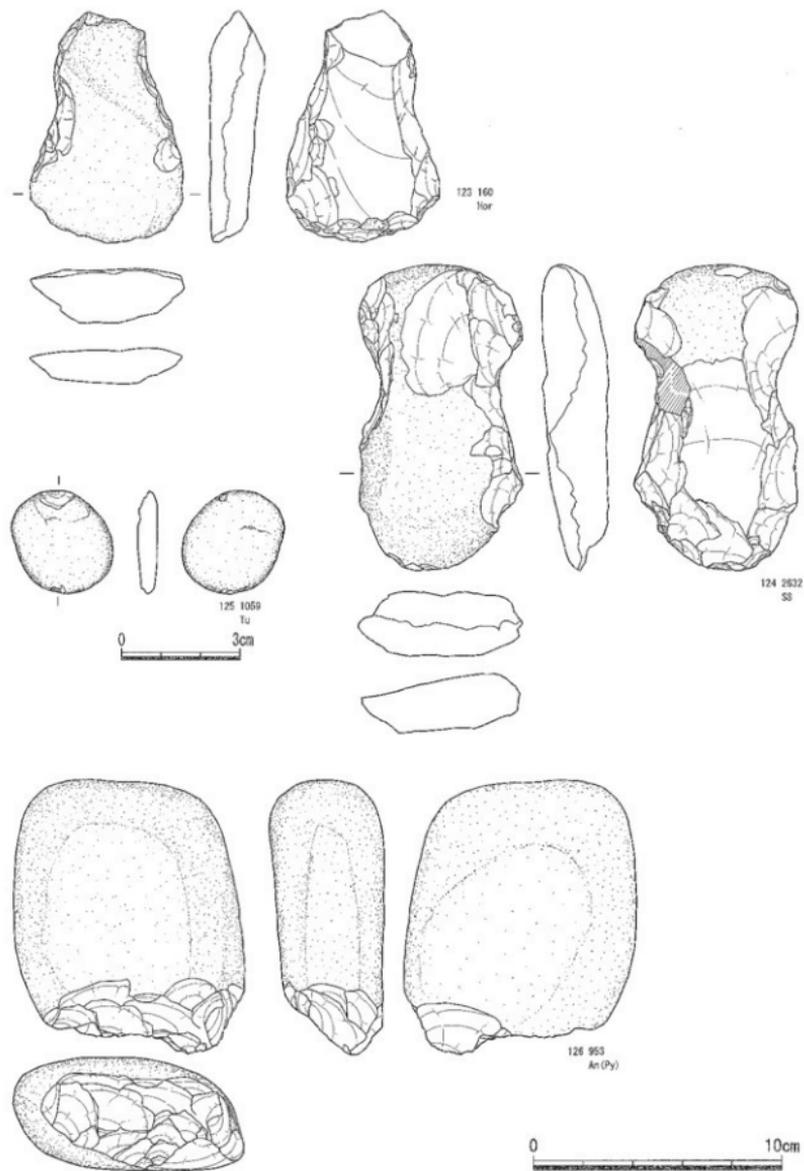
第119図 古木戸B遺跡 縄文石器3 (サイドスクレイパー)



第120圖 古木戸B遺跡 縄文石器4 (石核)



第121図 古木戸B遺跡 縄文石器5 (打製石斧1)



第122圖 古木戸B遺跡 縄文石器6 (打製石斧2 石鏃 礫器)



第123図 古木戸B遺跡 縄文石器7 (敲石 磨敲石)

断面に磨面、各面に敲打痕が認められる。133は表面に磨面、両端面に敲打痕が認められる。132は多孔質安山岩製、133は輝石安山岩製である。

第50表 古木戸B遺跡 縄文石器観察表

図録号	遺物番号	材質	器種	形状	ドリフド	石種	0点産地	遺物名	重量 (g)	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	X25倍 (mm)	Y25倍 (mm)	Z25倍 (mm)	備考
94	1642	尖頭器	YL	F-33	GAA				14.6	7.72	2.06	0.92	-92744.201	23322.215	117.738	
95	814	尖頭器	ZN	H-01	GAA				13.8	8.90	2.61	0.87	-92725.279	23334.207	130.853	
96	1698	尖頭器	YL	D-33	GAA				15.7	8.89	2.14	0.95	-92760.217	23334.229	114.796	
97	1126	尖頭器	YL	D-33	GAA				(10.7)	(5.85)	2.99	0.83	-92764.738	23325.004	114.854	
98	1630	尖頭器	YL	F-32	Hae				3.87	6.41	1.91	0.62	-92747.148	23314.212	117.215	
99	1667	尖頭器	YL	E-53	Hae				7.25	5.80	1.82	0.77	-92760.266	23327.606	116.4	
100	1637	尖頭器	YL	F-32	Ob		HNED		(7.6)	(2.65)	(2.70)	(1.37)	-92740.603	23314.485	118.457	
101	1142	尖頭器	YL	I-35	Ch(Gy)				(60.6)	(9.82)	5.26	1.16	-92717.142	23344.832	124.894	
102	894	奇形尖頭器	ZN	H-34	GAA				2.1	4.72	1.58	0.51	-92725.754	23331.116	120.968	
103	288	石錐	FB	J-36	Ob	KZOb			0.3	1.39	1.23	0.10	-92708.025	23332.929	123.99	
104	291	石錐	KB	H-34	Ob	KZOb			1.2	2.11	1.76	0.46	-92721.236	23339.575	124.995	
105	547	石錐	FB	H-34	Ob	KZOb			0.3	1.18	1.23	0.27	-92727.383	23339.656	130.604	
106	540	石錐	-	I-34	Ob	KZOb			(0.6)	(1.65)	1.41	0.35	-92718.727	23330.284	122.904	
107	377	石錐	FB	F-33	Ob	不定不詳			(1)	(1.81)	1.54	0.42	-92742.22	23322.935	118.451	
108	1645	石錐未製品	FB	E-32	Ob	SWHD			0.5	1.32	1.50	0.27	-92751.545	23315.969	116.529	
109	343	石錐	KU	J-36	Hae				(0.88)	(1.66)	1.43	0.42	-92709.868	23361.507	123.856	
119	1145	ナイフスクリーパー	YL	I-35	Ob	KZOb			31.3	4.57	4.88	1.87	-92715.881	23341.04	122.738	
111	927	ナイフスクリーパー	FB	F-32	Hae				119.89	13.78	5.59	2.06	-92746.264	23315.811	117.126	
112	3621	石錐	-	J-37	Hae				87.8	4.998	5.358	3.55	-92701.239	23360.881	124.942	
113	3616	石錐	-	J-37	Hae				80.7	5.45	5.241	3.1	-92701.037	23360.845	124.153	
114	422	石錐	FB	J-36	GAA				31.66	3.39	4.48	1.96	-92705.379	23356.283	123.82	
115	3628	石錐	-	J-36	Hae				138.1	7.28	4.889	3.4	-92701.749	23358.62	124.24	
116	426	石錐	ZN	J-36	Hae				699.4	12.08	10.45	5.679	-92701.395	23355.729	124.905	
117	121	打製石斧	FB	F-34	Sl				36.9	7.278	3.39	7.882	-92742.575	23332.915	118.258	
118	259	打製石斧	FD	G-34	Sh				(101.8)	(5.49)	6.029	1.7	-92738.898	23338.173	118.934	
119	11	打製石斧	KU	X-37	MSS				125.5	12.948	5.405	1.992	-92760.996	23323.096	125.032	
120	1048	打製石斧	AN	D-33	Sh				189.8	12.471	5.188	2.04	-92760.996	23323.096	115.301	
121	1049	打製石斧	AN	D-33	SS				(69.8)	(5.62)	5.202	1.501	-92761.367	23323.911	115.239	
122	187	打製石斧	KU	G-32	Sh				(24.6)	(4.579)	(3.44)	(0.998)	-92734.451	23318.715	129.08	
123	160	打製石斧	KU	H-34	Hae				134.5	9.43	6.192	2.3	-92723.519	23330.054	122.133	
124	2832	打製石斧	無標	-	SS				287.4	12.997	6.262	2.69	-	-	-	
125	1069	石錐	AN	D-33	Ts				23.3	4.2	4.896	0.8	-92702.183	23355.566	114.991	
126	953	棒錐	FB	E-33	Ac(Py)				75.3	11.20	5.31	4.69	-92752.078	23320.855	116.557	
127	2061	棒錐	-	J-37	MSS				375.2	9.929	6.512	5.098	-92701.895	23364.217	124.116	
128	81	棒錐	FB	F-33	Vaa				229.3	7.75	6.15	4.7	-92740.134	23322.511	119.024	
129	3065	棒錐	-	J-37	MSS				382.4	8.053	6.42	4.868	-92702.171	23360.475	124.645	
130	391	棒錐	FB	I-35	Ba				379.3	8.2	8.3	4.75	-92717.261	23340.143	124.818	
131	964	磨製石	FB	E-32	Ac(Py)				141.0	4.56	4.80	3.69	-92754.462	23318.689	116.156	39
131	1027	磨製石	FB	E-32	Ac(Py)				157.0	4.60	4.35	4.00	-92754.421	23318.688	116.106	39
132	63	磨製石	KU	G-33	Vaa				139.1	6.4	5.3	4.65	-92736.231	23334.349	119.642	
133	59	磨製石	KU	G-33	Ac(Py)				103	5.12	4.96	4.1	-92736.733	23324.199	119.581	

## 第VI章 調査の成果とまとめ

本書で調査報告を行った3遺跡は、東西を比高差70m程度の谷を抱えた幅400m程度の丘陵上に立地し、互いに小さな谷を挟んだ隣接地に位置している。よって、各時期における土地利用のあり方に密接な関連があることは想像に難くない。本章では、3遺跡で認められた遺構・遺物の特徴をまとめ、同丘陵における土地利用を概観しまとめたい。なお、縄文時代の遺構及び尖頭器を除く縄文石器は、時期決定が困難であることから別途まとめることとした。

### 第1段階（旧石器 第Ⅲスコリア帯～第Ⅲ黒色帯）

古木戸B遺跡において第Ⅲスコリア帯～第Ⅲ黒色帯で土地利用を確認できる（第124・125図）。黒曜石（諏訪星ヶ台群）を主体とした石器ブロックが確認された（第126図）。礫は一定量認められるが、礫群を認定するには至らなかった。

当該土層の遺物は層位の詳細な記録、遺物と照合可能な土層帯、記録写真もないため、遺物出土層位の詳細は不明であるが、石器類は第Ⅲスコリア帯黒色帯1をピークとして第Ⅲ黒色帯に、礫は第Ⅲスコリア帯黒色帯2をピークとして同スコリア帯スコリア2、黒色帯1に分布の中心があることができよう（第125図）。また、石器・礫共に第Ⅲスコリア帯スコリア1で数量を減じる傾向があり、同層を境として分離できる可能性を持っているが、同層を挟んで接合関係にある石器が数点あることから積極的に分離することは困難であった。

出土剥片は、同一方向から連続して縦長の剥片を剥離していたものと、両極打法や打面転移を繰り返しながら剥片剥離を行った結果、不定形あるいは、やや幅広の剥片を剥離したものが認められる。全長が3.5cm程度の小型の剥片を主体とし、礫面を残した剥片や、両極剥離のうかがわせるものが比較的に付く。トゥールの出土が限られており、詳細な検討は困難であるが、1点だけ確認されているナイフ形石器は、幅広剥片を素材とし、背面のプランティングは対向剥離により行われている。出土層位を踏まえると旧石器愛鷹箱根編年2期に相当する石器群と考えられる。

### 第2段階（旧石器 第Ⅰ黒色帯）

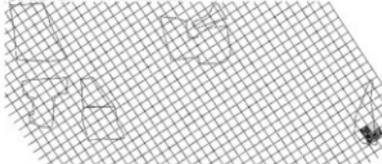
古木戸B遺跡において第Ⅰ黒色帯でホルンフェルスを主体とした石器ブロック1基、礫群1基が重複して確認された（第124・125図）。石器ブロック2はホルンフェルスの剥片のみで構成される（第126図）。大型の石刃状の縦長剥片を得ており、本層石器群の特徴を示していると言える。出土層位と剥片石器の特徴から旧石器愛鷹箱根編年3期に相当すると考えられる。

### 第3段階（旧石器 休場層）

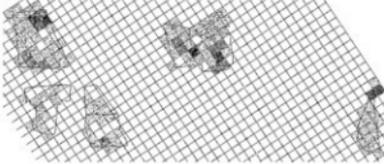
休場層を主体に出土した石器群が該当する。天ヶ沢東、古木戸A・Bの各遺跡で遺物の出土があり、今回の調査範囲において丘陵のほぼ全域に土地利用が拡大したと推測される（第124・125図）。ただし、石器ブロック、礫群等明確な遺構が確認されたのは古木戸B遺跡だけである。トゥールも一定量出土しており、前段階に比べ遺物量も増加している。古木戸B遺跡の石器ブロックはホルンフェルスを主体としている（第126図）。円礫を用い、単設あるいは複設打面の石核から得られた剥片の接合資料が認められた。主に幅広の剥片と小型の縦長の剥片を生成していると考えられる。トゥールは黒曜石製のナイフ形石器1点のみであり、ホルンフェルスの石器製作と直接関連したトゥールは未確認である。

3遺跡で確認されたナイフ形石器は、石刃状の縦長剥片を素材とした細身の二側縁加工のものと、切出形に近いもの、片面加工の小型の尖頭器が認められることから、主体は旧石器愛鷹箱根編年4期前半と考えられるが、一部4期後半を含んでいると考えられる。切出形の形態は縦長剥片を用いるものがあ

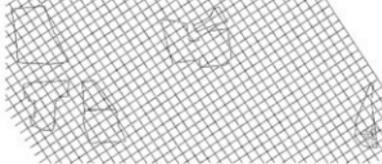
①掘石群 黒石スコリア層～黒石黒色帯



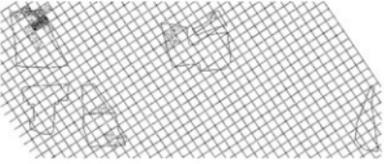
②純文石群 早淵山群



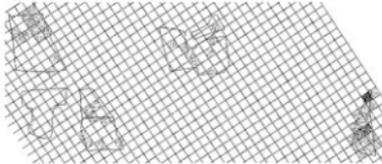
③掘石群 黒1黒色帯



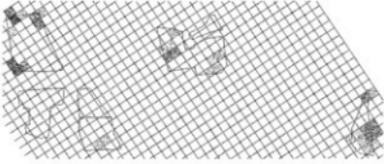
④純文石群 黒1群土層



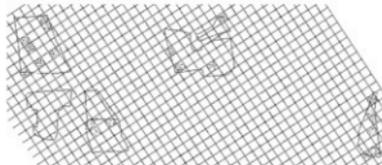
⑤掘石群 林場層



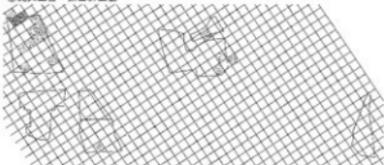
⑥純文石群 黒2群土層



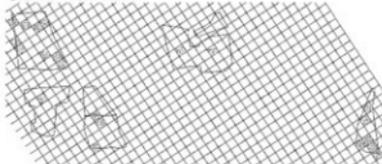
⑦掘石群 林場層 (掘石刀)



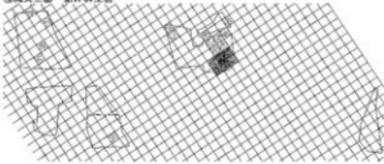
⑧純文石群 黒3群土層



⑨純文石群 黒3群土層 (尖頭錐)



⑩純文石群 黒4群土層

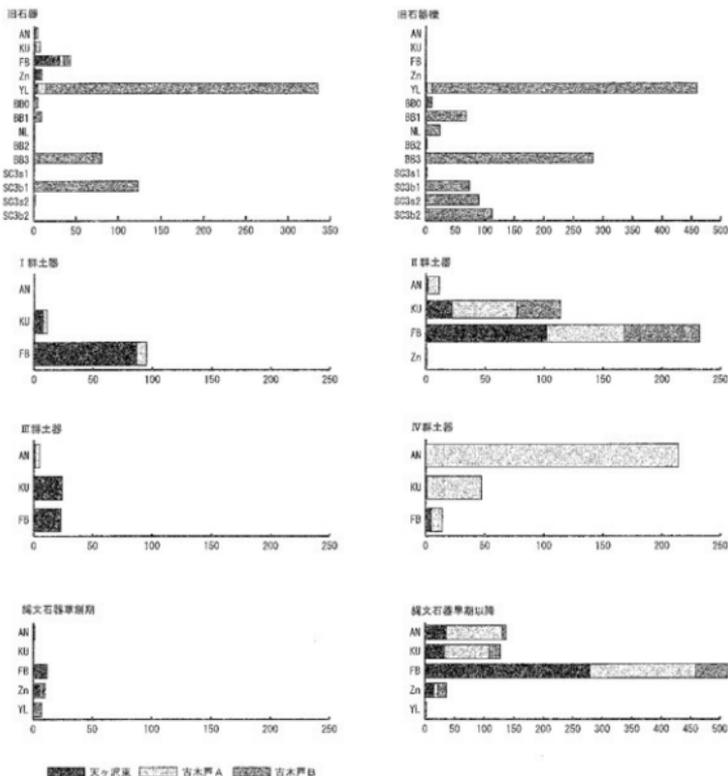


凡例 ⑩1～10 ⑩11～25 ⑩26～50 ⑩51～

第124図 グリッド別遺物点数 (標除く)

ることは周辺遺跡の様相と同様である。なお、古木戸A遺跡では休場層から角錐状石器が1点出土しており、当該範囲の土地利用の開始が旧石器愛鷹箱根編年3期にさかのぼる可能性がある。3遺跡を通じて、黒曜石、ホルンフェルスの使用頻度が高く、黒曜石は信州系を主体とし、箱根、神津島系が若干量伴うという傾向が認められる(第126図)。この石材組成は、愛鷹・箱根編年の4期前半の周辺遺跡と同様の傾向を示している。また、黒曜石は、未分析のナイフ形石器1点(箱根畑宿群か)を除きすべて信州系(諏訪窪ヶ台群12点、蓼科冷山群5点、和田鷹山群2点)で占められている点も周辺遺跡と同様と判断される。箱根畑宿群と推測されるナイフ形石器は、非石刃系の切出形の型式であり、信州系のナイフ形石器との補充関係、あるいは4期後半の資料であるとすれば、石刃以外の一般的剥片を素材とした製作技術と関連すると考えられる伊豆・箱根系の黒曜石が比率を増す周辺遺跡の傾向(中村 2006)と齟齬はないとみられる。

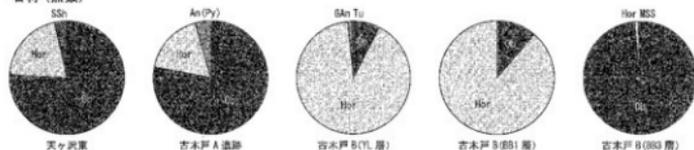
一方、細石刃は、3遺跡で認められた。黒曜石製(神津島恩馳島群)が主体となることは言うまでもないが、古木戸B遺跡では珪質頁岩製のものが2点、時期決定に課題が残されるもののホルンフェルス



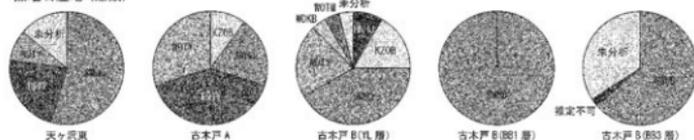
第125図 遺跡層位別出土遺物点数

ナイフ形石器群石材比較

石材 (点数)

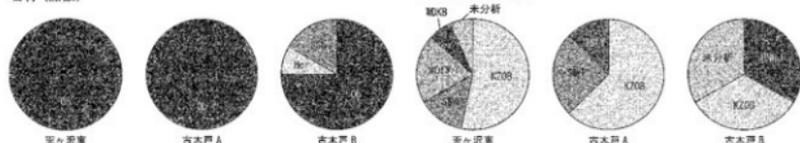


黒曜石産地 (点数)



細石刃群石材比較

石材 (点数)



第126図 旧石器石材組成

製の石核が1点出土している (第126図)。

第4段階 (縄文草創期)

有舌尖頭器をはじめとする旧石器以外の尖頭器を縄文草創期に該当させた。3遺跡で出土が確認されており、第3段階でみられた分布を踏襲していると言える (第124・125図)。遺構及び土器は未確認である。早期以降の土器群とは出土分布域が異なり、同一石材の製品が近接して出土している箇所も確認できたが、大半は散漫な出土状況を示しており、詳細な検討は困難であった。平面形態ではいわゆる柳葉形、細身の柳葉形が確認され、花見山型を含む有舌型も確認されており、時期幅が存在する可能性があるものの、前述のとおり、出土情報に乏しく詳細な検討は困難である。使用石材は、ホルンフェルス、ガラス質黒色安山岩といった在り及び近接地で得られる石材を主体としており、珪質頁岩、黒曜石が若干量認められる点 (第127図) は周辺遺跡の当該期の様相と類似していると言えよう。

第5段階 (縄文早期前半)

第I群土器を本段階とした。天ヶ沢東遺跡を主体とし、古木戸A遺跡で若干量認められている程度であり、丘陵西側に分布が偏っているようである (第124・125図)。

A類 (押型文土器) は、横回転密接施文による斜格子状、矢羽根状の押型文を併用するものと、縦回転密接施文による山形及びネガティブ楕円押型文が確認された。A類は古木戸A遺跡の層位不明の1点をのぞけば、天ヶ沢東遺跡が唯一の出土となっている。

B類 (縄文土器) は、口縁部内面及び胴部外面に縄文を施すもので、外面の縄文施文では横位羽状と縦位羽状の二者が確認された。また、外面縄文施文を部分的にナゲ消すものも確認された。

縄文土器組成

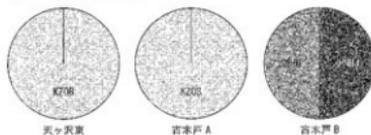


縄文石器石材組成

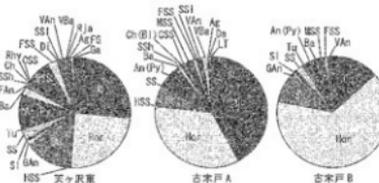
縄文草創期石材 (点数)



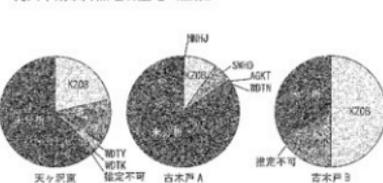
縄文草創期黒曜石産地 (点数)



縄文早期以降石材 (点数)



縄文早期以降黒曜石産地 (点数)



第127図 縄文土器・石器石材組成

C類(無文土器)は器形等を知り得る資料は認められなかったが、一定量確認することができた。

池谷信之氏は、本報告第Ⅰ群A～C類を含む当該期の土器の変遷について、いわゆる駿豆燃糸文系土器と押型文土器の施文方法及び共伴関係から検討を行っている(池谷 2003)。池谷氏の指摘により本資料を確認すると、①いわゆる駿豆燃糸文系土器のうち、燃糸文施文が未確認であること、②縦位密接の斜格子状と矢羽根状の押型文及び、山形文が認められたこと、③いわゆるネガティブな槽円押型文が認められたこと、④縦位または横位の羽状縄文施文が認められたこと、などは、沼津市尾上イラウネ北遺跡(沼津市 1992)の当該期の様相に近いと言える。今回の出土資料はいずれも包含層資料であり、共伴関係は不明であるが、以上の特徴からおおむね池谷氏案の「イラウネ」段階に相当するものと考えられる。

第6段階(縄文早期後半)

第Ⅱ群土器を本段階とした。3遺跡で確認されており、丘陵西側に漏る傾向があった前段階から丘陵全体に分布が拡大していると考えられることでもできそうである(第124・125図)。

A類(子母口式)は古木戸A・Bの両遺跡で、B類(清水柳E類)は天ヶ沢東遺跡で確認されており、細隆起線文、絡条帯圧痕文といった技法で類似点が指摘される両者の分布は異なっていることがうかがえる。

B類(清水柳E類)の特徴は、①絡条帯圧痕文は、いずれも横位施文を主体とし、竹管状工具による沈線文は未確認である、②絡条帯圧痕文と細隆起線文を併用する、ことが指摘できる。この特徴は、清水柳E類が一定量出土した、長泉町梅ノ木沢遺跡の清水柳E類土器のBグループの様相に近いと言える(財

団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2008)。なお、細隆起線文を有するものは、4区南端に出土が限定されていることから、4区北端の細隆起線文を含まない一群と分布の違いを見せているが、資料数が限られており、詳細な比較は困難と言わざるを得ない状況である。

A・B類に後出すると考えられるE類（粕畑式）は古木戸B遺跡でのみ確認されており、前述のA類とは異なる分布域から出土している。また、D類（縄文土器）も天ヶ沢東遺跡のみで確認されているが、前述のB類とは分布域が異なっている。早期末葉とされるF類（打越式）は古木戸A・Bの両遺跡で少量確認されるにとどまる。

#### 第7段階（縄文前期）

第Ⅲ群土器を本段階とした。天ヶ沢東遺跡に分布の中心があり、古木戸A遺跡で数点認められる程度である。古木戸B遺跡では未確認であることから、前段階で見られた丘陵への展開が再び縮小に向かったようにみえる（第124・125図）。

B類とした口唇部や外面に連続刺突を施す清水ノ上Ⅱ式土器に類似した土器、及びC類（北白川下層式）は天ヶ沢東遺跡でのみ確認されている。A類（諸磯式）は天ヶ沢東・古木戸A両遺跡で確認されており、天ヶ沢東遺跡では諸磯a・c式に比定もしくは並行すると考えられるものが確認された。なお、D類（大森山式）は古木戸A遺跡で2点確認される程度にとどまる。

#### 第8段階（縄文中期）

第Ⅳ群土器を本段階とした。古木戸A遺跡に分布が集中し、天ヶ沢東遺跡では数点認められる程度、古木戸B遺跡では本段階の資料は未確認である。よって、丘陵中央部に本段階の土地利用が集約されたと考えることができそうである（第124・125図）。

本段階で圧倒的多数を占めるのはB類（五領ヶ台式）であり、これに並行型式であるD類（北浦C式）が一定量認められた。五領ヶ台式は、器形を知り得る資料が5個程度確認でき、文様は、細線文を施すものは客体で、半截竹管による集合沈線や縄文を多用するものが主体となるようである。

#### 縄文早期以降の石器

前述のとおり、縄文石器は大半が包含層出土であるため、尖頭器を除く縄文石器は時期決定が困難である。ただし、出土土器は早期を主体とし、前期、中期の土器を少量含むことから、尖頭器をのぞく出土石器の大半は当該期に帰属するものと推測される。

出土石器のあり方は、周辺遺跡の様相と同様、在地系または近接地（箱根等）の石材（ホルンフェルス、頁岩、ガラス質黒色安山岩、砂岩、輝石安山岩、玄武岩など）と非在地系石材（信州系、神津島系黒曜石など）を器種により使い分けあるいは補充していることがうかがえた。また、接合資料や未製品の存在から、遺跡周辺で製作された可能性が高い器種がある程度知ることでもできた。

石鏃 3遺跡を通じて無茎鏃を主体として（63点）、いわゆる五角形鏃が天ヶ沢東遺跡で2点、古木戸A遺跡で2点の合計4点、有茎鏃が古木戸A遺跡で2点認められた。珪質粘板岩に特有の五角形鏃をのぞき、大半の石鏃は黒曜石を主体とし、一部ガラス質黒色安山岩、ホルンフェルス等を用いている。黒曜石製は、神津島恩馳島群31点を主体に、諏訪屋ヶ台群17点、天城柏峠群3点、箱根畑宿1点、和田土屋橋西1点がこれに次ぐ（推定不可・未分析4点）。未製品と考えられるものは天城柏峠群（3点）、和田鷹山群（1点）で遺跡内での石鏃製作の可能性が考えられた。剥片・チップの産地全点分析を行っていないため推測の域を出ないが、天城柏峠群にみられるように製品と未製品の数量が比例関係にないことは、これらが同時期の所産であるという前提に立てば、神津島恩馳島群をはじめとする非在地系石材の不足を天城柏峠群のような在地系石材で補充している可能性があるかも知れない。

スクレイパー・石匙等 石匙、エンドスクレイパー、ノッチドスクレイパー、サイドスクレイパーは、幅広の剥片を素材として、刃部の作出、器体の整形を行っている。ホルンフェルスを主体とした在地系

石材により製作されている。なお、細粒砂岩製のサイドスクレイパーは、後述する打製石斧と共通する石材を用いている。接合関係はないものの、石斧製作時に生じた剥片をスクレイパーに流用した可能性が高いと言えよう。

**打製石斧** 打製石斧は、周辺遺跡と同様、砂岩、細粒砂岩、中粒砂岩、硬質砂岩、頁岩など、富士川流域～田子の浦砂丘沿岸部付近で採取可能な在地系石材により製作されている。また、石器製作を示す接合資料や調整剥片、先述した剥片をスクレイパーに転用したと考えられる資料も出土しており、在地系石材を使用した石器製作の状況をうかがい知ることができる。

**磨敲石** 敲石、磨石、磨敲石は、輝石安山岩を主体として、打製石斧と同様に富士川流域～田子の浦砂丘沿岸部付近で採取可能な在地系石材により製作されている点は周辺遺跡と同様である。

#### 縄文時代の遺構

形態、検出層位から縄文時代の遺構と判断したものは3遺跡で認められる。ただし、大半が無遺物であり、時期決定は困難といわざるを得ない。時期が判明する遺物は縄文草創期の尖頭器、早期、前期、中期の土器であることから、遺構の帰属時期は縄文草創期～中期の範囲に収まると推測される。

3遺跡を通じて、土坑23基と集石遺構2基を確認した。遺構検出面は、土坑が栗色土層6基、富士黒土層1基、漸移層1基、休場層15基の合計23基、集石遺構は栗色土層1基、富士黒土層1基の合計2基となっている。遺構覆土の注記が十分でなく、基本土層との対比に基づき、覆土の違いによる時期差について検討することは困難である。

土坑は、古木戸A遺跡において底部に逆茂木設置痕を持つものが3基確認されており、陥穴状遺構と判断される。平面楕円形のもの1基、円形のもの2基が確認されており、逆茂木設置痕は前者が複数、後者は中央に1基確認された。その他の土坑は具体的な機能を特定するには至らなかったが、壁面が直立し、一定の深度を持つものは陥穴状遺構となる可能性もあろう。

古木戸A遺跡では、調査区東側の谷頭付近において、逆茂木設置痕を持つものを含む土坑がU字形に巡るような平面配置を見せている。

他方、集石遺構は古木戸A・B遺跡で合計2基確認されている。いずれも礫の密集は見せるが、土坑等の付属施設は未確認である。

#### 参考・引用文献

中村雄紀 2006 「後期旧石器時代後半期の居住形態の地域的様相―愛鷹・菊根第3期・第4期の遺跡群―」『東京大学考古学研究室研究紀要 第20号』東京大学

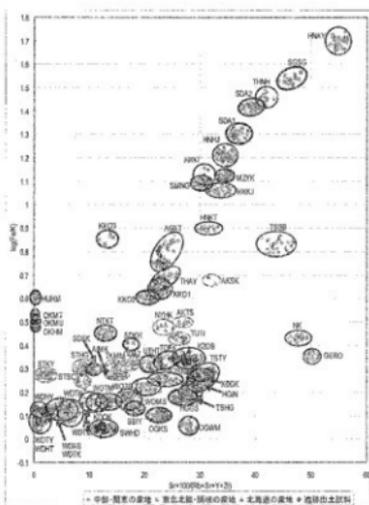
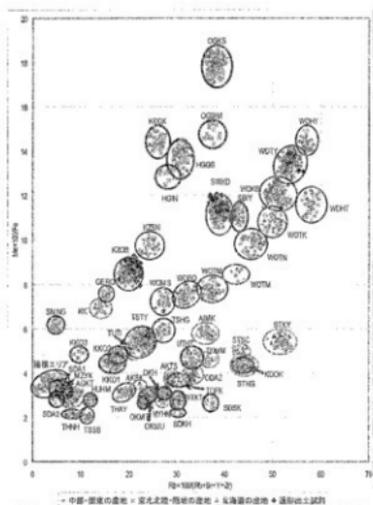
池谷信之 2003 「縦位密接施文から異方向帯状施文へ―駿豆地方押型文土器の変遷と立野式―」利根川24・25合併号 特集「押型文土器とその周辺」利根川同人

財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所 2008 梅ノ木沢遺跡 I

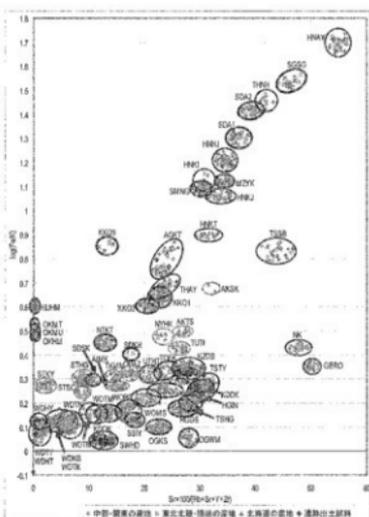
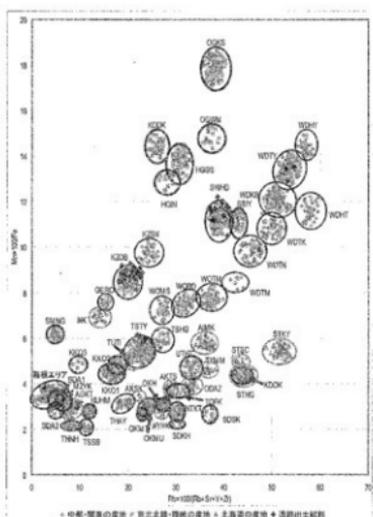
沼津市教育委員会 1992 「尾上イラウネ遺跡発掘調査報告書Ⅱ その1 考古学的調査」

# 附 編

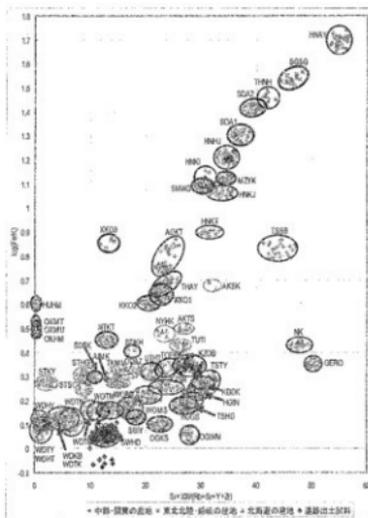
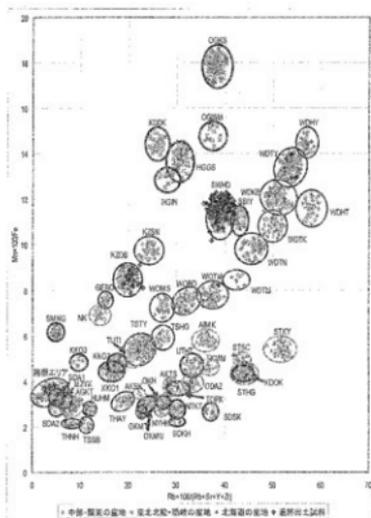




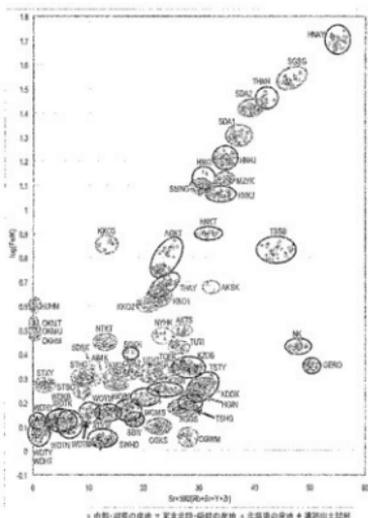
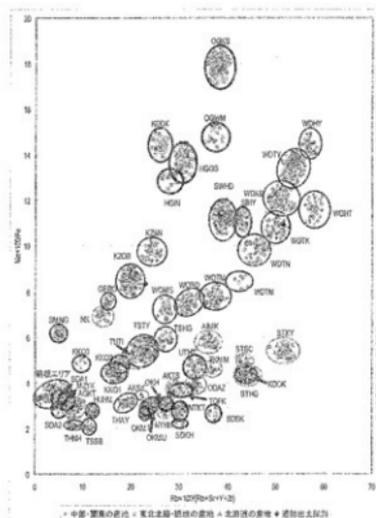
第1図 天ヶ沢東遺跡 黒曜石判別図



第2図 古木戸A遺跡 黒曜石判別図



第3図 古木戸B遺跡 黒曜石判別図



第4図 確認調査 黒曜石判別図

第1表 天ヶ沢奥遺跡 黒曜石産地推定結果報告

判別図法・判別分析からの産地推定結果			判別図法による推定結果と判別分析による推定結果						
分析番号	遺物番号	推定産地	判別図	判別群	産地推定産地			判別分析	
					判別群	距離	確率	判別群	距離
AGRS-1	5	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	2.52	1	KZSN	45.77	0
AGRS-2	6	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	3.58	1	KZSN	49.27	0
AGRS-3	7	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	12.93	0.9999	KZSN	39.32	0.0001
AGRS-4	8	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	16.96	1	KZSN	46.89	0
AGRS-5	23	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	17.45	1	WDYTN	125.7	0
AGRS-6	28	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	21.62	1	SBEY	155.62	0
AGRS-7	41	巻料内山群	TSYU	TSYU	7.86	1	TSHG	40.66	0
AGRS-8	43	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	16.97	0.9991	KZSN	28.54	0.0009
AGRS-9	60	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	14.46	1	SBEY	105.76	0
AGRS-10	97	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	8.49	0.9999	KZSN	25.04	0.0001
AGRS-11	111	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	2.26	1	SBEY	96.82	0
AGRS-12	114	和田山黒曜石群	WDTK	WDTK	11.15	0.8984	WDKB	107.7	0.1015
AGRS-13	127	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	19.14	0.998	KZSN	29.25	0.002
AGRS-14	128	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	13.93	1	KZSN	58.21	0
AGRS-15	150	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	8.84	1	KZSN	29.9	0
AGRS-16	152	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	2.69	1	SBEY	82.71	0
AGRS-17	157	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	18.4	1	KZSN	63.07	0
AGRS-18	158	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	5.54	1	KZSN	49.24	0
AGRS-19	245	巻料内山群	WDYU	WDYU	3.31	0.9996	WDHY	16.42	0.0004
AGRS-20	291	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	1.99	1	SBEY	95.67	0
AGRS-1	289	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	3.77	1	SBEY	57.21	0
AGRS-2	370	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	11.24	1	KZSN	48.44	0
AGRS-3	426	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	18.17	1	KZSN	66.31	0
AGRS-4	487	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	4.91	1	SBEY	107.96	0
AGRS-5	722	和田山黒曜石群	WDKB	WDKB	7.43	0.9995	WDYU	24.56	0.0002
AGRS-6	732	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	11.31	1	SBEY	92.48	0
AGRS-7	763	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	7.61	1	SBEY	106.23	0
AGRS-8	764	天城山群	AGKT	AGKT	12.36	1	HNKT	122.89	0
AGRS-9	816	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	11.41	1	SBEY	110.81	0
AGRS-10	859	天城山群	AGKT	AGKT	11.17	1	HNKT	109.15	0
AGRS-11	905	巻料内山群	WDYU	WDYU	3.83	0.9994	WDHY	15.36	0.0006
AGRS-12	957	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	13.38	1	SBEY	116.44	0
AGRS-13	998	和田山群	WDYU	WDYU	7.15	1	WDHY	34.15	0
AGRS-14	1163	和田山群	WDYU	WDYU	4.34	1	WDKB	34.2	0
AGRS-15	1416	天城山群	AGKT	AGKT	2.97	1	HNKT	108.49	0
AGRS-16	1434	巻料内山群	TSYU	TSYU	3.16	0.9986	TSHG	15.64	0.0004
AGRS-17	1480	和田山群	WDYU	WDYU	3.86	1	WDHY	53.36	0
AGRS-18	1505	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	14.66	1	WDYTN	103.19	0
AGRS-19	1517	天城山群	AGKT	AGKT	2.7	1	HNKT	126.63	0
AGRS-20	1626	天城山群	AGKT	AGKT	17.68	1	HNKT	152.66	0
AGRS-21	1631	巻料内山群	TSYU	TSYU	6.11	0.996	TSHG	13.25	0.004
AGRS-22	1632	巻料内山群	WDYU	WDYU	4.59	1	WDHY	31.87	0
AGRS-23	1643	巻料内山群	WDYU	WDYU	12.45	1	WDHY	35.16	0
AGRS-24	1664	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	6.7	1	KZSN	49.25	0
AGRS-25	1675	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	22.7	1	KZSN	78.15	0
AGRS-26	1679	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	4.8	1	KZSN	34.11	0
AGRS-27	1691	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	2.65	1	KZSN	66.66	0
AGRS-28	1613	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	1.58	1	SBEY	97.92	0
AGRS-29	1636	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	5.51	1	KZSN	58.17	0
AGRS-30	1712	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	16.42	1	SBEY	81.56	0

判別図法・判別分析からの産地推定結果

分析番号	遺物番号	推定産地	判別図	判別群	判別分析				
					産地推定産地	距離	確率	判別群	距離
AGRS-31	1735	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	4.13	1	KZSN	62.38	0
AGRS-32	1746	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	10.84	1	KZSN	89.92	0
AGRS-33	1781	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	14.05	1	SBEY	114.44	0
AGRS-34	1788	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	16.61	1	KZSN	81.16	0
AGRS-35	1792	巻料内山群	SWHD	SWHD	4.8	1	WDYTN	88.2	0
AGRS-36	1791	巻料内山群	SWHD	SWHD	4.47	1	SBEY	50.11	0
AGRS-37	1848	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	18.6	1	KZSN	51.77	0
AGRS-38	1879	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	1.33	1	KZSN	58.05	0
AGRS-39	1882	巻料内山群	SWHD	SWHD	12.26	1	WDYTN	106.54	0
AGRS-40	1886	巻料内山群	WDYU	WDYU	7.26	1	WDHY	27.2	0
AGRS-41	1896	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	3.58	1	SBEY	99.77	0
AGRS-42	1902	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	12.27	0.9983	KZSN	34.59	0.0007
AGRS-43	1905	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	10.41	1	KZSN	30.15	0
AGRS-44	1941	指定不可	指定不可	指定不可	指定不可		指定不可		
AGRS-45	1946	巻料内山群	TSYU	TSYU	3.82	0.9983	TSHG	12.56	0.0017
AGRS-46	1947	巻料内山群	TSYU	TSYU	3.97	1	TSHG	36.29	0
AGRS-47	1950	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	3.32	1	KZSN	70.59	0
AGRS-48	1951	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	3.67	1	KZSN	47.91	0
AGRS-49	1963	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	6.77	1	KZSN	88.89	0
AGRS-50	1965	天城山群	AGKT	AGKT	8.35	1	HNKT	115.83	0
AGRS-51	1968	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	1.5	1	SBEY	106.89	0
AGRS-52	2003	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	10.93	1	KZSN	33.03	0
AGRS-53	2008	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	6.45	1	KZSN	58.83	0
AGRS-54	2012	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	2.1	1	KZSN	56.9	0

第2表 天ヶ沢奥遺跡 出土黒曜石産地推定

エリア	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	嵐山	WDYU	8	10.81%
	小栗谷	WDYU	1	1.33%
	巻料内山	WDYU	21	28.38%
巻料内山	TSYU	5	6.76%	
天城	AGKT	6	8.11%	
神津島	KZOB	31	41.89%	
不可など		1	1.33%	
合計		74	100.00%	

第3表 古木戸遺跡 黒曜石産地推定結果報告

判別図法・判別分析からの産地推定結果			判別図法による推定結果と判別分析による推定結果						
分析番号	遺物番号	推定産地	判別図	判別群	産地推定産地			判別分析	
					判別群	距離	確率	判別群	距離
HKDA-1	11	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	3.04	1	KZSN	47.21	0
HKDA-2	35	和田山群	WDYU	WDYU	9.62	1	WDKB	39	0
HKDA-3	38	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	15.86	1	SBEY	33.01	0
HKDA-4	4	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	1.26	1	KZSN	48.87	0
HKDA-5	141	巻料内山群	SWHD	SWHD	1	1	SBEY	187.64	0
HKDA-6	191	天城山群	AGKT	AGKT	11.28	1	HNKT	101.41	0
HKDA-7	222	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	13.25	1	SBEY	75.95	0
HKDA-8	231	神津島黒曜石群	KZOB	KZOB	10.77	1	KZSN	39.45	0
HKDA-9	261	藤原屋ヶ台群	SWHD	SWHD	6.14	1	SBEY	103.7	0

判別結果・判別分析からの最終鑑定結果			判別図位による鑑定結果と判別分析による鑑定結果							
分析番号	遺物番号	採定地産地	判別図	判別群	第1候補産地			他候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
HKDA-10	265	龍野屋台	SWHD	SWHD	13.7	1	SBY	147.17	0	
HKDA-11	369	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	1.12	1	KZSN	64.26	0	
HKDA-12	437	岩科小川群	TSY	TSY	9.92	0.9999	TSHG	25.63	0.0001	
HKDA-13	508	龍野屋台	SWHD	SWHD	5.77	1	SBY	82.18	0	
HKDA-14	285	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	12.5	1	KZSN	53.4	0	
HKDA-15	655	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	8.31	1	KZSN	63.83	0	
HKDA-16	661	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	12.83	1	KZSN	49.55	0	
HKDA-17	605	龍野屋台	SWHD	SWHD	1.61	1	SBY	95.89	0	
HKDA-18	659	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	5.96	1	KZSN	58.9	0	
HKDA-19	673	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	5.15	1	KZSN	32.3	0	
HKDA-20	674	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	6.55	1	KZSN	50.8	0	
HKDA-21	679	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	9.91	1	KZSN	63.05	0	
HKDA-22	691	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	9.96	1	KZSN	42.52	0	
HKDA-23	693	天沼前群	AGKT	AGKT	10.27	1	SOKH	103.77	0	
HKDA-24	772	龍野屋台	SWHD	SWHD	9.18	1	SBY	100.89	0	
HKDA-25	1245	龍野屋台	HNSU	HNSU	8.91	1	HNSK	68.9	0	
HKDA-26	1356	龍野屋台	SWHD	SWHD	17.49	1	SBY	124.23	0	
HKDA-27	1535	岩科小川群	TSY	TSY	15.53	1	TSHG	42.17	0	
HKDA-28	1540	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	35.3	1	KZSN	102.26	0	
HKDA-29	1594	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	14.75	0.9998	KZSN	29.46	0.0002	
HKDA-30	1573	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	9.75	1	KZSN	63.05	0	
HKDA-31	1596	龍野屋台	SWHD	SWHD	11.76	1	WDYJ	183.68	0	
HKDA-32	1615	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	17.16	0.9819	KZSN	22.88	0.0181	
HKDA-33	1807	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	5.26	1	KZSN	69.87	0	
HKDA-34	1704	和歌山山群	WDYU	WDYU	2.64	1	WDYR	40.72	0	
HKDA-35	1730	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	7.51	1	KZSN	27.27	0	
HKDA-36	1759	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	19.52	1	KZSN	31.23	0	
HKDA-37	1764	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	12.17	1	KZSN	38.92	0	
HKDA-38	1766	岩科小川群	TSY	TSY	4.2	0.9998	TSHG	16.95	0.0002	
HKDA-39	1788	都賀山山群	WDYJ	WDYJ	4.87	1	WDYK	30.82	0	
HKDA-40	1792	和歌山山群	WDYU	WDYU	1.4	1	WDYH	20.64	0	
HKDA-41	2027	龍野屋台	SWHD	SWHD	9.6	1	SBY	83.97	0	
HKDA-42	2030	龍野屋台	SWHD	SWHD	8.92	1	SBY	51.87	0	
HKDA-43	2063	岩科小川群	TSY	TSY	4.65	0.9999	TSHG	18.86	0.0001	
HKDA-44	2064	龍野屋台	SWHD	SWHD	14.99	1	SBY	78.98	0	
HKDA-45	2070	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	11.98	0.9997	KZSN	26.16	0.0003	
HKDA-46	2075	龍野屋台	TSY	TSY	10.15	1	TSHG	29.24	0	
HKDA-47	2079	龍野屋台	SWHD	SWHD	11.74	1	SBY	83.75	0	
HKDA-48	2083	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	6.91	1	KZSN	41.23	0	
HKDA-49	2094	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	14.32	1	KZSN	42.25	0	
HKDA-50	2095	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	17.34	1	KZSN	59.41	0	
HKDA-51	2106	龍野屋台	SWHD	SWHD	6.91	1	SBY	86.27	0	
HKDA-52	2115	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	4.29	1	KZSN	40.13	0	
HKDA-53	2147	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	29.5	1	KZSN	124.8	0	
HKDA-54	2148	龍野屋台	SWHD	SWHD	9.58	1	SBY	113.39	0	

図4 龍野屋台 出土土曜石産地組織

番号	判別群	記号	試料数	%
和田(WD)	龍野屋台	WDYU	3	5.56%
	土曜屋台	WDYJ	1	1.85%
	龍野屋台	SWHD	16	29.63%
	龍野屋台	TSY	5	9.26%
	天沼前	AGKT	2	3.7%
	龍野屋台	HNSU	1	1.85%
	神津島	KZOB	26	48.17%
	合計		54	100.0%

表5 龍野屋台 龍野石産地判定結果報告

判別結果・判別分析からの最終鑑定結果			判別図位による鑑定結果と判別分析による鑑定結果							
分析番号	遺物番号	採定地産地	判別図	判別群	第1候補産地			他候補産地		
					判別群	距離	確率	判別群	距離	確率
HKTB-1	12	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	1.03	1	KZSN	66.19	0	
HKTB-2	53	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	6.96	1	KZSN	49.3	0	
HKTB-3	175	龍野屋台	SWHD	SWHD	0.94	1	SBY	94.15	0	
HKTB-4	215	龍野屋台	SWHD	SWHD	9.10	1	SBY	157.5	0	
HKTB-5	288	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	1.84	1	KZSN	69.27	0	
HKTB-6	289	龍野屋台	SWHD	SWHD	18.15	1	SBY	137.55	0	
HKTB-7	291	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	2.03	1	KZSN	66.73	0	
HKTB-8	377	採定不可	鑑定不可	鑑定不可			鑑定不可			
HKTB-9	392	龍野屋台	SWHD	SWHD	11.24	1	SBY	123.17	0	
HKTB-10	540	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	12.58	1	KZSN	68.61	0	
HKTB-11	547	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	16.23	0.9999	KZSN	32.74	0.0001	
HKTB-12	673	和歌山山群	WDYU	WDYU	9.39	1	WDKB	57.23	0	
HKTB-13	765	龍野屋台	SWHD	SWHD	12.11	1	SBY	105.52	0	
HKTB-14	816	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	2.58	1	KZSN	78.23	0	
HKTB-15	858	龍野屋台	SWHD	SWHD	9.99	1	SBY	114.53	0	
HKTB-16	1043	龍野屋台	SWHD	SWHD	4.69	1	SBY	86.69	0	
HKTB-17	1096	龍野屋台	HNSU	HNSU	7.57	1	OKMT	95.63	0	
HKTB-18	1112	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	13.23	1	KZSN	60.29	0	
HKTB-19	1120	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	16.1	1	KZSN	57.77	0	
HKTB-20	1128	龍野屋台	SWHD	SWHD	16.24	1	SBY	133.71	0	
HKTB-21	1129	龍野屋台	SWHD	SWHD	4.84	1	SBY	106.97	0	
HKTB-22	1130	龍野屋台	SWHD	SWHD	3.62	1	SBY	118.99	0	
HKTB-23	1131	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	3.56	1	KZSN	25.49	0	
HKTB-24	1134	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	9.89	1	KZSN	52.71	0	
HKTB-25	1140	和歌山山群	WDYU	WDYU	28.24	1	WDYK	20.4	0	
HKTB-26	1143	和歌山山群	WDYU	WDYU	2.51	1	WDYR	27.86	0	
HKTB-27	1144	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	14.55	1	KZSN	56.06	0	
HKTB-28	1145	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	9.24	1	KZSN	95.51	0	
HKTB-29	1146	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	15.98	1	KZSN	63.68	0	
HKTB-30	1147	和歌山山群	WDYU	WDYU	7.81	1	WDKB	39.27	0	
HKTB-31	1155	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	11.22	1	KZSN	63.04	0	
HKTB-32	1354	龍野屋台	SWHD	SWHD	12.1	1	WDYJ	118.37	0	
HKTB-33	1384	龍野屋台	SWHD	SWHD	22.34	1	SBY	89.65	0	
HKTB-34	1411	和歌山山群	WDYU	WDYU	7.19	1	WDYJ	25.57	0	
HKTB-35	1466	和歌山山群	WDYU	WDYU	6.71	1	WDYJ	24.13	0	
HKTB-36	1525	龍野屋台	HNSU	HNSU	11.3	1	STAG	95.74	0	
HKTB-37	1568	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	7.8	1	KZSN	29.64	0	
HKTB-38	1571	龍野屋台	HNSU	HNSU	6.42	1	HNSK	196.2	0	
HKTB-39	1577	神津島岩船島群	KZOB	KZOB	22.41	0.9998	KZSN	37.29	0.0002	

判別国名・判別分析からの最終判定結果		判別国名による判定結果と判別分析による確定結果							
分析番号	遺物番号	指定産地	判別国	判別群	判別分析				
					第1候補産地	距離	確率	第2候補産地	距離
HKTB-40	1585	神奈川県鎌倉郡	EZOB	EZOB	8.36	1	KZSN	88.59	0
HKTB-41	1637	東京都港区	HNHJ	HNHJ	0.79	1	HNKA	85.29	0
HKTB-42	1638	東京都品川区	SWHD	SWHD	7	1	SNBY	112.17	0
HKTB-43	1640	神奈川県横浜	EZOB	EZOB	6.81	1	KZSN	62.96	0
HKTB-44	1671	東京都台東区	SWHD	SWHD	15.13	1	SRYU	80.42	0
HKTB-45	1680	千葉県船橋市	KZOB	KZOB	3.94	1	KZSN	58.59	0
HKTB-45	1717	和歌山県山田	WDTY	WDTY	3.16	1	WDHY	28.31	0
HKTB-47	1729	東京都品川区	SWHD	SWHD	4.53	1	SNBY	116.19	0
HKTB-48	1749	東京都品川区	SWHD	SWHD	10.4	1	SNBY	72.63	0
HKTB-48	1806	東京都台東区	SWHD	SWHD	3.21	1	SRYU	67.88	0
HKTB-50	1814	東京都台東区	SWHD	SWHD	23.06	1	SRYU	92.48	0
HKTB-51	1867	東京都台東区	SWHD	SWHD	8.31	1	SRYU	58.5	0
HKTB-52	1896	東京都台東区	SWHD	SWHD	6.5	1	SRYU	64.41	0
HKTB-53	1897	東京都台東区	SWHD	SWHD	5.93	1	SRYU	91.33	0
HKTB-54	1906	東京都台東区	SWHD	SWHD	16.16	1	SRYU	76.6	0
HKTB-55	1907	東京都台東区	SWHD	SWHD	8.05	1	SRYU	77.11	0
HKTB-56	1908	東京都台東区	SWHD	SWHD	12.87	1	SRYU	74.04	0
HKTB-57	1910	東京都台東区	SWHD	SWHD	16.86	1	SNBY	108.58	0
HKTB-58	2019	東京都台東区	SWHD	SWHD	3.99	1	SNBY	86.36	0
HKTB-59	2019	東京都台東区	SWHD	SWHD	23.17	1	SNBY	55.66	0
HKTB-60	2033	東京都台東区	SWHD	SWHD	19.68	1	SNBY	93.69	0
HKTB-61	2034	東京都台東区	SWHD	SWHD	15.8	1	SRYU	158.52	0
HKTB-62	2035	東京都台東区	SWHD	SWHD	5.75	1	SRYU	94.88	0
HKTB-63	2038	東京都台東区	SWHD	SWHD	3.04	1	SRYU	78.02	0
HKTB-64	2044	東京都台東区	SWHD	SWHD	4.98	1	SRYU	108.81	0
HKTB-65	2049	東京都台東区	SWHD	SWHD	8.41	1	SRYU	61.81	0
HKTB-66	2053	東京都台東区	SWHD	SWHD	10.3	1	SRYU	62.54	0
HKTB-67	2054	東京都台東区	SWHD	SWHD	13.39	1	SRYU	106.23	0
HKTB-68	2057	東京都台東区	SWHD	SWHD	8.16	1	WDYTN	114.76	0
HKTB-69	2058	東京都台東区	SWHD	SWHD	6.15	1	SRYU	110.36	0
HKTB-70	2059	東京都台東区	SWHD	SWHD	11.72	1	SRYU	54.33	0
HKTB-71	2060	東京都台東区	SWHD	SWHD	29.83	1	SRYU	88.03	0
HKTB-72	2061	東京都台東区	SWHD	SWHD	12.22	1	WDYTN	118.86	0
HKTB-73	2063	指定不可	指定不可	指定不可	指定不可		指定不可		
HKTB-74	2064	東京都台東区	SWHD	SWHD	7.08	1	WDYTN	76.18	0
HKTB-75	2065	東京都台東区	SWHD	SWHD	22.88	1	SRYU	68.82	0
HKTB-76	2067	東京都台東区	SWHD	SWHD	1.2	1	SNBY	87.6	0
HKTB-77	2069	東京都台東区	SWHD	SWHD	8.73	1	SRYU	83.37	0
HKTB-78	2072	東京都台東区	SWHD	SWHD	7.29	1	SRYU	98.78	0
HKTB-79	2073	東京都台東区	SWHD	SWHD	5.55	1	SRYU	88.72	0
HKTB-80	2074	東京都台東区	SWHD	SWHD	24.96	1	SNBY	157.56	0
HKTB-81	2078	東京都台東区	SWHD	SWHD	19.06	1	SRYU	66.49	0
HKTB-82	2079	指定不可	指定不可	指定不可	指定不可		指定不可		
HKTB-83	2086	東京都台東区	SWHD	SWHD	7.97	1	SRYU	113.09	0
HKTB-84	2081	指定不可	指定不可	指定不可	指定不可		指定不可		
HKTB-85	2082	東京都台東区	SWHD	SWHD	19.07	1	SRYU	126.8	0
HKTB-86	2083	東京都台東区	SWHD	SWHD	10.33	1	SRYU	83.85	0
HKTB-87	2084	東京都台東区	SWHD	SWHD	10.33	1	WDYTN	165.75	0
HKTB-88	2085	東京都台東区	SWHD	SWHD	10.65	1	SRYU	97.45	0
HKTB-89	2086	東京都台東区	SWHD	SWHD	12.18	1	SRYU	87.89	0
HKTB-90	2087	東京都台東区	SWHD	SWHD	12.13	1	SRYU	117.13	0

判別国名・判別分析からの最終判定結果			判別国名による判定結果と判別分析による判定結果						
分析番号	遺物番号	指定産地	判別国	判別群	判別分析				
					第1候補産地	距離	確率	第2候補産地	距離
HKTB-91	2088	東京都台東区	SWHD	SWHD	15.84	1	WDYTN	122.08	0
HKTB-92	2088	東京都台東区	SWHD	SWHD	19.52	1	SNBY	93.71	0
HKTB-93	2090	東京都台東区	SWHD	SWHD	1.51	1	SRYU	103.57	0
HKTB-94	2091	東京都台東区	SWHD	SWHD	6.01	1	WDYTN	83.21	0
HKTB-95	2092	東京都台東区	SWHD	SWHD	15.05	1	SRYU	66.46	0
HKTB-96	2093	東京都台東区	SWHD	SWHD	5.13	1	SRYU	113.42	0
HKTB-97	2094	東京都台東区	SWHD	SWHD	13.24	1	SRYU	104.14	0
HKTB-98	2095	東京都台東区	SWHD	SWHD	17.8	1	SRYU	88.06	0
HKTB-98	2096	東京都台東区	SWHD	SWHD	16.92	1	SRYU	125.6	0
HKTB-100	2097	東京都台東区	SWHD	SWHD	8.18	1	SRYU	91.64	0
HKTB-101	2200	東京都台東区	SWHD	SWHD	3.9	1	SRYU	129.43	0
HKTB-102	2201	東京都台東区	SWHD	SWHD	2.27	1	SRYU	88.83	0
HKTB-103	2206	東京都台東区	SWHD	SWHD	15.04	1	SRYU	111.01	0
HKTB-104	2217	東京都台東区	SWHD	SWHD	2.56	1	SRYU	75.44	0
HKTB-105	2218	東京都台東区	SWHD	SWHD	11.74	1	SRYU	112.05	0
HKTB-106	2219	東京都台東区	SWHD	SWHD	4.78	1	SRYU	71.91	0
HKTB-107	2221	東京都台東区	SWHD	SWHD	4.32	1	WDYTN	104.42	0
HKTB-108	2222	東京都台東区	SWHD	SWHD	13.95	1	SRYU	62.12	0
HKTB-109	2229	指定不可	指定不可	指定不可	指定不可		指定不可		
HKTB-110	2230	東京都台東区	SWHD	SWHD	7.85	1	SRYU	94.68	0
HKTB-111	2233	東京都台東区	SWHD	SWHD	9.59	1	SRYU	128	0
HKTB-112	2234	東京都台東区	SWHD	SWHD	7.49	1	SRYU	77.6	0
HKTB-113	2235	東京都台東区	SWHD	SWHD	5.29	1	SRYU	81.7	0
HKTB-114	2237	東京都台東区	SWHD	SWHD	12.94	1	SRYU	102.59	0
HKTB-115	2238	東京都台東区	SWHD	SWHD	13.11	1	SRYU	79.34	0
HKTB-116	2239	東京都台東区	SWHD	SWHD	12.64	1	SRYU	98.32	0
HKTB-117	2242	東京都台東区	SWHD	SWHD	7.9	1	SRYU	91.62	0
HKTB-118	2243	東京都台東区	SWHD	SWHD	3.09	1	SRYU	66.16	0
HKTB-119	2247	東京都台東区	SWHD	SWHD	16.22	1	SRYU	76.52	0
HKTB-120	2248	東京都台東区	SWHD	SWHD	19.89	1	SRYU	164.47	0
HKTB-121	2254	東京都台東区	SWHD	SWHD	9.35	1	SRYU	108.4	0
HKTB-122	2257	東京都台東区	SWHD	SWHD	15.79	1	SRYU	48.06	0
HKTB-123	2259	東京都台東区	SWHD	SWHD	8.83	1	SRYU	89.25	0
HKTB-124	2262	東京都台東区	SWHD	SWHD	22.99	1	SRYU	78.6	0
HKTB-125	2263	東京都台東区	SWHD	SWHD	12.86	1	SRYU	62.51	0
HKTB-126	2264	東京都台東区	SWHD	SWHD	12.42	1	SRYU	85.38	0
HKTB-127	2266	東京都台東区	SWHD	SWHD	2.75	1	SRYU	76.74	0
HKTB-128	2266	東京都台東区	SWHD	SWHD	12.61	1	SRYU	129.84	0
HKTB-129	2270	東京都台東区	SWHD	SWHD	16.16	1	SRYU	144.24	0
HKTB-130	2271	東京都台東区	SWHD	SWHD	6.8	1	SRYU	82.47	0
HKTB-131	2280	東京都台東区	SWHD	SWHD	15.3	1	SRYU	118.36	0
HKTB-132	2283	東京都台東区	SWHD	SWHD	14.53	1	SRYU	106.09	0
HKTB-133	2284	東京都台東区	SWHD	SWHD	10.14	1	SRYU	76.29	0
HKTB-134	2285	東京都台東区	SWHD	SWHD	11.4	1	SRYU	89.73	0
HKTB-135	2286	東京都台東区	SWHD	SWHD	7.49	1	WDYTN	126.11	0
HKTB-136	2297	東京都台東区	SWHD	SWHD	5.7	1	SRYU	66.05	0
HKTB-137	2298	東京都台東区	SWHD	SWHD	11.3	1	SRYU	83.07	0
HKTB-138	2302	東京都台東区	SWHD	SWHD	21.28	1	WDYTN	182.92	0
HKTB-139	2304	東京都台東区	SWHD	SWHD	6.06	1	SRYU	137.69	0
HKTB-140	2304	東京都台東区	SWHD	SWHD	8.14	1	SRYU	55.11	0
HKTB-141	2306	東京都台東区	SWHD	SWHD	12.94	1	SRYU	113.11	0

判別国産・判別分析からの最終鑑定結果			判別国産による鑑定結果と判別分析による鑑定結果							
分析番号	遺物番号	鑑定国産	判別国	判別群	第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	標準	判別群	距離	標準
HKTB-142	2306	藤原系台群	SWHD	SWHD	1.79	1	SBY	68.57	0	
HKTB-143	2307	高砂系台群	SWHD	SWHD	15.05	1	SBY	122.79	0	
HKTB-144	2310	高砂系台群	SWHD	SWHD	21.11	1	SBY	99.64	0	
HKTB-145	2312	高砂系台群	SWHD	SWHD	3.53	1	SBY	105.99	0	
HKTB-146	2314	高砂系台群	SWHD	SWHD	22.58	1	SBY	114.69	0	
HKTB-147	2315	高砂系台群	SWHD	SWHD	18.28	1	SBY	89.13	0	
HKTB-148	2316	高砂系台群	SWHD	SWHD	14.06	1	SBY	73.11	0	
HKTB-149	2319	高砂系台群	SWHD	SWHD	12.92	1	SBY	122.65	0	
HKTB-150	2320	高砂系台群	SWHD	SWHD	2.97	1	SBY	106.29	0	
HKTB-151	2321	高砂系台群	SWHD	SWHD	16.78	1	SBY	88.1	0	
HKTB-152	2323	高砂系台群	SWHD	SWHD	5.49	1	SBY	84.2	0	
HKTB-153	2326	高砂系台群	SWHD	SWHD	21.21	1	SBY	107.04	0	
HKTB-154	2327	高砂系台群	SWHD	SWHD	4.14	1	SBY	74.23	0	
HKTB-155	2328	高砂系台群	SWHD	SWHD	6.52	1	SBY	79.89	0	
HKTB-156	2331	高砂系台群	SWHD	SWHD	12.99	1	SBY	93.61	0	
HKTB-157	2334	高砂系台群	SWHD	SWHD	5.83	1	WDTN	98.24	0	
HKTB-158	2344	高砂系台群	SWHD	SWHD	20.82	1	SBY	81.28	0	
HKTB-159	2345	高砂系台群	SWHD	SWHD	12.16	1	SBY	146.04	0	
HKTB-160	2348	高砂系台群	SWHD	SWHD	2.33	1	SBY	103.11	0	
HKTB-161	2349	高砂系台群	SWHD	SWHD	2.12	1	SBY	83.53	0	
HKTB-162	2360	高砂系台群	SWHD	SWHD	3.74	1	SBY	74.86	0	
HKTB-163	2361	高砂系台群	SWHD	SWHD	3.26	1	SBY	77.2	0	
HKTB-164	2362	高砂系台群	SWHD	SWHD	4.49	1	SBY	85.57	0	
HKTB-165	2365	高砂系台群	SWHD	SWHD	3.52	1	SBY	88.42	0	
HKTB-166	2366	高砂系台群	SWHD	SWHD	17.81	1	SBY	126.44	0	
HKTB-167	2368	高砂系台群	SWHD	SWHD	21.57	1	SBY	73.04	0	
HKTB-168	2379	高砂系台群	SWHD	SWHD	15.69	1	SBY	68.72	0	
HKTB-169	2392	高砂系台群	SWHD	SWHD	11.51	1	SBY	116.69	0	
HKTB-170	2396	高砂系台群	SWHD	SWHD	10.66	1	SBY	67.63	0	
HKTB-171	2397	高砂系台群	SWHD	SWHD	22.22	1	SBY	99.65	0	
HKTB-172	2398	高砂系台群	SWHD	SWHD	5.31	1	SBY	75.54	0	
HKTB-173	2401	高砂系台群	SWHD	SWHD	4.67	1	SBY	86.97	0	
HKTB-174	2402	高砂系台群	SWHD	SWHD	22.40	1	SBY	67.08	0	
HKTB-175	2411	高砂系台群	SWHD	SWHD	16.36	1	SBY	138.4	0	
HKTB-176	2414	高砂系台群	SWHD	SWHD	16.55	1	SBY	106.63	0	
HKTB-177	2465	高砂系台群	SWHD	SWHD	12.59	1	SBY	72.22	0	
HKTB-178	2494	高砂系台群	SWHD	SWHD	6.7	1	SBY	82.89	0	
HKTB-179	2515	高砂系台群	SWHD	SWHD	8.56	1	SBY	82.29	0	
HKTB-180	2516	高砂系台群	SWHD	SWHD	16.56	1	SBY	89.3	0	
HKTB-181	2635	高砂系台群	SWHD	SWHD	21.54	1	SBY	124.53	0	
HKTB-182	2378	高砂系台群	SWHD	SWHD	4.11	1	SBY	79.37	0	

第6表 古木戸3遺跡 出土黒曜石産地構成

エリア	判別群	記号	試料数	%
相田(WO)	西谷沢	WOTM	1	0.63%
相田(WD)	船山	WDTY	5	2.75%
相田(WD)	小笠原	WDRB	1	0.50%
相田	楓ヶ谷	SWHD	146	80.22%
香取	畑谷	INDH	4	2.20%
神保島	藤原系	KZOB	20	10.99%
	不可定		5	2.75%
	合計		182	100.00%

第7表 確認調査 黒曜石産地推定結果概要

判別国産・判別分析からの最終鑑定結果			判別国産による鑑定結果と判別分析による鑑定結果							
分析番号	遺物番号	鑑定国産	判別国	判別群	第1候補産地			第2候補産地		
					判別群	距離	標準	判別群	距離	標準
L44-1	1	神保島系黒島群	KZOB	KZOB	11.96	1	KZSN	37.59	0	
L44-2	2	和而土系黒島群	WDTK	WDTK	3.16	1	WDRB	28	0	
L44-3	15	神保島系黒島群	KZOB	KZOB	9.71	1	KZSN	92.42	0	
L44-4	23	神保島系黒島群	KZOB	KZOB	14.9	1	KZSN	58.45	0	
L44-5	56	神保島系黒島群	KZOB	KZOB	18.32	1	KZSN	49.85	0	
L44-6	61	神保島系黒島群	KZOB	KZOB	13.4	0.9999	KZSN	29.56	0.0001	
L44-7	90	高砂系台群	SWHD	SWHD	4.21	1	SBY	111.49	0	

第8表 古木戸3遺跡 出土黒曜石産地構成

エリア	判別群	記号	試料数	%
相田(WD)	土庫峠北	WDTK	1	14.29%
船山	畑ヶ谷	SWHD	1	14.29%
神保島	藤原系	KZOB	5	71.43%
	合計		7	100.00%

## 天ヶ沢東遺跡、古木戸A・B遺跡における放射性炭素年代測定（AMS測定）

輻加速器分析研究所

## 1 遺跡の位置

天ヶ沢東遺跡、古木戸A・B遺跡は、静岡県富士市神谷字天ヶ沢東から増川字古木戸に所在する。愛鷹山南西部の丘陵上に145mに位置する。

## 2 測定の意義

遺構及び地層の年代を明らかにしたい。

## 3 測定対象試料

測定対象試料は、天ヶ沢東遺跡の富士黒土層（FB）の炭化物4点（遺物番号1923：測定番号IAAA-70470、1922：IAAA-70471、1949：IAAA-70472、1967：IAAA-70473）、古木戸A遺跡の富士黒土層（FB）の炭化物（遺物番号1496：測定番号IAAA-70464）、古木戸B遺跡の休場層（YL）の炭化物（14：IAAA-70465、19：IAAA-70466、23：IAAA-70467、177：IAAA-70469）、第I黒色帯（BB I）の礫群6（RG06）に伴う炭化物（339：IAAA-70468）合計10点である。試料は採取後に乾燥され、アルミホイルに入れ、さらにタッパーに入れて保管された。

## 4 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) AAA（Acid Alkali Acid）処理。酸処理、アルカリ処理、酸処理により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では0.001～1Nの水酸化ナトリウム水溶液（80℃）を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸（80℃）を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅1gと共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用して、真空ラインで二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出（水素で還元）し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードにハンドプレス機で詰め、それをホイルにはめ込み、加速器に装着し測定する。

## 5 測定方法

測定機器は、3 MVタンデム加速器をベースとした<sup>13</sup>C-AMS専用装置（NEC Pelletron 9 SDH-2）を使用する。134個の試料が装填できる。測定では、米国国立標準局（NIST）から提供されたシュウ酸（HOx II）を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。また、加速器により<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cの測定も同時に行う。

## 6 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用した。
- (2) BP年代値は、過去において大気中の<sup>13</sup>C濃度が一定であったと仮定して測定された、1950年を基準年として遡る<sup>14</sup>C年代である。
- (3) 付記した誤差は、次のように算出した。  
複数回の測定値について、 $\chi^2$ 検定を行い測定値が1つの母集団とみなせる場合には測定値の統計誤差から求めた値を用い、みなせない場合には標準誤差を用いる。
- (4)  $\delta^{13}\text{C}$ の値は、通常は質量分析計を用いて測定するが、AMS測定の場合に同時に測定される $\delta^{13}\text{C}$ の値を用いることもある。

$\delta^{13}\text{C}$ 補正をしない場合の同位体比および年代値も参考に掲載する。

同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差（‰；パーミル）で表した。

$$\delta^{14}\text{C} = \left[ \frac{(^{14}\text{A}_8 - ^{14}\text{A}_8)}{^{14}\text{A}_8} \right] \times 1000 \quad (1)$$

$$\delta^{13}\text{C} = \left[ \frac{(^{13}\text{A}_8 - ^{13}\text{A}_{\text{PDB}})}{^{13}\text{A}_{\text{PDB}}} \right] \times 1000 \quad (2)$$

ここで、<sup>14</sup>A<sub>8</sub>：試料炭素の<sup>14</sup>C濃度： $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_s$ または $(^{14}\text{C}/^{13}\text{C})_s$

<sup>14</sup>A<sub>8</sub>：標準現代炭素の<sup>14</sup>C濃度： $(^{14}\text{C}/^{12}\text{C})_R$ または $(^{14}\text{C}/^{13}\text{C})_R$

$\delta^{13}\text{C}$ は、質量分析計を用いて試料炭素の<sup>13</sup>C濃度（<sup>13</sup>A<sub>8</sub>=<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>C）を測定し、PDB（白亜紀のベレムナイト（矢石）類の化石）の値を基準として、それからのずれを計算した。但し、加速器により測定中に同時に<sup>13</sup>C/<sup>12</sup>Cを測定し、標準試料の測定値との比較から算出した $\delta^{13}\text{C}$ を用いることもある。この場合には表中に〔加速器〕と注記する。

また、 $\Delta^{14}\text{C}$ は、試料炭素が $\delta^{13}\text{C} = -25.0$  (‰) であるとしたときの $^{14}\text{C}$ 濃度 ( $^{14}\text{A}_R$ ) に換算した上で計算した値である。(1) 式の $^{14}\text{C}$ 濃度を、 $\delta^{13}\text{C}$ の測定値をもとに次式のように換算する。

$$^{14}\text{A}_R = ^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C}/1000))^2 \quad (^{14}\text{A}_S \text{として } ^{14}\text{C}/^{12}\text{C} \text{を使用するとき})$$

または

$$^{14}\text{A}_R = ^{14}\text{A}_S \times (0.975 / (1 + \delta^{13}\text{C}/1000)) \quad (^{14}\text{A}_S \text{として } ^{14}\text{C}/^{13}\text{C} \text{を使用するとき})$$

$$\Delta^{14}\text{C} = [(^{14}\text{A}_R - ^{14}\text{A}_S) / ^{14}\text{A}_S] \times 1000 \text{ (‰)}$$

貝殻などの海洋が炭素起源となっている試料については、海洋中の放射性炭素濃度が大気中の炭素ガス中の濃度と異なるため、同位体補正のみを行った年代値は実際の年代との差が大きくなる。多くの場合、同位体補正をしない $^{14}\text{C}$ に相当するBP年代値が比較的良好でその貝と同一時代のものと考えられる木片や木炭などの年代値と一致する。 $^{14}\text{C}$ 濃度の現代炭素に対する割合のもう一つの表記として、pMC (percent Modern Carbon) がよく使われており、 $\Delta^{14}\text{C}$ との関係は次のようになる。

$$\Delta^{14}\text{C} = (\text{pMC}/100 - 1) \times 1000 \text{ (‰)}$$

$$\text{pMC} = \Delta^{14}\text{C}/10 + 100 \text{ (‰)}$$

国際的な取り決めにより、この $\Delta^{14}\text{C}$ あるいはpMCにより、放射性炭素年代 (Conventional Radiocarbon Age; yrBP) が次のように計算される。

$$T = -8033 \times \ln[(\Delta^{14}\text{C}/1000) + 1]$$

$$= -8033 \times \ln(\text{pMC}/100)$$

(5)  $^{14}\text{C}$ 年代値と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。

(6) 校正年代の計算では、IntCal04データベース (Reimer et al 2004) を使い、OxCal v3.10校正プログラム (Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001) を使用した。

## 7 測定結果

富士黒土層 (FB) の炭化物4点の $^{14}\text{C}$ 年代は、それぞれ4360 $\pm$ 40yrBP (1923 : IAAA-70470)、4560 $\pm$ 40yrBP (1922 : IAAA-70471)、4390 $\pm$ 40yrBP (1949 : IAAA-70472)、4500 $\pm$ 40yrBP (1967 : IAAA-70473) である。暦年校正年代 (1 $\sigma$ =68.2%) は、1923が3015~2915BC、1922が3370~3110BC、1949が3090~2920BC、1967が3340~3100BCに含まれる年代である。全て縄文時代中期前葉から中葉にかけての年代に相当する。化学処理および測定内容に問題は無く、妥当な年代と考えられる。

古木戸A遺跡の富士黒土層 (FB) の炭化物 (1496 : IAAA-70464) の $^{14}\text{C}$ 年代が4790 $\pm$ 40yrBP、古木戸B遺跡の休場厩 (YL) の炭化物 (14 : IAAA-70465) の $^{14}\text{C}$ 年代が7020 $\pm$ 40yrBP、(19 : IAAA-70466) の $^{14}\text{C}$ 年代が5150 $\pm$ 40yrBP、(23 : IAAA-70467) の $^{14}\text{C}$ 年代が5040 $\pm$ 40yrBP、(177 : IAAA-70469) の $^{14}\text{C}$ 年代が5160 $\pm$ 40yrBP、第1黒色帯 (BB1) の隠群6 (RG06) に伴う炭化物 (339 : IAAA-70468) の $^{14}\text{C}$ 年代が23120 $\pm$ 110yrBPである。暦年校正年代 (1 $\sigma$ =68.2%) は、1496が3640~3520BC、14が5990~5840BC、19が4040~3820BC、23が3950~3770BC、339が21280~21050BC、177が4040~3945BCに含まれる年代である。

## 参考文献

Stuiver M. and Polash H.A. 1977 Discussion: Reporting of 14C data, *Radiocarbon* 19, 355-363

Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430

Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), 355-363

Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389

Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1053

第1表 参考資料：天ヶ沢東遺跡 暦年校正年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)		
IAAA-70470	1923	4355	±	36
IAAA-70471	1922	4555	±	58
IAAA-70472	1949	4386	±	38
IAAA-70473	1967	4496	±	39

ここに記載するLibby Age (年代値) と誤差は下1桁を丸めない値

第2表 参考資料：古木戸A・B遺跡 暦年校正年代

IAA Code No.	試料番号	Libby Age (yrBP)		
IAAA-70464	1496	4789	±	39
IAAA-70465	14	7020	±	38
IAAA-70466	19	5154	±	41
IAAA-70467	23	5056	±	39
IAAA-70468	339	23120	±	112
IAAA-70469	177	5158	±	37

ここに記載するLibby Age (年代値) と誤差は下1桁を丸めない値

第3表 参考資料：古木戸A・B遺跡 隔年較正用年代

IAA Code No.	試料	隔年較正および炭素の同位体比
IAAA-70470	試料採取場所：静岡県富士市神谷字天ノ沢	Libby Age (yrBP) : 4,590 ± 40
	天ノ沢東遺跡（二葉名富士No. 44地点）	$\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加減器) : -26.41 ± 0.63
	試料形態：炭化物	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) : -418.8 ± 2.7
	試料名(番号)：1923	pMC (%) : 58.18 ± 0.27
#1787-1	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) : -420.6 ± 2.6
		pMC (%) : 57.95 ± 0.26
		Age (yrBP) : 4,580 ± 40
IAAA-70471	試料採取場所：静岡県富士市神谷字天ノ沢	Libby Age (yrBP) : 4,560 ± 40
	天ノ沢東遺跡（二葉名富士No. 44地点）	$\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加減器) : -28.66 ± 0.61
	試料形態：炭化物	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) : -452.8 ± 2.7
	試料名(番号)：1922	pMC (%) : 56.72 ± 0.27
#1787-2	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) : -437.1 ± 2.7
		pMC (%) : 56.28 ± 0.27
		Age (yrBP) : 4,620 ± 40
IAAA-70472	試料採取場所：静岡県富士市神谷字天ノ沢	Libby Age (yrBP) : 4,590 ± 40
	天ノ沢東遺跡（二葉名富士No. 44地点）	$\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加減器) : -25.35 ± 0.67
	試料形態：炭化物	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) : -430.8 ± 2.8
	試料名(番号)：1949	pMC (%) : 57.92 ± 0.28
#1787-3	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) : -430.3 ± 2.7
		pMC (%) : 57.92 ± 0.27
		Age (yrBP) : 4,590 ± 40
IAAA-70473	試料採取場所：静岡県富士市神谷字天ノ沢	Libby Age (yrBP) : 4,500 ± 40
	天ノ沢東遺跡（二葉名富士No. 44地点）	$\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加減器) : -23.02 ± 0.64
	試料形態：炭化物	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) : -428.6 ± 2.8
	試料名(番号)：1967	pMC (%) : 57.14 ± 0.28
#1787-4	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) : -428.3 ± 2.8
		pMC (%) : 57.37 ± 0.28
		Age (yrBP) : 4,480 ± 40

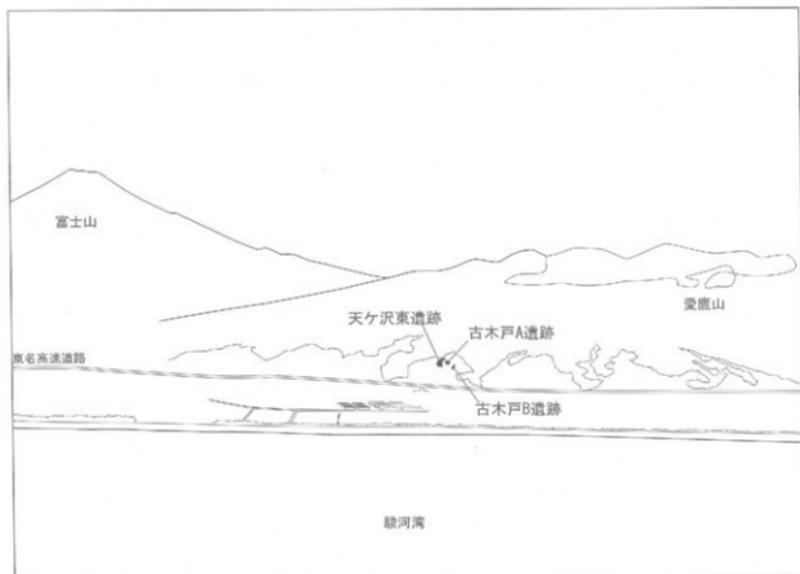
第4表 古木戸A・B遺跡の放射性炭素年代測定結果

IAA Code No.	試料	隔年較正および炭素の同位体比
IAAA-70464	試料採取場所：静岡県沼津市堀川字古木戸	Libby Age (yrBP) : 4,790 ± 40
	古木戸B遺跡（二葉名富士No. 44地点）	$\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加減器) : -22.19 ± 0.57
	試料形態：炭化物	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) : -449.1 ± 2.7
	試料名(番号)：1196	pMC (%) : 56.09 ± 0.27
#1786-1	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) : -466 ± 2.6
		pMC (%) : 55.4 ± 0.26
		Age (yrBP) : 4,740 ± 40
IAAA-70465	試料採取場所：静岡県富士市堀川字古木戸	Libby Age (yrBP) : 7,020 ± 40
	古木戸B遺跡（二葉名富士No. 44地点）	$\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加減器) : -23.28 ± 0.51
	試料形態：炭化物	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) : -482.7 ± 2.1
	試料名(番号)：14	pMC (%) : 41.73 ± 0.21
#1786-2	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) : -481.2 ± 2
		pMC (%) : 41.86 ± 0.2
		Age (yrBP) : 4,990 ± 40
IAAA-70466	試料採取場所：静岡県沼津市堀川字古木戸	Libby Age (yrBP) : 5,150 ± 40
	古木戸B遺跡（二葉名富士No. 44地点）	$\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加減器) : -95.25 ± 0.88
	試料形態：炭化物	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) : -474.6 ± 2.7
	試料名(番号)：19	pMC (%) : 52.64 ± 0.27
#1786-3	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) : -473.9 ± 2.7
		pMC (%) : 52.61 ± 0.27
		Age (yrBP) : 5,140 ± 40
IAAA-70467	試料採取場所：静岡県沼津市堀川字古木戸	Libby Age (yrBP) : 5,040 ± 40
	古木戸B遺跡（二葉名富士No. 44地点）	$\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加減器) : -26.14 ± 0.63
	試料形態：炭化物	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) : -465.8 ± 2.6
	試料名(番号)：23	pMC (%) : 53.42 ± 0.26
#1786-4	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) : -467.1 ± 2.6
		pMC (%) : 53.28 ± 0.26
		Age (yrBP) : 5,050 ± 40
IAAA-70468	試料採取場所：静岡県富士市堀川字古木戸	Libby Age (yrBP) : 23,120 ± 119
	古木戸B遺跡（二葉名富士No. 44地点）	$\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加減器) : -22.52 ± 0.45
	試料形態：炭化物	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) : -943.8 ± 6.8
	試料名(番号)：309	pMC (%) : 5.62 ± 0.08
#1786-5	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) : -943.5 ± 6.8
		pMC (%) : 5.65 ± 0.08
		Age (yrBP) : 23,090 ± 116
IAAA-70469	試料採取場所：静岡県富士市堀川字古木戸	Libby Age (yrBP) : 5,160 ± 40
	古木戸B遺跡（二葉名富士No. 44地点）	$\delta^{13}\text{C}$ (‰), (加減器) : -26.11 ± 0.63
	試料形態：炭化物	$\Delta^{13}\text{C}$ (‰) : -473.9 ± 2.5
	試料名(番号)：177	pMC (%) : 52.61 ± 0.26
#1786-6	(参考) $\delta^{13}\text{C}$ の補正無し	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) : -478.1 ± 2.4
		pMC (%) : 52.46 ± 0.24
		Age (yrBP) : 5,180 ± 40

# 写 真 图 版



遺跡遠景（南海上から）

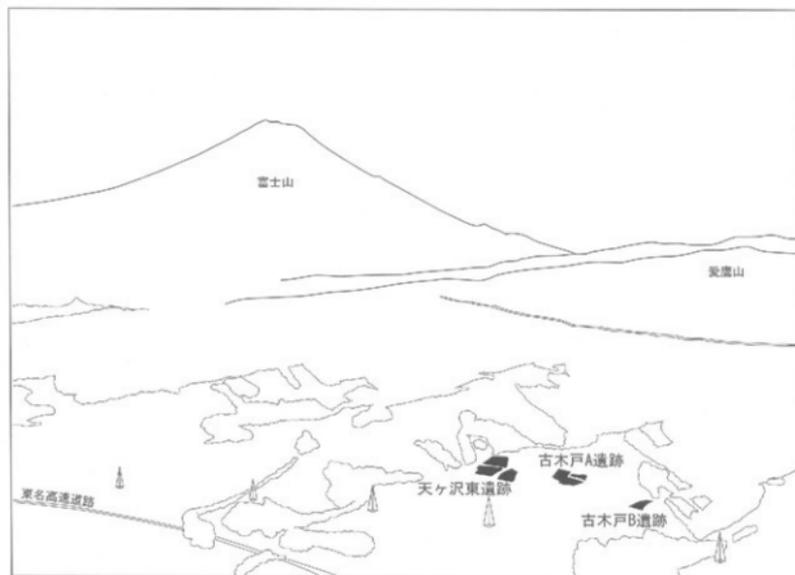


遺跡遠景模式図（南海上から）

図版 2



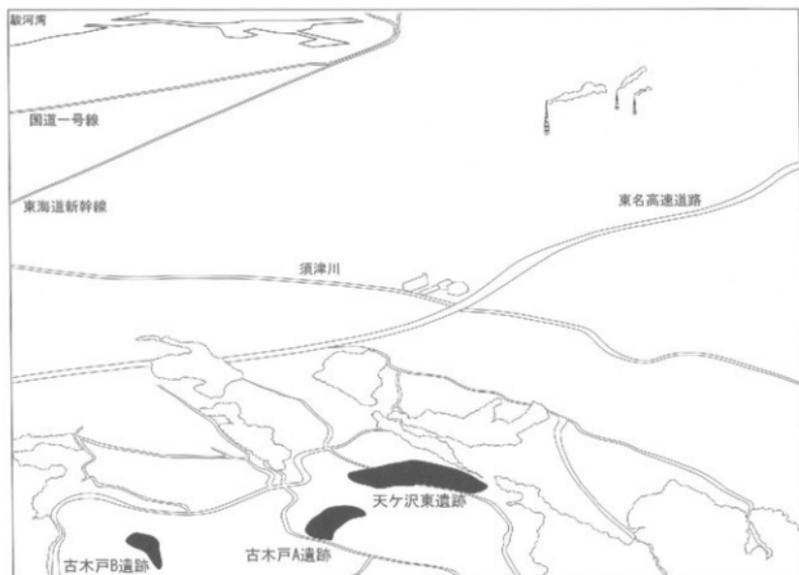
遺跡遠景 (南東から)



遺跡遠景模式図 (南東から)



遺跡遠景（北東から）



遺跡遠景模式図（北東から）

図版 4



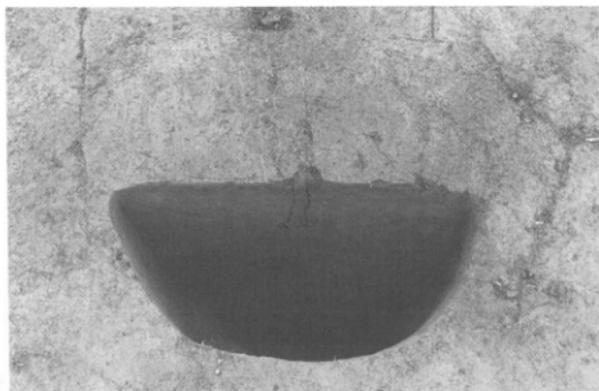
天ヶ沢東遺跡 調査区全景 (1・3区)



天ヶ沢東遺跡 調査区全景 (2・4区)



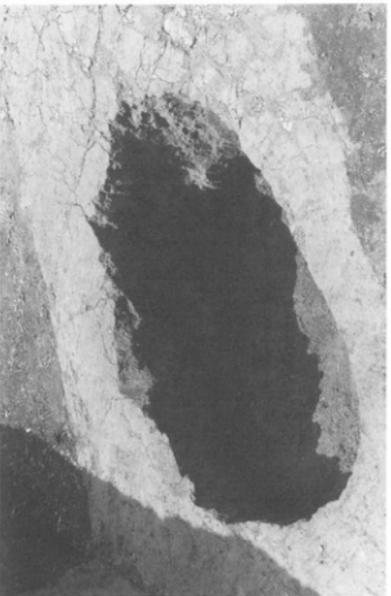
天ヶ沢東遺跡  
SX101完掘状況 (南から)



天ヶ沢東遺跡  
SX201半掘状況 (西から)



天ヶ沢東遺跡  
SX201完掘状況 (東から)



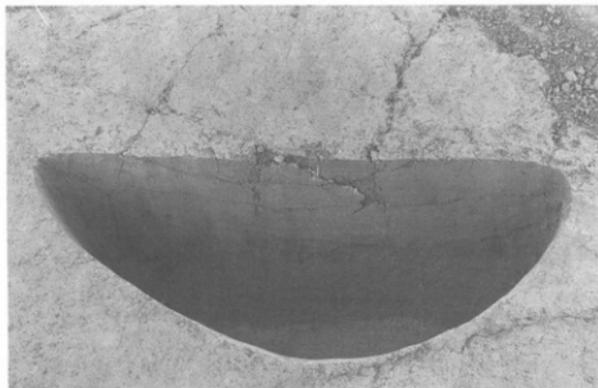
天ヶ沢車道跡  
SX311掘削状況 (西から)



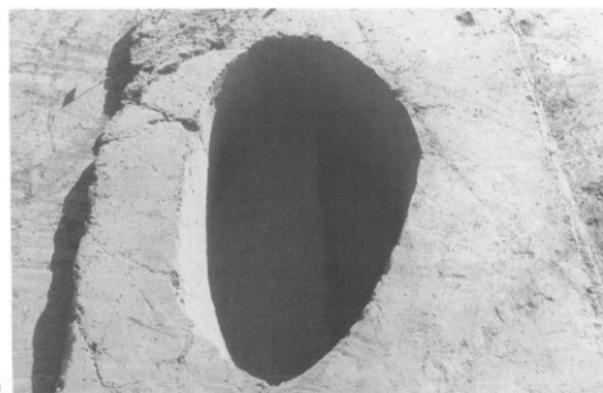
天ヶ沢車道跡  
SX405半截状況 (南から)



天ヶ沢車道跡  
SX405半截状況 (南西から)



天ヶ沢東遺跡  
SX408半截状況 (南から)



天ヶ沢東遺跡  
SX408完掘状況 (西から)



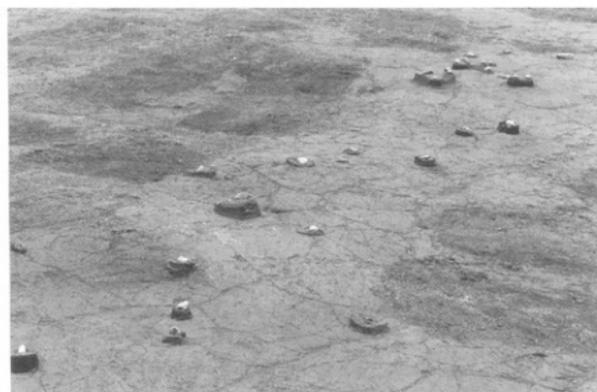
天ヶ沢東遺跡  
SX412半截状況 (南から)

図版 8

天ヶ沢東遺跡  
SX412完掘状況（西から）



天ヶ沢東遺跡  
3区竪出土状況（西から）

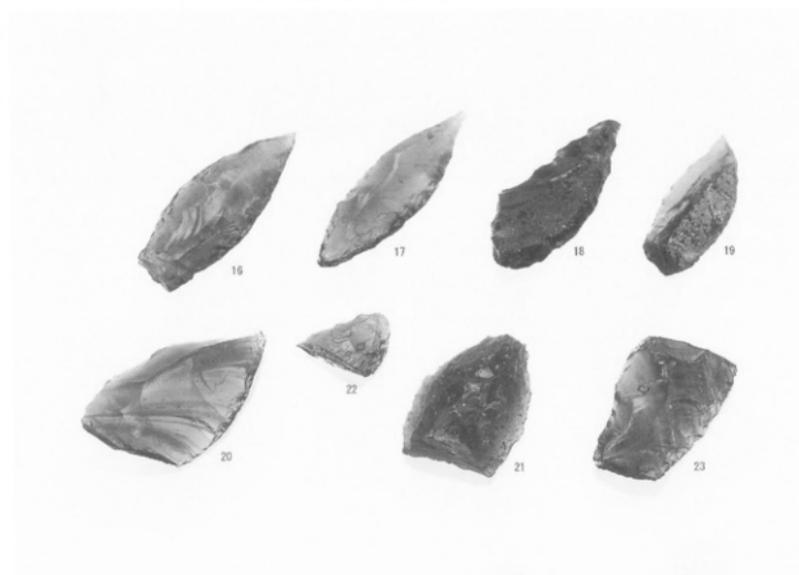


天ヶ沢東遺跡  
4区竪出土状況（東から）





天ヶ沢東遺跡 旧石器 1 (ナイフ形石器)



天ヶ沢東遺跡 旧石器 2 (尖頭器)

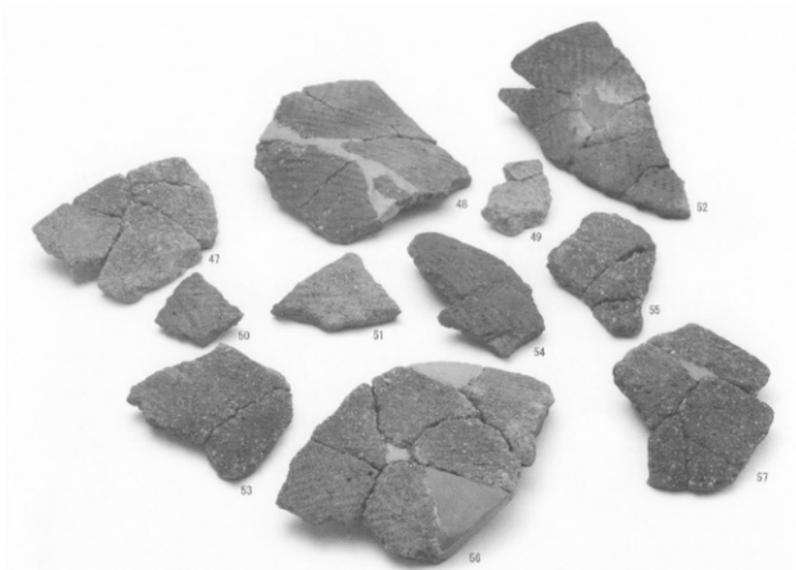
図版10



天ヶ沢東遺跡 旧石器3 (細石刃 細石核)



天ヶ沢東遺跡 縄文土器1 (第I群A類 押型文)



天ヶ沢東遺跡 縄文土器2 (第I群C類 縄文土器)



天ヶ沢東遺跡 縄文土器3 (第I群D類 田戸下層式土器、第II群B類 清水柳E類土器)



天ヶ沢東遺跡 縄文土器4 (第Ⅱ群B類 清水柳E類土器)



天ヶ沢東遺跡 縄文土器5 (第Ⅱ群C・D類 無文・条痕文土器 縄文土器)



天ヶ沢東遺跡 縄文土器6 (第Ⅱ群C類 無文・条痕文土器)



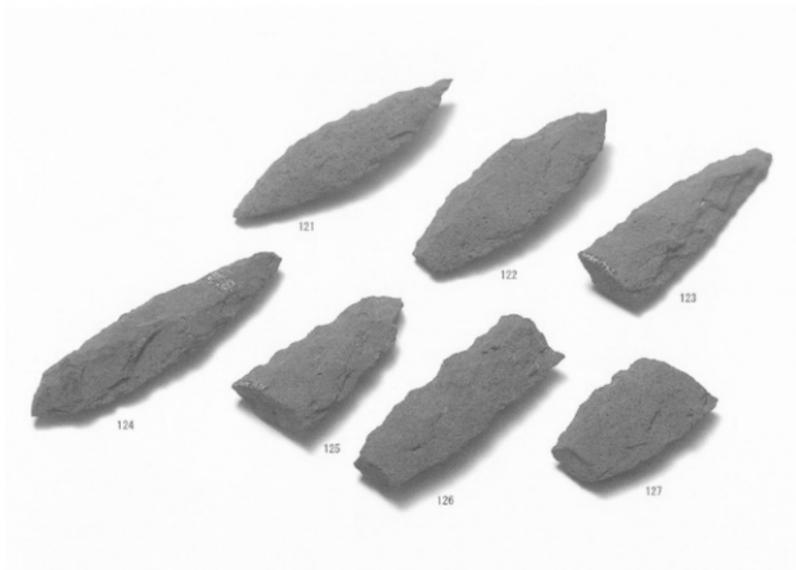
天ヶ沢東遺跡 縄文土器7 (第Ⅲ群B類 清水ノ上Ⅱ式に類似したもの)

図版14

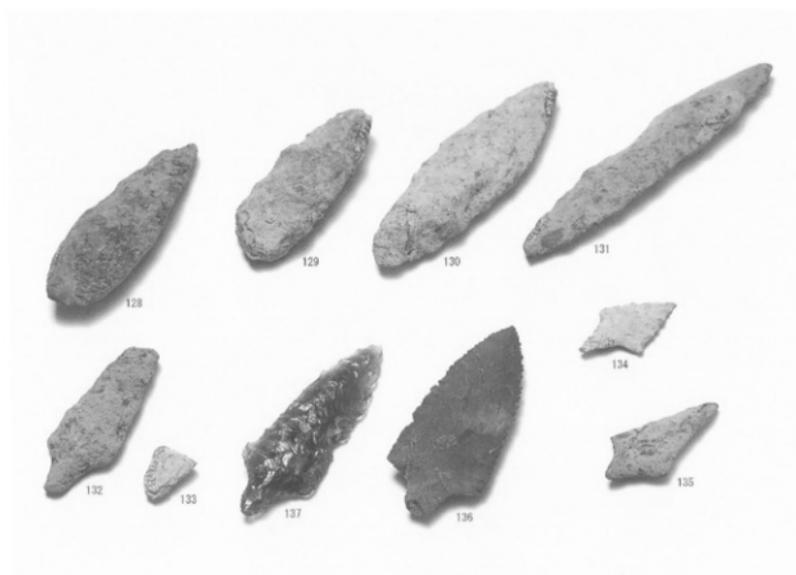


天ヶ沢東遺跡 縄文土器8

(第Ⅲ群A・C類 踏碓式 北白川下層式 第Ⅳ群A-C・E類 沈線文 五領ケ台式 加曾利E3式 その他土器)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器1 (尖頭器1)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器2 (尖頭器2)



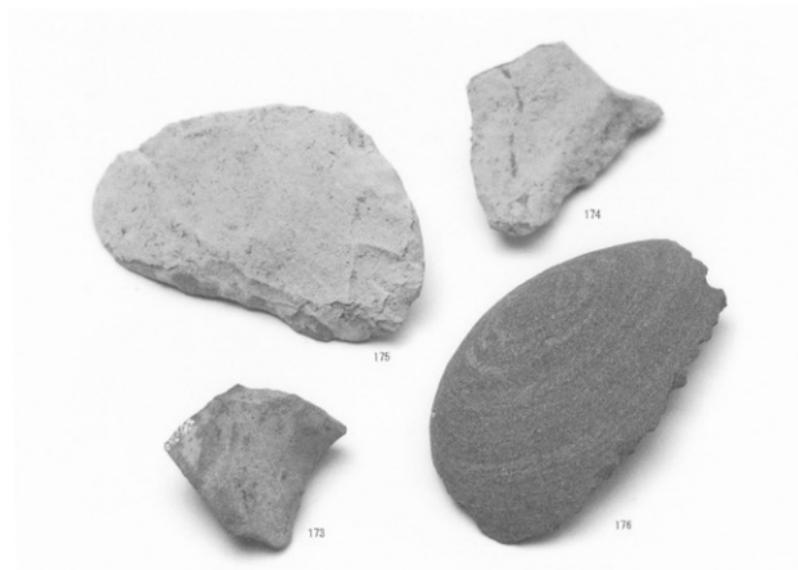
天ヶ沢東遺跡 縄文石器3 (石鏃1)



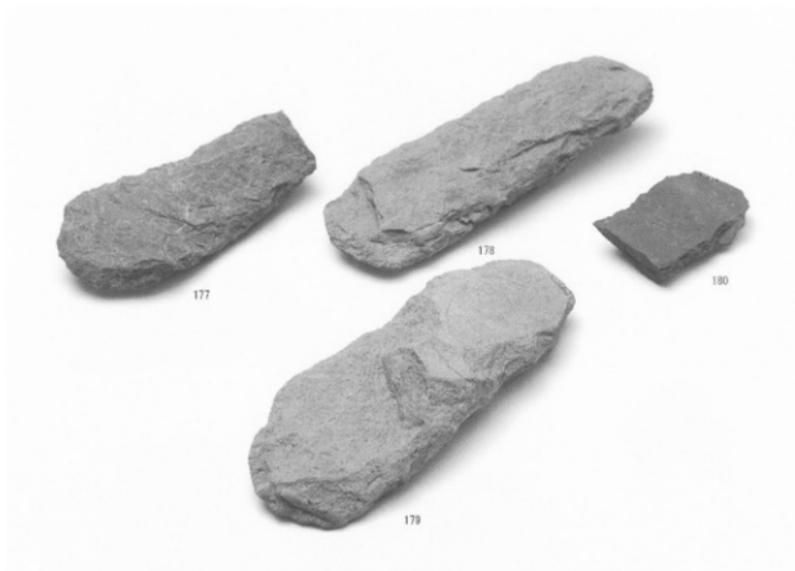
天ヶ沢東遺跡 縄文石器4 (石鏃2)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器5 (エンドスクレイパー 石匙 楔形石器)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器6 (ノッチドスクレイパー サイドスクレイパー)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器7 (打製石斧1)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器8 (打製石斧2)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器9 (打製石斧3)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器10 (打製石斧4)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器11 (打製石斧5)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器12 (打製石斧接合資料)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器13 (雑器)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器14 (石核)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器15 (敲石)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器16 (磨敲石)



天ヶ沢東遺跡 縄文石器17 (石皿)

図版24

古木戸A遺跡  
調査区全景（東から）



古木戸A遺跡  
1区西旧石器調査完掘状況  
（南西から）



古木戸A遺跡  
1区東旧石器調査完掘状況  
（北西から）



古木戸A遺跡  
2区旧石器調査完掘状況  
(東から)



古木戸A遺跡  
1区西縄文面完掘状況  
(南東から)



古木戸A遺跡  
1区東縄文面完掘状況  
(西から)



図版26



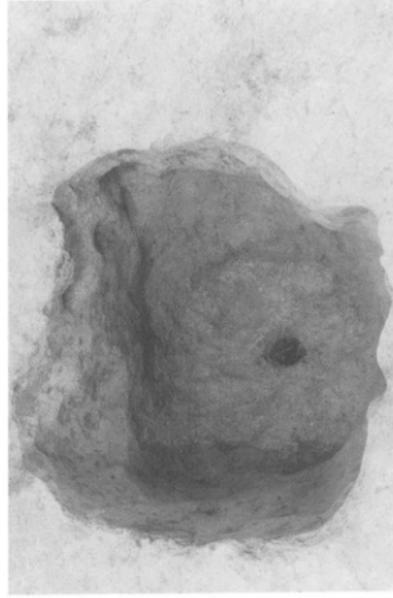
古木戸A遺跡  
SF001完掘状況（南から）



古木戸A遺跡  
SF001たち割り状況  
（東から）



古木戸A遺跡  
SF001発出状況（南から）



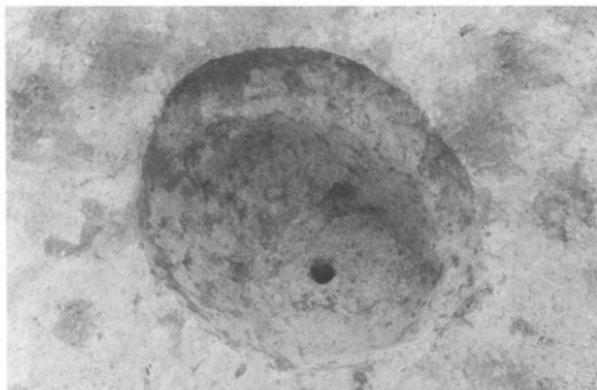
古木戸A遺跡  
SF002発掘状況（南東から）



古木戸A遺跡  
SF002たち割り状況  
（南から）

図版28

古木戸A遺跡  
SF003完掘状況（南西から）



古木戸A遺跡  
SF003半載状況（南西から）



古木戸A遺跡  
SX001完掘状況（南から）





古木戸A遺跡  
SX001半截状況（南から）

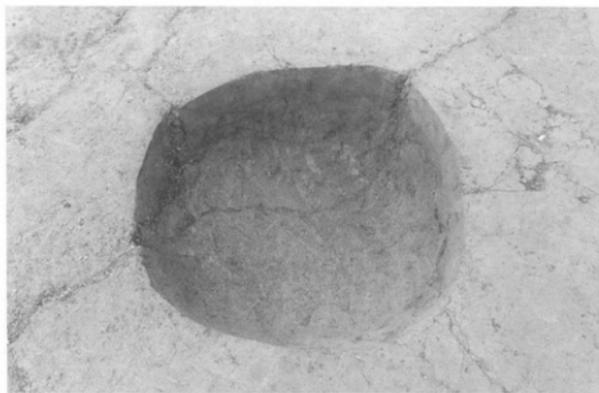


古木戸A遺跡  
SX001たち割り状況  
（南から）



古木戸A遺跡  
SX001検出状況（南から）

図版30



古木戸A遺跡  
SX002完掘状況（南から）



古木戸A遺跡  
SX002半截状況（南から）



古木戸A遺跡  
SX004完掘状況（南東から）

古木戸A遺跡  
SX004半截状況（東から）



古木戸A遺跡  
SX004たち割り状況  
（東から）



古木戸A遺跡  
RG001検出状況（南から）



図版32



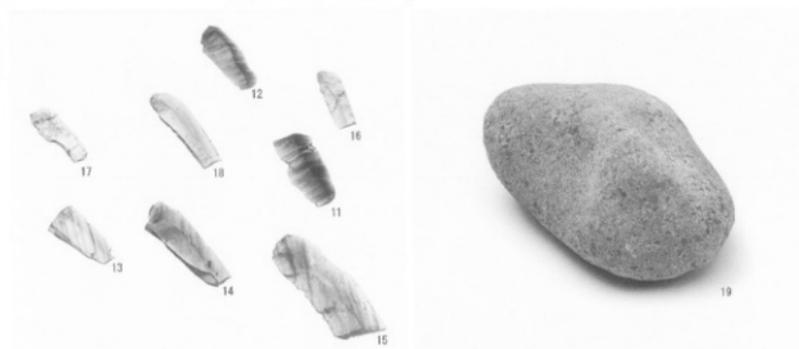
古木戸A遺跡  
土器集中検出状況（西から）



古木戸A遺跡  
TP40東壁土層堆積状況  
（西から） KU-SCⅢb2



古木戸A遺跡 旧石器1 (ナイフ形石器 尖頭器)



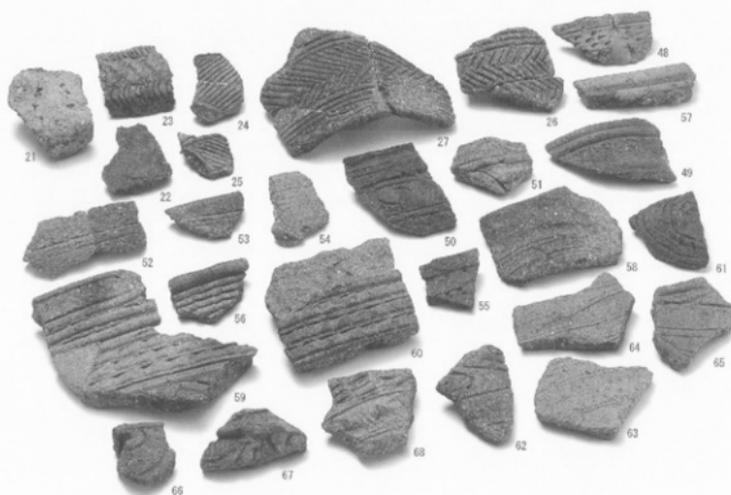
古木戸A遺跡 旧石器2 (細石刃)

古木戸A遺跡 旧石器3 (敲石)



20

古木戸A遺跡 縄文土器1 (第Ⅱ群A類 子母口式)



古木戸A遺跡 縄文土器2 (第Ⅳ群B類 五領ヶ台式)



古木戸A遺跡 縄文土器3 (第IV群B類 五領ヶ台式)



古木戸A遺跡 縄文土器4 (第IV群B類 五領ヶ台式)



古木戸A遺跡 縄文土器5 (第IV群B類 五領ヶ台式)



古木戸A遺跡 縄文土器6 (第IV群B類 五領ヶ台式)



古木戸A遺跡 縄文土器7 (第IV群B類 五領ヶ台式)



古木戸A遺跡 縄文土器8 (第IV群B類 五領ヶ台式)



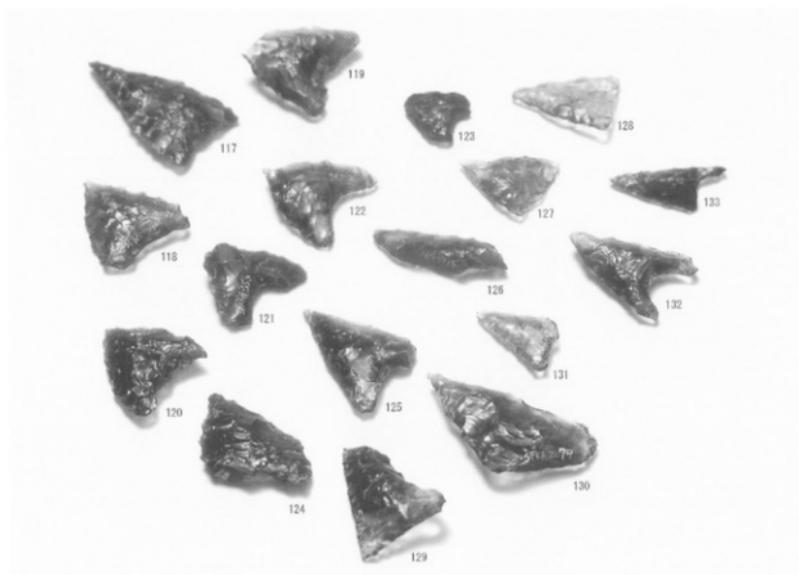
古木戸A遺跡 縄文土器9 (第IV群B類 五領ヶ台式)



古木戸A遺跡 縄文土器10 (第IV群D類 北浦C式)



古木戸A遺跡 縄文石器1 (尖頭器)



古木戸A遺跡 縄文石器2 (石鏃)

図版40



古木戸A遺跡 縄文石器3 (石鏃 三脚石器 石匙末製品)



古木戸A遺跡 縄文石器4 (スクレイパー)



古木戸A遺跡 縄文石器5 (楔形石器 石核)

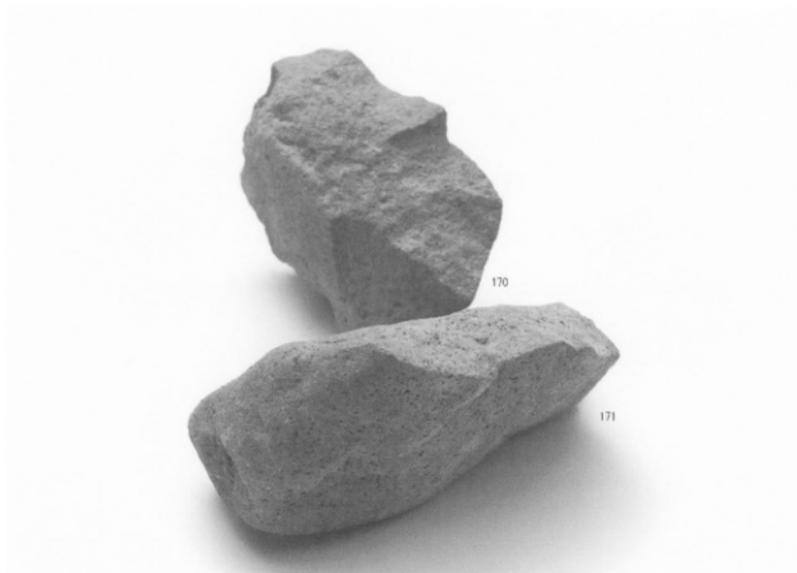


古木戸A遺跡 縄文石器6 (石核)

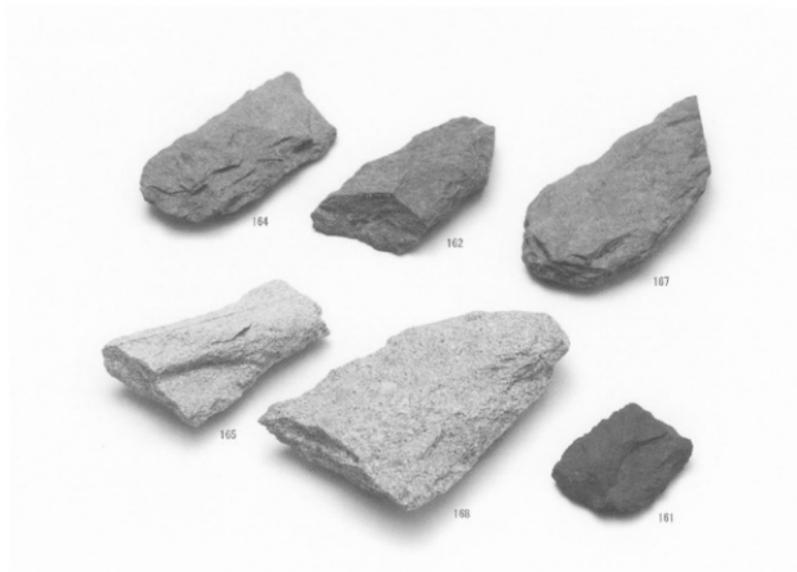


古木戸A遺跡 縄文石器7 (石錘)

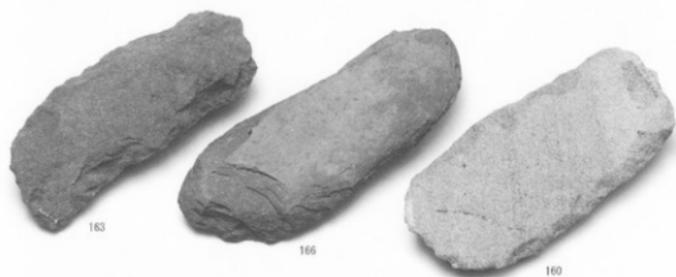
図版42



古木戸A遺跡 縄文石器8 (礫器)



古木戸A遺跡 縄文石器9 (打製石斧1)



古木戸A遺跡 縄文石器10（打製石斧2）



古木戸A遺跡 縄文石器11（磨蝕石類1）



古木戸A遺跡 縄文石器12 (磨敲石頭2)



古木戸A遺跡 縄文石器13 (有溝砥石)



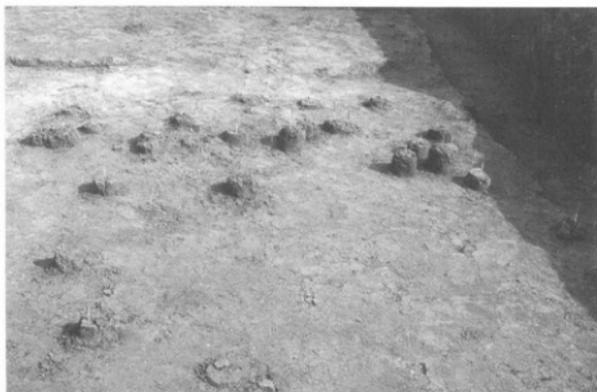
古木戸B遺跡 調査区全景（北から）



古木戸B遺跡 調査区全景（南から）

図版46

古木戸B遺跡  
SCⅢS2石器検出状況  
(南から)



古木戸B遺跡  
BBⅢ石器検出状況 (南から)



古木戸B遺跡  
NL層上面完掘状況 (西から)





古木戸B遺跡  
裸群RG006検出状況  
(東から)



古木戸B遺跡  
石器ブロック2検出状況  
(北から)



古木戸B遺跡 TP2  
西壁土層堆積状況 (東から)  
中部ローム~BB0



古木戸B遺跡  
検出RG001検出状況  
(南から)



古木戸B遺跡  
検出RG005検出状況  
(南から)



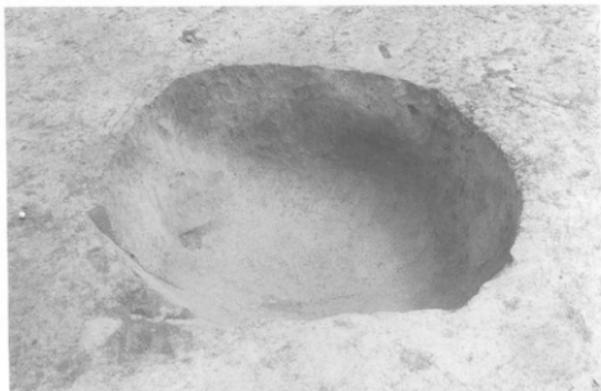
古木戸B遺跡  
検出RG002検出状況  
(南から)



古木戸B遺跡  
襪群RG004検出状況  
(南から)

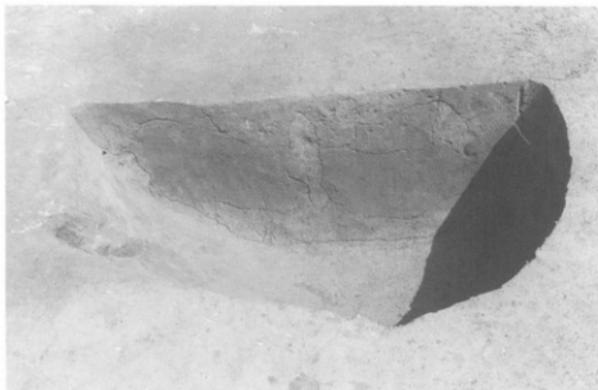


古木戸B遺跡  
TP3西壁土層堆積状況  
(表土～休場層)



古木戸B遺跡  
SX001完掘状況 (南から)

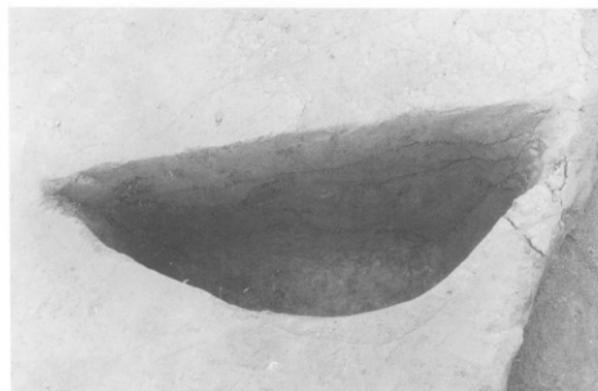
図版50



古木戸B遺跡  
SX001半截状況（南から）



古木戸B遺跡  
SX002完掘状況（東から）



古木戸B遺跡  
SX002半截状況（東から）

古木戸B遺跡  
SX003半截状況（南から）



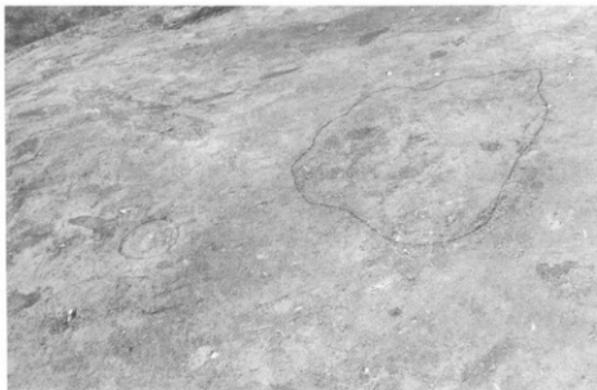
古木戸B遺跡  
SX004完掘状況（南から）



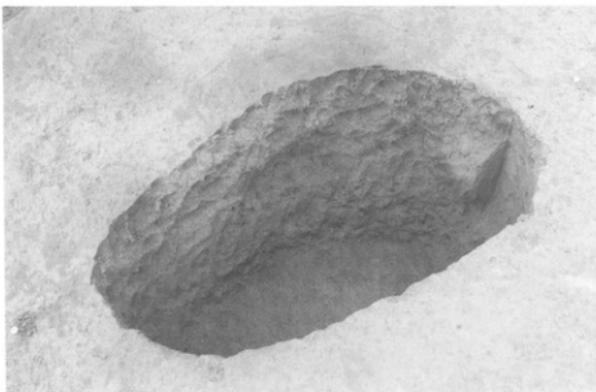
古木戸B遺跡  
SX004半截状況（北から）



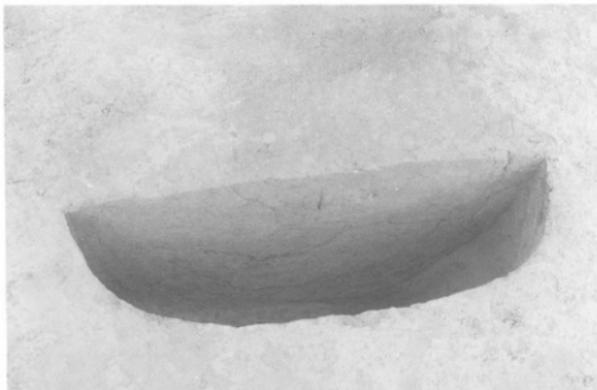
図版52



古木戸B遺跡  
SX004検出状況（西から）



古木戸B遺跡  
SX005完掘状況（南から）

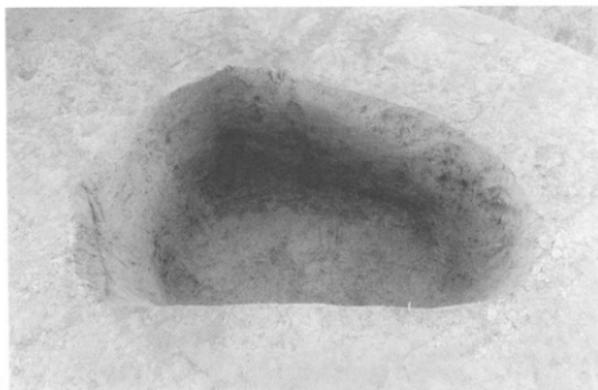


古木戸B遺跡  
SX005半截状況（南から）

古木戸B遺跡  
SX005検出状況（南から）



古木戸B遺跡  
SX006完掘状況（南から）



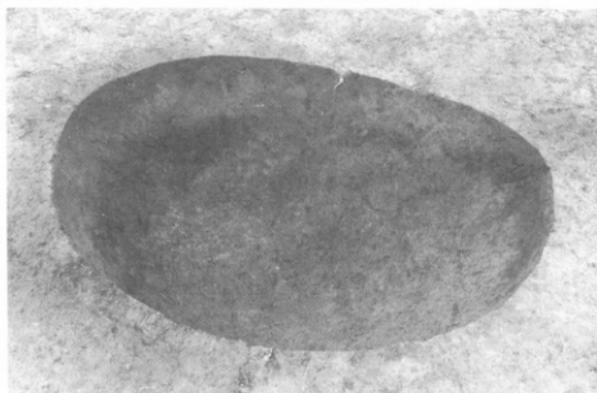
古木戸B遺跡  
SX006半截状況（南から）



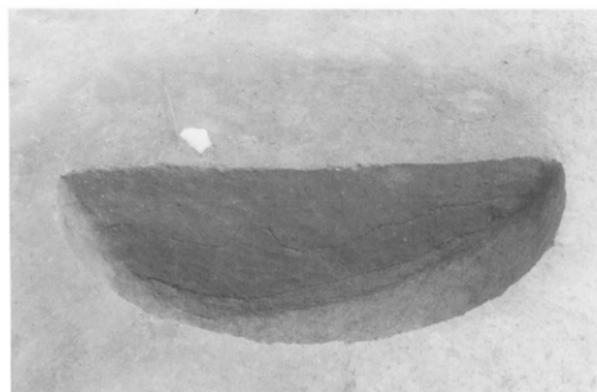
図版54



古木戸B遺跡  
SX006検出状況（南から）



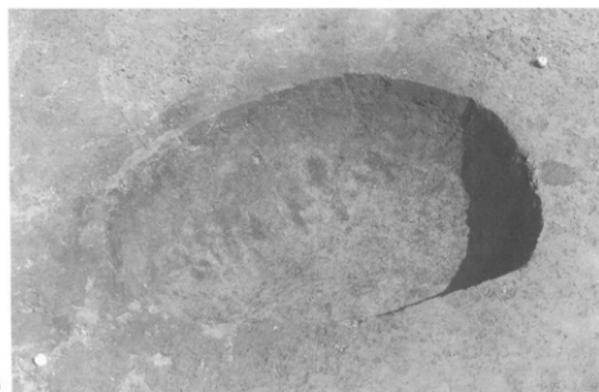
古木戸B遺跡  
SX007完掘状況（西から）



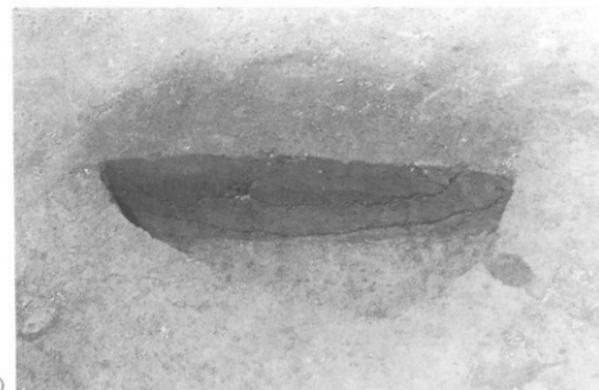
古木戸B遺跡  
SX007半截状況（西から）



古木戸B遺跡  
SX007検出状況（西から）



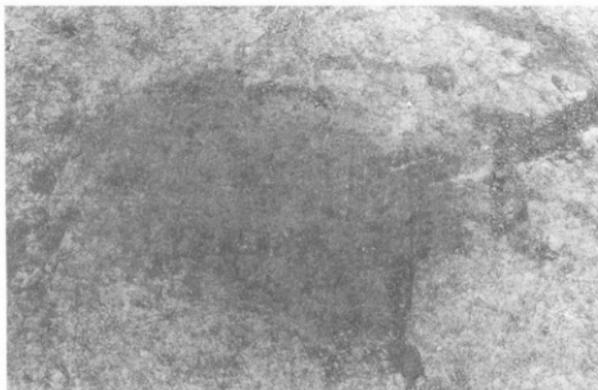
古木戸B遺跡  
SX008完掘状況（西から）



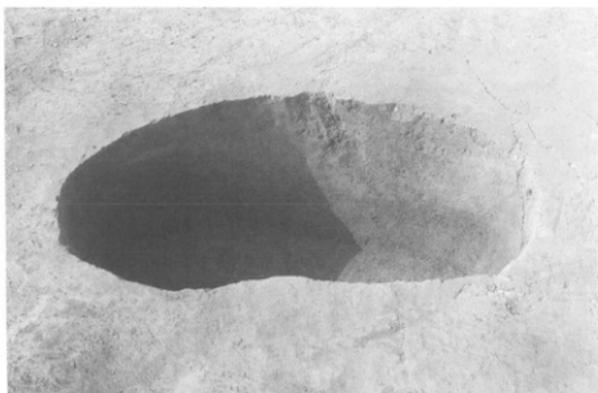
古木戸B遺跡  
SX008半截状況（南から）

図版56

古木戸B遺跡  
SX008検出状況（南から）

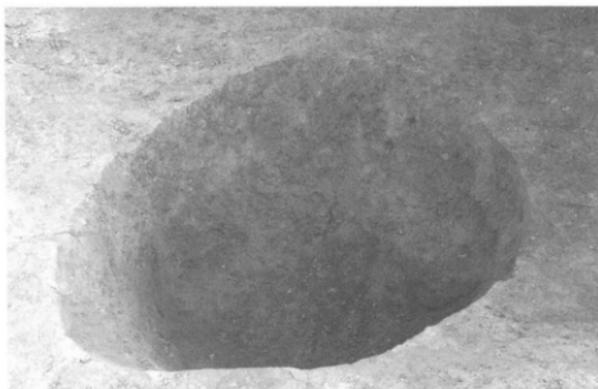


古木戸B遺跡  
SX009完掘状況（南から）



古木戸B遺跡  
SX009半截状況（南から）





古木戸B遺跡  
SX010完掘状況（西から）

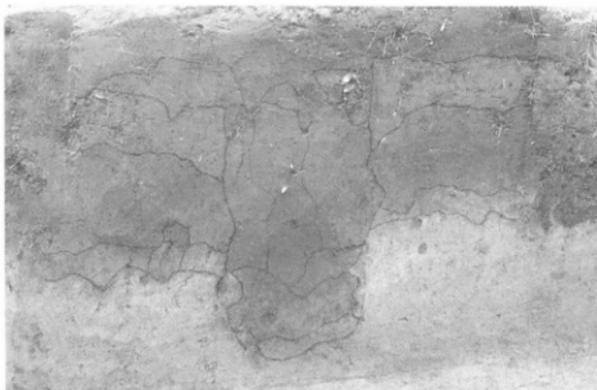


古木戸B遺跡  
SX010半截状況（西から）



古木戸B遺跡  
SX011完掘状況（東から）

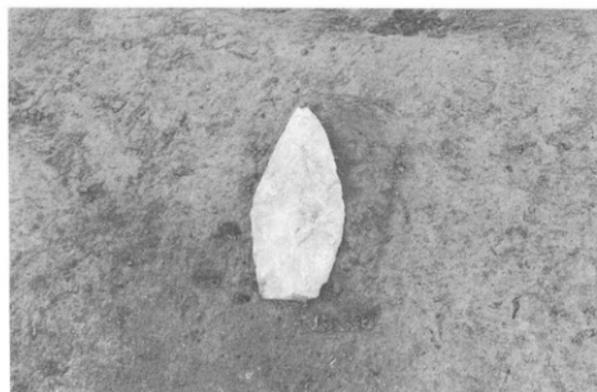
図版58



古木戸B遺跡  
SX011検出状況（東から）



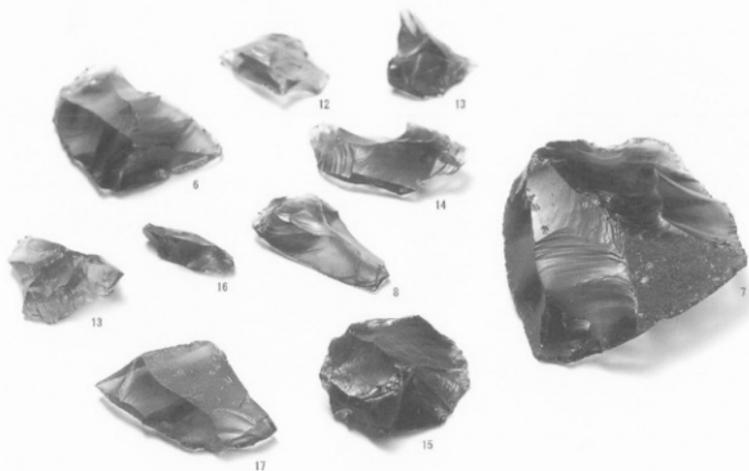
古木戸B遺跡  
HS001検出状況（南から）



古木戸B遺跡  
尖頭器出土状況



古木戸B遺跡 旧石器1 SCⅢ～BBⅢ層 (ナイフ形石器 スクレイパー)



古木戸B遺跡 旧石器2 SCⅢ～BBⅢ層 (二次加工剥片)

図版60



古木戸B遺跡 旧石器3 SCⅢ～BBⅢ層 (使用痕がある剥片)



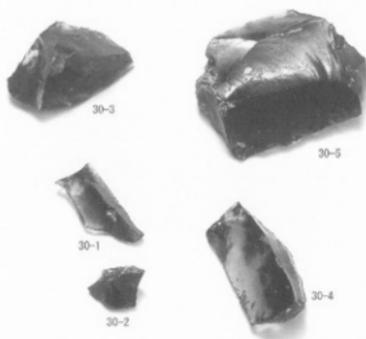
古木戸B遺跡 旧石器4 SCⅢ～BBⅢ層 (石核)



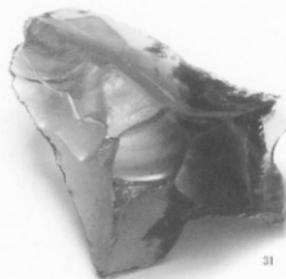
古木戸B遺跡 旧石器5 SCⅢ～BBⅢ層 (敲石)



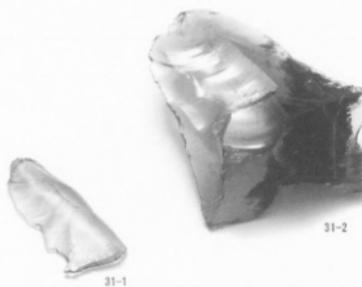
古木戸B遺跡 旧石器6 SCⅢ～BBⅢ層  
(接合資料 接合状況)



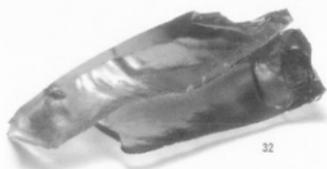
古木戸B遺跡 旧石器7 SCⅢ～BBⅢ層  
(接合資料 分離状況)



古木戸B遺跡 旧石器10 BBⅢ層  
(接合資料 接合状況)



古木戸B遺跡 旧石器11 BBⅢ層  
(接合資料 分離状況)



古木戸B遺跡 旧石器8 BBⅢ層  
(接合資料 接合状況)



古木戸B遺跡 旧石器9 BBⅢ層  
(接合資料 分離状況)



古木戸B遺跡 旧石器12 SCⅢ層  
(接合資料 接合状況)



古木戸B遺跡 旧石器13 SCⅢ層  
(接合資料 分離状況)



古木戸B遺跡 旧石器14 第I黒色帯 (剥片 石核)



古木戸B遺跡 旧石器15 NL層 (二次加工剥片)



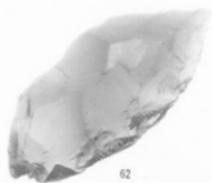
古木戸B遺跡 旧石器16 BB0 (二次加工剥片)



古木戸B遺跡 旧石器17 休場層 (ナイフ形石器1)



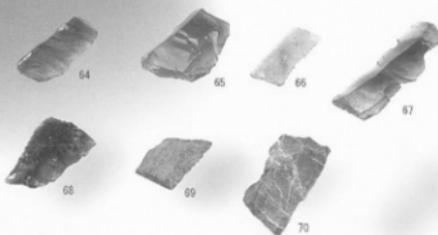
古木戸B遺跡 旧石器18 休場層 (ナイフ形石器2)



古木戸B遺跡 旧石器19 休場層 (尖頭器)



古木戸B遺跡 旧石器20 休場層 (稜付石刃)



古木戸B遺跡 旧石器21 休場層 (細石刃 細石核)



古木戸B遺跡 旧石器22 休場層 (石核)



古木戸B遺跡 旧石器23 休場層  
(接合資料 接合状況)



古木戸B遺跡 旧石器24 休場層  
(接合資料 分離状況)



古木戸B遺跡 旧石器25 休場層  
(接合資料 接合状況)

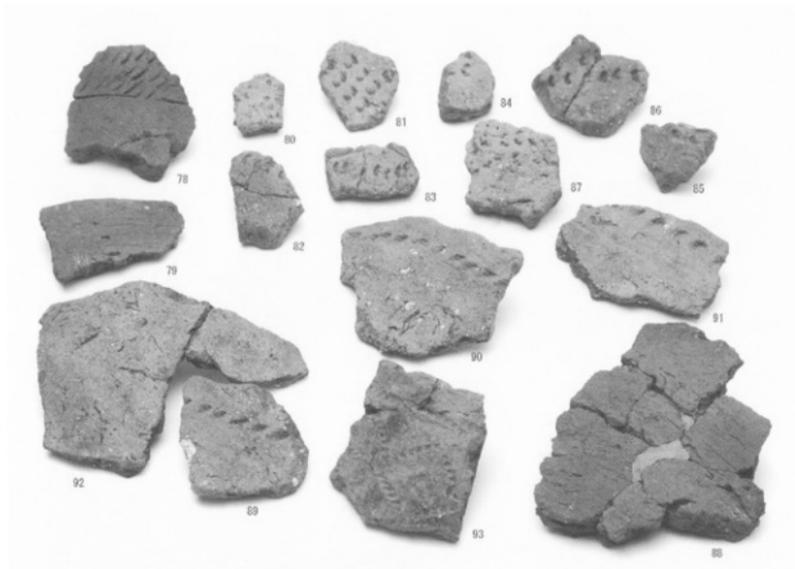


古木戸B遺跡 旧石器26 休場層  
(接合資料 分離状況)

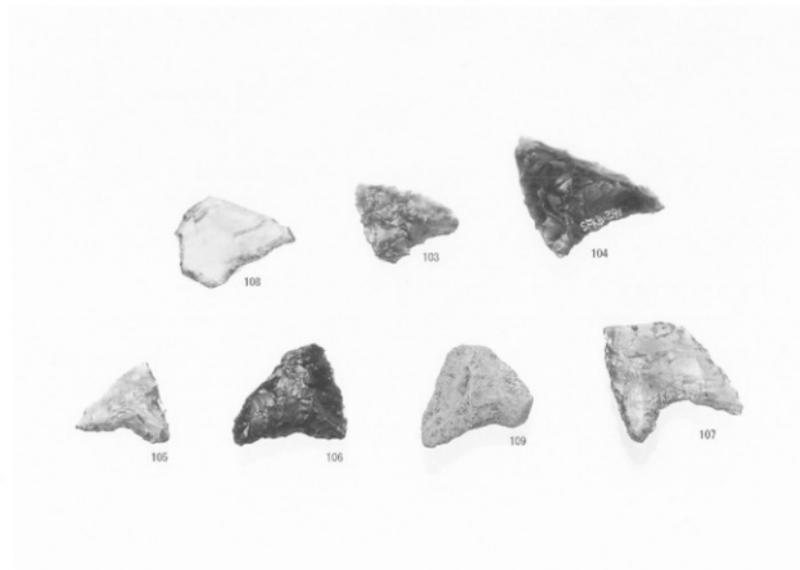


古木戸B遺跡 縄文石器1 (尖頭器)

図版68



古木戸B遺跡 縄文土器（第Ⅱ群A・C・E・F類 子母口式 条痕文無文 粕畑式 打越式土器）



古木戸B遺跡 縄文石器2（石楯）



古木戸B遺跡 縄文石器3 (スクレイパー)



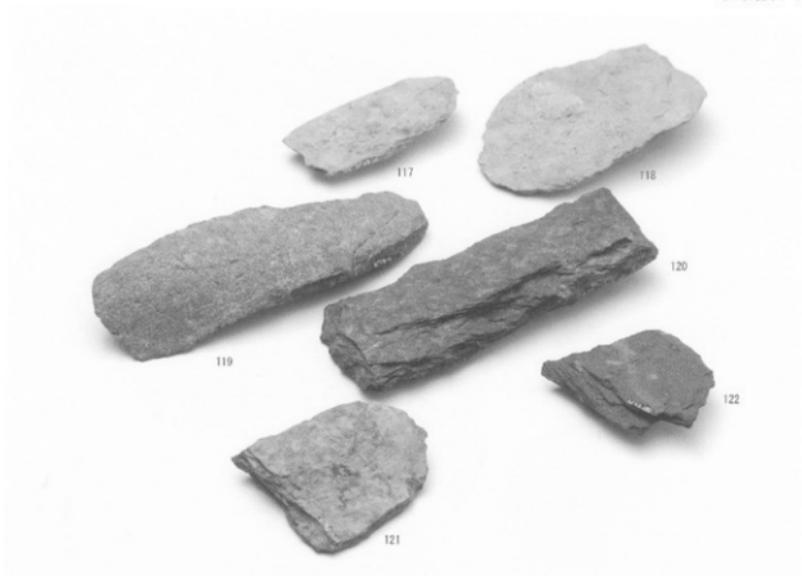
古木戸B遺跡 縄文石器4 (磨敲石)



古木戸B遺跡 縄文石器5 (石核1)



古木戸B遺跡 縄文石器6 (石核2)



古木戸B遺跡 縄文石器7 (打製石斧1)



古木戸B遺跡 縄文石器8 (打製石斧2)



確認調査 縄文土器



確認調査 旧石器・縄文石器

# 報告書抄録

ふりがな	あまんらむびがしいせき ふるきどえーいせき ふるきどびーいせき									
審 名	天ヶ沢東遺跡 古木戸A遺跡 古木戸B遺跡 (第二東名36.44地点)									
副 名	第二東名建設事業に伴う縄文文化財発掘調査報告書									
発 次	富士市-2									
シリーズ名	静岡県縄文文化財調査研究所調査報告									
シリーズ番号	第223集									
編 著 者 名	岩本貴									
編 集 機 関	財団法人静岡県縄文文化財調査研究所									
所 在 地	〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23番20号 TEL054-262-4261(代)									
発 行 年 月 日	西暦2010年8月31日									
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード				調査期間	調査 面積	調査原因		
		市町	遺跡 番号	緯経度					旧日本測地系	
				北緯	東経	北緯	東経			
あまんらむびがしいせき 天ヶ沢東遺跡	静岡県 富士市神倉 字天ヶ沢東 他	22210		35° 10' 10"	138° 45' 00"	35° 09' 58"	138° 45' 11"	発掘調査 1999年度 10~1月	26000㎡ 遺跡建設(第 二東名建設に 伴う縄文文化 財発掘調査)	
ふるきどえーいせき 古木戸A遺跡	静岡県 富士市増川 字古木戸他	22210		35° 10' 06"	138° 45' 06"	35° 09' 55"	138° 45' 18"	本調査1期 1999年度 5~3月 本調査2期		
ふるきどびーいせき 古木戸B遺跡	静岡県 富士市増川 字古木戸他	22210		35° 10' 01"	138° 45' 10"	35° 09' 49"	138° 45' 22"	2000年度 4~7月		
所収遺跡	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物				特記事項		
天ヶ沢東遺跡	散布地	旧石器時代		石器(ナイフ形石器、尖頭器、鎌石刃)						
	散布地	縄文時代	土坑6	縄文土器 石器(尖頭器、石鏃、打製石斧、磨石)				早期縄文土器		
古木戸A遺跡	散布地	旧石器時代		石器(ナイフ形石器、尖頭器、磨石)						
	散布地	縄文時代	土坑6 集石1	縄文土器 石器(尖頭器、石鏃、打製石斧、磨石)				早野、中期縄文 土器、三脚石器		
古木戸B遺跡	散布地	旧石器時代	石斧ブロック5 環状5	石器(ナイフ形石器、削石刃、石核)				第Ⅰ黒色帯、第 Ⅰ黒色帯、休屋 層の石器群		
	散布地	縄文時代	土坑11 集石1	縄文土器 石器(尖頭器、石鏃、石核、打製石斧)				早期縄文土器		
要 約	<p>古木戸遺跡において第Ⅰ黒色帯で石器集中区、第Ⅰ黒色帯で石器集中、遺跡が1区、休屋層で石器集中1区、環状が4区検出された。第Ⅰ黒色帯の石器集中は、矢川上C遺跡(第二東名36.50-II地点)とともに、富士市内における最古級の石器群として特筆される。なお、古木戸A、天ヶ沢東遺跡では当該期の遺物は出土していないものの、その大半が富士県土層以下から縄文時代の遺物と協定した状態で出土しており遺構も未検出である。出土石器は、ナイフ形石器、尖頭器、鎌石刃などが認められる。</p> <p>縄文時代の遺物は、古木戸B遺跡で土坑11区、集石1区、古木戸A遺跡で土坑6区、集石1区、天ヶ沢東遺跡で土坑6区が検出された。いずれも伴発遺物に乏しく、明確な時期決定は困難な上、土坑については構造が不明なものが多いが、古木戸A遺跡の土坑3区は土坑底の遺灰層から、高穴状遺構と判断される。縄文土器は、早野(河原文~糸枝文系)を主体とし、前期(環状式・増水/上日式流行)、中期(五節ヶ台式)が少量認められる。天ヶ沢東遺跡、早野(黒文系)、中期(五節ヶ台式)を主体とする古木戸A遺跡、ほぼ早野後半(糸枝文系)のみで構成される古木戸B遺跡というように地域ごとに遺物の構成が異なることがうかがえる。縄文土器は尖頭器、石鏃、打製石斧などが出土しているが、大半が伴発資料であるため、環状期に該当する尖頭器以外は時期決定が困難で、土層の傾向から早期を主体とし、一部前期、中期のものを含んでいると考えられる。</p>									

静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告 第228集

天ヶ沢東遺跡  
古木戸A遺跡  
古木戸B遺跡

第二東名池44地点  
富士市-2

第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成22年8月31日

編集発行 財団法人静岡県埋蔵文化財調査研究所  
〒422-8002 静岡県静岡市駿河区谷田23-20  
TEL 054-262-4261(代)  
FAX 054-262-4266

印刷所 みどり美術印刷株式会社  
〒410-0058 静岡県沼津市沼北町2-16-19  
TEL 055-921-1839(代)

